平成 27 年度博士論文　（指導教授　丁　鋒）

五臣注《文選》の音韻研究

―朝鮮本を中心に―

大東文化大学大学院外国語学研究科
中国言語文化学専攻博士課程後期課程
（学籍番号 12231102）
陳　小珍

目　次

第一章　序　論 7

1.1　研究範囲と問題意識 7

1.2　研究目的と価値 8

1.3　先行研究 9

1.3.1《文選》李善音注 9

1.3.2《文選音決》音注 11

1.3.3《文選》五臣音注 12

1.3.4 敦煌本《文選》音注 13

1.3.5《文選》諸家音注の比較及び合注本の音注 14

1.4　研究方法 15

1.4.1 比較法 15

1.4.2 挙例法 15

1.4.3 統計法と分析法 15

1.5 本論文の構成 16

第二章　五臣注《文選》の編纂と現存する諸版本 17

2.1《文選》及びその注釈本 17

2.2 五臣注の流行と批判の意見 18

2.3 五臣注《文選》の撰者 19

2.3.1 呂延祚 19

2.3.2 呂延済 19

2.3.3 劉良 19

2.3.4 呂向 20

2.3.5 張銑と李周翰 21

2.3.6 まとめ 21

2.4 現存する五臣注《文選》諸本とその音注 21

2.4.1 集注本 21

2.4.2 単注本 27
2.4.3 六家注本：明州本と奎章閣本 40
2.4.4 朝鮮本を音韻研究の底本にする理由 41

2.5 本章の主要な結論 42

第三章　朝鮮本五臣注《文選》の音注整理 43

3.1《文選》五臣音注と先行音注との関係 43
3.1.1 黄侃の指摘 43
3.1.2 五臣音注と李善音注 43
3.1.3 五臣音注と《音決》音注 45
3.1.4 まとめ 46

3.2 朝鮮本と陳刻本の音注問題 47
3.2.1 両書に共通していない音注 47
3.2.2 両書で相異する音注 48

3.3「叶韻」音および韻書にない被注字と又音 64
3.3.1「叶韻」音 64
3.3.2 韻書にない被注字と又音 65

3.4 五臣音注と《王三》の同出字 69
3.4.1 一等韻 70
3.4.2 二等韻 71
3.4.3 三等韻（一） 72
3.4.4 三等韻（二） 73
3.4.5 三等韻（三） 74
3.4.6 四等韻 75

3.5 本章の主要な結論 76

第四章　五臣音注の声母体系 77

4.1 唇音 77
4.1.1 重唇音から軽唇音の分化 77
4.1.2 重唇音の全濁音と清音の混同例 81

4.1.3 重唇音の全清音と次清音の混同例 82
4.1.4 非・敷・奉 3 母の混同例 82

4.2 舌音 83
4.2.1 舌上音の独立 83
4.2.2 舌音の全濁音と清音の混同例 87
4.2.3 舌音の全清音と次清音の混同例 88

4.3 歯音 89
4.3.1 歯頭音と正歯音二等と正歯音三等の各々独立 89
4.3.2 邪母と俟母の独立か否か.....90
4.3.3 船母と常母の混同例.....91
4.3.4 日母と泥・娘母.....92
4.3.5 歯音の全濁音と清音の混同例 93
4.3.6 歯音の全清音と次清音の混同例 94

4.4 牙喉音 94
4.4.1 牙音と喉音の混同例.....95
4.4.2 云母の独立及び羊母との未合流 96
4.4.3 牙喉音の全濁音と清音の混同例 98
4.4.4 全清見母と次清溪母の混同例 99

4.5 本章の主要な結論 99

第五章　五臣音注の韻母体系（上） 101

5.1 重韻 101
5.1.1 重韻とは.....101
5.1.2 一等重韻の通用例 101
5.1.3 二等重韻の通用例 103
5.1.4 三等重韻の通用例 107
5.1.5 まとめ 112

5.2 重紐韻 114
5.2.1 重紐とは.....114
5.2.2 重紐三等と重紐四等の通用例 114
5.2.3 重紐韻と重紐韻の通用例.....116

5.2.4 重紐韻と普通三等韻の通用例 117
5.2.5 重紐韻と純四等韻の通用例 118
5.2.6 まとめ 119

5.3 三等韻と四等韻 119
5.3.1 同摂の三等・四等韻の通用例 119
5.3.2 異摂における三等・四等韻の通用例 122
5.3.3 まとめ 122

5.4 本章の主要な結論 122

第六章　五臣音注の韻母体系（下） 124

6.1 同摂異等韻の通用例 124
6.1.1 一等韻と二等韻 124
6.1.2 二等韻と三等韻 124
6.1.3 一等韻と三等韻 125
6.1.4 二等韻と四等韻 129

6.2 異摂同等・異等韻の通用例 130
6.2.1 異摂同等韻 130
6.2.2 異摂異等韻 133

6.3 開口韻と合口韻の通用例 137
6.3.1 真韻の開口と合口 137
6.3.2 寒韻の開口と合口 138
6.3.3 歌韻の開口と合口 138
6.3.4 唇音の開口と合口 138
6.3.5 その他 140

6.4 陰声韻・陽声韻・入声韻 141
6.4.1 概述 141
6.4.2 入声韻と陰声韻の通用例 142
6.4.3 入声曷韻と陽声寒韻の通用例 143

6.5 本章の主要な結論 143

第七章　五臣音注の声調体系 145

7.1 五臣音注の四声独立 145

7.2 四声における混同例 145
7.2.1 平声と上声の混同例 145
7.2.2 平声と去声の混同例 148
7.2.3 上声と去声の混同例 150

7.3 全濁上声字の去声化 153
7.3.1 並母字の上声と去声の混同例 154
7.3.2 定母字の上声と去声の混同例 154
7.3.3 澄母字の上声と去声の混同例 154
7.3.4 従母字の上声と去声の混同例 154
7.3.5 崇母字の上声と去声の混同例 155
7.3.6 常（船）母字の上声と去声の混同例 155
7.3.7 匣母字の上声と去声の混同例 155

7.4 本章の主要な結論 155

第八章　終　　論 157

8.1 本研究の主要な結論 157
8.1.1 各版本の比較研究について 157
8.1.2 音韻研究について 157

8.2 本研究の成果と今後の課題 162
8.2.1 本研究の成果 162
8.2.2 今後の課題 162

付録：五臣音注・《王三》同音字表 163

参考文献 271

第一章　序　論

1.1　研究範囲と問題意識

本論文は五臣注《文選》にある音注（以下、「五臣音注」と略称する）に関する音韻研究である。五臣注《文選》とは、唐玄宗開元六年（718 年）に呂延済・劉良・張銑・呂向・李周翰などの五人が当時の工部侍郎である呂延祚の統率のもとで、《文選》の解読のために作った音義書である。五臣注は世に出た後、当時の最高統治者である唐玄宗の恩賞を受けたうえ、当時の読書人の間にも流行した。その後長期に渡り、李善注《文選》とともに《文選》の注釈本として世の人に重視された。

現存する五臣注文選の版本はいくつかあり、単注本と合注本に大別できる。単注本としては、天理図書館蔵本（以下「天理本」と略称する）、杭州猫児橋河東岸開箋紙馬舗鍾家刻本（以下「杭州本」と略称する）、南宋紹興 31 年（1161）に刊行された陳八郎刻本（以下「陳刻本」と略称する）、朝鮮正徳四年（1509 年）に刊行された朝鮮刻本（以下「朝鮮本」と略称する）の 4 つがある。合注本[1]は、《文選集注》（以下「集注本」と略称する）・明州本・奎章閣本などである。

合注本には五臣音注が削除されている箇所や、李善注が混在している部分もあるため、音系研究としては単注本を用いた方が適切である。単注本のうち天理本と杭州本は殘巻で、天理本は 20 巻目のみが保存され、杭州本は 29 巻目と 30 巻目だけが現存している。陳刻本と朝鮮本はともに完本ではあるが、両者の音注はかなり異なっている。陳刻本は現存する唯一の宋代刊五臣注完本であるが、“使用了不少李善注”[2]と指摘されている。朝鮮本の刊行時代は遅れるが、杭州本と同じ系統で、“是完全可以作為宋本使用的”[3]と言われている。朝鮮本は陳刻本よりも五臣注の本来の姿を保存しているため、本研究では朝鮮本を最重要資料と見なして、その他の版本を補完資料とした。朝鮮本に存在する 7336 個の音注は本論文の論証の根拠をなす基礎資料である。

朝鮮本は 7336 個の音注を保有しているが、これを対象とした音韻研究はあまり見当たらない。その理由として考えられるのは、次の 3 点である。まず、古今の学者に批判された経緯がある。五代の李匡乂（字は済翁）を始め、丘光庭・洪邁・姚寛・王懋・蘇軾らは、相次いで五臣注の浅く貧弱な釈義を非難した。更に、近代中国における言語文字学者・訓詁学者・音韻学者であり、また「章黄学派」の代表の一人として名高い黄侃（字は季剛）は五臣注の釈義を非難するに留まらず、五臣の音注能力に疑問を呈した。

---

[1] 合注本は多種多様であるが、本論文ではそのうち比較対象とする最良の 3 種のみを取り上げた。
[2] 傅剛 2000：173。
[3] 傅剛 2000：258。

次に、音系の時代性と地域性。一般に音系を判断する時には、その音注を付けた人物の出身地から推測する方法がある。しかし、五臣は史書に殆ど記載が見られない。

また、五臣注《文選》の版本は入手しにくいことも理由の 1 つになっていると思われる。

五臣注は前人の指摘した通り、浅く貧弱ではあったが、評価すべき点がないわけではない。《四庫提要》巻一百八十六では五臣注を“迂陋鄙倍”と批判したが、一方で、“其疏通文義，亦間有可採”とも述べている[4]。黄季剛は《文選平点》において五臣の音注能力を疑ったが、五臣注に保有する音注に“殊無乖繆”[5]と肯定している。台湾学者の鄭騫は“予嘗取六臣合注比而觀之，頗覺五臣往往可與善注互為發揮，合讀二者，文意益明，不止如《提要》所云‘間有可采’而已。”、“五臣本之重要，不僅與善注互為發揮，相得益彰；其所據正文，亦往往與李善所據者不同，且有時文義較勝。”[6]のように評価している。

五臣の出身地は未明だが、現有の資料により多少は推測することが可能である。また、音系の性格判定に音注を付けた人物の出身地から推測する方法は、確かに有効であるが唯一の方法ではない。音注の音韻的特徴の分析と研究はより重要であると考えられる。

1.2　研究目的と価値

本研究では五臣注に関する先行研究の成果を踏まえた上で、主に五臣注の 7336 個の音注を研究対象とし、五臣音注の音韻体系を整理して声類・韻類・調類の特徴を示し、さらにそれに基づいて五臣音注の性格を検討する。本課題は中古音韻の研究に資する成果を出すことを目的としている。

音注資料を考証するに当たり、音注の面から現存する五臣注《文選》の複数の版本を比較し、各版本の異同と優劣を示すため、この成果は版本学にも貢献できるだろう。

《文選》は現存する最古の詩文集として文学史上重要な著作であり、世に出た後すぐ文人に重視された。南宋には“文選爛，秀才半”という諺がみられるようになっており、優秀な詩文集として《文選》は今も重視すべき文学作品である。顧炎武《答李子德書》[7]には“読九経自考文始、考文自知音始。以至諸子百家之書，亦莫不然。”とある。錢大昕《音韻問答》[8]には“古人因文字而定聲音，因聲音而得訓詁，其理一以貫

---

[4] 原田種成 1994：11-12。
[5] 黄侃 1985：2。
[6]《文選》（陳刻本）1981：1635-1636。
[7]《顧亭林詩文集》1983：73。
[8]《潛研堂文集》1968：208。

之。”とあり、章太炎《小学略説》[9]にも“不明音韻，不知一字數義之所由生。”と述べてある。これらの見解を一言で言えば、音韻に暗ずれば文意を解し難きということである。従って、《文選》の解読のためにも五臣音注を整理する必要がある。五臣音注の研究は《文選》の解読にも有益であると思われる。

1.3　先行研究

ここでは《文選》の音注に関する先行研究を《文選》李善音注、《文選音決》音注、《文選》五臣音注、敦煌本《文選》音注、《文選》諸家音注の比較及び合注本の音注、などに振り分けて略述する。

1.3.1《文選》李善音注

大島正二「李善《文選》音注に反映せる江都字音について」（北海道大学文学部紀要26（１）、1977）は、本論と資料表の 2 部からなる。「本論」では、李善音注に見える混同の具体例を声類・韻類ごとに、「北方字音には見えない混同例」と「北方字音にも見える混同例」とに大別して示した。「北方字音には見えない混同例」として、声類には従と邪、舌頭音（端透定）と舌上音（知徹澄）、従と崇、匣と于、于と羊などの混同例を取り上げた。韻類には、《切韻》における一等韻と三等韻（東一入鍾入、侯尤、侯虞）の通用例を示した。「北方字音にも見える混同例」として、声類には全濁母と全清・次清母（並幫・並滂・定端・定透・従精・従清・羣見・曉匣・澄知・崇莊・崇初）、全清母と次清母、舌頭音（泥）と舌上音（娘）の混同例を取り上げた。韻類には、《切韻》における一等重韻（覃談・泰灰去・咍）の通用、《切韻》における二等重韻（夬皆去・庚耕・咸銜）の通用、《切韻》における一等韻と三等韻（明母字の侯尤・唐入陽入）の通用、止摂諸韻（支脂・支之・脂之・支微・脂微・之微）の通用、止摂諸韻以外の三等韻（清入庚三入・真欣・幽尤・脂祭・塩厳・仙元）の通用、《切韻》における三等韻と四等韻（支斉・脂斉・祭斉去・仙先・宵蕭・清青・塩添）の通用、一部牙喉音字の開合の混同例を取り上げた。以上の混同例に対し、「『切韻』の体系を簡略化した状態に在った北方字音が江都にも及んでいた結果としての様相であって、北方字音では区別されていた幾つかの声母及び韻母の混同は、江都語音の露呈なのであろうか」のように解するのがより穏当と論じた。更に、「とすれば、李善音の反映する様相はまた字音の地域的単一性とも呼び得る特徴を示すと解されるのではあるまいか」、と述べた。資料表は李善音注を《広韻》の体系に準拠して配列した。横欄は韻母で、Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢB・Ⅳの５類に大別し、各韻を十六韻摂に従い並べた。各韻摂内に韻目を平・上・

[9]《国故論衡》2003：9。

去・入声の順に配した。縦欄は声母で、唇音・舌音・歯音・牙喉音の順に配列した。資料表は凡例を含めて 136 頁あり、かなり重要な参考資料である。

徐之明《<文選>李善音注声類考》（貴州大学学報社会科学版　1994 年第 4 期）は、李善が付けた音注と前人が付けた旧音を区分したうえで、直音と反切の合計 1561 個の音注を系聯法、帰納法で整理して分析した。結論として、李善音系は 36 声類があり、①軽唇音はまだ独立していない、②舌音は泥母と娘母を除いて端組と知組に分かれる、③精組と庄組、従母と邪母に少量の混同例があるが、船母と禪母の混同例がないという特徴をまとめ、李善音注の声母体系は南方と北方に通用する読書音を反映していると述べた。

徐之明《<文選>李善注音切校議》（貴州大学学報社会科学版　1995 年第 3 期）に、李善注に保存された音切の誤った原因を分析した。それは「形近而訛」「壊脱而訛」「上下相因而誤」「一字誤拆為二字」の 4 つである。これらの原因を分析し、テキストにあるもう 1 つ及びそれ以上の音注との相互証明、他の版本との比較などの方法を使って、20 か所の音注を訂正した。

徐之明は《<文選>聯綿字李善易読音切考辨》（貴州大学学報社会科学版　1997 年第 1 期）、《<文選>聯綿字李善易読音切續考》（同前　1997 年第 4 期））で、それぞれ、13 個と 17 個の聯綿字の変読状況について分析した。更に《李善反切系統中特殊音切例釋》（《古漢語研究》　2000 年第 1 期）で李善音注にある特殊音切は誤字と聯綿字の変読だけでなく、注釈者の「訓詁」理念とも関係があると指摘した。つまり、特殊音切は単純な音注ではなく、字義と密接な関係を保っている。24 個のこういう例を取り上げ説明した。「聲訓」の見地から李善音注を検討することは肯定すべきで、訓詁学・校勘学の参考にもなる。

張潔《<文選>李善音切校議》（《古漢語研究》　1995 年第 1 期）でも、李善音注の音韻体系を整理したうえで、31 例の誤りを訂正した。その後、《<文選>李善注的直音和反切》（《語言研究》1998 増刊）で、李善注の直音と反切を整理し、李善音の声母・韻母と声調体系を分析し、李善音系は北方音系であると断言した。

李丹《<文選· 賦>李善注與<広韻>反切比較》（蘭州大学研究生学位論文　2008）では、《文選· 賦》における李善音注の中から 976 例を取り上げ、それらの音注を《広韻》の反切と比較して李善反切の用字特徴と音系特徴を整理し、11 例の誤りか特殊音切を校正した。この研究は、李善の生涯、李善音と旧音の弁別、音系特徴の分析、反切の校勘などの問題に触れた。

賀菊玲《<文選>李善注語言学研究》（中国社会科学出版社　2011 年 7 月）は純粋な音韻学著作ではないが、「協韻」音切に関する分析がある。この研究は李善注にある 25 例の「協韻」を 1 つずつ考証しました。「協韻」については、直音と反切の方法で《文選》の常用字の読音と押韻状況を表すと説明した。また“李注標出了自己認為當

是押韻的讀音”、“李善在做‘協韻’音的時候，注意到了語音的變化，本着科学、審慎的態度,基本能從語音的客觀事實出發來對詩文中押韻情況進行說明,得出了較為客觀、科学的結論。”と評論した。そのほか、李善の「協韻」音は後世の朱熹の「叶韻」音と違い、“雖然所注之音未必正確無誤，但是并非像有些学者說的那樣是‘隨意轉讀’，更沒有‘模糊了古音真面目’。相反，其中的多數注音，為我們研究上古到中古語音的演變提供了客觀依據，成爲漢語音韻学的寶貴資料”と述べた。

1.3.2《文選音決》音注

狩野充徳『文選音決の研究』（溪水社　2000 年）は序論篇、本論篇、結論篇と資料篇の四部分に分けている。序論篇では、《音決》という資料について、京大影印本を中心とするテキスト、反切・直音・声調注といった音注の形式、撰者公孫羅に先立つ先輩諸家の音注、如字、避声・避諱、協韻・方言、左思《三都賦》諸家注といった種々の注、《音決》の撰者、《音決》の価値、研究目的、研究方法、依拠する《切韻》の音韻体系などについて述べた。本論篇では、声類・韻類・声調に分けて《音決》の音韻体系を考察し、《切韻》系韻書には見られない固有の音についても触れた。最後に《音決》の反切の構造について論じた。結論篇では、《音決》の音注の整理の結果として明らかになった音韻・反切の特徴を総括した。声類については、①軽唇音化が進んでいたと見られる、②全濁声母の無声化を反映すると解される音注がある、③舌頭音母と舌上音母は一応わかれていたが、「類隔切」が多い、④歯頭音の従母と邪母とが混同を示す、⑤正歯音三等の船母と常母の混同とが混同を示す、⑥匣母と于母とは分かれている、と記述した。また、④⑤⑥は六朝末から唐代にかけての南方音の一大特徴であると論じた。韻類については、①二等重韻の合流が見られる、②侯・尤両韻通用の例があり、尤韻明母字の直音化を示すと解される、③東一・東三両韻通用があり、東三明母字の直音化を示すと解される、④「直音四等韻」の拗音化を示すと解される音注がある、⑤之・脂両韻通用の例がある、⑥ C 類韻母>B 類韻母の合流を示す音注がある、とまとめた。調類については、上声全濁音の去声化を反映する音注例は《音決》には見えない、ほぼ《切韻》と同じ調類であると述べた。資料篇では、音注総表と反切上字表を掲げた。最後に《文選音決》被注字索引を付録として、《広韻》の音韻地位も対応させている。資料篇は全 452 頁、かなり重要な資料で検索もしやすい。

徐之明《<文選音決>反切韻類考》（貴州大学学報社会科学版　1999 年第 6 期）は、選別した 2160 個の音注を研究対象とし、韻部が 52 個、韻類は 176 個と結論づけた。また《音決》韻系は“各等重韻已有程度不同的合韻現象，但與《顔氏家訓》及周祖謨先生注文指出的六朝用韻寛的情況似有不同，如支脂不混、魚虞不雜、洽狎分明，可說明《音決》所反映的音系似為當時的江南讀書音”と述べた。

徐之明《<文選音決>反切異音與<文選>校読》（貴州教育学院学報　2002 年第 6 期）

は「声訓」の見地から特殊音注を説明した。

張潔《<音決>声母考》(《古漢語研究》　1999 年第 4 期）は、選別した 1447 個の音注を対象とした。①唇音は明微を除いて二分化している、②舌音の二分化は《経典釋文》・《博雅音》より徹底している、③歯音の従母と邪母・崇母と俟母・船母と禪母はそれぞれ混同している、という声母特徴を指摘し、声母体系から見て、公孫羅の音系は陸徳明音系と曹憲音系に接近するが、“比陸德明和曹憲音系則更直接、如實地反映了當時當地的實際語音情況”、と結論付けた。

1.3.3《文選》五臣音注

徐之明《<文選>五臣音鈎稽》(貴州文史叢刊　1999 年第 5 期）は、《文選集注》にある 121 個の「五家音」を《音決》と比較し、「五家音」の音注数は《音決》より多く、本来には少なくとも 10000 個以上あると推測した。また陳刻本・奎章閣本・四部叢刊本などの版本にある音注と比較し、90%の一致率から、「五家音」は五臣音であるという結論を得た。最後に、呂延祚「進五臣集注文選表」には「並具字音」と書いていることから、五臣音が存在していたとわかり、現存する各版本に於ける五臣音注とほとんど一致しているため、信用できると述べた。

徐之明《<文選>五臣音声類考》(貴州大学学報社会科学版　2001 年第 6 期）では、系聯法と比較法を使って、五臣音注の声母が 40 個[10]であると明らかにした。声母の特徴は以下の通りである。①重唇音と軽唇音は既に分かれている、②舌頭音と舌上音も分かれている、③従母と邪母は混同しない、④船母と禪母は混同する、⑤俟母は独立しかけている、⑥云母と以母が分かれている、⑦清音と濁音の一部が混同している。最後に五臣音注は恐らく 8 世紀に通用していた現実的な読書音を反映する、と結論づけた。

徐之明《<文選>五臣音特殊音切與<文選>解読》(貴州文史叢刊　2003 年第 4 期）では、数十個の特殊音切の中から 5 個を取り上げ、詳しく分析した。

孔立剛《<文選>五臣音注従単刻本到合刻本形式之変化》(殷都学刊　2012 年第 2 期）は六家注本とする奎章閣本を例をとし、五臣音注形式の変化を以下の如く説明した。①避諱のため、「反」を「切」に変えた、②音注の後に釈義が来た際に、相応する「音、切、声」の 3 字のいずれを増加した、③音注の後に来る正文注がほかの所に移動されたら、相応する「音、切、声」を削除した。

董宏鈺《陳八郎本<昭明文選>五臣音注研究》(長春師範学院碩士学位論文　2012 年６月）では、五臣の出身、現存する五臣注諸版本、五臣音注の存在する確実性、五臣音注が《文選》の解読への意義、五臣音注と李善音注の異同、五臣音注の音韻体系な

[10] 徐氏の原文（2001：75）から見ると、実際は 36 声類のみあり、恐らく照三系の声母を漏らしたと思われる。

どについて詳しく考察した。五臣音注の音韻体系として、声母は 35 個で、軽唇音、娘母、俟母はまだ独立していない。韻母は 29 部で、①江微魚齊廢肴豪麻清などの九韻が獨用し、《広韻》の獨用韻部と一致する、②支脂之・虞模・佳皆・寒桓・刪山・蕭宵・陽唐・蒸登・尤侯幽・覃談・咸銜の通用例は《広韻》の同用韻部と一致する、③冬東鍾・灰咍泰・真諄臻欣・文魂痕・元先仙・庚耕青清・鹽添嚴凡などの通用、歌戈兩韻の獨用などは、《広韻》の同用・獨用例と異なる。聲調は平上去入の四個で、上聲の調型は平声・去聲の特徴を兼ねる、“全濁上聲變去聲”の音韻変化は五臣音注には現れていない、という結論を出した。五臣音注の性格についての結論は徐之明（2001）とほぼ同じく、“《文選》五臣音注的聲、韻、調系統，應該是反映唐代讀書音的語音系統”、“既有對古反切的繼承，又有作者的時音特點”と述べた。

孔令剛《奎章閣本〈文選〉增五臣音注研究》では、《西京賦》《上林賦》から奎章閣本が陳刻本・朝鮮本より増えた 67 例の音注を、胡刻本の李善注と比較し、「這些音注全部是奎章閣本所增，且來自于李善注」と結論つけた。

趙蕾《朝鮮正德四年本〈五臣注文選〉研究》（河南大学出版社 2014 年）は、五臣注朝鮮本に対する総合研究である。版本の由来、朝鮮本の正文、音注、釈義について検討した。しかし、音注研究は音韻研究ではなく、各版本にある音注の異同に関する研究である。各版本の比較研究から“若要研究五臣音注，正德本是最為可靠的本子”と論じた。

1.3.4 敦煌本《文選》音注

敦煌で発見された《文選》の中に音注があるのは、P2833 と S8521（《文選音》）、P2527、P2528、S3663 の 4 種類、5 つの残巻である。

まず、《文選音》の作者に関する研究。敦煌学者である王重民は《敦煌古籍敍錄》（北京商務印書館　1958 年）において“淬”の“之對、子妹二反”の 2 つの音注が《音決》に引かれた曹憲音“七對反”と異なり、《音決》に引かれた蕭該音“子妹反”と一致することから、《文選音》の作者は蕭該であると推測された。音韻学家である周祖謨は《論〈文選音〉殘卷之作者及其方音》（《問学集》北京中華書局　1996 年）で、《文選音》に“七對”、“子妹”2 つの音注があるが、1 つは曹憲音と比較し、もう 1 つは蕭該音と比較するのは良くないという理由で、王氏の結論を否定した。また殘卷音切を《広韻》・曹憲《博雅音》と比較し、曹憲・公孫羅が共に江都人、許淹が句容人であり、江都と句容は近いため語音も近いという理由で、この残巻の作者が許淹であると推測した。范志新《唐寫本〈文選音〉作者問題之我見・文選学著作考（一）》（晉陽学刊　2005 年第 5 期）では周氏が王氏の「蕭該音」説への否定に賛同したが、周氏の「許淹音」説を否定した。彼は許淹の佚文から、許淹が編纂したのは《文選音義》であり、《文選音》ではないと述べた。しかし、《文選音》殘卷の作者が誰なのかという結論は出てい

ない。“《文選音》的作者，永遠是一個斯芬克斯之謎了”と評論した。

次に、《文選音》殘巻の整理と校正に関する研究。張金泉、許建平《敦煌音義匯考》（杭州大学出版社　1996 年）、徐真真《敦煌本〈文選音〉殘巻校正》(《敦煌研究》 2002 年第 3 期）と《敦煌本〈文選音〉殘巻研究》(《敦煌学輯刊》 2008 年第 1 期)、張涌泉が編集した《敦煌經部文獻合集》(北京中華書局　2008 年）などがある。そのうち、張涌泉編の《敦煌經部文獻合集》は《文選音》の整理と考証に関する集大成となる著作である。

謝友中《敦煌吐魯番本〈文選〉音注研究》(安徽師範大学碩士学位論文　2007 年 5 月）は初めて音韻学の角度から《文選音》を研究した。この論文は敦煌から発見された前述の 5 つの殘巻から 1022 個音注を研究對象とし、系聯法と比較法を使って、殘巻音注の韻母は 44 類[11]、聲母は 41 類、声調は 4 個だが平上、上去、平去の混同例があるという結論を出した。また寫本音注を刻本音注とも比較した。

楊秋波《敦煌〈文選〉寫本音切研究》(南京師範大学碩士学位論文　2008 年 4 月）では、《文選音》(P2833 和 S8521）を研究對象とし、《文選音》には 41 個の聲類があると述べた。これは謝氏の結論と完全に一致し、《広韻》の 42 聲母と比較すると、俟母のみが欠けている。韻類については、①重韻の混同、②同攝韻内の等の混同、③開合兩系は唇音を除いてはっきり分かれている、という特徴をまとめた。そのほか、《文選》殘巻（P2527、P2528、S3663）についても研究し、P2527 と P2528 は李善注であると判断した。また、特殊音切について個人的な見解を示した。

楊秋波《敦煌唐寫本〈文選音〉異常音切研究》(《文教資料》 2008 年 07 期）の内容は修士学位論文にある“例外音切研究”とほぼ同じで、ここでは贅言しない。

1.3.5《文選》諸家音注の比較及び合注本の音注

張潔《李善音系與公孫羅音系声母的比較》(《中国語文》　1999 年第 6 期）は、李善音を《音決》音と比較し、李善音系と《音決》音系がかなり異なることを論じた。①李善音系では輕唇音がまだ派生していないが、《音決》音系では明・微両母を除く、非母・敷母・奉母などは既に派生した、②舌音については、李善音系の泥母、娘母がまだ分かれていないが、《音決》ではほぼ分化している、③齒音については、李善音の從母と邪母は分かれているが、船母と禪母は混同している、④《音決》の邪母を從母と発音し、船母と禪母が混同するなど。また、同じ時代・同じ出身地・同じ先生に就いて勉強した二人が付けた音注がどうして聲母上でこのように異なっているのか、という問題について、李善が《文選》注を付けた間の活動範囲・注を付ける目的・経書にある先行音注の引用などのこと、および《音決》が時音を反映することから、“李善音

[11] 謝氏の論文の P44 に書いている韻目からみると、実際は 43 類である。原文では 40 類目の直後に 42 類目が来ており、類目を 1 つ飛ばしている。

系與南方音系存在較大區別，而較靠近以《切韻》為代表的、以洛陽方言為基礎的北方音系”、“公孫羅的音系比恪守傳統正音的李善的音切更直接、如實地反映了當時的實際語音狀況”、と説明した。

台湾の林文政の《<文選>六臣注音系研究》（中国文化大学碩士学位論文　2001 年）は六臣音注を研究対象とし、聲類が 36 個、韻部が 33 個、聲調が 4 個とまとめた。聲母と韻母にも音価を付けた。最後に、六臣注の音系を他の音系と共時と歴時的な分析加えて、六臣音系が盛唐の“口語標準音”を代表すると述べた。付録に「《文選》六臣注言「某作某者」統計表」「《文選》六臣注正文下音注比較同異表」「《文選》六臣注字下注聲調之同異表」「《文選》六臣注並存兩注之校勘結果」「《文選》六臣注音系與其他相關音系比較表」などを付けた。

1.4　研究方法

1.4.1 比較法

本研究は次の 3 方面で比較を行う。

まず、版本別の音注の比較である。五臣注《文選》には数種の版本があり、各々音注に差異があるため、相互比較を通して最良の版本を確定させる。そこから朝鮮本が最も優れた版本であると判明し、本研究の底本とした。

次に、反切の比較である。伝統的な音韻研究は主に系聯法を採用してきた。しかし系聯法においては一文字でも判断に誤りがあれば、結論にも大きく影響するという欠点ある。現存する五臣注《文選》は多数の人の手を経て引き写されて誤植・脱落などの問題があるだけでなく、異体字・俗字・仮借字を使用することもあったため、系聯法よりも反切比較法のほうが安全である。本論文では後者に従い、五臣音注を主に《王三》[12]の反切と逐一比較し、声類・韻類・調類及びその特徴をまとめる。

1.4.2 挙例法

五臣音注の音韻特徴をまとめるため、具体的な例を挙げて説明する必要がある。本論文では、一つ一つ音韻変化事象に対して、それを証明できる例を全て探し、表であらわしている。

1.4.3 統計法と分析法

五臣音注と韻書反切及び音韻地位を全て excel 表に入力し、「並び替え」機能を用いて各声母、各韻母、各声調の総数とそれぞれの混同例を統計して、傾向分析を行う。

---

[12] 宋濂跋本の王仁昫《刊謬補缺切韻》の略称である。

統計は結論を導く根拠の 1 つとするが、絶対的な基準ではなく、類推法も合わせて用いる。

1.5 本論文の構成

本論文は 8 章からなっている。

第一章は序論である。研究対象とする朝鮮本の五臣注《文選》に於ける音注という研究資料について、諸家《文選》音注の先行研究、研究の目的と価値、研究の方法、論文の構成などについて簡略に紹介した。

第二章は《文選》・《文選》注・《文選》五臣注及び五臣注の版本に関する紹介である。特に、現存する 7 種の五臣注版本の相異及び音注問題について詳しく説明した。

第三章は朝鮮本五臣注《文選》の音注整理である。五臣音注と先行音注の関係、朝鮮本音注と陳刻本音注の相異、朝鮮本音注の弁別、五臣音注の声母と等呼の結合関係などの問題を扱った。

第四章は五臣音注の声母体系に関する検討である。唇音・舌音・歯音・牙音・喉音の順に五臣音注の声類特徴を詳しく分析した。

第五章と第六章は五臣音注の韻母体系に関する検討である。五臣音注における重韻問題、重紐問題、等呼問題、韻尾問題などについて考察した。

第七章は五臣音注の声調体系に関する検討である。五臣音注における四声の混同、全濁上声字の去声化について詳しく説明し、調類の特徴をまとめた。

第八章は終論である。本研究の主要な結論、本研究の成果と今後の課題について検討した。

付録には、「五臣音注・《王三》同音字表」を掲げた。

第二章　五臣注《文選》の編纂と現存する諸版本

2.1《文選》及びその注釈本

《文選》は《昭明文選》とも呼ばれ、全 30 巻。先秦から南朝の梁にまでの一千年間に及ぶ、著者 100 名以上による、700 篇以上の異なる文体の優秀な文学作品を収録する現存する中国最古の詩文集である。編纂者は梁武帝の太子、蕭統（501 - 531）である。蕭統は 3 歳で《論語》《孝経》を読み、5 歳で五経を全て読破したと言われる聡明な人物である。蔵書は 3 万巻に上り、その傍には常に優れた文人が集まっていたと言う。蕭統はわずか 30 歳で夭折したが、《文選》のほかに《正序》10 巻、《文章英華》20 巻などの作品を残している。傍にいた優れた文人の協力を得て、「沉思」と「翰藻」を基準に精選したこの《文選》は“文章淵藪”と認められ、世に出るやいなや読書人の注目を集めた。特に隋から唐にかけては無数の学者が研究を重ねて《文選》の音義を作成した。

最初に隋の蕭該（約 535-約 610）が《文選》に注釈を加え、音注と釈義を兼ね備えた《文選音義》を編纂した[13]。隋から唐初にかけて生存していた学者、曹憲は《文選》を講じながら《文選音義》を完成させた。曹憲の学問を継承したのが初唐の学者、許淹・李善・公孫羅らである。彼らは「文選の学」を続け、各々が《文選》に注解を加え著述を残した。許淹の《文選音》10 巻、李善注《文選》60 巻、公孫羅注《文選》60 巻と《音義》10 巻がそれである。そのうち顯慶 3 年（658）に奏上された李善注が最も有名である。

唐玄宗の開元 6 年（718）に呂延祚が奏上した《進五臣集注文選表》には、以下のように記されている。

> 往有李善，時謂宿儒，推而傳之，成六十卷。忽發章句，是征載籍。述作之由，何嘗措翰？使復精覈注引，則陷于末学，質訪旨趣，則歸然舊文，祇謂攪心，胡為析理。臣懲其若是，志為訓釋。乃求得衢州常山縣尉臣呂延濟，都水使者劉承祖男臣良，處士臣張銑、臣呂向、臣李周翰等，或藝術精遠，塵遊不雜；或詞論穎曜，巖居自修，相與三復乃詞，周知秘旨，一貫於理，杳測澄懷，目無全文，心無留義，作者為志，森乎可觀，記其所善，名曰集注，并具字音，復三十卷。

ここから呂延祚が奏上した《五臣集注文選》は、本論文に言う五臣注《文選》であるとわかる。この上奏文に対し、唐玄宗は“朕近留心此書，比見注本，唯只引事不說

[13]《隋書・儒林傳・蕭該傳》（1973：3453）に“（蕭）該撰《漢書》及《文選音義》，咸為當時所貴。”とある。

意義，略看數卷，卿此書甚好，賜絹及綵一百叚[14]，即宜領取。”と勅を出した。

《玉海》巻 54 所引の《集賢注記》によると、後に開元１９年（731）、馮光震・蕭嵩が前後して《文選》に新たな注釈を付けることを進奏して許可を得たが、結局“事竟不就”のまま頓挫した。

2.2 五臣注の流行と批判の意見

上掲の《進五臣集注文選表》からわかるように、五臣注の編纂動機は、李善注が語句の出典を偏重し、文意の解説が不足し、理解の難しいものとなったためである。この反省から五臣注は分かりやすさを旨に注釈が付けられた。故に李善注をおさえて長い期間にわたり世間から重宝された。それは次の評価がはっきり物語っている。

世人多謂李氏立意注《文選》，過為紆繁，徒自騁学，且不解文意，遂相尚習五臣者。（唐末李匡乂《資暇集》）

蓋以時有王張，（五臣注文選）遂乃盛行於世。（五代丘光庭《兼明書・文選》）

而世以為（五臣注）勝善（李善注），亦謬矣。（北宋蘇軾《東坡全集》巻 29）

今是書流傳於世，皆是五臣注本。（南宋尤袤《文選・跋》）

沈嚴《五臣本後序》により、天聖四年（1026）に刊行された五臣注平昌孟氏本に先行して二川と兩浙の 2 つの刊行本が存在していたとわかる。二川の刊行本は最古の《文選》刊本として知られる毋昭裔刻本であると言われている[15]。つまり《文選》に関する最初の刊行本は完成時期の早い李善注ではなく、後発の五臣注であったということになる。現存する《文選》版本においても五臣注の方がより多種の版本が存在する。

一方で、五臣注に対しては唐末から批判的な意見が相次いで現れた。

李匡乂《資暇集》は“乃知李氏絕筆之本，懸諸日月焉。方之五臣，猶虎狗鳳雞耳”と評し、李善注を「虎」「鳳」と喩えたのに対し、五臣注を「狗」「雞」と卑下した。

丘光庭《兼明書》は“五臣者，不知何許人也，所注《文選》，頗謂乖疏。”のように五臣及び五臣注を見下した。

蘇軾《東坡全集》巻 29 では“所謂五臣者，真俚儒之荒陋者也，而世以為（五臣注）勝善（李善注），亦謬矣”と非難した。

洪邁《容齋隨筆》の“五臣注文選”では“（五臣注）乃是全不知有史策，而狂妄注書，所謂小兒強解事也。唯李善注得之。”と論じた。

清《四庫全書・提要》にも“迂陋鄙倍”とあり、五臣注を批判した。

---

14 “叚”は“段”の俗字である。

15 傅剛 2000：175。

これらの指摘について、民国の鄭騫は“五臣之疏陋，誠有如前人所譏者，然絕非全不足取”、“予嘗取六臣合注比而觀之，頗覺五臣往往可與善注互為發揮，合讀二者，文意益明”、“五臣本之重要，不僅與善注互為發揮，相得益彰；其所據正文，亦往往與李善所據者不同，且有時文義較勝”と答えた。

特筆すべきは、五臣注の批判者らは五臣注を批判するも、同時に五臣注が流行していた事実を認めていた。長年の流行から見れば、批判はやはりまれな現象である。如何なる批判を受けたとしても、五臣注がかつて李善注より重視された事実と、世に出た後から今まで流行し続けた事実は変わらない。それは五臣注の優勢と価値を十分に体現している。

2.3 五臣注《文選》の撰者

2.3.1 呂延祚

呂延祚については、《進五臣集注文選表》の末文には“開元六年九月十日工部侍郎臣呂延祚上表”と見え、その役職名がわかる。唐代中央官職制度には三省、六部、九寺、五監などがあり、六部は即ち戸部、礼部、兵部、刑部、工部のことで、各部の最高長官を尚書といい、副官を侍郎と称した。工部侍郎の品級は正四品に相当する。五臣注の発起人の一人である呂延祚は当時の中央政府の要職に就いていたといえる。

2.3.2 呂延済

《新唐書》巻 60 には、“《五臣注文選》三十卷，衢州常山県尉呂延済、都水使者劉承祖男良、處士張銑、呂向、李周翰注，開元六年，工部侍郎呂延祚上之。”とある。《進五臣集注文選表》には“衢州常山県尉臣呂延濟”とはっきり役職が記されている。《中国歴史地名大辞典》には、衢州は“唐武德四年（621）分婺州置，治所在信安縣（今浙江衢州市)”、“轄境相當今浙江衢州、江山二市和衢縣、開化、常山、江西玉山四縣地”（2005：2982）とあり、常山は現在の“浙江常山縣東。”（2005：2338）に当たる。呂延済は、今の浙江衢州常山の周辺に県尉の職を得ていたとわかる。

2.3.3 劉良

劉良について《進五臣集注文選表》には、“都水使者劉承祖男臣良”とある。父の劉承祖についても史書には殆ど記載がなく、《舊唐書・職官志》により、“都水使者”が“正五品”に相当するということくらいしか分からない。また、劉承祖は当時の玄宗の腹心であった姜皎と密接な交遊関係を保っていた。

2.3.4 呂向[16]

呂向について《新唐書・文藝伝》は以下のように紹介している。

> 呂向，字子回，亡其世貫，或曰涇州人。少孤，托外祖母隱陸渾山。工草隷，能一筆環寫百字，若縈發然，世號“連錦書”。強志於学，每賣藥，即市閲書，遂通古今。玄宗開元十年（722 年），召入翰林，兼集賢院校理，侍太子及諸王為文章。時帝歳遣使採擇天下姝好，内之后宮，號“花鳥使”。向因奏美人賦以諷，帝善之，擢左拾遺。天下數校獵渭川，向又獻詩規諷，進右補闕。帝自為文，勒石西岳，詔向為鐫勒使。嘗以李善釋《文選》為繁醸，與呂延濟、劉良、張銑、李周翰等更為詁解，時號“五臣注”。

上述から呂向は才能豊かで書道や詩文にも精通していたものと窺える。《全唐文》には、彼の作品が 3 編収録されている。また、貧しい出身で辛うじて高官を手に入れたにも関わらず、皇帝の機嫌を顧みず、その不当行為を諫めるなど正義を尊び厳然とした態度を貫いた。

この通りだとすれば、呂向を含めた五臣は“真俚儒之荒陋者也”、呂向が参与した五臣注《文選》は“所謂小兒強解事也”という批判は再検討すべきだろう。

上掲《新唐書》に“亡其世貫”とあったとおり、呂向の出自は不明である。また“或曰涇州人”については、《中国歴史地名大辭典》（2005：1677）に

> 北魏神麚三年（430）置，治所在临涇縣（今甘肅鎮原縣東南）。后移治安定郡安定縣（今甘肅涇川県北五里）。
>
> 隋開皇初郡廢，大業三年（607）改為安定郡。唐初復名涇州，仍治安定縣。

とあることから、“涇州”は今の甘粛省の涇川県の付近だとわかる。然し、“或曰”の二字からこの記述は正確とは限らない上に、“少孤，托外祖母隱陸渾山”ともある。

《舊唐書・房琯伝》には、

> 房琯，河南人，天后朝正議大夫、平章事融之子也。琯少好学，風儀沉整，以門蔭補弘文生。性好隱遁，與東平呂向於陸渾伊陽山中讀書為事，凡十餘歳。

の記述があり、《全唐書・述書賦》巻 447 にも、

---

[16] この節は董宏鈺（2012：8-10）を参照した。

呂向，東平人，開元初，上《美人賦》忤上。時張悅作相，諫曰：“夫鬻拳脅君，愛君也。陛下縱不能用，容可殺之乎？使陛下後代有愎諫之名，而向得敢諫之直，與小子為便耳，不如釋之。”於是承恩，特拜補闕，賜彩百段、衣服銀章朱祓，翰林待詔。

と見える。《舊唐書・房琯伝》と《全唐書・述書賦》の記述から、呂向は鄆州東平（今の山東省の西南部）人であると判断できる。

2.3.5 張銑と李周翰

張銑と李周翰について《進五臣集注文選表》には“處士臣張銑、臣呂向、臣李周翰”とある。

《漢語大詞典》によると“處士”とは、元来才能ある者が官職に就くことなく隠居する者を指したが、後に官職に就いたことがない者をも含めるようになった。處士は官職に就くかどうかに関わらず、殆どの知識と才能を持つ読書人を指している。前述した呂向もその一例である。

2.3.6 まとめ

五臣それぞれの出自や素性を詳細にすることはできなかったが、彼らが相当の学識を有しており、朝廷の要職にある呂延祚の総率で協力して《文選》に音義を付けたとわかる。そのため五臣が注釈した《文選》は低く評価されてはならないはずである。

2.4 現存する五臣注《文選》諸本とその音注

2.4.1 集注本

《文選集注》は《文選》に対する唐代の諸注を集め、しばしば“今案”という編者の案語を付けた注釈書である。注釈は該当する正文の下に李善注、《鈔》注、《音決》注、五臣注、陸善経注の順で配列されている。《文選集注》は写本で元々120 巻であったが、現存するのは 24 巻（その中にも欠落した部分がある）のみで、原本の 2 割にすぎない。

《文選集注》の編纂年代と現存する写本の成立時代については、目下定説がない。筆者の考察によると、現存する写本の中には唐代皇帝に対する避諱が散見し、特に引用された東漢王逸、西晉劉逵の注釈にも唐代皇帝の名諱を避ける欠画の例があるため、編纂時代は唐代だと考えられる。しかしながら、現存《文選》の全体から見ると避諱はあまり厳格とは言えず、同じ名諱に対しても避諱の有無が分かれている。さらに、宋代皇帝の名諱を避ける例を見出せなかったことから、現存する抄本は五代十国か、

あるいは中国域外の人によるものと推測できる[17]。唐代写本の《文選集注》に保存された五臣注は現存する最古のもので、非常に参考価値の高い版本である。

殘巻 24 巻のうち五臣注を集録しているのは 22 巻で、五臣注完本との対応関係は次のとおりである（「：」の左側は集注本の巻数、右は五臣注完本）。

巻八：巻二　　巻九：巻三
巻四七、四八：巻十二・巻十三　　巻五六：巻十四
巻五九：巻十五　　巻六一・六二：巻十六
巻六六、六八：巻十七　　巻七一：巻十八
巻七三：巻十九　　巻七九：巻二十
巻八五、八八：巻二十二　　巻九一：巻二十三
巻九三、九四：巻二十四　　巻九八：巻二十五
巻一〇二：巻二十六　　巻一一三、一一六：巻二十九

この 22 巻に保存された五家音、即ち五臣音注は、合計 124 個（反切 52、直音 67、声調 5）ある。他の版本との異同を表 1 に示した。

表 1 《文選集注》所引五家音と他本の五臣音注対照表[18]

番号順	被注字	《文選集注》		單注本				五臣･李善合注本	
		五家音	《音決》	天理本	杭州本	陳刻本	朝鮮本	奎章閣本	足利本
1	詁	音古	×	×	×	×	×	×	×
2	菴	烏覽反	音奄	×	×	○	○	○	○
3	濊	胡角反	許角反	×	×	○	○	○	○
4	濛	音蒙	×	×	×	×	×	×	×
5	炳	音丙	×	×	×	○	○	○	○
6	灼	音酌	×	×	×	○	○	○	○
7	蛟	音交	×	×	×	×	×	×	×
8	梫	七林反	音寢	×	×	士林[19]	○	○	○
9	楩	頻綿反	毗善反	×	×	○	○	○	頻縣[20]
10	熊	音雄	×	×	×	×	×	×	×
11	羆	音陂	×	×	×	×	×	×	×

[17] 拙稿 2012：47-48。
[18]《文選集注》所引五家音と一致するものは「○」で示し、異なる音注は直接記入し、見られない音注は「×」であらわす。原則として原文を引用し、校勘は注で説明する。以下同。
[19]「士」は「七」の誤りである。
[20]「縣」は「緜」の誤りである。

12	挾	形牒反	×	×	×	胡蝶	胡蝶	胡蝶	胡蝶
13	麓	音鹿	×	×	×	×	×	×	×
14	芒	音亡	×	×	×	音亡	×	×	×
15	麋	音眉	×	×	×	×	×	×	×
16	蕪	音無	×	×	×	×	×	×	×
17	蘂	而髓反	×	×	×	×	×	×	×
18	葳	音威	×	×	×	×	×	×	×
19	蕤	而推反	×	×	×	×	×	×	×
20	沫	音末	音妹	×	×	○	○	○	未[21]
21	枇	頻移反	×	×	×	×	×	×	×
22	杷	蒲巴反	×	×	×	×	×	×	×
23	潰	胡對反	×	×	×	○	○	○	○
24	蒟	歸于反	音矩	×	×	俱宇	俱宇	俱宇	俱宇
25	茱	音殊	×	×	×	×	×	×	×
26	萸	音俞	×	×	×	×	×	×	×
27	菱	音陵	×	×	×	×	×	×	×
28	蘊	於郡反	於粉反	×	×	×	×	×	×
29	吭	胡浪反	何朗反	×	×	胡浊[22]	○	○	○
30	黿	音元	×	×	×	×	×	×	×
31	鼈	必滅反	×	×	×	×	×	×	×
32	鱒	祖本反	在本反	×	×	在本	在本	在本	在本
33	閈	音汗	×	×	×	○	○	○	○
34	磬	溪徑反	×	×	×	×	×	×	×
35	蒟	音句	九宇反	×	×	○	○	○	○
36	沓	徒合反	×	×	×	○	○	○	○
37	囂	許驕反	×	×	×	○	○	○	○
38	埃	音哀	×	×	×	×	×	×	×
39	觴	音傷	×	×	×	×	×	×	×
40	鮮	平聲	×	×	×	×	×	×	×
41	麋	音眉	×	×	×	×	×	×	×
42	跨	苦化反	×	×	×	×	×	×	×
43	拍	普陌反	李，亡白	×	×	×	×	×	×

[21]「未」は「末」の誤りである。
[22]「浊」は「浪」の誤字である。

			反或胡了反，非						
44	朅	綺列反	去例反	×	×	○	○	○	○
45	鰋	音偃	×	×	×	○	○	○	○
46	鱣	音尋	×	×	×	○	○	○	○
47	幕	音莫	×	×	×	×	×	×	×
48	駭	行戒反	×	×	×	○	○	○	○
49	踊	音勇	×	×	×	×	×	×	×
50	躍	音藥	×	×	×	×	×	×	×
51	掞	傷艷反	音艷	×	×	○	○	○	○
52	鄣	止尚反	×	×	×	×	×	×	×
53	瀨	音賴	×	×	×	○	○	○	○
54	汩	于筆反	古沒反	×	×	○	○	○	○
55	葺	七及反	子入反	×	×	七入	七入	七入	七入
56	鵾	音昆	×	×	×	×	×	×	×
57	與	去聲	×	×	×	×	○	○	○
58	飆	音搖	×	×	×	○	○	○	○
59	筑	音竹	×	×	×	○	○	○	○
60	箊	音於	×	×	×	○	○	○	○
61	蔭	音陰	×	×	×	×	×	×	×
62	譎	音決	×	×	×	○	○	○	○
63	詭	音軌	×	×	×	過委反	鬼	鬼	鬼
64	慷	胡浪反	曹何朗反	×	×	苦浪反	苦浪	苦浪	苦浪
65	暐	音偉	×	×	×	○	○	○	○
66	曄	于輒反	×	×	×	○	○	○	○
67	譎	音決	×	×	×	訐	○	○	○
68	比	頻必反	音鼻	×	×	○	○	○	○
69	甍	音萌	×	×	×	○	○	○	○
70	儐	卑胤反	×	×	×	○	○	○	○
71	衎	苦干反	可旦反	×	×	○	○	○	○
72	奥[23]	烏告反	蕭於六反	×	×	×	×	×	×
73	颿[24]	音凡	凡之去聲	×	×	音帆	帆	帆	帆

[23] 《音決》の被注字は「隩」である。
[24] 《音決》の被注字は「帆」である。

74	琲	補對反	步罪反	×	×	○	○	○	○
75	繆	力巧反	女巧反	×	×	○	○	○	○
76	濞	普秘[25]反	潭[26]，大南反	×	×	○	普祕	音祕[27]	○（切）
77	帟	音亦	×	×	×	×	×	×	×
78	昧	協韻音末	協韻音沒	×	×	○	○	未[28]叶韻	○
79	仿	蒲忙反	×	×	×	○	○	○	○
80	佯	音羊	×	×	×	×	×	×	×
81	叅	音三	七男反	×	×	×	×	×	×
82	砥	音旨	音之	×	×	○	○	○	○
83	挂	音卦	×	×	×	○	○	○	○
84	組	音祖	×	×	×	○	○	○	○
85	腱	纪言反	臣[29]言反	×	×	○	○	○	○
86	兕	徐姉反	音似	×	×	○	○	○	×
87	楓	音風	方凡反	×	×	○	○	○	○
88	憭	音聊	音留	×	×	○	○	○	○
89	殳	音殊	×	×	×	○	○	○	○
90	弋	音翼	×	×	×	○	○	○	○
91	嬿	音宴	於典反	×	×	○	○	○	○
92	折[30]	先歴反	之舌反	×	×	×	○	○	○
93	駑	音奴	×	×	×	×	×	×	×
94	涂	音途	×	×	×	○	○	○	○
95	毓	音育	×	○	×	×	○	○	○
96	哺	蒲護反	×	○	×	×	×	×	×
97	寘	真智反	×	×	×	×	×	×	×
98	趣	七倶反	音促	×	×	平	平	平	平
99	秣	音末	×	×	×	○	○	○	○
100	觳	口角反	苦侯反	×	×	角口[31]	○	角口[32]	○

25 「秘」と「祕」の混同は《文選》諸注には多い。
26 これは《音決》の被注字であり、五家音と違っている。
27 「音」は「普」の誤りである。
28 「未」は「末」の誤りである。
29 「臣」は「巨」の誤字である。
30 朝鮮本は「析」である。
31 「角口」は「口角」の誤りである。
32 「角口」は「口角」の誤りである。

101	孑	吉熱反	×	×	×	×	×	×	×
102	濩[33]	胡郭反	胡故反	×	×	○	○	○	○
103	殷	音隱	×	×	×	○	○	○	○
104	賑	音軫	×	×	×	○	○	○	○
105	闔	音合	×	×	×	×	×	×	×
106	射	音亦	音夜	×	×	○	○	○	○
107	墉	音容	×	×	×	×	×	×	×
108	麼	音靡	×	×	×	×	×	×	×
109	檐	琰廉反	×	×	×	塩	鹽	鹽	鹽
110	夭	平聲	×	×	×	○	○	○	○
111	斿	音由	音流	×	×	○	○	○	○
112	渟	音亭	×	×	×	○	○	○	○
113	蛟	音交	×	×	×	×	×	×	×
114	眄	音麵	×	×	×	×	○	○	○
115	謀	去聲叶韻	×	×	×	×	○	○	○
116	贍	時艶反	×	×	×	×	×	×	×
117	洿	音烏	烏卧反	×	×	○	○	○	○
118	枾	孚每反	芳吠反	×	孚廢	×	孚廢	浮廢	孚廢
119	闕	音掘	其月反	×	○	○	○	○	○
120	偵	恥令反	×	×	恥命	耻命	恥命	恥命	恥命
121	劓	靈结反	力計反	×	○	○	○	○	○
122	壓[34]	烏甲反	於葉反	×	×	×	×	×	×
123	令	平聲叶韻	×	×	○	○	○	○	○
124	話	胡化反	×	×	胡怪	×	胡怪	胡怪	胡怪

表 1 からわかるように、《文選集注》にある 124 個の五臣音注のうち、79 個は五臣注の他本に見出すことができ、その分布は天理本 2 個、杭州本 6 個、陳刻本 71 個、朝鮮本 77 個となっている。うち陳刻本と朝鮮本の両方に現れるのは 70 個、天理本と朝鮮本の両方に現れるのは 1 個、天理本と陳刻本のみにあるのはそれぞれ 1 個、朝鮮本のみにあるのは 7 個である。《文選集注》に引かれた五家音は、他本の五臣音注より数がかなり多いことが窺い知れる。

33 《音決》の被注字は「鑊」である。
34 《音決》の被注字は「厭」である。

79 個のうち他本と一致するのは 67 個で、相違するのは 12 個である。その 12 個のうち、音注の用字は異なるが中古音韻地位が一致するのは「12 挾，形牒／胡蝶[35]」、「55 葺，七及／七入」、「73 颿，凡／帆」、「98 趣，七倶／平」、「109 檐，琰廉／鹽」の 5 個である。音注の用字も音韻地位も異なるが、五臣注の他の正文にある音注（同字同義の場合）と音韻地位が一致するのは「63 詭，軌／鬼」、「120 偵，恥令／恥命」の 2 つである。音注の用字と音韻地位がともに一致しないのは「24 蒟、32 鱒、64 慷、118 柿、124 話」の 5 つである。

「24 蒟，歸于（見虞合三平）／倶宇（見麌合三上）」は声調に差異がある。恐らく《文選集注》の“宇”は“于”の誤記だろう。このような誤りは唐代の写本にはしばしば見られる現象で、陳刻本と朝鮮本にもこのような例があり、後述の「3.2.2.2」の⑤を参照されたい。

「32 鱒，祖本（精混合一上）／在本（從混合一上）」は声母の差異であり、前者は濁音と清音を混同させているが、後者は混同していない。集注本における五臣注の引用を総体的に見ると、五臣に先立つ先輩諸家の注と同じ内容は殆ど削除された。特に音注の場合、先輩諸家と異なる或いは先輩諸家音注にない五臣音注のみを選択する傾向がある。ということは、「鱒」について《音決》の音注は「在本」であるため、五臣音注は「在本」ではない可能性が高い。つまり、現存する五臣注刻本は原本と全く同じという訳ではなく、音注を付けた人によって何度も修正された可能性があり、五臣注刻本は五臣以後に書き換えられた可能性もあると考えられる。

「64 慷，胡浪（匣宕開一去）／苦浪（溪宕開一去）」、「118 柿，孚每（敷賄合一上）／孚廢（敷廢合三去）」、「124 話，胡化（匣禡合二去）／胡怪（匣怪合二去）」などの相違も後世の人が当時の音読により書き換えた可能性が高い。

しかしながら、総体的に見ると、ほかの版本と集注本の音注には大差いがなく、ほぼ一致するといえる。

2.4.2 単注本

2.4.2.1 天理本

天理本は日本天理大学附属天理図書館が保管している。もともと日本三条公爵家の所蔵であったため、三条家本とも称される。この天理本は首尾を欠くとともに、途中 2 ヵ所で大量の脱文があり、書名も巻名も見えない。しかし、正文の「濟曰」「銑曰」「向曰」「良曰」「翰曰」から五臣注《文選》であると判断できる。現存する単注完本と対照させると、巻 20 の殘巻だと知れる。残存している部分は巻 20 の 4 割にすぎない。この殘巻には 63 個の音注があり、表 2 は他本との異同を示している。

---

[35] 「／」の前は五家音、後は朝鮮本の音注である。以下同。

表 2 天理本と他本の五臣音注対照表

番号順	被注字	天理本	集注本	陳刻本	朝鮮本	明州本	奎章閣本
1	剄	古郢反	×	○	○	○	○
2	駃	音決	×	×	○	○	○
3	騠	音啼	×	×	○	蹄	○
4	析	先歴反	×	×	昔	昔	昔
5	臏	鼻引反	×	○	○	○	○
6	摺	音臘	×	拉	拉	拉	拉
7	雍	平聲	×	○	○	○	○
8	於	音烏	×	○	○	○	○
9	跖	音隻	×	×	○	○	○
10	蟠	音盤	×	×	×	×	×
11	困	丘筠反	×	×	×	去倫	去倫
12	砥	音底	×	止	止	止	止
13	橛	渠月反	×	○	○	○	○
14	滄	楚諒反	×	○	○	○	○
15	操	平聲	×	×	×	×	×
16	霤	力救反	×	×	○	○	力求
17	綆	古猛反	×	×	×	×	×
18	蘖[36]	魚列反	×	×	×	×	×
19	搔	先勞反	×	×	×	先牢[37]	×
20	礱	力公反	×	×	×	×	×
21	難	去聲	×	×	○	○	○
22	荐	音昨	×	○	○	○	○
23	從	子容反	×	○	○	○	○
24	訾	音貲	×	×	×	×	×
25	蚋	而鋭反	×	×	○	○	○
26	腐	音輔	×	×	○	○	○
27	輸	去聲	×	○	○	○	○
28	圈	奇免反	×	×	○	○	○
29	饟	失讓反	×	○	○	○	○

36　明州本と奎章閣の被注字は「蘖」である。
37　李善注には「《字林》曰搔，先牢切」とあり、明州本のみにある「先牢」は李善音注の影響を受けた可能性があると思われる。

30	邯	音寒	×	×	×	×	×
31	鄲	音丹	×	×	×	×	×
		殘欠					
32	擔	丁濫反	×	×	○	○	○
33	弛	式氏反	×	×	○	○	○
34	踵	音腫	×	×	×	×	×
35	劾	胡伐代[38]反	×	○	○	○	○
36	裨	音脾	×	×	○	○	○
37	絓	胡卦反	×	○	○	○	○
38	氾	音凡	×	×	○	○	○
39	毓	音育	○	×	○	○	○
40	稱	去聲	×	○	○	○	○
41	逡	七旬反	×	×	×	×	×
42	哺	蒲護反	○	×	×	×	×
		殘欠					
43	蕕	音猶	×	×	×	×	×
44	媾	古候反	×	×	×	×	×
45	借	子亦反	×	即	即	即	即
46	鶡	音曷	×	×	○	○	○
47	刊	苦寒反[39]	×	×	×	×	×
48	柑	臣炎[40]反	×	巨炎	×	×	×
49	強	上聲	×	○	○	×	○
50	矇	音蒙	×	×	○	○	○
51	瞍	音叟	×	×	○	○	○
52	轉[41]	張戀反	×	×	×	×	×
53	騿	都年反	×	×	○	○	○
54	妠	奴紺反	×	○	○	○	○
55	姐	咨也反	×	×	×	×	×
56	櫝	音讀	×	×	×	×	×
57	耋	徒結反	×	○	○	○	○
58	慺	音婁	×	○	○	○	○

38 「代」は「伐」に間違ってもそのまま残し、後ろに正字「代」を書いた。
39 この音注は正文の横に補注されている。
40 「臣」は「巨」の誤字である。
41 刻本の被注字は「囀」である。

59	泜	音祗	×	祇	○	○	○
60	藺	良刃反[42]	×	×	×	×	×
61	莅	力二[43]	×	×	×	×	×
62	誑	俱況反	×	×	×	×	×
63	貿	莫構[44]反	×	×	○	○	莫搆

天理本の書写年代については、花房英樹「本文解説」（天理本 1980：7）は「正文と注にわたってみると、避諱のことが散見する」、「ただ厳しくは避けられていない」、「恐らく五臣注が成って、ほどもない時期の鈔本を、わが平安期に重鈔したものと察せられる」と述べている。表 2 からわかるように、34 個の反切は「61 莅，力二」を除く全ての反切が「××反」となっている。反切による注音で「××反」が「××切」に変化するのは唐代の中後期であると言われている。とすれば、この鈔本の底本は唐代のもので間違いないだろう。

集注本と同様に、天理本に見られた 63 個の音注の一部だけは他本にも見られる。このことから五臣注の原本にある音注は、現存する単注本のいずれよりも多いという推測の根拠の 1 つである。

この 63 個の音注のうち他本にも見られるのは 21 個で、他本の音注と一致するのは 18 個で、相違するのは「6 摺，臘/拉」「12 砥，底/止」「45 借，子亦/即」の 3 個である。どちらが正しいのか、相違する理由は何なのか、はっきりとしないが、唐代鈔本のほうがより原本に近い姿を保持していると考えている。

また、表 2 から陳刻本が他の版本より音注の数がかなり少ないとわかる。恐らく陳刻本では五臣音注を削除していたと考えられる。

2.4.2.2 杭州本

杭州本は殘巻で、巻 29 と巻 30 のみ現存し、それぞれ北京大学図書館と北京図書館に保存されている。巻 29 は 3 頁を欠き、巻 30 は無欠である。杭州本の刊行時期については、李致忠《古書版本学概論》は北宋刻本といい、北京圖書館《中国版刻圖錄》には南宋初期の刊本で建炎三年（1129）以前に刊行された[45]とある。いずれにしても、杭州本は現存する最古の五臣注刻本であることは変わらない。表 3 は杭州本と現存する五臣注他本の関係を示している。

42　この音注は正文の横に補注している。
43　「反」が付いていない。
44　「構」か「搆」ははっきりしない。
45　傅剛 2000：172 を参照されたい。

表 3 杭州本と他本の五臣音注対照表

番号順	被注字	杭州本	集注本	陳刻本	朝鮮本	明州本	奎章閣五臣	奎章閣李善
29 巻目								
1	泱	央	×	×	○	○	○	×
2	幅	被偪	×	○	○	○	○	×
3	蠆	勑邁	×	×	○	○	○	×
4	裨	毗	×	×	○	○	○	×
5	罕	的	×	○	○	○	○	×
6	礪	盧會	×	○	○	○	○	×
7	柿	孚廢	孚每	×	○	○	浮廢	孚廢
8	梠	呂	×	×	○	○	○	×
9	桷	角	×	×	○	○	○	×
10	闕	掘	○	○	○	○	○	×
11	墥	七念	×	×	○	○	○	×
12	鐳	雷	×	×	○	○	○	×
13	甒	武	×	○	○	○	○	×
14	偵	恥令	×	○	○	○	○	×
15	穬	古猛	×	○	○	○	○	×
16	橓	賈	×	×	○	○	○	×
17	噤	渠蔭	×	×	○	○	○	×
18	貿	莫構	×	×	○	○	○	×
19	縣	玄	×	○	○	○	○	×
20	賁	奔	×	×	○	○	○	×
21	父	甫	×	×	○	○	○	×
22	婪	魯含	×	○	○	○	○	×
23	睢	許季	×	○	○	○	○	×
24	虓	呼交	×	○	○	○	○	×
25	闞	呼檻	×	呼檻	○	呼檻	呼檻	×
26	煽	扇	×	×	○	○	○	×
27	惴	之睡	×	×	○	○	○	×
28	霜	去聲協韻	×	○	○	○	○	×
29	愜	苦頰	×	×	○	○	○	×

30	偵	恥命	恥令	○	○	○	○	×
31	剜	靈結	○	○	○	○	○	×
32	鍤	楚甲	×	×	○	○	○	×
33	掊	蒲構	×	×	○	○	○	×
34	萁	其	×	×	○	○	○	×
35	稈	幹	×	×	○	○	○	×
36	瞷	下版	×	○	○	○	○	×
37	咢	的	×	×	○	○	○	×
38	礪	盧會	×	×	○	○	○	×
39	柿	廢	×	×	○	○	○	×
40	硠	郎	×	×	○	○	○	×
41	眡	食至	×	×	○	○	○	×
42	佻	達彫	×	×	○	○	○	×
43	轄	衛	×	○	○	○	○	×
44	拑	巨炎	×	○	○	○	○	×
45	絇	衢	×	○	○	○	○	×
46	痁	傷閻	×	○	○	○	○	×
47	傃	素	×	×	○	○	○	×
48	占	去聲	×	○	○	○	○	×
49	訃	赴	×	○	○	○	○	×
50	窆	畢驗反	×	○	○	○	必驗反	×
51	煙	因	×	○	○	○	○	×
52	滲	×殘欠	×	疏禁反	疏禁反	疏禁反	疏禁反	×
53	翬	×殘欠	×	×	暉	暉	暉	×
54	輧	×殘欠	×	×	蒲田	…田[46]	蒲田	×
55	輴	×殘欠	×	楮倫反	楮倫反	楮倫反	楮倫反	×
56	轀	温	×	○	○	○	○	×
57	轜	而	×	×	○	○	○	×
58	姪	田结	×	×	○	○	○	×
59	輴	丑輪反	×	丑倫反	○	丑倫反	丑倫反	×
60	摽	驃	×	×	○	○	○	×
61	夢	平聲	×	○	○	○	○	×

[46] 反切上字は判別不可。

62	輁	渠恭	×	○	○	○	○	×
63	纚	離	×	○[47]	○	○	○	×
64	綍	甫勿	×	×	○	○	○	×
65	翬	暉	×	×	○	○	○	×
66	褕	援	×	×	搖	揺	揺	×
67	壺	苦本	×	×	○	○	○	×
68	朓	土鳥	×	○	○	士鳥	○	×
69	晰	音制	×	○	○	○	○	×
70	沴	靈細反	×	○	○	○	○	×
71	肄	弋二	×	○	○	○	○	×
72	穸	夕	×	×	○	○	○	×
73	噭	古弔	×	○	○	○	○	×
74	讙	音喧	×	○	○	○	○	×
75	鷖	煙計	×	○	×殘欠	○	○	×
76	穜	直龍	×	×	×殘欠	○	○	×
77	稑	音陸	×	×	×殘欠	○	○	×
78	祲	子鳩	×	×	○	子鳩	○	×
79	鮒	扶句	×	○	○	○	○	×
80	鐏	亡犯	×	○	七犯	○	○	×
81	纘	祖管	×	×	○	○	○	×
82	於	烏	×	○	○	○	○	×
83	高	音告協韻	×	○	○	○	○	×
84	招	之邵反 協韻	×	○	○	○	○	×
85	訐	舉謁	×	×	○	○	○反	×
86	憖	魚靳	×	×	○	○	○	×
87	令	平聲協韻	○	○	○	○	○	×
88	种	蟲	×	×	○	○	○	×
89	圮	平被	×	×	平鄙	平鄙	平鄙	×
90	覈	胡隔	×	×	○	○	○	×
91	裁	去聲	×	○	○	○	○	×
92	幾	居依	×	巨依	○	○	○	×

[47] 陳刻本は「离」であるが、現存する五臣注諸本には「离」「離」が区別されていないため、一致すると見られる。

93	謀	莫浮	×	×	○	○	○	×
94	謨	莫胡	×	×	○	○	○	×
95	為	去	×	○	○	○	○	×
96	為	平	×	×	○	○	○	×
97	脤	慎	×	○	○	○	○	×
98	輯	集	×	×	○	○	○	×
99	話	胡怪	胡化	×	○	○	○	×
100	恇	匡	×	×	○	○	○	×
101	逝	成列反 協韻	×	○	○	○	○	×
30 巻目								
1	稱	去	×	○	○	○	○	×
2	施	×	×	去	×	×	×	×
3	間	×	×	去	×	×	×	×
4	刹	×	×	察	×	×	×	×
5	覬	音冀	×	×	○	○	○	×
6	榱	衰	×	○	○	○	○	×
7	幾	巨衣	×	○	○	○	○	×
8	庀	匹耳	×	○	○	○	○	×
9	袤	×	×	茂	×	×	×	×
10	枻	翊洩反協韻[48]	×	○	○	○	○	×
11	膴	武	×	○	○	○	○	×
12	葺	×	×	此習反	×	×	×	×
13	翬	×	×	暉	×	×	×	×
14	奐	煥	×	○	燠	○	○	×
15	燠	於六	×	○	○	○	○	×
16	蘊	約粉	×	○	○	○	○	×
17	龕	堪	×	○	○	○	○	×
18	戴	翊善	×	○	○	○	○	×
19	鄾	憂	×	○	○	○	○	×
20	漸	子鹽	×	○	○	○	○	×

[48] 筆跡が不鮮明なため「翊」の右側が「羽」であるか断定できない、協韻であるかも再確認する必要がある。

21	藿	桓	×	×	○	○	○	×
22	陬	子侯	×	○	○	○	○	×
23	徼	古弔	×	子弔	○	○	○	×
24	剽	匹妙	×	○	○	四妙	○	×
25	羯	居謁	×	○	○	○	○	×
26	椎	直追	×	○	○	○	○	×
27	髽	側瓜	×	○	○	○	○	×
28	獷	古猛	×	○	○	○	○	×
29	菑	側眉反	×	×	○	○	○	×
30	蝝	緣	×	○	○	○	○	×
31	臨	去	×	○	○	○	去殳	×
32	櫬	楚吝	×	×	○	○	○	×
33	癯	求俱	×	×	求具	○	○	×
34	籀	直又	×	×	○	○	○	×
35	憖	魚靳	×	×	○	○	○	×
36	瀰	密爾反	×	○	○	○	○	×
37	析	先歷	×	×	○	○	○	×
38	昭	韶	×	○	○	○	○	×
39	厭	烏甲	×	○	○	○	○	×
40	殺	所戒	×	×	○	○	○	×
41	憖	魚靳	×	○	○	○	○	×
42	憖	魚靳	×	×	○	○	○	×
43	綟	麗	×	×空缺	○	○	○	×
44	纛	徒到	×	○	○	○	○	×
45	轀	溫	×	○	○	○	○	×
46	輬	涼	×	○	○	○	○	×
47	葆	音保	×	○	○	○	○	×
48	繒	張呂	×	○	○	○	○	×
49	緹	題	×	○	○	提	○	×
50	褵	离	×	○	○	○	○	×
51	烱	古永	×	○	○	○	○	×
52	闒	士合	×	土合	土合	土合	士合	×
53	茸	如勇	×	○	○	○	○	×
54	溷	胡本	×	○	○	○	○	×

55	跖	之石	×	○	○	○	○	×
56	蹻	居略	×	○	○	○	○	×
57	銛	息廉反	×	○[49]	○	○	○	×
58	誶	信	×	○	○	○	○	×
59	沕	昧	×	○	○	○	○	×
60	偭	面	×	○	○	○	○	×
61	蟜	古堯	×	○	○	○	○	×
62	獺	他葛	×	×	○	○	○	×
63	蛭	質	×	○	○	○	○	×
64	螾	音引	×	○	○	○	○	×
65	汙	烏	×	焉	○	○	○	×
66	鱣	淫	×	○	○	○	○	×
67	蕞	徂外	×	×	○	○	○	×
68	孌	力婉	×	×	○	○	○	×
69	著	陟略	×	○	○	○	○	×
70	繐	歲	×	○	○	○	○	×
71	著	陟略	×	×	○	○	○	×
72	惡	去	×	○	○	○	○	×
73	擠	子計	×	○	○	○	○	×
74	朅	去謁[50]	×	○	○	○	○	×
75	歎	平聲	×	○	○	○	○	×
76	翰	平聲	×	○	○	○	○	×
77	漼	龕賄	×	○	○	○	○	×
78	甚	渠記	×	○	○	○	○	×
79	眝	直呂	×	○	○	○	○	×
80	望	平聲	×	○	○	○	○	×
81	葬	平聲協韻	×	×	○	○	○	×
82	甓	步覓反	×	×	○	○	○	×
83	核	胡隔	×	×	○	○	○	×
84	畚	本	×	○	○	○	○	×
85	盎	烏浪	×	×	○	○	○	×
86	骼	格	×	×	○	○	○	×

[49] ここでは「息廉切」であり、「息廉反」ではない。
[50] 形符の「言」は、はっきりしていない。

87	艤	魚几	×	×	○	○	○	×
88	羋	弭	×	○	○	○	○	×
89	欷	許毅	×	○	○	○	○	×
90	楊	音盈協韻	×	×	○	○	○	×
91	婞	幸	×	○	○	○	○	×

表 3 からわかるように、朝鮮本は音注の数と内容においてほぼ杭州本と一致している。異なる所はほとんど客観的な原因である。例えば 29 巻目の 52 から 55 までは杭州本の正文を欠くため、対応する音注がなく、75 から 77 までは逆に杭州本の音注に対応する朝鮮本の正文が欠けている。29 巻目の「66 褕，援／搖」「80 鑁，亡犯/七犯」、30 巻目の「14 奐，煥／燠」「33 癯，求俱／求具」「52 闟，士合／土合」などの用字の違いは、音切を変更したというよりは書写による誤字ではないかと思われる。また「89 圮，平被（並紙開）／平鄙（並旨開）」などの相異例もあるが、後述のとおり五臣音注では支韻と脂韻は既に通用しているため、この例は両書の音韻体系には影響していない。

同じ単注本にもかかわらず陳刻本と杭州本は音注の数では大きな差異がある。朝鮮本が杭州本と同じ系統で、陳刻本とは別の系統に属することに起因するのだろう。

2.4.2.3 陳刻本

陳刻本は五臣単注本として現存する唯一の宋代完本である。《進集注文選表》の直後に 2 つの注記があり、一つは次のとおりである。

> 凡物久則弊，弊則新。《文選》之行尚矣，轉相摹刻，不知幾家，字經三寫，誤謬滋多，所謂久則弊也。琪謹將監本與古本參校攷正，的無舛錯，其亦弊則新與，收書君子請將見行板本比對，便可槩見。紹興辛巳龜山江琪咨聞。

もう一つには“建陽崇化書坊 陳八郎宅善本”とある。

これらから次のことがわかる。

①陳刻本は江琪という人物が遅くとも紹興辛巳年（1161）までに編纂した。

②陳刻本が編纂された時には「見行板本」があった。この「見行板本」は傅剛（2000：169）が言うように“或即杭州本”だと思われる。

③江琪が新たに《文選》を編纂する際には、監本と古本を参照しながら考証を加え、問題がある所を訂正した。つまり、陳刻本は原本のまま刊行されたのではなく、紹興辛巳年間に龜山にいた江琪の意見が加えられたということになる。傅剛（2000：169）は“惟宋国子監僅刻印過李善注本，江琪稱他以監本與古本參校，當即以李善本與古寫

本参校”と指摘している。

表 1 から表 3 までに見られるように、五臣注諸本の中では陳刻本と他の版本の違いが最も大きい。特に他本にある音注が陳刻本にはなく、陳刻本にある音注が他本には見出せないものが散見する。陳刻本と朝鮮本を比較すると、音注数の違いだけではなく、音注の形式、用字などにも相当な相違が見られる。まず表 4 で相違の大略を示し、詳細は後述する。

表 4 陳刻本と朝鮮本の音注対照表

音注数 / 巻号	陳刻本	朝鮮本	陳有朝無	朝有陳無	相異
序	46	45	2	1	1
1	605	604	8	7	36
2	672	634	52	14	37
3	710	719	2	10	49
4	663	662	1	0	31
5	292	294	2	4	22
6	633	623	15	5	38
7	142	141	1	0	6
8	329	307	23	1	17
9	590	635	0	44	94
10	352	325	31	4	16
11	80	83	1	4	8
12	73	75	1	3	4
13	75	71	10	5	3
14	66	71	1	6	5
15	61	68	1	8	3
16	136	139	2	5	12
17	474	473	13	12	22
18	77	154	1	78	2
19	18	37	0	19	2
20	47	102	1	56	0
21	177	186	13	22	13
22	81	92	0	11	5
23	186	182	12	8	10

24	126	167	2	43	5
25	19	29	1	11	0
26	23	73	1	51	0
27	50	93	1	44	2
28	33	69	0	36	3
29	48	98	0	48	4
30	69	85	6	22	3
合計	6953	7336	204	582	453

このほかに、巻 21 から巻 25 の全巻、巻 30 の大部分、巻 19 の約 3 割、巻 6・巻 12・巻 18 の一部は他の章と違いがあり、恐らく後に増補したものである。文中のあるところ空白があり、避諱の方式や反切用字および重複字の書写方法などについても、前後に相違が見られる。

2.4.2.4 朝鮮本

朝鮮本は陳刻本と同じく現存する五臣単注完本の 1 つである。文末には次の黄瑾の跋文がある。

> 典謨訓誥之後，古書之行世者獨蕭統《文選》爾。杜老云：熟精《文選》理。豈非以為書近古辭者深奥，必熟而後可精其理耶？我国舊無板本，学者罕得而見之，況讀而熟之乎？曩在成廟朝，嘗命鑄本印之。而今其書存于人者亦寡矣。正德己巳春，晉州姜相公出為方伯，來蒞南土。僕謁相公于第，公賜之坐，敘寒暄外未暇出一言，謂公曰：嶺外一區，吾東方魯鄒也。国家之求士，唯南道是賴，而士之学文章者，非是無以得古人為文之法。公，南人也，旬宣之暇，盍先刊行是書乎？公曰：諾哉。既登途，僕又拜公于門外。公曰：不敢忘。是歲秋，僕受徙民從事之命以來，則聞公已求得善本，分付列郡，視力之大小輕重而程其功，課力就畢而功告成矣。由是嶺之南，家有是本，人讀是書。不十年，徧于東国。学者稍稍變舊習，皆知作為古文而日趨入於古人之蹊逕突奥，則其於聖朝作人之美，豈小補哉？公之功於是為大矣。正德己巳十二月下澣通訓大夫軍資監正知製教兼校書館校理黄瑾跋。

この跋文によると、朝鮮本は遅くとも正德己巳年（1509）までに刊行されており、着想から完成までは僅か一年間ほどである。朝鮮本の底本は明白になっていないが、その前の成廟朝即ち成宗時期（1469－1494）には既に鑄刻本があったことは判明している。

朝鮮本の刊行時期は陳刻本に遅れるが、表 1 から表 3 でわかるように、陳刻本以外の版本とは音注がほぼ一致するため、朝鮮本は五臣音注の本来の姿をより多く保存していると考えられる。傅剛も“余以之[51]與杭州本及奎章閣相校，均相同，說明此高麗刻五臣注《文選》與杭州本同一系統”(2000：173)、“因此，在杭州本僅存兩卷的今天，朝鮮正德四年所刻這部五臣注《文選》是完全可以作為宋本使用的”（2000：258）と主張している。

朝鮮本にも欠けている部分があり、巻 13 の全文と巻 17 の一部は後に増補された内容である。

2.4.3 六家注本：明州本と奎章閣本

李善注と五臣注の合注本は 2 種類あり、「六家注本」と「六臣注本」と称される。「六家注本」は五臣注が先に来て、李善注が後ろに配置されている。「六臣注本」は逆に李善注が前で五臣注が後の順で編集されている。明州本と奎章閣本は共に六家注本に属する。

明州本は紹興二十八年（1158）刊行の現存する最古の六家注本である。奎章閣本は宣德三年（1428）刊行で韓国の奎章閣に保存されているため、この名を得た。しかし、本研究にいう奎章閣本は奎章閣の蔵本ではなく、日本東京大学東洋文化研究所の所蔵であるが、両者は全く同じ内容であるため便宜上「奎章閣本」と称する。奎章閣本は文末に 3 つの引用文と跋文がある。そのうち 2 つの引用文は非常に重要であり、以下にその全文を引く。

まず《五臣本後序》である。

> 《文選》之行其來舊矣。若夫變文之華實，匠意之工拙，梁昭明序之詳矣。製作之端倪，引用之典故，唐五臣注之審矣。可以垂吾徒之憲則，須時文之掎摭，是為益也，不其博歟？雖有拉拾微缺，衒為己能者兼明書之類是也。所謂忘我大德而修我小怨，君子之所不取焉。二川兩浙先有印本，模字大而部帙重，較本粗而舛脫夥。舛脫夥則轉迷豕亥，誤後生之記誦。部帙重則難寘巾箱，勞游学之負挈。斯為用也，得盡善乎。今平昌孟氏好事者也，訪精當之本，命博洽之士極加考覈，彌用刊正舊本或遺一聯，或差一句，若成公《綏嘯賦》云：走胡馬之長嘶，迴寒風乎北朔。又屈原《漁父》云：新沐者必彈冠。如此之類及文注中或脫誤一二字者，不可備舉，咸較史傳以續之。字有訛錯不協今用者皆考五經宋韻以正之。小字楷書深鏤濃印，俾其扶輕可以致遠，字明可以經久，其為利也，良可多矣。且国家於国子監彫印書籍，周鬻天下。豈所以規錐刀之末為市井之事乎？盖以防傳寫之草率，懼儒学之因循耳。苟或書肆悉如孟氏之用心，則五經子史皆可得而流布，国家亦何所藉

[51] 本論文の朝鮮本を指している。

焉。孟氏之本新行，尚慮市之者未諒，請後序以誌之。庶讀者詳焉，則識僕之言不為誣矣。時天聖四年九月二十七日前進士沈嚴序。

この序文から五臣注平昌孟氏本は天聖四年（1026）に完成しており、それよりも古い版本に基づいて考証を加え、五經・宋韻により誤字もしくは当時の習慣に合わない字を訂正したとわかる。

もう１つは秀州州学本の編纂についての言及である。

秀州州学今將監本《文選》逐叚[52]詮次編入。李善并五臣注其引用經史及五家之書，並檢元本出處，對勘寫入，凡改正舛錯脱剩，約二萬餘處。二家注無詳略，文意稍不同者皆備錄無遺，其間文意重疊相同者，輒省去留一家，捻計六十卷。元祐九年二月 日。

ここからわかるように、六家本に属する秀州州学本は、元祐九年（1094）の刊行で、引かれた五臣注は平昌孟氏の刊行本に従い、李善注は国子監本に従うが、両書の文意が同じ場合はそのうちの１つを削除していた。

奎章閣本は宣德三年（1428）刻だが、底本はこの秀州州学本をもちいている。

明州本と奎章閣本を他の版本と比較すると、以下の結論を得ることできる。

①明州本と奎章閣本の正文には他本に比べより多くの音注が残されている。これも五臣注の原本にある音注が、現存する五臣注のどの版本よりも多く原本の内容を残しているという推論の根拠の１つである。しかし、六家本にあるより多い音注は李善音注から混入している可能性もあるので、慎重に扱うべきである。

②朝鮮本と陳刻本で異なる音注において、明州本と奎章閣本は朝鮮本とほぼ一致するため、朝鮮本と同じ系統であると推測できる。

③明州本と奎章閣本に保有されている膨大な音注資料は、朝鮮本と陳刻本の誤字を訂正するための参考資料として、かなり重要である。

2.4.4 朝鮮本を音韻研究の底本にする理由

上述をまとめると、朝鮮本を底本にする理由は以下の３点である。

①朝鮮本は現存する２種の五臣注の完本の１つである。

②朝鮮本は陳刻本に比べ他の版本との相違が小さく、五臣音注の本来の姿に最も近いと考えられる。

③朝鮮本の刊行時期は遅くれるが、現存する最古の杭州刊本とほぼ完全に内容が一

[52]「叚」は「段」の俗字である。

致しており、宋刊本の内容を反映している版本だと見なしても差し支えないだろう。

2.5 本章の主要な結論

①五臣注は長期に渡って李善注よりも流行していた。李善注は典拠を重視するのに対し、五臣注は文意の訓釈を目的としている。両者の優劣を同列に論じることは不適当だと考えている。

②呂延祚と五臣はほぼ当時の朝臣もしくは朝臣の親族である。そのうち、史書の記載により呂向が才徳兼備の、鄆州東平（今の山東の西南部）人だと判明している。呂延祚の統率で五臣が編集した五臣注《文選》は文意の訓釈に重きが置かれ、出典に関する考証の不足や誤りも見られるが、これにより五臣注の全てを否定することは妥当ではないと思われる。五臣注が長期に渡り流行していたことはその質と価値を証明している。

③現存する諸版本は陳刻本と朝鮮本（集注本・天理本・杭州本・六家注本を含む）の 2 種に大別でき、陳刻本・朝鮮本（集注本・天理本・杭州本を含む）・六家注本の 3 種に分けることもできる。

④集注本は現存する五臣注の最古の版本であり、唐代の写本であると判断できる。現存する最良の五臣注版本は朝鮮本である。

第三章　朝鮮本五臣注《文選》の音注整理

3.1《文選》五臣音注と先行音注との関係

3.1.1 黄侃の指摘

近代中国における言語文字学者・訓詁学者・音韻学者であり、また「章黄学派」の代表の一人として名高い黄侃（字は季剛 1886－1935）は五臣注の批判者の一人である。彼の批判（1985：2）は五臣注の解釈に対するだけではなく、五臣注の音注へも及んだ。

> 頃閲余仲林音義，考其旧音，意非五臣所能作，必蕭該、許淹、曹憲、公孫羅、僧道淹之遺。
>
> 五臣注既譾陋，亦必不能為音。
>
> 縱命出於五臣亦必因仍前作。觀其杜撰故實，豈肯涉獵羣書，襲旧為之，寧非甚便。

この非難は五臣が音注をつける能力を持っていたか、さらに、持っていたとしても、自分で付けたか、それともそのまま前人の成果を自分のものにしたかという問題が焦点となっている。

前に述べたとおり、呂延祚が率いた呂延済・劉良・張銑・呂向・李周翰ら五人は音注を作る学識と教養を持っていた。では、五臣音注は五臣に先立つ先達諸家の音注とは一体どんな関係を持っているのだろうか。

3.1.2 五臣音注と李善音注

五臣音注は合計 7336 個，そのうち、李善注と共通する音注が 1083 個ある。両者を比較すると、完全に一致する音注は 219 個と、五分の一を占める。例えば「18136[53]弛」に対しては李善と五臣は共に「式氏」という反切をつけ、「18137 鍰」に対しては李善と五臣は共に“環”という直音注を付けている。しかし、五臣音注には李善音注と明確に区別できる特徴も窺える。

まず、李善音注は軽唇音と重唇音を混同しているが、五臣音注では混同していない。ここに述べた区別を下表に示した。

---

[53] 五臣注《文選》は全部で 30 巻あり、朝鮮本各巻の音注には通し番号を振っている。各番号の数字 5 個のうち、左より 2 桁は巻号を表し、その後の 3 桁は音注数を表している。例えばこの 18136 は 18 巻目の 136 番目の音注を指す。以下同。

音注 被注字	五臣	李善	音注 被注字	五臣	李善	音注 被注字	五臣	李善
01066 僄	匹照	芳妙	01164 歕	普悶	敷悶	01201 贔	備	扶祕
01270 彬	悲旻	方珉	01389 茴	萌	武行	01416 砰	普萌	芳耕
01449攥	朴	芳邈	01510 擺	披	芳皮			

上表に見られるように、《文選》30 巻の 1 巻目では、李善音注の軽唇音と重唇音の混同は 8 例に達し、更に唇音の 4 つの声母に及んでいる。例えば、01270 は非母と幫母、01066・01164・01416・01449・01510 は敷母と滂母、01201 は奉母と並母、01389・02345 は微母と明母の混同である。

李善音注の軽唇音は、まだ独立していないことが窺える。徐之明氏《<文選>李善音注聲類考》にも、“唇音尚未分化出軽唇音”と述べている。逆に、上表に見られるように、五臣音注では、軽唇音と重唇音は分かれている。

次に、船母と常母の問題。例えば 01001 抒、李善の反切は「食與」であり帰字と同じ船母に属し、これに対し五臣の反切は「臣與」であり常母に属する。こういう例は 1 例しかないが、比較資料とした 1083 個の音注の中で、船母と常母の帰字は僅か 3 例である。全文を通してみると、下記に述べたとおり、五臣音注では、船母と常母は混同し一類となっている。しかし、徐之明の研究によると、李善音注では“船、禪無一相混”と言っており、「船」「禪」が各々独立している。

五臣音注と李善音注の差異はこの他にも見られる。まず五臣音注では混同していない例を示す。「01186 莘，詵/[54]所巾」、李善音注は真韻開口三等と臻韻の混同であり、「01192 皤，婆/蒲河」、李善音注は歌韻と戈韻の混同である。

次に李善音注で混同していない例を挙げる。「01317 廷，他頂/他定」、五臣音注は徑韻と迴韻の混同、「01389 茴，萌/武行」、五臣音注は庚韻開口二等と耕韻開口二等の混同である。

このような例もある。「02305 濜，想胤/自吝」、五臣音注では濁音無声音化の特徴が表われているが、李善音注では從母と邪母が混同していると言える。また、「01593 蠱（妖蠱），也/古」、李善と五臣の音注は共に「蠱」の音読であるが、「妖蠱」という意義からみると、やはり「也」の音注こそが適切である。「01026 桴（棟桴），敷/浮」、五臣音注では「桴」には 2 つの音注があり、「屋棟」の意味では「敷虞」と読み、「撃鼓杖」の意味では「奉尤」と読む。しかし、李善音注と《王三》ではともに「桴」には「奉尤」の反切しか見えず、《王三》は「齊人云屋棟」と注釈している。《広韻》では、「敷虞」と「奉尤」をともに収録している。

[54]本節においては「/」の前は五臣音注、後ろは李善音注である。

李善音注と五臣音注の優劣はともかくとして、五臣音注と李善音注が全く同じ音系に属するわけではないことは、明らかである。

3.1.3 五臣音注と《音決》音注

五臣注と《音決》に共通する音注は 1000 個あり、そのうち、一致する音注は 348 個あり、一致率は三分の一にのぼった。しかし、両者を比べると、五臣音注は《音決》とは区別していることが分かる。

まず、《文選集注》には、李善注、《鈔》、《音決》、五臣注、陸善經注の順でこれら唐代の諸注が当該正文の下に集められた。そのうち、五臣音注が《音決》の直後に記入され、《音決》が音注を付けないところを補注したり、《音決》と異なる音注を示したりしている。《文選集注》は本来 120 巻よりなる旧鈔本であるが、現存するのは 24 巻にすぎない。とはいえ、残巻だけでも約 5300 個[55]の音注が保存され、《音決》の本来の音注数が膨大であることが窺える。

また、《音決》には、先達が付けた音注がたくさん収録されている。周祖謨（1966：177）は「謂之音決者，蓋采摭諸家舊音而審決之也」と述べた。つまり、この著書は、先達らの音注を集大成して音注の優劣も論断したものだというのだ。このような著作に対し、五臣音注は《音決》と異なる音注が引用され、さらに《音決》に音注がないところを補注する点に五臣音注の価値が十分に表わされている。また、五臣音注はそのまま《音決》の音注を引用していないと思われる。

次に、《音決》音注と比べると、五臣音注なりの特徴がある。例えば、

「02576 嚨，麥江/[56]武江」。《音決》では明母と微母が混同され、五臣は混同していない。比較資料とした明母字が元々少ないので、これ以上の例は取り上げない。しかし、張潔《李善音系與公孫羅音系聲母的比較》（1999：461）では“李善音系中，軽、重唇尚未完全分化，混切例為數不少。”、“《音決》中幫、滂、並與非、敷、奉已經完全分化。”、“明、微兩母尚未分化是顯而易見的。”と述べた。下記のように、五臣音注には明母と微母の混同例があるけれども、軽唇音は微母を含めて全部独立したと推測された。

「03106 嫋，寧鳥/女角又女了」。《音決》では「泥」「娘」両母が混同され、五臣は混同していない。「03258繆，力巧/女巧」、《音決》でも上の例と同様に「泥」「娘」両母が混同され、五臣は混同していないけれども、來母と混同している。張潔《<音決>聲母考》（1999：55）は明確に“《音決》中，來母獨立，不與其他聲母相混。”と評した。しかし、五臣音注の来母は泥母と混同されたほかに、崇母・匣母・澄母との混同例も見出せ、検討の価値があると思われる。

---

[55]この数字は狩野充德氏『文選音決の研究』（2000：3）による。
[56]本節においては、「/」の前は五臣音注、後ろは《音決》音注である。

「02478 崖，宜/協韻音宜」。「崖」に対し、兩書とも“宜”を直音注としたが、《音決》ではさらに「協韻」と指摘した。「02534 厲，列/協韻列」、「03213 等，都改/協韻多在”」、「03214 與，改/協韻以改”」、「03221 衍，翊戰/協韻以戰」などの例も同様である。

また、「02608 鍛，所扎/所例」の例がある。多読音字の「鍛」に対し、《音決》と五臣音注はそれぞれそのうちの 1 つの音注を付けた。「02628 掞，傷豔/豔」では、《音決》の音注は《王三》と同一であり、五臣音注は《王三》にはないが、《広韻》にはある。「03045 汨，于筆/古沒」については、実は、「于筆」の帰字は“汨”で、「故沒」の帰字は“汩”である。両字は字形が似っているため混同され、ひいては違う音注を付けられた。

以上のことから五臣音注は《音決》音注のままを引用したのではないとわかる。

3.1.4 まとめ

①五臣音注と先行音注の一致性について

前述したように、五臣音注を李善音注と比べた場合、一致率は五分の一に達し、《音決》と比較すると、三分の一にのぼった。その理由としては、五臣音注と李善音注と《音決》は、全て《文選》に対して音注をつけ、ある程度《文選》の先行音注を受継いだと思われる。筆者の整理によると、李善・《音決》・五臣で共通する音注が 166 個ある。そのうち、三書の音注が一致するものは 24 個あり、約七分の一を占める。《音決》と李善が一致するのは 46 個であり、五分の一を占めている。その一致率は五臣音注と李善音注との一致率と同様である。また、三書で共通の 166 個の音注では、五臣と李善音注とが一致するものが 46 個あり、《音決》と一致するものが 45 個ある。これを表にまとめたのが下表である。

三書共通音注	三書同注	《音決》と李善同注	五臣と李善同注	五臣と《音決》同注
166	24	46	46	45

この表からわかるように、後世の人は《文選》に音注を付ける際に、多少前人の音注を受継いだと思われる。これは五臣と先行音注だけではなく、《音決》と先行音注或いは李善音注と先行音注も同様である。この受継がれた関係とそのまま引用したものを、同列に論じるわけには行かない。

②五臣音注が先行音注より優れている点

《文選》の解読については、五臣音注のほうがより読みやすい。五臣音注は正文の下にあり、基本的には一字一音である。李善音注は注文のなかにあり、先行音注と混

在している。《音決》の音注は正文の下にあるか否かははっきり分からないが、又音が多く、どちらの音注を採用するか読者が混乱する。例えば、「瀆，普寸又扶粉」、「葅，祖又在古」、「嚼，於代反又才略反」、「噞，牛儉又牛劒」、「薾，以六又以殊」、「挈，女加又女居」、「晻，烏感又音掩」、「趠，吐角吐孝二反」、「麡，子兮又仕皆」、「觀，所蟹又所綺」など。

また、五臣は文意に合わせた音注を付けている。前述のとおり、「01593 蠱（妖蠱），也/古」に対し、「妖蠱」という意義の「也」を音注としている。

③五臣注には五臣なりの音注がある

五臣の音注には李善・《音決》と異なるだけでなく、《王三》にも収録されていないものがある。その一部は《広韻》に採用されたが、残りは《広韻》にもない。例えば「02488 梫（蘭梫，木名）」に対し、《王三》には「姉心」と「七稔」2 つの音注がある。五臣音注は「七林」であり、李善音注・《音決》音注はともに「寢」である。五臣のこの音注は李善音注・《音決》音注と異なるだけでなく、《王三》、《広韻》、《集韻》にもこの読音が収録されていない。しかし《洪武正韻》には五臣音注と同様に「梫」に「七林」の反切を付けている。ここから、五臣のこの音注は誤植ではないことが分かる。また、この反切は唐代鈔本である集注本にも保存されているため、後人が増加したものではないと判断できる。

以上のことから見ると、五臣音注は先行音注を継承しているという関係が窺えるが、そのままの引用ではない。さて、黄氏の指摘について、どう説明できるだろうか。黄氏が読んだ五臣注は六臣注本から抜き出したものである。六家注本と異なり、六臣注本は李善注が先に来て、五臣注が後ろに配置されている。言い換えれば、六臣注本は李善注を主として編集され、五臣注の内容は単注本よりも簡略である可能性が高い。さらに、経書や典故を重視する李善注と比べると、五臣注の釈義は確かに簡単すぎるので、黄氏は釈義から五臣の音注能力を疑ったことも考えられる。特筆すべきは、黄氏は五臣の音注能力に疑義を持ってはいるが、五臣注《文選》に保存される音注の品質は“殊無乖繆”と肯定した点である。

3.2 朝鮮本と陳刻本の音注問題

上述の通り、現存する五臣注単注完本は朝鮮本と陳刻本しかない。表 4 に示すように、両者はかなり異なっていて、別系統であると推測された。ここでは、その相異について詳しく説明しよう。

3.2.1 両書に共通していない音注

朝鮮本と陳刻本の相違はまず音注数の差異である。全体から見ると、朝鮮本は陳刻本より音注が 500 個以上多い。しかし、朝鮮本は陳刻本より完備しているとは言えな

い。表 4 からわかるように、30 巻の中で、朝鮮本の 575 個の音注が陳刻本にないのに対し、朝鮮本に見えない陳刻本の音注は 204 個である。これは、五臣音注の本来の音注数が現存するどの版本よりも多いと推測するもう 1 つの根拠である。

また各巻から見ると、巻によっては音注数が倍以上の差がつくこともあれば、ほぼ同じ音注数の場合もある。例えば巻 28 には朝鮮本の 69 個の音注があるのに対し、陳刻本はわずか 33 個である。一方で、巻 4 の朝鮮本の音注は 662 個、陳刻本は 663 個であり、わずか 1 個の差しかない。

表 1 からわかるように、朝鮮本と陳刻本とで共通していない音注は 7 個あり、そのうち、朝鮮本にあり陳刻本にないのは 6 個、陳刻本にあり朝鮮本にないのは 1 個、しかし、この 7 個は共に集注本に保存されている。

表 2 から見ると、朝鮮本と陳刻本が共通していない音注は 18 個あり、そのうち、朝鮮本にあり陳刻本にないのは 17 個、陳刻本にあり朝鮮本にないのは 1 個、この 18 個は共に天理本に保存されている。

表 3 からわかるように、朝鮮本にあるが陳刻本にはない音注は巻 29 に 51 個、巻 30 に 22 個ある。朝鮮本が陳刻本より多い音注は杭州本に保存されている（正文が欠けるため、音注も欠ける場合を除く）。

そのほか、30 巻を通観して朝鮮本の陳刻本より多い音注は、ほぼ明州本か奎章閣本から見出だせるが、陳刻本の朝鮮本より多い音注は常に六家注本にも持っていない。

従って、朝鮮本にあって陳刻本にない音注は本研究の有効音注として扱い、陳刻本にあって朝鮮本に無い音注は採用しない。

3.2.2 両書で相異する音注

両書は巻 20、巻 25、巻 26 の音注が完全に一致するのを除いて、残りの 27 巻ではある程度の音注の差異がある。特に巻 9 の相異音注数は多く 93 個にのぼった。

3.2.2.1 音注用字は異なるが、音韻地位は一致

被注字	朝鮮本音注	陳刻本音注	被注字	朝鮮本音注	陳刻本音注
00019 析	洗激	先激	01091 躪	力振	力震
01173 朝	陟嬌	陟昭	01241 隒	宜檢	宜險
01247 嶮	宜撿	宜檢	01265 珊	蘇干	蘇丹
01319 柝	他各	他閣	01349 眦	仕懈	仕解
01350 蠆	丑介	敕介	01527 槐	陽制	揚制
01602 媮	俞	逾	02072 晰	章烈	章列
02153 虡	巨	奇舉	02159葷	仕佳	士佳

02277 巘	魚免	魚勉	02300 媛	袁	爰
02350鵝	苦札	苦扎	02351 鶺	雅札	雅扎
02437 鷺	烏奚	烏兮	03025 嶸	烏鼎	烏頂
03026 溟	莫鼎	莫頂	03038 崟	魚金	魚今
03138 菌	巨筠	巨鈞	03153 飃	留	力由
03156 狶	夷又	余救	03161 梟	結堯	古堯
03178 蓊	烏董	烏孔	03265 霖	木	沐
03333狿	庭	廷	03280 駈	許聿	許律
03342 狶	虚己	虚巳	03369鷽	扶沸	夫沸
03453 陂	秘	祕	03466 阨	烏介	烏界
03470 确	苦角	苦学	03504 毖	秘	祕
03553 蒻	弱	若	04008 轔	梨忍	犁忍
04100 彋	横	撗	04165 硺	火横	火撗
04248 鴱	俊	駿	04661 蠵	以彌	悅吹
05183 噤	渠蔭	巨蔭	05214 蕞	藏外	從外
06463 舳	直流	直由	06473 鰻	祖洪	子洪
06515 蹀	牒	揲	06529 熲	古迥	公冷
07090 鷄	袁	爰	07120 拾[57]	渠業	巨業
08035 瀣	胡介	胡戒	08038 邛	五岡	五剛
08196 萎	綏	雖	08270 忱	市林	市今
08303 齎	子兮	子奚	08305 怳	兄往	況往
09009 繳	諸略	之略	09012 岨	仕舉	仕呂
09029 瀏	溜	留	09034 譎	古穴	決
09048 縟	蓐	辱	09106 吻	無粉	文粉
09107 吮	辭兖	詞兖	09126 鍖	勑錦	丑錦
09127 鉦	昵凛	尼凛	09131 含	乎暗	去
09137 瀣	胡界	胡介	09167 跂	祇	岐
09186 躋	祖雞	祖奚	09194 捎	所学	所角
09224 婥	齒藥	昌灼	09226 喟	丘謂	丘胃
09235 漼	七罪	此罪	09257 湑	思與	司呂
09258 覈	胡隔	胡革	09269 刖	五割	五曷
09271 頵	丘隕	丘溳	09281 壑	呼各	呼閣

57 「柆」であると思われる。

09288 窆	安都	安乎	09289 洝	遏	采曷
09299 碓	丁迴	丁回	09300 瀺	仕感	士感
09305 濞	普秘	普祕	09309 渴	乎角	呼角
09313 演	以緬	以淺	09321 鳴	命	去
09324 譟	蘇告	先告	09341 陘	形	刑
09349 鍿	蘇董	思董	09350 硐	徒董	徒董
09375 瞋	勑隣	丑隣	09392 降	夏江	下降
09415 拏	女家	女加	09420 簉	楚救	初救
09431 犛	梨	梨	09436 箾	簫	蕭
09441 鱣	似深	似林	09444 聑	丁挾	丁叶
09446 眙	勑吏	丑吏	09457 笮	鑿	昨
09494 遻	諤	五各	09496 怫	扶未	扶味
09505 驅	丘遇	丘驅	09513 縿	所令	所金
09593 嘲	胡	乎	09610 爚	藥	以若
09617 憀	留	流	09632 礰	勞	牢
10026 沫	末	沫[58]	10080 嗷	敖	五高
10180 斡	烏括	烏活	10273 巵	之	芝
11045 稗	支卦	皮卦	13054 恌	挑	祧
14029 掇	丁括	丁栝	14054 鎌	廉	立廉
15041 悰	琮	悰	15063 阽	鹽	余廉
16039 鷁	俄亦	我亦	16083 嬃	須	音湏
16107 絏	息列	息烈	17191 酎	直宥	直又
17200 比	頻二	類二	17201 鏗	古耕	苦耕
17325 窘	寄殞	寄隕	17353 頽	晦	悔
17392 蜎	於緣	一緣	21005 刎	亡粉	云粉
21006 見	何見	何甸	21054 睚	魚懈	魚解
21076 繆	蜜救	密救	21097 縞	古考	古老
21106 睢	息惟	息推	21137 璠	附番	附蕃
21165 嫫	摸	模	22030 僰	蒲北	蒲北
22054 屈	堀	掘	23158 緌	而惟	而帷
29059 輴	丑輪	丑倫			

上の表からわかるように、朝鮮本と陳刻本の音注用字は異なるが、音注地位が一致

[58] 陳刻本の音注は被注字と同じであり、誤りと思われる。

する例は全 138 個あり、両書で相異する音注の大部分を占めている。そのほか、また下の例がある。

被注字	朝鮮本音注	陳刻本音注	被注字	朝鮮本音注	陳刻本音注
09354 調	徒弔	去聲	09419 投	徒鬬	去
09509 委	威	平	09525 料	聊	平
09592 鳴	命	去	10201 屏	上	必頃
12007 患	音還協韻	平協韻	12070 予	與協韻	上協韻
13061 司	伺	去	17326 幾	平	巨機
21142 論	力頓	去			

上表に示す例は朝鮮本と陳刻本の音注方法が異なっている。1 つは反切か直音注を使い、もう 1 つは声調注のみをつけている。しかし、音韻地位から見ると、矛盾しないため、この 11 例も「音注用字は異なるが、音韻地位は一致」の種類に分類した。

これらの音注は本研究の有効音注とした。

注目すべきは、音韻地位は一致しても、用字には大きな違いがあるため、現存するこの 2 種の単注完本は由来が違うことが分かる。

3.2.2.2 音注用字は異なり、音韻地位も相異

①正文は相違があり、音注も異なっている。わずかに下の 1 例しかない。

“長懷永慕，憂心如酲／[59]醒。”（巻 10 曹子建《應詔詩》）

「酲」に対して朝鮮本は“呈”を直音注としたが、陳刻本は“酲”ではなく“醒”を被注字とし、これに“星”という直音注を付けた。ほかの版本は朝鮮本と一致しているため、この音注は本研究の有効音注とした。

②音注用字の誤脱か誤衍。

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
02432 揭	丘竭	竭	丘竭	丘竭
05125 幎	覓	貫覓	覓	覓
19037 輶	由	由柳	由	由
21002 毳	川芮	川	川芮	川芮
24050 厭	一琰	琰	一琰	一琰

上表の 6 つの相異例は陳刻本が誤ったと推測される。注目すべきはこの場合に六家

[59] 本節においては「／」の前は朝鮮本、後ろは陳刻本である。

注本は朝鮮本と一致し、その推測の 1 つの根拠になっている。この 6 例を音韻研究の有効音注として扱う。

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
02473 濆	刎	扶刎	扶刎	扶刎
03408 罩	陟	陟教	陟教	陟教
06227滂	徒	徒我	徒我	徒我
08006 姱	苦	苦瓜	苦瓜	苦瓜
09552 厭	頰	於頰	於頰	頰
09594 嘽	昌	昌善	昌善	昌
10270 嶔	金	欽	欽	欽

この表に示す 7 例は朝鮮本が誤ったと推測される。この場合に、六家注本はほぼ陳刻本と一致し、その推測の 1 つの根拠になっている。しかし、「09552 厭」と「09594 嘽」の例から見られるように、奎章閣本は朝鮮本と一致するに対し、明州本は陳刻本と一致している。

この 7 例はほかの版本により、訂正して本研究の有効音注として使用する。

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
02065 質	徵利	徵利反協韻	徵利	徵利
03016 乘	叶韻音承	音承	×	×
11011 震	平聲協韻	平	平聲協韻	平聲協韻
13012 叟	平協韻	平	平協韻	平
17044 予	上聲	上聲叶韻	上聲	上聲
23057 阺	氏	征氏	征氏	氏
24098 来	去聲協韻	去聲	去聲協韻	去聲協韻

この 7 つの相異例はどちらが正しいのかはっきり言えない。しかし、本研究の底本とする朝鮮本の音注はほかの版本から依拠があれば、有効音注とする。

③反切上字と下字あるいは反切と帰字の位置の間違い。例えば、

“掩以綠蕙，被以江離，糅以蘼蕪，雜以流夷”（巻 4《上林賦》）

例文にある「糅」に対して朝鮮本は「女又」の反切をつけているが、陳刻本には「糅」に音注がなく、「糅」の直後に来る「以」に「女又」の反切をつけている。陳刻本は明らかに誤りである。

また下の例がある。

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
02348 鴇	音保	保音	音保	音保
04381 糅	女又	又女	女又	女又
21036 嚮	許亮	亮許	許亮	許亮
22052 鷇	口角	角口	口角	口角

この 4 例は朝鮮本の音注は正しいと思われ、そのまま本研究に用いられる。

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
04571 沆	朗胡	胡朗	胡朗	胡朗
09339 縷	矩力	力矩	力矩	力矩

この 2 例は陳刻本の方が正しいと判断されるので、朝鮮本の音注を訂正したうえ使用する。

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
08128 肜	融音	音容	融音	音融

この例の正誤を判断することは難しいが、朝鮮本が六家注本と一致しているため、そのまま採用する。

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
02424 欷	虛毅	於虛	虛毅	虛毅

この相異例は陳刻本が反切上字と下字の位置を取り違えたものと思われる。

④字形の混同によるで音注の相違

五代以前には、木版印刷技術は殆ど使われず、書籍で手書きにより伝えてきたため、字形を間違いやすい。朝鮮本、陳刻本は刊行本であったけれども、底本にする原本は人の手で引き写したので、字形混同や誤字は少なくない。両書を通観すると、汗江、文丈、苦若、末未、宮官、支攴、七士、久女、士上、千子、于干、古占、士土亡、己已巳のような筆画のニュアンスで別字になる例がある。弋戈、史吏、烏鳥、旱早、夫失、又叉、王主、九尤、札扎、朱失、草莫、大太犬のような一筆の有無で異なる例もある。損捐、粟栗、童重、蔡葵、亘且、畢芈のような字形が近似したため混同した例

もある。また志悉、聿韋、昔盲、光先、供洪、須須、放於、沒役の例があったが、恐らく字体の相違で誤ったと思われる。具体的な例は下の表に示すとおりである。

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
01210 崒	情聿	情韋	情聿	情律
01237 碣	昔	盲	昔	昔
01275 墻	徒結	徒治	徒結	徒結
01314 閈	汗	吁	汗	汗
01510 擺	披	扱	披	披
01517敔	支	攴	攴	支
01549 麑[60]	迷	述	迷	迷
01599 纚	史	吏	史	史
01601 鬢	軫	修	軫	軫
02049 菼	土敢	士敢	土敢	土敢
02115 迆	弋止	戈止	弋止	弋止
02220 起	七木	之木	七木	七木
02228 槎	仕假	仙假	仕假	仕假
02488 梫	七林	士林	七林	七林
02449 兒	倪	兒	倪	倪
02518 蕃	伐元	代元	伐元	伐元
02551 吭	胡浪	胡滉	胡浪	胡浪
02569 貿	莫搆	莫溝	莫構	莫搆
03007 侚	辭俊	亂俊	辭俊	辭俊
03029 泮	普半	音半	普半	並半
03072 噞	牛撿	牛劒	牛檢	牛撿
03087 鷁	五激	王激	五激	五激
03114 曄	于輒	干輒	于輒	于輒
03118 茅	莫侯	草侯	莫侯	莫侯
03226 譎	決	訐	決	決
03227 崎	巨依	呂依	巨依	巨依
03246 賈	古	且	古	古
03256 譪	除立	徐立	除立	除立
03348 著	池略	他略	池略	池略

60 実際は「麛」であると思う。

03377 跋	蒲北	蒲比	蒲北	蒲北
03382麛	須	須	須	須
03520 枌	扶文	扶丈	扶文	扶文
03679 映	烏朗	烏明	烏朗	烏朗
03708 靦	土典	士典	士典	土典
04010蓴	兹損	兹捐	兹損	兹損
04015 昕	胡剛反	胡剛皮	胡剛	胡剛
04042 壇	徒汗	徒江	徒汗	徒汗
04043 茇	步末	步未	步末	步末
04068 炘	忻	折	忻	忻
04084崔	摧	擢	摧	摧
04153 鎗	叉行	又行	叉行	叉行
04179 祧	土堯	士堯	士堯	士堯
04242 呷	呼甲	咛甲	呼甲	呼甲
04326 鰨	奴榻反	奴榻皮	奴榻反	奴榻反
04392 延	弋戰	式戰	弋戰	弋戰
04409 橐	土各	士各	土各	土各
04417 窆	一弔	一弟	一弔	一弔
04465 纚	史是	吏是	史是	史是
04558 錯	七故	士故	七故	七故
04563 翃	薰宇	董宇	薰宇	薰宇
04598 蹂	汝久	汝女	汝久	汝久
04612 踔	丑孝	四孝	丑孝	丑孝
04629 抶	恥栗	恥粟	恥栗	恥栗
04631 羂	工犬	工大	工犬	工犬
05015 窳	庾	度	庾	庾
05026 眦	助懈	即懈	助懈	助懈
05054 掉	田曜	田躍	田曜	田曜
05095 餮	吐切	吐忉	吐切	吐切
05108淰	朱冉	失冉	朱冉	朱冉
05149 漼	千碎	干碎	千碎	千碎
05177 傕	苦角	若角	苦角	苦角
05179 撮	倉括	倉怙	倉括	倉括
05184 拓	土洛	士洛	土洛	士洛

05204 慝	士得	士得	士得	士得
05210 罥	古犬	右犬	古犬	古犬
05262 頏	胡岡	胡罔	胡岡	胡岡
05282 欲	音喻協韻	音喻斗韻	音喻協韻	音喻協韻
05291 狁	允	充	×	允
06028 眙	丑吏	五吏	丑吏	丑吏
06040 嶒	士耕	七耕	七耕	士耕
06057 窊	立巢	音巢	立巢	立巢
06232 嶄	士咸	上咸	士咸	士咸
06256 彯	匹遙	匹滔	匹遙	匹遙
06265沛	土含	士含	土含	土含
06286 澎	匹宏	四宏	匹宏	匹宏
06295 囧	九永	尤水	九永	九永
06310 汩	于筆	干筆	干筆	于筆
06331 烱	古永	占求	古永	古永
06419 確	苦角	若角	苦角	苦角
06458 鮪	于軌	干軌	于軌	于軌
06462 鱳	特登	待登	特登	特登
06552 薈	烏外	鳥外	烏外	烏外
06601颯	于鬼	干鬼	于鬼	于鬼
07071 蔕	丑介	尹介	丑介	丑介
07109 駔	子朗	子郎	子朗	子朗
08182 啾	子流	干流	子流	子流
08239 莅	昌待	昌侍	昌待	昌待
09118 軼	逸	迭	迭	逸
09140 拔	蒲末	蒲未	蒲末	蒲末
09176 蕾	莫亘	莫且	莫亘	莫亘
09238 弛[61]	武氏	或氏	武氏	武氏
09311 噴	普悶	普閟	普悶	普悶
09318 麚	加	如	加	加
09367 峇	苦合	若合	苦合	苦合
10033 喙	許穢	許檅	許穢	許穢

[61] 「弛」は恐らく被注字ではなく、また検討する必要がある。

10071 莘	所巾	所中	所巾	所巾
10131 蘅	胡庚	胡庾	胡庚	胡庚
10308 推	土雷	士雷	土雷	土雷
10313 焚	音煩協韻	音燒叶韵	音煩協韻	音煩協韻
11034 橈	饒	撓	饒	饒
13062 幰	許偃	詼偃	許偃	許偃
14005 囿	于目	子目	于目	于目
14019 濺	牋	淺	牋	牋
14053 澎	波尤	波尨	皮尤	波尤
14059 菵	罔	冈	罔	罔
16092 阽	簷	瞻	簷	簷
16093 枘	而鋭	而銘	而鋭	而鋭
16095 欷	許毅	許投	許毅	許毅
16104 御	迓	遊	迓	迓
16106 闐	力宕	力岩	力宕	力宕
16135 軑	大	犬	大	太
17039 擗	普覓	普寬	普覓	普覓
17328 粹	荀翠	苟翠	荀翠	荀翠
17371 滂	普忙	普汒	普忙	普忙
17462 熠	以入	及入	以入	以入
17468 弛	尸氏	口氏	尸氏	戶氏
18128 圯	與之	勺之	與之	與之
21030 上	市丈	市文	市丈	市丈
21034 詬	火搆	火褥	火搆	火冓
21048 冒	亡北	亡比	亡北	亡北
22027 偬	揔	惣	惣	揔
22067 鴆	決	抉	決	決
23004 琦	巨宜	臣宜	巨宜	巨宜
23050 折	支列	攴列	支列	支列
23149 逖	土力	士力	士力	土力
23162 褊	卑緬	早緬	早緬	卑緬
23178 諜	徒協	待協	待協	徒協
30059 汙	烏	焉	烏	烏

以上の例は朝鮮本の方が正しいと判断されるので、そのまま本研究の有効音注とする。

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
01196 胥	志與	悉與	悉與	志與
01397 泱	鳥黨	烏黨	鳥黨	烏黨
01500 擭	鳥獲	烏獲	烏獲	烏獲
02048 澹	徥敢	徒敢	徒敢	徒敢
02071 霓	王結	五結	五結	五結
02237 栽	栽	哉	木為土	木為土
02544 攢	在宮	在官	在官	任官
03028 洫	供	洪	洪	洪
03108 坱	烏朗	烏郎	烏朗	烏郎
03220覼	史	吏	史	史
03674 鴝	鴝	劬	劬	劬
03712憱	士典	土典	土典	土典
04005 抶	丑粟	丑栗	丑栗	丑栗
04066 嵌	若咸	苦咸	苦咸	苦咸
04437 橪	而間	而闡	而闡	而闡
06204 僻	甿亦	毗亦	甿亦	甿亦
06215 臬	五結	五結	五結	五結
06228 迆	戈爾	弋尔	戈爾	弋爾
06536 瀑	蒲末	蒲木	蒲末	蒲末
07033 蒻	君	若	若	若
07060 閼	鳥葛	烏葛	烏葛	烏葛
08008 遝	梧	悟	悟	悟
08093 婧	才妊	才姓	才姓	才姓又音精
08143 汩	干筆	于筆	于筆	于筆
09011 妥	士果	土果	土果	土果
09049 杼	除思	除慮	除思	除思
09405 縕	放文	於文	於文	於文
09539 欽	況干	況于	況于	況于
10057 隤	徒同	徒回	徒回	徒回
10225 系	兮討	兮計	兮計	兮計

11050 籜	士各	土各	土各	士各
14011 茨	池敢	他敢	他敢	他敢
17121 侄	立王	丘王	丘王	立王
17233 硱	欺水	欺冰	欺冰	欺氷
17349 澡	旱	早	早	早
17430 榛	七臻	士臻	七臻	七臻
21007 足	郎喻	即喻	即喻	即喻
21019 剄	古今	古令	古令	古令
21063 上	市也	市丈	市丈	市丈
21152 莅	昌侍	昌待	昌待	○
23020 咋	士白	士白	士白	士白
23044 蝘	鳥典	烏典	烏典	烏典
23133 緹	徒分	徒兮	徒兮	徒兮
23141 窅	鳥鳥	烏鳥	烏鳥	烏鳥
23176 鬨	鈌	缺	缺	缺
25027 閈	朝旦	胡旦	朝旦	朝旦
28027 嚭	浦凡	浦几	浦几	補几
24092 祓	夫勿	失勿	夫勿	夫勿
24125 宛	冕	冤	冤[62]	冕
28052 僰	蒲比	蒲北	蒲比	蒲比
29025 鬫	呼擽	呼檻	呼檻	呼檻
30008 奐	燠	煥	煥	煥

以上の例は陳刻本の方が正しいと思われるため、朝鮮本の音注を訂正したうえで使用する。

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
01404 鮦	童	重	童	童
01590 絓	卦	畎	卦	卦
02034 參	所今	跡今	所今	所今
02105 鋄	亡犯	亡檢	亡犯	亡犯
02184 獝	蔡筆	葵筆	葵筆	葵筆

62　はっきりしていない。

03544 踶	低	亭低	低	低
03660 𢥞	祈	祁	祈	祈
04239 袘	以示	以子	以示	以示
05113 脥	許劫	許協	許劫	許劫
05228 蒟	矩	炬	矩	矩
05251 怼	太	大	大	太
08289 瞀	莫侯	莫候	莫侯	莫侯
16133 麇	麏	麋	麋	麏
20084 泜	祗	祇	祇[63]	祗
21053 暴	蒲沃	蒲伏	蒲沃	蒲沃
28068 劭	音韶協韻	音詔協韻	音韶協韻	音韶協韻

以上の例の正誤については簡単に判断できず、朝鮮本の音注は六家注本と一致しているため、そのままを採用する。

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
02055 蜿	纤元	于元	紆元	紆元
02254 螗	太朗	大郎	大朗	大朗
10069 卒	揩骨	惜骨	措骨	措骨

この 3 つの音注は朝鮮本と陳刻本にともに問題があり、六家本により訂正して本研究の有効音注とする。

上の数表からわかるように、これらの相異例はほぼ字形の相違であり、ほかの版本との比較か同形同義字の重複音注から校正でき、真の相違とは言えない。しかし、朝鮮本と陳刻本の片方､あるいは朝鮮本と陳刻本の双方に誤りがある例も見られるため、ほかの版本と比較せずに単一の版本のみを使用して音韻研究をすると、誤った結論を導き出すおそれがある。

また、これらの相違例は唐五代の写本によく現れる誤字例を殆ど含んでいるので、字形研究、書籍の校勘などの参考にもなるだろう。

⑤偏旁の有無で異なる音注。一種は字形は相違するが読音は一致するもの。例えば、前述の懈解、烈列、蓐辱、各閣、未味などがある。もう一種は字形と読音が共に異なるもの。それは以下の通りである。

63　はっきりしていない。

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
01009 睋	俄	我	俄	俄
01301 冪	五告	五結	五告	五告
01335 綈	啼	帝	啼	啼
01340 裨	必彌	必尔	必彌	必彌
01558 取	蒼苟	蒼句	蒼苟	蒼苟
01588 侲	振	辰	振	振
02543 蓋	吁	于	吁	吁
02573 番	藩	潘	潘	潘
03164 貐	翼俱	羊具	翼俱	翼俱
03251 珴	邃	遂	邃	邃
03458 喑	廕	陰	廕	廕
03628 糅	汝又	女又	汝又	汝又
04512 夐	呼併	呼并	呼併	呼併
05237 嶙	力忍	力刃	力忍	力忍
06043 汩	于筆	于聿	于筆	手筆
06172 悍	汗	干	汗	汗
06233 渫	息列	息例	息列	息列
06370 屹	魚乙	魚乞	魚乙	魚乙
06387 潏	胡決	胡夬	胡決	胡決
08258 漸	子兼	子廉	子兼	子兼
09133 达	他淚	他戾	他戾	他戾
09304 澎	普萌	普明	普萌	普萌
09399 懟	墜	隊	墜	墜
09533 憯	七炎	七琰	七琰	七琰
09573 淢	洫	血	沂	洫
10042 澹	徒濫	徒監	徒濫	徒濫
10278 睟	邃	遂	邃	邃
11067 鑣	皮苗	彼苗	皮苗	皮苗
17105 憺	徒濫	徒監	徒濫	徒濫
17114 彷	無罔	撫罔	無罔	無罔
19021 撓	女教	奴教	女教	女教
21065 榜	薄行	溥行	薄行	薄行

22004 把	蒲苞	蒲巴	蒲苞	蒲苞
22035 贅	職汭	職内	職汭	職汭
23074 眥	濟細	齊細	齊細	齊細
23175 弇	奄	菴	菴	奄
24079 闔	苦改	古改	苦改	苦改
27040 衂	奴六	女六	奴六	奴六

これらの例の正誤は簡単に判断できない。朝鮮本の音注は依拠があれば採用し、なければ、採用しない。

⑥両読音字は陳刻本と朝鮮本がそれぞれ 1 つの読音を付けている。

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
01457 觱	于筆	筆	于筆	筆
05126 見	相練	胡練	胡練	相練

上表のような両読音字に対する朝鮮本の音注は明州本か奎章閣本に依拠があるため、そのまま採用する。

⑦その他

被注字	朝鮮本	陳刻本	明州本	奎章閣本
01097 掎	己	几	己	己
01116 獲	于卦	于怪	于卦	于卦
01149 震	真	振	真	真
01318 邐	力式	力氏	×	×
01486 髴	費	沸	費	費
03001 鞨	勑謹	勑忍	勑謹	勑謹
03020 婺	務	慕	務	務
03120 夤	寅	緣	寅	寅
03206 詭	鬼	過委	鬼	鬼
03551 贙	胡犬	胡管	胡犬	胡犬
03707瞝	天力	天歴	天力	天力
04376 陂	彼爲	皮	彼爲	彼爲
04379 沇	允	以水	允	允
05011 拕	他	徒可	他	他
06015 撲	卜	普	卜	卜

06091 搏	分務	分故	分故	分務
06324 飄	虛豈	虛氣	虛豈	虛豈
06396 澴	許玄	許緣	許玄	許玄
06406 潰	胡罪	徒罪	胡罪	胡罪
06438 浡	蒲足	蒲沒	蒲足	蒲沒
06450 豃	呼減	呼敢	呼減	呼減
07076 壎	喧	宣	喧	喧
08136 硠	郎	滂	郎	郎
08155 輈	張充	張流	張流	張流
09024 僶	泯	緬	泯	泯
09134 澎	普萌	普宏	普宏	普萌
09212 娟	伊緣	伊玄	伊玄	伊緣
09286 巖	苦咸	苦嚴	苦咸	苦咸
09317 頷	胡敢	胡感	胡敢	胡敢
09327 錚	士耕	士生	士耕	士耕
09355 掌	吐耕	丑耕	吐耕	吐耕
09358 啐	慈沒	慈役	慈沒	慈沒
09374 矕	莫干	莫官	莫千	莫千
09386 藎	辭胤	慈信	辭胤	辭胤
09515 猗	衣	於宜	衣	衣
09547 篠	小	蘇了	小	小
09550 簳	幹	翰	幹	幹
09564慣	位	胃	位	胃
09584攤	捻	撿	捻	捻
09601 喈	竹戛	竹憂	竹戛	竹戛
09631 磕	苦代	苦害	苦代	苦代
10048 裹	去	上	去	去
10111 覆	副	別	副	副
10254 祜	古	戶	戶	戶
11082 瘁	崒	悴	悴	悴
12062 禪	平	去	去	去
12073 筈	音括	苦括	音括	音括
13076 圻	祈	新	祈	祈

17046 彗	囚星	四歳	囚星	囚歳
17089 栫	弋例	而世	弋例	弋例
17265 度	其	去	去	去
17447 弛	矢	豕	矢	矢
18137 鍰	環	袁	環	環
20057 鬮	土合	士合	土合	土合
21122 濼	十交反又子小[64]	士交	十交反又子小	十交反又子小
27093 貉	鶴	用	鶴	鶴
29089 幾	居依	巨依	居依	居依

これらの音注については、朝鮮本と陳刻本のどちらが正しいかの判断は困難である。原則として、朝鮮本の音注はいずれかの版本に依拠があれば、採用し、なければ、採用しない。

3.3「叶韻」音および韻書にない被注字と又音

3.3.1「叶韻」音

五臣音注には「叶韻」音が 74 個ある。下の通り。

被注字	朝鮮本音注	陳刻本音注	被注字	朝鮮本音注	陳刻本音注
01256 居	音據叶韻	○	02013 塗	音度叶韻	○
02060 能	奴來反協韻	○	02134 畛	音真叶韻	○
02164 慾	音喻叶韻	○	02166 偷	以朱反叶韻	○
02180 臬	音刈叶韻	○	02206 摹	莫補叶韻	○
02225 塗	音度叶韻	○	02232 替	音鐵叶韻	○
02238 裁	去聲叶韻	○	02271 霓	五結反叶韻	○
02563 駟	音悉協韻	○	03535 萋	此禮叶韻	○
03567 翳	音咽叶韻	○	03618 裔	入聲叶韻	○
05020 汗	音寒協韻	○	05075 能	音耐協韻	○
05133 舉	音擄協韻	○	05180 替	音鐵叶韻	○
05245 贖	時喻反協韻	○	05261 西	音先叶韻	○
05282 欲	音喻協韻	音喻斗韻	06202 敏	音美叶韻	○
06609 溟	覓冷反叶韻	○	07068 喪	平聲叶韻	○

[64] 朝鮮本には唯一の又音である。

07098 陳	去聲叶韻	○	07100 舉	去聲叶韻	○
07101 膢	音汗叶韻	○	08012 信	音申協韻	○
08023 伉	音康叶韻	○	08052 予	音與協韻	音與叶韻
08060 哲	音制協韻	○	08075 糾	平聲協韻	平聲叶韻
08106 途	音度協韻	○	08251 喪	平聲協韻	○
08253 半	平聲協韻	○	08254 嘆	平聲協韻	○
08266 植	直利反協韻	○	09053 偉	于貴反協韻	○
09074 勠	音留協韻	○	09245 蜺	五結反叶韻	○
09263 谿	去夷反協韻	○	09483 西	音先叶韻	○
10212 沫	昧叶韻	○	10241 訟	音松叶韻	○
10266 失	音試協韻	○	10300 縣	如字協韻	○
11020 搶	七將協韻	○	13004 橙	音澄協韻	○
13051 紹	平協韻	○	14023 馗	音仇協韻	○
14037 西	音先協韻	○	14044 患	平協韻	○
15015 瀾	去協韻	○	16027 西	音先叶韻	○
16035 昧	末叶韻	○	17030 張	去聲叶韻	○
17051 蔓	莫盤反叶韻	○	17471 蜺	去聲叶韻	○
23096 耔	音兹協韻	○	24019 震	音真協韻	×
24021 鉉	音玄協韻	×	24043 謀	去聲協韻	×
24059 過	平聲協韻	○	28064 闥	音太協韻	○
29028 霜	去聲協韻	○	29080 高	音告協韻	○
29084 令	平聲協韻	○	29098 逝	成列反協韻	○
30006 枻	翊洩反協韻	○	30075 葬	平聲協韻	×
30084 楊	音盈協韻	○	02301 蓑	素回反叶韻	○

「叶韻」音の問題は重要であり、文章の押韻とも深く関連している。本論文は主に五臣音注の音韻体系を整理するため、「叶韻」音の問題に関しては別稿で論じる予定である。

3.3.2 韻書にない被注字と又音

五臣音注には韻書に載っていない被注字が 254 個あり、下の表に示している。

被注字	朝鮮本音注	陳刻本音注	被注字	朝鮮本音注	陳刻本音注
03308 翋	力荅	○	01363 厓	知栗	○
01380 櫹	蕭	○	01450 蹍	女展	○

01487 猬	胃	○	01553 浑	牢	○
01572 磕	康艾	○	02073 軯	普萌	○
02074 磕	苦代	○	02150 禘	亭細	○
02252 嶱	苦葛	○	02255 嶙	莽	○
02256 嶚	遼	○	02259（山客）	額	○
02327 鱣	張連	○	02351 鶺	雅札	雅扎
02405幏	溝	○	02407 擫	奴牒	○
02471滆	胡角	○	02489 櫹	蕭	○
02492 梛	邪	○	02526 滮	皮尤	○
02623 肣	喜筆	○	03027 岪	音拂	○
03035 滮	皮流	○	03036 涆	古汗	○
03044 磕	苦代	○	03080 鶒	勑	○
03081 鷛	庸	○	03143 霮	徒感	○
03147 哱	蒲對	○	03276 胱	呼光	○
03280 駥	許聿	許律	03291 袀	翊遵	○
03311罝	浪	○	03334 嶚	奈	○
03366 刦	劫	○	03376 踢	唐	○
03377 跋	蒲北	蒲比	03416 偌	隕	○
03429 蝐	昧	○	03499磭	五各	○
03500 涆	翰	○	03508 糙	苦広	○
03523 滮	被尤	○	03524 抰	烏浪	○
03527 黤	徒對	○	03528陏	述尹	○
03562 墱	丁鄧	○	04013 偨	初蟻	○
04015 昕	胡剛反	胡剛皮	04030 馭	普萌	○
04098 馭	普萌	○	04118 漎	聳	○
04124 矚	盧	○	04126 熿	晃	○
04134 磕	苦蓋	○	04140 巆	營	○
04162 喈	知扎	○	04167 磕	苦蓋反	○
04190 陁	駞	○	04200 陁	羊爾	○
04234 謳	音屈	○	04240 襆	思兼	○
04256 磕	苦蓋反	○	04305 磕	苦蓋	○
04311 濦	于急	○	04321 鰫	時容	○
04335 澔	浩	○	04355 陁	遲	○
04359 崣	委	○	04364 閉	呼下	○

04375 陁	以爾	○	04377 貏	被	○
04479 蠝	壘	○	04591 漎	聳	○
04602 駍	普萌	○	04604 礛	苦蓋反	○
04610 岠	巨	○	04633 駍	普萌	○
04638 獡	煩妙	○	04658 礛	苦蓋	○
05032 熐	覓	○	05096 懩	音養	○
05104 撌	尸豔	○	05108淰	朱冉	失冉
05116 鷺	音脉	○	05122 剭	力結	○
05123 閭	勑廉	○	05124 蠲	吉玄	○
05127 轋	竹二	○	05235 岥	波	○
05236 峗	大河	○	05241 穽	慈性	○
05251 怷	太	音大	06033 嵒	枯罪	○
06034 纛	盧罪	○	06041 岤	宏	○
06046 澔	浩	○	06047 涆	汗	○
06051 烻	弋戰	○	06055 霐	烏宏	○
06059 熀	吁往	○	06075 岶	音迢	○
06077 峴	五結	○	06119 猥	息眉	○
06120盳	呼決	○	06142 崰	淄	○
06149 霮	徒感	○	06170 嶪	業	○
06210 岶	徒聊	○	06231嶺	五格	○
06265 **渧**	土含	士含	06273 匒	荅	○
06279 澦	頂	○	06288礹	烏埋	○
06303 霺	叔	○	06311 跐	勑甚	○
06325 峌	庭結	○	06326 峴	五結	○
06329 熺	許眉	○	06332 燹	焰	○
06333 瞜	一眇	○	06348 襂	所今反	○
06356 崍	来	○	06380 澩	薄萌	○
06382瀗	火宏	○	06398 潛	營	○
06428 **剃**	鄰	○	06429圞	彎	○
06432 灦	呼見	○	06447 溛	烏華	○
06453**唇**	苦合	○	06463 軸	直流	直由
06468 鏙	七罪	○	06480 **竈**	烏郎	○
06485 **虫不**	流	○	06504 蟞	必滅	○
06614 潀	在公	○	06616罍	雷	○

07053 嫮	户故反	○	08021 鶗	啼	○
08024 嫮	回故	○	08028 峥	仕耕反	○
08054 怬	許利	○	08078 𠑇	乞眾	○
08086 碄	力金	○	08092 嫮	回故	○
08103 軯	普萌	○	08104 𩡧	徒感	○
08148 礛	苦蓋	○	08163 眃	云	○
08167 秪	支	○	08234 蹝	所綺	○
09083 陁	以此	○	09084嶭	音靡	○
09085 礛	苦蓋	○	09089嶨	浦百	○
9090淌	陌	○	09105䎽	奴谷	○
09112啗	含	○	09113嗍	胡	○
09120嘈	吸	○	09125噂	子逸	○
09132廖	翳	○	09142 恟	域	○
09185 呟	呼縣	○	09192 挍	所卯	○
09200 熺	虛宜	○	09211 女連	連	○
09220 鶣	篇	○	09246矇	力帝	○
09247瞰	收	○	09275臠	魚飢	○
09282嶒	古外	○	09284嵋	坎	○
09288 窏	安都	安乎	09319昏	昌夷	○
09340 陁	雉	○	09364 靐	雷	○
09407 經	因	○	09445曋	丑耕	○
09549夙	力結	○	09558 攦	歷	○
09559 魻	狎	○	09584攡	捻	音撿
09628 磞	烹	○	09632礷	勞	音牢
09633 嚁	狄	○	10004躊	隊	○
10022 巆	轟	○	10023 礛	康蓋	○
10034 鱣	張連	○	10104 嫕	一計	○
10107 惓	音權	○	10116 蝺	央矩	○
10138 珶	徒帝	○	10174 睮	俞	○
10187 蔉	古本	○	11076 鶗	啼	○
14053 滮	波尤	波尨	15040 曬	力帝	○
16025 裊	奴了	○	16030 螿	將	○
16125 矱	紆縛	○	16130 樧	殺	○
16133 爢	靡	音糜	17065 葅	莊居	○

17117 蓟	朔	○	17174 陁	駞	○
17222 嗥	胡高反	○	17224 岪	佛	○
17244 漇	疏綺反	○	17250 脭	呈	○
17275㓝	丁亦反	○	17305 漃	寂	○
17337邮	思律	○	17369 濭	苦蓋	○
17383 厔	底	○	17395 憿	五到	○
17469 禱	土火	○	18009𡸁	勞	○
18010 嶆	曹	○	18044 瞛	七容反	○
18045 甐	五忽	○	18065 鐷	葉	○
18083 酟	添	○	18105 跅	拓	○
18132 甽	古犬	○	19011 冏	九永	○
20043 閬	苦覓	×	21008 秖	音支	×
21041 蘗	魚列[65]	×	22034 匄	蓋	○
22036獡	匹妙	○	23088 躆	據	○
23094 憿	五到	○	23144 蹍	女展	○
24161	莫侯	○	26019 嫫	薹	○
26027 砆	夫	×	26072 罫	古買	○
27032 囑	呼斬	○	28046 嫕	翳	○
29031㓡	靈結	○	29036 瞷	下版	○
30042繓	張呂	○	04094 吠	迭	○
04033 嵷	聳	○	02158 厞	翡	○
06264 溡	七笑	○			

これらの音注は《王三》あるいは《広韻》にないため、中古音韻地位が分かりにくく、本研究の対象から除外する。

また、本論文は主に五臣音注を《王三》の反切と比較して音韻体系を整理するが、《王三》の収録字は有限的であり、《王三》にない被注字及び又音は《広韻》の反切を使用することがある。結論に大きく影響がある場合は別途説明を加える。

3.4 五臣音注と《王三》の同出字[66]

[65] 反切上字が「角」と「魚」のどちらであるのかはっきりしない。
[66] 五臣音注には１つの文字に対し、複数以上の音注を付ける例が散見される。これらの音注には互いに一致しているものもあれば、異なるものもある。そのため、本論文では基本的に重複音注を含めて音注の出現回数を網羅的に扱っている。

本節の表は声母を縦軸に、等韻を横軸に配列し、声母は唇音・舌音・歯音・牙音・喉音の順に従い、等韻は一等韻・二等韻・三等韻・四等韻の順に配列している。論述の便宜上、42 声母、206 韻に従っている。

3.4.1 一等韻

	東一	冬	模	泰開	泰合	灰	咍	魂	痕	寒開	寒合	豪	歌開	歌合	覃	談	唐開	唐合	侯	登開	合計
幫	6		1		2	1		11				9	4				5				39
滂	2		1		12	2		5			1			1			11		1		36
並	3		0					9			13		3				19		3	6	56
明	7		7			3		7		5	4	3					16		16	8	76
端	0		2			4	1	4		8	5	1			4	3	12		2	2	48
透	1			4		4	1	2		2	1	7	1	2	2	4	4		2	3	40
定	6		7	3	1	6	11	9		5	8	7	15		22	11	4		4		119
泥	0		1				3				2	3	2		7				1		19
來	13		22	2		15	1	2		9	3	11	4	9	11	2	17		3	2	126
精	19	1	2			1	2	4			4	2					7		7	6	55
清			9			4		4			3	11	2	3	8		11	2	4	3	64
從		6	2		4	4		4		3	3	7								1	34
心	2		13				2	2		2	2	4	6	3	13	7			2		58
昌							4														4
見	1		27	2	4		9	20	2	4	15	5	2	4	3	1	15		21	2	137
溪	5	1	1			6	5	9		1		6	2	1	5	1	3	7	5		58
疑			7			5	6	7		4	3	6	4		1		6	2			51
影	8		27	7	6	4	8	6		6	5	12		1	7		10	9	2		118
曉	1		5		1	4	5	1			4		1		3			5	5		35
匣	4		29			5	2	18		19	8	10	1	5	20	2	17	10	4		154
合計	78	8	163	18	30	68	60	124	2	68	84	104	47	29	106	31	157	35	82	33	1327

上表から五臣音注では一等韻と結合する声母は幫組・端組・來組・精組（邪母を除く）・見組（羣母を除く）・影組（云母と羊母を除く）に属することがわかる。しかし、咍韻は例外であり、昌母と結合する例は 4 例あり、以下の通りである。

	《王三》	五臣		《王三》	五臣
	昌海	昌海		昌海	昌海
04197 莅	昌殆	昌待	16060 莅	昌殆	昌改
08239 莅	昌殆	昌待	21152 莅	昌殆	昌待

この例外は五臣音注だけでなく、《王三》にも見られる現象である。

3.4.2 二等韻

	江	佳開	佳合	皆開	皆合	夬開	夬合	刪開	刪合	山開	山合	肴	麻開	麻合	庚開	庚合	耕開	耕合	咸	銜	合計
幫	4	2		2					7				2		3		1				21
滂	2		2							1		2			2		10				19
並				2								15			1		1				19
明	8			3				3				1	2		8		10				35
知	5								1	1	2	4	1	1							15
徹	4					1						3	1								9
澄	6											4					2			3	15
娘	2							1				4	8		1						16
來	5									1		1					1				8
莊	5			1								4	3	4	1		2				20
初	4	1								2					1				2		10
崇	12	6		2						2		1	2		5		2		6		38
生	3	2		10				2		2		13	4		4		3			6	49
見	14	5	2	4		1		3	1			14	11	3	12	5		2	2		79
溪	5			1	1							4	1	9	3		4		1		29
疑	3	4			1							1	2		1				1		13
影	7	10	1		3	1		10				5	2	4			12	2			57
曉	1				1							10	5	2		2		10		3	34
匣	4	3	2	5	1		3		9	4	1	5	6		10	2	9	9		4	77
合計	94	33	7	30	7	3	3	19	18	13	3	91	50	23	52	9	57	23	12	16	563

二等韻と結合する声母は幫組・知組・來組・莊組（俟を除く）・見組（羣を除く）・

影組（云母と羊母を除く）である。

3.4.3 三等韻（一）

	支開	支合	脂開	脂合	祭開	祭合	真開	真合	臻	仙開	仙合	宵	侵	鹽	庚開	庚合	清開	清合	合計
幫	6		4				13			5		26		1	4		7		66
滂	5		13		1		3			8		18							48
並	10		20		1		11			4		2			7		7		62
明	7		4				18			8		4			1				42
知			7			1	2	1		6	1	1	4				1		24
徹	9		1		4		4	4		1	3	1	4	1			4		36
澄	14		14	11						3	1	3	6				1		53
娘	5		1				1												7
來	19	2		3	2		26	3		8	9	1	5	8					86
精	5	2	4	1			1	3		2	3	6	11	9			8		55
清	2		2			2		2			7	4	5				3		27
從	2			4				4			1	5	1	1			2		20
心	8	1		11		2	5	13		17		3		4			7		71
邪			1	3		1	1	1			6		7				1		21
莊									3		1		5						9
初	1	4					2						7						14
崇									5	2			3						10
生	9			7					4				9						29
章	11	5	9		1	3	20	3		10	1		5	14			18		100
昌			2		2			2		6	4			3			2		21
常	1		2		5		1	1		11	1		2	2					26
書	9					8	2	2		4				9			3		37
日	1	1	1	4		4	8			1	7	4	9	2					42
見	5	8	3	2		1		3		7	3	5	4		4	3		1	49
溪	4	2		2			2	3		8		7	6		2				36
羣	9	1	7	6			3	4		15	12	1	2	4	2			3	69
疑	20	1					14			10			11	6					62
影	14	14	3				14	1		2	8	5	7	11			1		80

曉	7	5	2	3			4			1	7	7	10	3				1	50
匣																1			1
云		1		7		5	19	3			3			7		4			49
羊	11	3	2	3	15	2	15	12		17	5	14	2	13			25		139
合計	194	50	102	67	31	29	189	65	12	156	83	117	125	98	20	8	90	5	1441

上表の支・脂・祭・真・仙・宵・侵・鹽の 8 韻はいわゆる「重紐」韻であり、臻韻と真韻開口を一類とし、庚韻と清韻を重紐韻と見做すこともあるため、この 3 韻も上表に示した。

上表の三等韻は非組・端組・莊組の俟母・影組の匣母を除く各組の声母と結合している。

3.4.4 三等韻（二）

	東三	鍾	之	魚	虞	麻三	陽開	陽合	尤	幽	蒸開	蒸合	合計
幫											1		1
滂											1		1
並											2		2
明	2								4	1			7
非	7				5			3	2				17
敷	3	3			9				1				16
奉	3				10			3	11				27
微					16			7					23
知	1		3	2			12		6				24
徹	5	3	5		5				1		2		21
澄	3	7	2	6			4		19		3		44
娘	6	3		1					11				21
來	4	7	5	6	6		13		17		4		62
精	11	1	5	15	3	4	3		4		1		47
清	4	4		9			13		4				34
從		2		8		4	6		3				23
心	11	1	4	7	3		10		3				39

邪			12	4		1	1						18
莊			5						4		2		11
初			2		1		5		3				11
崇			2	1	1						3		7
生	2		2	1	2		6		9		1		23
俟			2										2
章	2	9	10	5	2	4	13		2		1		48
昌		3	1			1	3		1				9
船						1					4		5
常		2	2		4		10		1		1		20
書	9					1	18		2				30
日		9	10	5	1		14		4				43
見			1	10	5		9	13	3	5	3		49
溪	1			5	7		2				1		16
羣		8	10	12	5		5			4			44
疑	1	7	3	6	7					1	2		27
影	13	3	1	5	2		4	5	5	6	2		46
曉	3	6	4	6	7		5	7	3	1	6		48
云	1				4				3		7		15
羊	10	8	8	6	22	10	26		23		5		118
合計	102	86	99	120	127	26	182	38	149	18	52	0	999

上表の三等韻は匣母を除いて全ての声母と結合している。この三等韻は「普通三等韻」と呼ばれている。

3.4.5 三等韻（三）

	微開	微合	廢開	廢合	殷	元開	元合	文	嚴	凡	合計
非		4						5			9
敷		3		1				4		5	13
奉		4		1			28	21		4	58
微		6					12	15		3	36
見	2				1	4	3				10
羣	9						2	3			14

疑	1				3	4	3				11
影		7			1	3	24	13	4		52
曉	6	7		2	2	1	12	7			37
云		15					8	3			26
合計	18	46	0	4	7	12	92	71	4	12	266

上表に示した三等韻は非組・見組・影組（匣母・羊母を除く）のみの声母と結合している。この三等韻は「純三等韻」と称されている。

3.4.6 四等韻

	齊開	齊合	先開	先合	蕭	青開	青合	添	合計
幫	3								3
滂	1		1			3			5
並	6		9			4			19
明	1		8			7			16
端	24		7		1	5		3	40
透	4		13		12	9			38
定	27		25		19	17		11	99
泥			2		6	4		2	14
來	26		4		26	40			96
精	9		5					3	17
清	2		5			3			10
從	6		6						12
心	1		3		3	20		1	28
見	3	6	2	29	26		8	1	75
溪	1	1	10	1		1		7	21
疑	11		11		9	2			33
影	14		6	2	10	2		2	36
曉		2		5		1			8
匣	4	4	6	19	3	8		2	46
合計	143	13	123	56	115	126	8	32	616

上表に示したように、五臣音注の四等韻は幫組・端組・來組・精組（邪母を除く）・

見組（羣母を除く）・影組（云母羊母を除く）の声母と結合している。

3.5 本章の主要な結論

（１）現存する先行音注（李善注と《音決》）と比較した結果、五臣音注は李善音注・《音決》と同じ系統ではないと判明した。五臣音注の一部は先行音注と一致しているが、この音注は五臣の吟味を経たものであり、単純な継承とは言えない。

（２）朝鮮本と陳刻本の相異音注については以下のように処理している。

①両者で共通していない音注は朝鮮本の音注を採用する。

②両者で音注用字が異なり音韻地位が同じ音注は朝鮮本の音注用字を採用する。

③両者の音注用字と音韻地位が共に異なる場合、ほかのいずれの版本と共通している朝鮮本の音注を採用する。

④叶韻音と韻書にない音注は本研究の対象から外し、別稿で論じる予定である。

本研究の対象とした音注は朝鮮本の音注を基づき、少なくとも 2 つの版本に共通している音注である。書写による誤字だと判断できた場合には訂正して用いる。

（３）五臣音注と《王三》の同出字表から以下のことがわかる。

①唇音の幫組字は 4 つの等韻と全て結合している。非組字は東韻三等・鍾・微・虞・廢・文・元・陽・尤・凡の 10 韻としか結合していない。東韻三等と尤韻は明母字と結合するが、微母字とは結合していない。

②舌音の端組字は一等と四等韻と結合し、知組字は二等と三等韻と結合している。来組字は 4 つの等韻と全て結合している。

③歯音の精組字は一等・三等・四等韻と、荘組字は二等・三等韻（俟母字は普通三等韻のみ）と、章組と日組字は三等韻とのみ結合している。

④見組字（羣母を除く）は 4 つの等韻と全て結合しており、羣母は三等韻とのみ結合している。影母と曉母は 4 つの等韻と全て結合している。匣母は一等・二等・四等韻と、云母と羊母は三等韻と結合している。

五臣音注における声母と韻母のこの結合状況は《王三》と完全に一致している。

第四章　五臣音注の声母体系

4.1 唇音

4.1.1 重唇音から軽唇音の分化

軽唇音が独立しているか否かということは、唐代音韻史において重要な問題の１つである。《玉篇》の巻末にある《五音声論》では、調音部位を 5 種類に分け、鄭樵《七音略》韻図では 7 種類に分け、唇音はそれぞれの一種に数えられ、軽重の分類は見られない。司馬光《切韻指掌図》では調音部位を 9 種類に分け、唇音を初めて重唇音と軽唇音に区分された。王力も“隋唐時代（公元 581-836 年），唇音還沒有分化為重唇（雙唇）、輕唇（唇齒），這就是說，還沒有產生輕唇音”、また“唇音分化為重唇（雙唇）、輕唇（唇齒），是從這個時代（晚唐-五代）開始的。”[67]と論じた。しかし、盛唐の五臣音注には軽唇音の特徴が現れており、すでに重唇音から分化したとわかる。次の 3 点がその根拠である。

（１）《王三》と《広韻》では重唇音と軽唇音の混同例があるが、五臣音注はその混同が見られない。

（２）幫と非、滂と敷、並と奉の各声母の混同例がなく、非・敷・奉母がそれぞれ独立していたと考えられる。

（３）五臣音注では、東韻三等、鍾、微、虞、廃、文、元、陽、尤、凡の各韻のうち東韻三等と尤韻の明母字を除いて、全て軽唇音と結合している。

詳細は後述する。

まず韻書との比較である。《王三》と《広韻》では重唇音と軽唇音が混同しているが、五臣音注は混同例がない。

①幫母と非母

	《王三》[68]	五臣音注		《王三》	五臣音注
	非母	幫母		非母	幫母
01270 彬	府巾	悲旻	23067 猋	甫遙	必遙
29050 窆	方驗	畢驗	04063瑂	府巾	斌
07006 熛	甫遙	摽	23174 邠	〈府巾〉	豳

②滂母と敷母

	敷母	滂母		敷母	滂母

[67] 王力《漢語語音史》P116、229

[68]《王三》には収録していない字、あるいは又音は《広韻》の反切を使い、<>で区別する。以下同。

00030 縹	敷沼	匹沼	08029 瞥	芳滅	匹列
03346 鈹	敷羈	披	09618 澎	撫庚	烹
17150 駈	敷悲	丕			

	滂母	敷母
06573 瀵	匹问	芳问

③並母と奉母

	奉母	並母		奉母	並母
08227 甓	扶歴	蒲覓	27075 貔	房脂	頻夷
30076 甓	扶歴	步覓	04498 貔	房脂	毗
06560 獱	符鄰	頻	22019 陴	符支	脾

④明母と微母

	微母	明母		微母	明母
03296 罠	武巾	美巾	03644 旼	武巾	美貧
03709 懵	武亙	莫贈	01065 楣	〈武悲〉	眉
01499 杪	亡沼	眇	06250 瀰	〈武移〉	彌

以上のような例は枚挙にいとまがないほどであるが、ここでは反切注と直音注を 3 個ずつ挙げた。これらの例からわかるように、《王三》と《広韻》ではまだ重唇音と軽唇音を混同させているが、五臣音注では使い分けがなされている。特に、並母と奉母の例「貔」は反切注と直音注の両方において混同していない。「甓」は反切上字が異なるものの共に帰字と同じ重唇音字を用いている。

次に声母の混同例を見ると、五臣音注では幫母と非母、滂母と敷母、並母と奉母の混同を示す例がないため、非母、敷母、奉母がそれぞれ独立していたと考えられる。

一方で、明母と微母の混同例は 7 例ある。以下の通りである。

	小韻	小韻
04488 杪	亡沼	亡少

小韻は三等[69]開口韻であり、微母は分化しないはずである。

[69] 現代中古音韻研究では、等韻図で一等に記入された韻を一等韻、二等に記入された韻を二等韻、三等に記入された韻を三等韻、四等に記入された韻を四等韻と呼ぶ。

	江韻	江韻
09325 哤	莫江	武江

江韻は二等韻であり、微母は分化しないはずである。

	泰韻開口	泰韻開口		泰韻開口	泰韻開口
16132 沬	〈莫貝〉	亡貝	21015 沬	〈莫貝〉	亡貝

泰韻は一等韻であり、微母は分化しないはずである。

	登韻開口	登韻開口
21048 冒	莫北	亡北

登韻は一等韻であり、微母は分化しないはずである。

	陌韻開二	陌韻開二
21021 貊	莫白	亡百

陌韻は二等韻であり、微母は分化しないはずである。

	幼韻開三	宥韻開三
14062 繆	靡幼	亡又

上掲 7 例からわかるように、五臣音注には確かに明母と微母が混同している例がある。微母字は全て明母字を反切上字としているが、一方、明母字で微母字を反切上字とする例は見られない。五臣音注には明母字が 176 個[70]、微母字が 59 個、のべ 235 個の音注があり、そのうち両者の混同率はわずか 3%しか占めていないため、明母と微母が分かれていると言える。軽唇音の非・敷・奉母が既に独立していたこともその根拠の 1 つとなる。

丁鋒（1995：12）は《博雅音》について“幫滂並混切少或不混，自成一組。微切明的次數超過明母自切的兩倍，可見《博雅音》微明尚未分化。”と指摘している。

張潔（1999[71]：460－461）は

[70] 自用例の数を指し、以下同。自用例とは帰字と同声・同韻・同声調の反切を用いることを指す。
[71] 《中国語文》第 6 期

李善音系中，輕、重唇音尚未完全分化，混切例為數不少。幫、非共有反切 63 例，其中混切 12 例，占反切總數的 19.4%；滂、敷共有反切 92 例，其中混切 17 例，占反切總數的 18.5%；並、奉共有反切 93 例，其中混切 11 例，占反切總數的 11.8%；明、微共有反切 58 例，其中混切 18 例，比例更高，占反切總數的 31%。

と述べている。また張潔（1999[72]：54）によると、顔師古《漢書注》における重唇音と軽唇音の混同は幫非 2 例、滂敷 0 例、並奉 1 例、明微 15 例で、《音決》では幫非 0 例、滂敷 1 例、並奉 0 例、明微 41 例となっている。

両氏の指摘からわかるように、《博雅音》、《漢書注》、《文選》李善音注、《音決》のいずれにおいても、明微両母の混同例は幫母と非母、滂母と敷母、並母と奉母よりに多数を占めている。つまり軽唇音の中で微母が最も遅く重唇音から分化すると見られる。五臣音注の傾向はこれらと同様である。

最後に、声母と韻母の結合関係からみてみる。周祖庠（2006：73）によると、軽唇音が重唇音から独立する条件は、重唇音が介母[i]或いは[iu]を持つ韻類と結合することである。この韻類に属すのは《切韻》系韻書の東韻三等、鍾、微、虞、廃、文、元、陽、尤、凡の十韻である。前述（3.5）のとおり五臣音注ではこの十韻のうち東韻三等と尤韻の明母字を除いて、全てが軽唇音と結合している。

董宏鈺（2012：39）は、次のように述べている。

五臣音注中涉及唇音的反切上字和注音字（直音）有 782 例，其中有 155 例輕、重唇混切出現，混切占總數的 20%，由此可以推斷，在唐玄宗時期，五臣音注中“幫、非”兩系的輕、重唇音，仍然是處於混切狀態的。

五臣音注の重唇音と軽唇音の混同率が 20%を占めたのは、恐らく系聯法による分析の結果である。

実は五臣音注だけでなく、丁鋒（1995:33-34）は《玉篇》（梁 543）、《博雅音》（隋 605－618）、《漢書注》（645）、玄奘梵漢対音（604－664）、《五經文字》（776）、慧琳《一切經音義》（789）、《說文系傳》（南唐）、唐五代西北方音及び敦煌變文中の別字異文材料などにおいても、軽唇音が分かれていると指摘している。

唐五代西北方音及び敦煌變文中の別字異文材料について邵榮芬（1963：123）は、

軽唇音分化和《唐五代西北方音》的幾種材料所反映的情況相合。另外唐代還有

72 《古漢語研究》第 4 期

很多文獻也都反映了這種音變。敦煌《守溫韻学殘卷》裏《聲韻不和切字不得》例下辨別類隔切時，指明輕唇切重唇的反切是“切軽韻重”。又《辨聲韻相似歸處不同》例下所分辨的都是非、敷兩母的字，說明當時實際語音輕重唇已經分化。其它象慧琳《一切經音義》的反切和張參《五經文字》的反切，軽重唇音也都已經分化。慧琳的反切大概是根據秦音。張參家在涇州，又多在長安活動，他的語音基礎大概和秦音相去不遠。可見在唐代不僅敦煌一帶輕唇音已經分化，西北的其他地區也有這種現象。

と論じた。

これから五臣音注にある軽唇音の派生現象は西北言語の音変と一致し、唐代の実際的な読音を反映している。注目すべきは、微母と明母に混同例があること。一方軽唇音の派生過程には、微母の分化が最も遅れると示唆している。もう一方現存する五臣注版本は五臣注の登場時代の語音を反映できる結論を付けられる。

また狩野充徳（2000:179）でも「《音決》の音注を見ると、反切でいえば重唇音上字・軽唇音上字の使いわけがなされており、直音注でも使い分けがあるから、軽唇音化が進んでいたと見られる」と結論づけている。

4.1.2 重唇音の全濁音と清音の混同例

4.1.2.1 並母と幫母

	王三〈広韻〉	五臣音注		王三〈広韻〉	五臣音注
	並母（奉母）	幫母		並母（奉母）	幫母
02143 炰	薄交	包（布交）	03254 琲	蒲罪	補對
04045 被	皮義	彼義	04210 埤	符支	卑
04660 嬪	符鄰	賓	06181 楄	房連	補沔
07027 薄	傍各	博	11018 薄	傍各	博
13045 薄	傍各	博	17291 薄	傍各	補莫
21029 薄	傍各	博			

	幫母	並母		幫母	並母
04043 茇	〈蒲撥〉	步末	29004 裨	府移	毗

4.1.2.2 並母と滂母

	並母（奉母）	滂母		並母（奉母）	滂母
01250 叛	薄半	判	02025 岥	符悲	披

02318 輣	扶萌	普耕	17039 擗	房益	普覓
02600 泊	傍各	普各	05121 馥	扶逼	披逼
06268 泊	傍各	普白	07004 溯	扶冰	普冰

	滂母	並母		滂母	並母
06204 僻	芳辟	毗亦	24167 伻	普耕	蒲萌
29002 愊	芳逼	被偪			

上表に提示した全濁並母と全清幫母・次清滂母との混同例24個から、全濁並母の無声化が進んでいたと見られる。しかし、平声が無声有気に、仄声が無声無気になるという規則に則っていない。

4.1.3 重唇音の全清音と次清音の混同例

	幫母	滂母
09371 溥	補各	普各

	滂母	幫母		滂母	幫母
02144 胞	匹各	博（補各）	26071 抨	普耕	補萌
26073 抨	普耕	補萌			

重唇音全清幫母と次清滂母の混同は上表 4 例のみである。中古音において有気音と無気音の対立が弱まることを反映している例であると解釈できる。

4.1.4 非・敷・奉 3 母の混同例

4.1.4.1 非母と奉母

	非母	奉母
05085 黼	〈方矩〉	輔

4.1.4.2 敷母と奉母

	敷母	奉母		敷母	奉母
01292 雰	撫云	汾	04090 茀	敷物	房勿
06505 肺	敷廢	扶廢	24092 祓	敷物	夫物

	奉母	敷母		奉母	敷母

06366 濆	符分	忿	06400 濆	符分	忿

4.1.4.3 敷母と非母

	敷母	非母		敷母	非母
17142 蝮	芳伏	福（方六）	29039 柿	芳廢	廢（方肺）

4.1.4.1 から 4.1.4.3 までの数表からわかるように、全濁奉母と全清非母・次清敷母との混同例はそれぞれ 1 個と 6 個である。軽唇音にも全濁音声母の無声化が発生していたことがわかる。全清非母と次清敷母の混同例はわずかに 2 個しか見られないので、軽唇音が既に重唇音から派生したが、非・敷・奉の 3 声母はまだ合流していないと思われる。

本節を簡略にまとめると、五臣音注の唇音の声母は幫・滂・並・明・非・敷・奉・微母の８個である。

4.2 舌音

4.2.1 舌上音の独立

錢大昕は《舌音類隔之説不可信》[73]に、舌上音に関する見解を述べている。

> 古無舌頭、舌上之分，知、徹、澄三母，以今音讀之，與照、穿、床無別也；求之古音，則與端、透、定無異。

これは舌上音が上古音には見られず、中古頃に舌頭音から派生したという有名な「古無舌上音」説である。この説は広く認められているが、舌上音が分化した時期については定論がない。特に泥母と娘母を区分すべきかについては意見が分かれている。しかし、五臣音注では舌上音は既に分化していると考えられる。

4.2.1.1 定母と澄母、透母と徹母に混同例なし

舌音において定母字と澄母字が最も多く、計 339 個あるが、混同例は 1 つも見られない。次に多い透母字と徹母字で 161 個あるが、混同例は同様に見出せない。徹母と澄母が既に独立していたと考えられる。また「3.4 五臣音注と《王三》同出字数」に示した数表あるいは付録の同音字表からわかるように、端組字は一等・四等韻と結合し、知組字は二等・三等韻と結合するという整然とした傾向が現れている。

[73] 《十駕齋養新錄》1968:111

4.2.1.2 端母と知母の混同例

端母字は 84 個、知母字は 56 個ある。まず次の混同例 4 個を見よう。

	知母	端母		知母	端母
05074 膼[74]	陟瓜	都瓜	09555 撾	陟瓜	都瓜
23179 衷	陟仲	丁仲	01361 展	知演	丁謹

上掲例は全て知母字に対して端母字を反切上字とした例である。また次の例もある。

	《王三》	五臣音注	《広韻》		《王三》	五臣音注	《広韻》
05255 倬	丁角	卓(丁角)	竹角	16074 諑	丁角	丁刮	竹角
17049 鷋	丁刮	丁刮	丁刮	18077 鷋	丁刮	丁刮	丁刮
02398 鷋	丁刮	丁滑	丁滑	05006 椓	丁角	卓(丁角)	竹角
05256 斲	丁角	卓(丁角)	竹角	10184 斲	丁角	卓(丁角)	竹角
17023 斲	丁角	丁角	竹角	03657 倬	丁角	陟角	竹角

一見すると、五臣音注と《王三》は同音であり、端母と知母は混同していないようだが、実は《王三》と五臣音注は共に端母と知母が混同している。《広韻》では「05255 倬」、「16074 諑」、「10184 斲」は共に知母字の「竹」を反切上字としていることがそれを証明している。さらに注意すべきは「17049 鷋」に対し《広韻》でも端母と知母を混同させている。

下の例は、韻書と比較すると、五臣音注が知母と端母を混同させているように見える。

	《王三》	五臣音注	《広韻》		《王三》	五臣音注	《広韻》
20099 胝	丁私	竹尼	丁尼	22080 胝	丁私	竹尸	丁尼

しかし「胝」は三等の脂韻字であるため、知母字と結合するのが普通である。ということはここにおいて、端母と知母を混同させているのは《王三》と《広韻》であり、五臣音注ではないとわかる。

以上を総合すると、舌上音が舌頭音から分化する過程において、端母と知母の分化が最も遅く複雑だと窺える。

五臣音注では知母字が独立していたと考えられる。その理由は次の 3 点である。

（1）定母と澄母、透母と徹母が完全に分化していたため、知母字だけが独立して

[74] 被注字は元々「撾」であり、「膼」と同じ読音となっている。

いないとは考えにくい。一部の混同例は分化が漸次的に進行していたことを示していると考える方が自然だろう。

（２）「3.4 五臣音注と《王三》同出字数」あるいは付録の同音字表に見られるように、端母は一等・四等と結合し、知母は二等・三等と結合するという明確な使い分けが確認できる。

（３）知母字と端母字の混同例の多くを「丁」字が占めている。恐らく「丁」の筆画が少ないため書写に都合がよく、加えて字形に特徴があり識別も容易だったため、知母字に書き換えるのがより遅れたのだろう。

五臣音注より時代が早い曹憲《博雅音》（丁鋒 1995：13）、李善《文選》音注（大島正二 1977：33）、《音決》（狩野充徳 2000：184－185）はともかく、より時代が遅い《晋書音義》（邵榮芬 1999：125）にも端母と知母の混同例があり、さらに殆ど定母と澄母、透母と徹母の混同より例が多い。

注意すべきは丁鋒（2010：34）では“玄應用端定二母字分別類隔切音，慧琳均改訂為音和切”、“端組知組不混”と述べている。

また、周祖庠（2006：83）は“二等韻舌上音知組的分化，說明這些二等韻已由洪音變為細音。”と論じた。

4.2.1.3 泥母と娘母の混同例

五臣音注には泥母字が 36 個、娘母字が 45 個ある。泥母は一等・四等韻と、娘母は二等・三等韻と結合し、整然として区別がある。

娘母字に対して泥母字を反切上字とする例は見られず、泥母字に娘母字を反切上字とする例は下表の通りである。

	泥母	娘母		泥母	娘
14067 能	年來	女夷	17406 膿	奴冬	女恭
04182 淖	奴効	女教	05169 赧	奴板	女板
10196 赧	奴板	女簡	26067 赧	奴板	匿簡
04293 橈	奴効	女教	04545 橈	奴効	女教

混同例はやや多いが、上表の反切を等韻で入れ替え、声母と韻母の結合関係から見ると、次のようである。

	泥	娘		泥	娘
14067 能	一等韻	三等韻	17406 膿	一等韻	三等韻
04182 淖	二等韻	二等韻	05169 赧	二等韻	二等韻
10196 赧	二等韻	二等韻	26067 赧	二等韻	二等韻

04293 橈	二等韻	二等韻	04545 橈	二等韻	二等韻

上表から見られるように、「04182 淖、05169 赧、10196 赧、26067 赧、04293 橈、04545 橈」は共に二等韻であるため、本来は娘母と結合するはずである。つまり、これらの例は五臣音注の混同ではなく、《王三》が混同させている。《広韻》はというと「14067 能」の反切「年來」を取らず、「奴来」を使用している以外は《王三》とまったく同じである。つまり、《広韻》でもはっきり区別していない泥母と娘母を、五臣音注では泥母は一等・四等、娘母は二等・三等のように整然と区分している。

例外として「20044 橈，奴効/[75]奴教」、「24046 撓，奴巧/奴教」の 2 例がある。反切下字の「教」は二等効韻字であるため、反切上字に娘母字を当てるのが自然である。この 2 例を除く上表の 04293、04545、22044 の「橈」の反切は共に「女教」である。「19021 橈」「24063 撓」の反切も「女教」である。前述（3.2）からわかるように、朝刻本には「23074 眥，濟細」と「2472 瀑，陟角」のように「齊」を「濟」に、「步」を「陟」に誤記している例が見られる。さらに懈と解、烈と列、蓐と辱、各と閣、未と味のような形声字の混同例や、濫と監、俄と我、音と立、思と慮のような非形声字の混同例も散見する。また、「衂」の音注は 4 個あり、共に帰字と同じ屋韻三等字を反切下字としているが、うち 3 個に娘母字の「女」を反切上字とし、1 個だけ泥母字の「奴」を用いている。泥母字のほとんどが一等・四等韻と結合するところから見ると、「27040 衂，奴六」の「奴」は、「女」の誤字ではないかと推測される。もしこの推測が正しければ、20044 と 24046 の「女」は「奴」の誤字である可能性も考えられる。推論が成立しなかったとしても、混同例は極少数であり、泥母と娘母の各々が独立していたという結論を覆すほどの影響はないだろう。

4.2.1.4 來母

来母字は 404 個あり、ほかの声母と混同する例はわずかに下の 2 例にすぎない。

	來東三	崇東三		泥巧	來巧
03105 隆	力中	崇（鋤隆）	03258 豂	奴巧	力巧

漢語の音韻史上において、来母は最も安定した声母で、上古から中古を経て近現代まで殆ど変化が見られない。上表に示した 2 例は個別的な特例で、一方言の特徴を示している可能性がある。

羅常培《唐五代西北方音》（1933:80）では「泥」「来」両母の混同を示す 21 例を取り上げ、さらに両母の音価を共に[l]と推定した。邵榮芬《敦煌俗文学中的別字異文和唐五代西北方音》（1963:124）では、“還不能夠證明當時泥、來已經合併，至少這種現

[75] 「／」の前は《王三》の反切で、後ろは五臣音注の反切である。以下同。

象在當時是不普遍的。”と述べたが、「泥」「来」両母の混同を示す 6 例を取り上げた。

従って、五臣音注には「泥」「来」両母の混同例はわずか 1 例しかなく、泥母と来母が混同していると言えないが、唐五代の西北方音の特徴と一致するため、重視すべきであると思われる。

4.2.2 舌音の全濁音と清音の混同例

4.2.2.1 定母と端母

	定	端		定	端
02438 憚	徒旦	丁達	04530 憚	徒旦	丁曷
17212 憚	徒旦	丁達	25024 憚	徒旦	丁達

	端	定
04480 蛭	丁結	姪（徒結）

4.2.2.2 定母と透母

	定	透		定	透
01317 廷	特徑	他頂	02353 鶺	〈杜奚〉	吐雞
20057 闒	徒盍	土合	21037 闒	徒盍	吐臘
30046 闒	徒盍	土合			

	透	定		透	定
01316 窿	他弔	徒弔	01396 町	他鼎	定（特徑）
02203 稌	他古	徒戶	02368 稌	他古	肚（徒古）
03565 稌	他古	徒五	04532 他	託何	徒何
05022 鞜	他閤	沓（徒合）	12064 蛇	透歌[76]	徒何
18144 稌	他古	肚（徒古）			

4.2.2.3 澄母と知母

	澄	知		澄	知
06078 柱	直主	駐（中句）	17281 柱	直主	陟羽

4.2.2.4 澄母と徹母

	澄	徹

[76] ここでは、《王三》の又音を採用した。

02533 宅	棖百	坼（丑格）

	徹	澄		徹	澄
06246 沖	〈敕中〉	沖（直隆）	12018 忡	敕中	直中

4.2.2.1 から 4.2.2.4 までの数表に見られるように、舌音の濁音と清音の互用例が少なくはない、全濁舌音声母の無声化が進んでいたと思われる。

4.2.3 舌音の全清音と次清音の混同例

4.2.3.1 端母と透母

	端	透
04119 濎	〈都挺〉	土挺

4.2.3.2 知母と徹母

	知	徹		知	徹
29014 偵	豬孟	恥令	29030 偵	豬孟	恥命

	徹	知
04184 詫	丑亞	陟駕

混同例は多くはないが、舌音において有気音と無気音の対立が弱まっていることを反映している。

そのほか、また下の例がある。

	徹	來
26004 瘳	敕鳩	留（力求）

徹母と来母の混同はわずか 1 例のみ、釈義上には「王瘳」という人名である。個別的な字音の相違だと思われる。

	知	章		知	章
09370 躓	陟利	之日	27016 钃	〈陟玉〉	燭（之欲）

中古音からが現代音に発展する過程で、知・莊・章 3 組の声母は合流しているが、上表の 2 例は少数とは言え、その合流の傾向を窺わせる。

	透蕩開	昌養開		曉養合	曉養合
08298 惝	他朗	昌兩	08299 怳	許昉	兄往

この「惝」と「怳」は「惝怳」というフレーズであり、「08298 惝」における透母と昌母の混同は、「怳」の影響を受けた可能性がある。

	透	泥
04326 鰨	吐盍	奴榻

この字の釈義は「魚名」で、固有名詞の特殊な読音であると思われる。

本節を総合すると、五臣音注の舌音の声母は端・透・定・泥・來・知・徹・澄・娘の 9 個だとわかる。

4.3 歯音

4.3.1 歯頭音と正歯音二等と正歯音三等の各々独立

五臣音注には精組字が 633 個、莊組字が 233 個、章組字が 300 個ある。それぞれの内訳を見ると精組字は精母 174 個、清母 135 個、従母 89 個、心母 196 個、邪母 39 個で、莊組字は莊母 40 個、初母 35 個、崇母 55 個、生母 101 個、俟母 2 個で、章組字は章母 148 個、昌母 34 個、船母 5 個、書母 67 個、常母 46 個となっている。3 者の混同例について見ると、精組字は莊組字との混同例が 4 個あり、章組字との混同例が 5 個あり、章組字と莊組字の混同例はない。

①従母と崇母の混同例

	従	崇		従	崇
02266 嶜	昨淫	岑（鋤金）	04652 嶜	昨淫	岑（鋤金）
06040 嶒	〈疾陵〉	士耕	06134 巃	徂罍	助軌

中古の崇母は上古の従母から派生した声母である。崇・従母の混同例は僅か 4 例（3%）ほどであるため、この混同例は分化の過渡期の残存部分と考えられる。

②清母と昌母の混同例

	清	昌		清	昌
17249 膬	〈此芮〉	昌芮	21002 毳	此芮	川芮
23125 毳	此芮	昌鋭			

③心母と昌母の混同例

	心	昌
18134 潟	私積	赤（昌石）

④心母と書母の混同例

	心	書
05157 信	息晉	申

②~④までの混同例は中古音の主な音韻変化の特徴から外れる例であり、その現象はさらに検討する必要がある。

精・荘・章組の声母字は合計 1166 字あるが、混同が見られるのは僅かに 9 例（1％）のみで、それぞれに独立していたと言えよう。

4.3.2 邪母と俟母の独立か否か

4.3.2.1 従母から邪母の分化

邪母と従母の混同例は次表の通りである。

	従	邪		従	邪
05041 吮	徂兗	辭兗	09107 吮	徂兗	辭兗

	邪	従		邪	従
03612 賮	似刃	慈胤	10275 賮	似刃	慈胤
20102 篲[77]	囚歳	自歳			

混同例は重複音注を含めて全 5 個あり、その割合はわずか 4%と高くはなく、邪母が従母から派生する過程の残余部分であると考えたい。

4.3.2.2 俟母と崇母の混同

	崇	俟		俟	崇
01263 戺	鋤里	俟	07137 漦	俟淄	助緇

[77] 原文は「彗」である。

崇母字に「俟」を直音注とする例と、俟母字に崇母字を反切上字とする例は共に 1 個である。崇・俟母の混同例は 2 個あり、全体の 3%となる。しかし、五臣音注にある被注字の俟母字は僅か 3 個であるため、そのうちの 1 個が上表に示した通り崇母字を反切上字としている[78]ので、俟母字から見ると混同率は相当に高いと言えなくもない。

俟母の独立か否かについて、徐之明（2001：78）は

> 如果五臣音崇、俟二紐相混的話，用“士”來給“涘”“騃”直音最為簡當。我們注意到《文選音決》裡僅有的兩個俟母字的注音，皆是以崇母“士”來直音的：涘音士、俟音士。既然五臣放棄“士”字不選，而選一個較之複雜的“俟”來注音，這應當可以說明，五臣音“俟”母與崇母分立不雜，這與從、邪分立正好相應。

と述べ、俟母と崇母がそれぞれ独立していたと推測した。この推論は筋が通っているが、上掲の崇母字との混同例に触れていない。

混同例を重視すれば、五臣音注では俟母字が崇母字から分化する過渡的な段階にあると言える。

4.3.3 船母と常母の混同例

船母と常母の混同例は次表に示す通り 10 個あり、16%を占める。

	船	常		船	常
01001 抒	〈神與〉	臣與	01169 漘	食倫	純(常倫)
02046 盾	食尹	垂允	03222 楯	食尹	時尹
04423 楯	食尹	時尹			

	常	船		常	船
02050 蜃	時忍	示忍	02216 蒔	時吏	神志
21116 折	〈常列〉	舌（食列）	23085 眡	〈承矢〉	示履
29041 眡	〈承矢〉	食至			

船母字から見ると、常母字を反切上字とするのは 5 個で半数を占めている。混同例の多さから船母がまだ常母から分化できておらず、船・常母が一類であったと考えられる。

---

78 俟母字の残り 2 つの音注は「1368 騃，俟」と「10150 涘，俟」である。

4.3.4 日母と泥・娘母

4.3.4.1 泥母から日母の独立

泥母字と日母字はそれぞれ 33 個と 85 個あり、混同例は次の 2 個である。

①獮韻合口日母と翰韻合口泥母の混同例

	日母	泥母
13008 軟	而兗	奴乱

この音注は次の例文の「軟」に付けられている。

“咨余軟弱，弗克負荷。”（劉越石 《答盧諶一首》）

「軟弱」は現代でも常用語で、原文の意味からしても、この「軟」は他字の仮借とは思えないため、「奴乱」の反切は「軟」の音注で間違いないだろう。その由来としてヒントになるのが「軟」の異体字「輭」で、「耎」を音符とする形声字の「偄、渜、稴」などは共に「乃亂」という反切が付けられている。これは「奴乱」と同音になっている。

大島正二（1981：616）によると、「軟」の反切は、《漢書音義》に「人袞」とあり、《晉書音義》に「而兗」と、共に日母字に属している。このことから「奴乱」は恐らく五臣音注独自の反切であり、音韻変化の体系の一現象と捉えるよりは、一方言の特殊音注ではないかと考えられる。

②屋韻三等の日母と泥母の混同例

	日屋三	泥屋三
27040 衂	如竹	奴六

五臣音注には東韻[79]三等と結合する舌音は知組字しかなく、それぞれ知母 1 個、徹母 5 個、澄母 3 個、娘母 6 個である。屋韻三等の知組字は既に派生したと思われる。上掲例のみ泥母字と結合している。

なお朝鮮本の「衂」には 4 回音注が付けられており、上表の例を除く残りの 3 個は共に「女六」である。陳刻本の「衂」には 3 回音注が付けられ、全て「女六」である。

それ故、上表の反切上字「奴」は恐らく「女」の誤りだろう。日母と泥母の混同例として扱うべきではない。

以上のことから日母は泥母から独立していると考えられる。

[79] ここでは平声の韻目を挙げて相配する平·上·去·入の韻母を兼ねあらわす。以下同。

4.3.4.2 娘母と日母の未合流

娘母字は 44 個、日母字は 85 個あり、その混同例は 6 個（4%）で下表に示す。

①屋韻の日母と娘母

	日	娘		日	娘
07056 腑	〈如六〉	尼竹	03354 衂	如竹	女六
19007 衂	如竹	女六	22038 衂	如竹	女六

②侵韻（寢韻）の日母と娘母

	日	娘		日	娘
09127 鉦	〈如甚〉	昵凛	25004 紝[80]	如林	女金

③陌韻開二の娘母と藥韻開三の日母

	娘	日
04528 踖	女白	若（而灼）

日母と娘母が共に泥母から派生したことについて、周祖庠は以下のように論じている。

> 它（泥）的第一次分化是由舌頭音（舌尖中塞音）分化出舌上音（舌面前塞音）章組、日母和喉音以（餘）母（零聲母）。(2006:76)
>
> 章組變為舌面前塞擦音後，舌頭音端組又分化出舌面前塞音即舌上音知組。（2006:83）
>
> 舌上音鼻音娘母的分化也要晚於其他口音，要等日母由舌面前塞音[　]變為[　]後，娘母[　]才分化出來。（2006:83）

このことから、日母と娘母の混同例は恐らく両母がともに[　]という音価に当たる時期に発生していたと考えられる。

ただし、五臣音注には日母と娘母の混同例は 4%と多くないため、日母と娘母が独立していたと判断して差し支えないだろう。

4.3.5 歯音の全濁音と清音の混同例

4.3.5.1 従母と精母

	従	精		従	精
02022 捷	疾葉	接（紫葉）	03303 趡	才笑	子曜

[80] 原文は「紝」である。

02138 摧	昨回	祖回	04340 疵	疾移	貲（即移）
16086 賚	疾脂	茲（子慈）			

	精	従		精	従
02011 蹐	資亦	籍（秦昔）	03694 鑚	借官	在官
10010 霽	子計	才細	04432嶲	姊入	捷（疾葉）

4.3.5.2 従母と清母

	従	清
09006 潛	昨鹽	侵（七林）

	清	従
04229 倩	倉見	牆練

4.3.5.3 邪母と心母

	邪母	心母
02305 濜	＜徐刃＞	想胤

4.3.5.1 から 4.3.5.3 までの表の通り、従母と精母・清母の混同例は全部で 11 例あり、邪母と心母の混同例は 1 例あり、歯音全濁母の無声化を反映している。しかし、平声が無声有気に、仄声が無声無気になる規則からは外れている。

4.3.6 歯音の全清音と次清音の混同例

	精	清
04475 茈	茲尓	此（雌氏）

	清	精		清	精
22079 腠	倉候	嬈（則候）	24002 淬	七碎清隊	子會精泰

僅か３例しかないが、ほかの調音部位にも送気音と不送気音の混同例があるため、個別的な字音の相違ではないと思われる。

本節をまとめると、五臣音注の歯音の声母は精母、清母、從母、心母、邪母、莊母、初母、崇母、生母、章母、昌母、常（船）母、書母、日母の 14 個である。

4.4 牙喉音

4.4.1 牙音と喉音の混同例

4.4.1.1 見母と曉母

	見	曉		見	曉
01163敃	古沓	荒合	01188 矍	居縛	許縛
01214敃	古沓	呼合	01306 罘	古胡	呼（荒烏）
04341 鵁	古肴	火交			

	曉	見
06305 矱	許縛	居縛

4.4.1.2 見母と匣母

	見	匣		見	匣
06387 潏	古穴	胡決	07043 涸	古暮	護（胡故）
09191 攪	古巧	胡卯	17270 鳱	古寒	胡葛
17352 澉	古覽	胡敢	17423 緄	古本	胡本
17432 旰	古旦	音汗（胡旦）	17451 旰	古旦	汗（胡旦）
04130 泔	古三	胡敢			

	匣	見		匣	見
03393 渾	胡本	故本	06331 烱	戶鼎	**古永**
27088 絓	胡卦	卦（古賣）	30045 烱	戶鼎	古永
01590 絓	胡卦	卦（古賣）	06546 皜	（皓）胡老	杲（古老）

4.4.1.3 溪母と曉母

	溪	曉		溪	曉
01305 睽	苦圭	呼圭	16068 顑	〈苦感〉	呼感
06386 漷	苦郭	呼郭			

	曉	溪		曉	溪
04370 虛	許魚	乞居	09277 庨	許交	苦交

4.4.1.4 羣母と影母

	羣	影
06105 蟉	渠糾	於酉

4.4.1.5 匣母と溪母

	匣	溪
17079 絜	胡結	苦結

	溪	匣
09161 衎	苦旦	苦汗

以上の数表に示した牙音と喉音の混同例は合計 27 個であり、混同の比率は高くはないが、見・溪・羣・影・曉・匣の６声母に及んでおり、偶然の表出ではないだろう。

牙音と喉音の調音部位は近接しているため、自然と混同されやすい。《博雅音》、《文選》李善音注、《音決》音注にはそれぞれ牙音と喉音の混同例がある。

4.4.2 云母の独立及び羊母との未合流

4.4.2.1 云母の独立

五臣音注には匣母と云母字がそれぞれ 260 個、90 個あるが、両母の混同例は僅か下表の 2 例のみである。

	匣麥合二	云卦合二
01116 獲	胡麥	于卦

	青合四	清合三
06397 榮	胡丁	於營

云母と曉母の混同例は 3 例ある。次の通りである。

	云	曉		云	曉
16122 幃	王非	暉（許歸）	16131 幃	王非	揮（許歸）

	曉	云
05213 閾	況逼	域(榮逼)

匣・曉・云母字はそれぞれ 260 個、212 個、90 個で合計 562 個である。これに対して、混同例は 5 例しか見られず、云母は匣母から独立していたと考えられる。この混同例は云母が匣母から完全に分化するまでの残余部分と見ることができる。

曾運乾《喻母古讀考》（周祖庠 2003:174-175）は匣母と云母の関係について以下の例を挙げた。

> 古讀“營”為“環”。《韓非子》：“自營為私。”《說文》引作“自環”。
> 古讀“瑗”又如“環”。《春秋左・襄十九年》:“齊侯環卒。”《公羊》作“齊侯瑗”。
> 古讀“援”如“換”。《詩・皇矣》:“無然畔援。”《漢書・敘傳》注並引“畔換”。
> 古讀“于”如“乎”。《經傳釋詞》云：“于，猶乎也。”《管子・山軌篇》:“不籍而贍国，爲之有道于（元注：宋本如是，今本訛作予）？”《呂氏春秋・審應篇》

曰：“然則先生聖于？”高注：“于，乎也。”《列子・黄帝篇》曰：“今女之鄙至此乎？”《釋文》：“乎，崔本作于是也。

これから、“喻母三等字古隷牙音匣母”という結論を得た。即ち有名な「喻三歸匣」説である。五臣音注に見られる云母と匣･曉母の混同例はこの説の傍証となっている。

4.4.2.2 云母と羊母の未合流

云母と羊母の自用例は 90 個と 257 個で、混同例がなく、両母がまだ合流していないことは明白である。

云母は匣・曉母と混同例があり、羊母は書・徹母との混同例がある。

	羊	書
06394 瀹	以灼	始灼

	羊	徹
03338 踰	羊朱	恥逾

また匣母と云母の関係について、曾運乾《喻母古讀考》（周祖庠 2003: 175）では次のように述べた。

古讀“夷”如“弟”。《易・渙》：“匪夷所思。”《釋文》：“夷，荀本作弟。”
古讀“姨”如“弟”。《釋名・釋親屬》：“妻之姊妹曰姨。姨，弟也。言與己妻相长弟也。”
古讀“斁”如“度”。《後漢書・張衡傳》：“惟盤遊之無斁兮。”章懷注：“斁，古度字。”

などの例から得られた“喻母四等字古隷牙音定母”という結論は有名な「喻四歸定」説である。羊母と書・徹母との混同例はこの説の傍証となっている。

云母の派生と云・羊母との合流について、周祖庠は次のように述べている。

云母的分化是匣母與細音拼合時，受其影響聲母脱落之故。匣母是喉音，發音部位在最後，當它遇見最前最高的舌面母音[i]後，一時難以適應，時間一長，有的就脱落了；而[i]韻頭母音進一步高化，或成為半母音[j]，充當起了聲母的責任。（2006:95）

以母從定母一經分化出，就進入喉音系列。（2006：96）

云母一旦分化出來，便與由定母分化出的以母合流而構成三十六母中的喻母。（2006：96）

しかし、五臣音注では云母は独立していたが、羊母とはまだ合流していない。慧琳

《一切經音義》でも同様である。このことについて、周祖庠（2006：96）は“估計是沿用舊切所致”と述べて、更に、

> 陳澧《切韻考》，系聯反切上字，喻母三四等不能相聯，便判斷它們聲母不同，後代沿襲至今。其實，陳澧錯了，反切上字不同，這是因為它們來源不同，如曾運乾先生已經證明的'喻三歸匣，喻四歸定'那樣;《切韻》沿用舊切，故二者不能系聯。顏師古《漢書注》裏，云、以截然有別，也估計是沿用舊切。

と続けた。

周氏のこの２つの論述を要するに､云母は派生後すぐに羊母と合流することになり、そうでなければ、旧音の承継である。

4.4.3 牙喉音の全濁音と清音の混同例

4.4.3.1 羣母と見母

	羣	見		羣	見
01303 桀	渠烈	居列	04027 偈	渠烈	居竭
06071 倔	衢物	九勿	17325 窘	渠殞	寄殞
22005 懼	其遇	久具	24012 蹻	其虐	脚（居灼）
03474 崛	衢物	君屈	24024 踑	〈渠之〉	舉其
26018 懼	其遇	句（俱遇）			

	見	羣		見	羣
04035 兢	居陵	巨矜	04327 揵	居偃	巨言

4.4.3.2 羣母と溪母

	羣	溪		羣	溪
09097 菌	渠殞	去筠	09376 菌	渠殞	去倫
17266 菌	渠殞	丘貧	21057 拳	巨員	丘辨
17121 徃	渠往	丘王	23039 噤	渠飲	欺禀

	溪	羣
06556 踦	去奇	巨眉

4.4.3.3 匣母と曉母

	匣	曉		匣	曉
07007 耾	戶萌	呼宏	09360 耾	戶萌	呼宏
16105 溷	胡困	呼本	06309 浤	〈戶萌〉	火宏

	曉	匣		曉	匣
05171 泬	呼決	穴（胡玦）	23065 虓	許交	乎交
17441 鬫	火斬	呼檻	29025 鬫	火斬	呼檻

4.4.3.1から4.4.3.3までの数表に示した通り牙喉音の全濁音と清音の混同はそれぞれ18例と8例あり、牙喉音の全濁音の無声音化が進んでいることを示している。

4.4.4 全清見母と次清溪母の混同例

	見	溪		見	溪
03380 豜	古賢	牽（苦賢）	18041 豜[81]	古賢	牽（苦賢）
03461 搴	居輦 B	騫（去乾）B			

	溪	見
12073 筈	苦括	括[82]

わずかな例ではあるが、ほかの調音部位にも送気音と不送気音の混同例があるため、個別的な字音の相違ではないと思われる。

本節を総合すると、五臣音注の牙喉音の声母は見母、溪母、羣母、疑母、曉母、匣母、影母、云母、羊母の 9 個である。

4.5 本章の主要な結論

以上を総合すると、五臣音注の声母は 40 個あり、即ち幫、滂、並、明、非、敷、奉、微、端、透、定、泥、来、知、徹、澄、娘、精、清、從、心、邪、莊、初、崇、生、章、昌、日、書、常（船）、見、溪、羣、疑、曉、匣、影、云、羊である。

声類の主要な特徴については以下のことを指摘できる。

①軽唇音は既に派生したが、明母と微母の混同例はまだ見られる。

[81] 原文は「豜」である。
[82] 陳刻本の反切は「苦括」であり、混同していない。

②舌上音は独立したが、端母と知母の「類隔切」がまだある。

③邪母と従母の混同例はあるが、邪母が従母から分化する過渡期の一部の残存であると考えたい。

④俟母は崇母から分化する兆候が見られるが、まだ独立したとは言えない。

⑤船母と常母が混同し一類となっている。

⑥泥・日・娘母がそれぞれ独立している。

⑦知・莊・章母はまだ合流していない。

⑧牙音と喉音は混用されている。

⑨全濁音声母の無声化は始まっているが、平声が無声有気になり、仄声が無声無気になる規則には則っていない。

⑩有気音と無気音の混用例がある。

第五章　五臣音注の韻母体系（上）

5.1 重韻

5.1.1 重韻とは

《切韻》系韻書において同じ摂同じ開合同じ等呼の中に、複数の韻部があることを重韻という。

最初に重韻の概念を提唱したのはスウェーデンの中国語学者ベルンハルド・カールグレン（Bernhard Karlgren、中国名は高本漢）で、“在一二等也常常有重複的韻”[83]と述べている。ここでは重韻を一等重韻と二等重韻に限定していた。カールグレンの説を受け重韻の研究を展開したのが李栄、邵栄芬、李新魁、趙振鐸、楊剣橋などである。後に重韻の研究範囲は一等・二等重韻に限らず三等重韻にも研究が及んだ。その例として黄典誠、方孝岳、丁鋒、馮蒸、周祖庠などの研究がある。本節では後者に従い、五臣音注の一等重韻・二等重韻・三等重韻について考察する。因みに四等韻には重韻は存在しない。

5.1.2 一等重韻の通用例

5.1.2.1 東韻一等と冬韻

	東一	冬		東一	冬
02491 樓	子紅	宗（作琮）	03381 豵	＜子紅＞	宗（作琮）
05195 嶁	子紅	宗（作琮）	18042 豵	子紅	宗（作琮）

	冬	東一		冬	東一
02510 賨	在宗	叢（徂紅）	18124 彤	徒冬	同（徒紅）
24065 雺	莫綜	莫貢	01123 鵠	胡沃	胡穀
03599 裻	先篤	都祿			

五臣音注には東韻一等字が 78 例ある（平声 22、上声 24、去声 9、入声 23）。冬韻が 8 例ある（平 6、去 1、入 1）。両韻の互用例は上表で示した 9 例である。冬韻から見ると、自用例はわずか 8 例であるが、東韻一等字を反切下字に用いている互用例は 5 例あり、約 38%を占める。両韻は通用していると考えられる。

[83]《中国音韻学研究》1995：478。

5.1.2.2 泰開と代韻

	泰開	代		泰開	代
10044 藹	於蓋	愛（烏代）	10161 藹	於蓋	愛（烏代）
10211 藹	於蓋	愛（烏代）			

	代	泰開		代	泰開
03219 閡	五愛	五蓋	04292 溉	古礙	古艾
05072 睞	洛代	賴（落蓋）	10132 睞	洛代	賴（落蓋）
11070 溉	古礙	古艾	00039 概	〈古代〉	古害
03455 概	〈古代〉	蓋（古太）			

泰開と代韻は共に 18 例ある。両韻の互用例は上表の通り、10 例（22%）である。そのうち代韻字が泰韻開口字を直音あるいは反切下字とするのは 7 例あり、28%を占める。泰開と代韻は通用していると考えられる。

5.1.2.3 泰合と隊韻

	泰合	隊		泰合	隊
06351 沬	〈莫貝〉	昧（莫佩）	17138 沬	〈莫貝〉	昧（莫佩）
22020 沬	〈莫貝〉	昧（莫佩）	22085 沬	〈莫貝〉	昧（莫佩）

	隊	泰合		隊	泰合
03144霸	徒對	徒外	03188 綷	子對	祖會
03425 繢	胡對	會（黃帶）	03600譪	胡對	會（黃帶）
05088 綷	子對	最（作會）	06150霸	徒對	徒會
06168霸	徒對	徒會	06186 綷	子對	子會
06586 綷	子對	子會	09295 潰	胡對	會（黃帶）
10170 耒	盧對	盧會	15029 耒	盧對	盧會
24002 焠	七碎	子會			

泰合と隊韻はそれぞれ 30 例、14 例であるが、両韻の互用例は上表に見られるように 17 例あり、重複例を除いてもまだ 10 例あり、約 19%を占める。隊韻から見ると、その比率は更に高く 41%にのぼる。

また次の互用例もある。

	泰合	賄

03688 蕞	在外	罪（徂賄）

これは泰韻合口と灰韻上声の通用例であり、泰韻合口と隊韻の通用の傍証例となるだろう。

以上から、泰合と隊韻が通用していることがわかる。

5.1.2.4 覃韻と談韻

	覃	談		覃	談
01254 眈	丁含	都藍	04036 慘	七感	七敢
04144 黕	都感	丁敢	06191 萏	徒感	徒敢
09317 頷	胡感	胡敢	17099 壈	盧感	力敢
01297 馵	蘇荅	蘇臘			

	談	覃		談	覃
03277 儋	都甘	都含	10316 聃	他酣	貪（他含）
18054 甝	胡甘	含（胡南）	01293 瞰	苦濫	勘（苦紺）
04343 澹	徒敢	徒感	02205 瞰	苦濫	勘（苦紺）
04649 瞰	苦濫	勘（苦紺）	02019 盍	胡臘	合（胡閤）
09116 擸	盧盍	力合	20057 闟	徒盍	土合
22021 盖	古盍	合（胡閤）	30046 闟	徒盍	土合
03309翢	〈徒盍〉	徒荅			

覃韻は 106 例（平 31、上 24、去 2、入 49）あり、談韻は 31 例（平 8、上 7、去 12、入 4）ある。両韻の互用例は上表のように 20 例あり、重複例を除いても 17 例（11%）とやや多い。この他に、「暗」に対し「04102 烏敢」と「04132 烏感」の反切があり、覃韻と談韻が通用している傍証例と見なし得よう。

更に、闟韻字は直接「勘」を直音注とし、盍韻字は直接「合」を反切下字としており、覃韻と談韻が通用していることは明白である。

5.1.3 二等重韻の通用例

5.1.3.1 佳開と皆開と夬開

	佳	皆		佳	皆
01205 隘	烏懈	烏介	01348 睚	五懈	五介
03039 派	匹卦	普拜	05192 隘	烏懈	烏界

09028 隘	烏懈	烏介			

	皆	佳
03190 鍇	苦駭	苦買
01440 韎	莫拜	賣（莫懈）

	皆去	夬
03633 韎	莫拜	莫話
17246 憊	蒲界	薄邁

	夬	皆去		夬	皆去
01350 蠆	丑芥	丑介	04145 犗	古邁	届（古拜）
01180 侏	〈莫話〉	賣（莫懈）			

佳韻開口は 33 例（平 11、上 10、去 12）あり、皆韻開口は 30 例（平 9、上 0、去 21）あり、夬韻開口は 3 例である。佳韻開口と皆韻開口の通用例は上表の通り 7 例（10%）、皆韻開口去声と夬韻開口の通用例は 5 例（13%）ある。

5.1.3.2 佳合と皆合と夬合

	夬	皆去
29096 話	下快	胡怪

蟹摂の二等合口韻字は開口韻字より少ない。それぞれ佳韻 7 例（平 1、去 4)、皆韻 7 例（平 4、去 3)、夬韻 3 例（去 3）ある。通用例は上掲の僅か 1 例ながら、全体の 7%に当たる。特に夬韻にとっては、半数を占める。開口韻を含めて見ると、蟹摂の二等韻字は通用していると考えられる。

5.1.3.3 刪開と山開

	刪	山		刪	山
01385 菅	古顔	艱（古閑）	10196 赧	奴板	女簡
26067 赧	奴板	匿簡			

刪開と山開はそれぞれ 19 例（上 2、去 3 、入 14)、13 例（平 5、上 6、去 1、入 1 ）ある。互用例は 3 例で、9%を占める。

5.1.3.4 刪合と山合

	刪	山		刪	山
03117 綸	〈古頑〉	關（古還）	22056 猾	戸八	胡刮

	山	刪		山	刪
04630 刮	古頒	古滑	24115 刮	古頒	古八

刪合と山合はそれぞれ 18 例（平 10、上２、去 5、入１）、3 例（去 1、入 2）あり、互用例は 4 例で、約 16%を占める。開口韻を含めて見ると、刪韻と山韻が通用していると考えられる。

5.1.3.5 庚開と耕開

	庚	耕		庚	耕
04303 磅	撫庚	普萌	06286 澎	撫庚	匹宏
09134 澎	撫庚	普萌	09477 澎	薄庚	蒲萌
09304 澎	撫庚	普萌	01389 茴	武庚	萌（莫耕）
06220 省	所景	所耿	10220 眚	所景	所幸
10321 榜	補孟	迸（北諍）	07025 齰	〈鋤陌〉	牀革
03356 岝	鋤陌	賾（士革）	05035 磔	陟格	竹厄
16115 索	所戟	所革	17438 索	所戟	所革
23053 輅	胡格	胡革			

	耕	庚		耕	庚
01156 鏗	口莖	坑（客庚）	04387 橙	直耕	佇生
04435 橙	直耕	直更	08123 譻	烏莖	烏庚
03678 黽	武幸	猛（莫杏）	01355 擘	博厄	百（博白）
01360 槅	古核	格（古陌）	02003 覈	下革	胡格
13047 眽	莫獲	陌（莫白）	27015 脈	莫獲	摸白
27062 咋	側革	阻格			

庚開と耕開はそれぞれ 52 例（平 22、上 5、去 4、入 21）、57 例（平 29、去 1、入 27）あり、両韻の互用例は全部で 26 例あり、約 19%を占める。庚開と耕開が通用していると考えられる。

5.1.3.6 庚合と耕合

	庚	耕		庚	耕
09328 鐄	胡盲	侯萌	01500 擭	一號	烏獲

01555 擭	一號	烏獲			

	耕	庚		耕	庚
03371 紘	户萌	横（胡盲）	03447 鉉	戸萌	横（胡盲）
16109 繣	呼麥	呼陌			

庚合と耕合はそれぞれ 9 例（平 1、上 7、入 1）、23 例（平 17、入 6）あり、両韻の互用例は全部で 6 例あり、約 16%を占める。両韻は通用していると考えられる。

5.1.3.7 咸韻と銜韻

	咸	銜		咸	銜
17441 闞	火斬	呼檻	29025 闞	火斬	呼檻
01020 插	楚洽	楚甲	03198 插	楚洽	楚甲
07031 箑	山洽	所甲	08286 箑	山洽	所甲
27022 插	楚洽	楚甲	29032 鍤	楚洽	楚甲

	銜	咸		銜	咸
00026 監	古銜	緘（古咸）	03336 巉	鋤銜	鋤咸
04066 嵌	口銜	苦咸	09464 巉	鋤銜	助咸
27053 艦	胡黯	胡減	26068 芟	所銜	所咸

咸韻と銜韻はそれぞれ 12 例（平 6、上 1、入 5）、16 例（平 3、上 1、入 12）ある。両韻の互用例は全部で 14 個（33%）と、かなり多い。

また、下の例もある。

	影狎二	影豏
05111 壓	烏狎	烏減

これは銜韻入声と咸韻上声の通用例であり、両韻が通用している傍証例となろう。

さらに、銜韻字は直接「咸」を、豏韻字は直接「檻」を反切下字としている。

以上から、両韻が既に通用していることが考えられる。

5.1.4 三等重韻の通用例

5.1.4.1 東韻三等と鍾韻

	東三	鍾
09578 汎	扶隆	逢（符容）

	鍾	東三
02560 躅	直錄	直六

東韻三等と鍾韻はそれぞれ 102 例（平 12、去 1、入 89）、86 例（平 40、上 11、去 5、入 30）ある。両韻の互用例は僅か 2 例であるが、合流の兆候と見なし得よう。

5.1.4.2 支開と脂開と之韻と微開

	支	脂		支	脂
04089 栘	弋支	夷（以脂）	04500 羆	彼爲 B	悲（府眉）B
06556 踦	去奇 B[84]	巨眉 B	10242 縻	靡爲 B	眉（武悲）B
29004 裨	府移 A	毗<房脂>A	11001 訾	即移	資（即夷）
01568 襹	<所宜>	師（踈脂）	01107 掎	居綺 B	几（居履）B
01336 錡	魚倚 B	魚几 B	01597 豸	池尔	雉（直几）
02247 褫	池尔	雉（直几）	03237 錡	魚倚 B	魚几 B
03367 剞	居綺 B	几（居履）B	03546 錡	魚倚 B	魚几 B
09050 褫	池尔	雉（直几）	09170 蟻	魚倚 B	魚几 B
09507 掎	居綺 B	几（居履）B	01559 阤	池尔	雉（直几）
01442 阤	池尔	雉（直几）	30081 艤	<魚倚>B	魚几 B
02454 啻	施智	失至	10306 積	紫智	恣（資四）
20042 寘	支義	至（脂利）			

	脂	支		脂	支
01294 鬐	渠脂 B	岐（渠羈）B	02025 岯	符悲 B	披（敷羈）B
10012 阺	<直尼>	池（直知）	10320 坻	直尼	池（直知）
02031 圮	符鄙	平彼	23104 圮	符鄙	平彼

	支	之		支	之
02064 褫	息移	絲（息茲）	02490 椅	於離	於其
07077 篪	直知	持（直之）	10056 崎	去奇 B	欺（去其）
10273 卮	章移	之（止而）	02115 迆	移尔	弋止
01097 掎	居綺 B	己（居以）	02012 枳	諸氏	止（諸市）

[84]B は重紐三等を指し、A は重紐四等を指す。以下同。

01488批	茲尔	滓（側李）	05211 軹	諸氏	止（諸市）
01492 枳	諸氏	止（諸市）	09041 錡	魚倚 B	擬（魚紀）
09603 弛	式是	始（詩止）	10256 弛	式是	始（詩止）
23033 纚	所綺	史（踈士）	28066 軹	諸氏	止（諸市）
30005 庀	匹婢 A	匹耳	09173 迆	移尔	以（羊止）

	支	微		支	微
04659 碕	渠羈 B	巨衣	04277 埼	渠羈 B	巨依

	微	支		微	支
08077 欷	許既	虛義	08233 欷	許既	虛義

	脂	之		脂	之
16086 薋	疾脂	茲（子慈）	01104 兕	徐姊	似（詳里）
01475 兕	徐姊	似（詳里）	03168 兕	徐姊	似（詳里）
06516 兕	徐姊	似（詳里）	06118 跽	暨几 B	渠巳
20026 砥	職雉	止（諸市）	10062 砥	職雉	止（諸市）
23104 圮	符鄙 B	平彼 B	18111 覬	几利	記（居吏）
09098 緻	直利	直吏	09352 肄	〈羊至〉	異（餘吏）
10221 肄	〈羊至〉	異（餘吏）	10264 肄	〈羊至〉	異（餘吏）
10298 肄	〈羊至〉	異（餘吏）	17169 膩	女利	女吏

	之	脂		之	脂
03436 颸	楚持	側眉	04405 犛	理之	黎(力脂)
04608 犛	理之	梨(力脂)	04655 嬉	許其	虛眉
09431 犛	理之	黎(力脂)	16114 詒	與之	異眉
23093 熹	許其	許眉	28038 輜	側持	側眉
30023 菑	〈側持〉	側眉	00037 其	〈居之〉	饑（居脂）
23014 其	〈居之〉	肌（居脂）	27033 厎	諸市	旨（職雉）
04566 偫	直里	雉（直几）	10118 痔	直里	雉（直几）
10227 跱	直里	雉（直几）	21070 厎	諸市	指（職雉）
21079 厎	諸市	旨（職雉）	24157 葸	胥里	死（息姊）
06547 耗	仍吏	二（而至）	10134 珥	仍吏	二（而至）
15043 笥	相吏	四（息利）	17274 珥	仍吏	二（而至）

21058 佴	仍吏	二（而至）	21182 餌	仍吏	二（而至）
25017 珥	仍吏	二（而至）			

	脂	微
01357 痏	榮美	于鬼

	之	微		之	微
04614 嬉	許其	希(虚機)	08209 噫	於其	依(於機)
09196 噫	於其	衣(於機)	09391 儗	魚記	毅（魚既）

	微	之		微	之
18114 蘄	渠希	其(渠之)	03342 狶	希豈	虚己
04606 豨	希豈	喜（虚里）	18051 狶	希豈	喜（虚里）
20070 扆	依豈	於紀	01334 衣	於既	意（於記）
03094 黖	〈許既〉	許意	09158 欷	許既	許意

止摂開口韻はそれぞれ支韻 194 例、脂韻 102 例、之韻 99 例、微韻 18 例ある。そのうち、互用例は支・脂韻が 29 例（9%）、支・之韻は 18 例（6%）、支・微韻は 4 例（2%）、脂・之韻は 41 例（17%）、脂・微韻は 1 例（1%）、之・微韻は 12 例（9%）ある。これから見ると、それぞれの混同比率は高くないが、支脂、支之、支微、脂之、脂微、之微など 6 種の互用例が全て出現している。

しかも、「04239 袘（移尔）[85]，以示」「04444 貤（羊至），羊氏」のような支韻上声と脂韻去声との互用例もあれば、「09387 植（直吏），雉」のような脂韻の上声と之韻の去声との互用例もある。止摂開口の諸韻は通用していると思われる。

5.1.4.3 支合と脂合と微合

	支	脂		支	脂
03581 劑	觜隨	子遺	18116 眭	息爲	雖（息遺）
28017 墮	〈許規〉A	許惟 A	01037 詭	居委	軌（居洧）
05280 靃	息委	私壘			

	脂	支		脂	支
17257 痿	於隹 A	於爲	17398 藟	力軌	累（力委）

[85]括弧のなかは《王三》の反切であり、「，」の後ろは五臣音注である。以下同。

	支	微
09557 逶	於爲	威（於非）

	微	支
09574 虺	許偉	毀（許委）

	脂	微		脂	微
02553 鮪	榮美	于鬼	03060 鮪	榮美	偉（韋鬼）
16110 洧	榮美	于鬼	09226 喟	丘愧 B	丘謂

止摂合口韻はそれぞれ支韻 50 例、脂韻 67 例、微韻 46 例ある。各々の互用例はそれぞれ支脂韻が 7 例（6%）、支微韻が 2 例（2%）、脂微韻が 4 例（3%）である。両韻の混同比率は、高くない。しかし、止摂合口韻には通用できる 3 種の互用例は全て出現し、止摂開口韻も通用しているため、止摂合口の諸韻も通用していると考えられる。また、重紐 A 類と B 類の対立に混乱は見られない。

5.1.4.4 真開と臻韻と殷韻

	臻	真		臻	真
03572 莘	踈臻	所巾	05156 榛	仕臻	仕巾
08055 蓁	側詵	側巾	09051 榛	仕臻	仕巾
10039 榛	仕臻	士巾	10071 莘	踈臻	所巾
10246 榛	仕臻	仕巾	17143 蓁	側詵	側巾
27011 莘	踈臻	所巾	05019 蝨	所櫛	所乙
09475 瀄	阻瑟	側乙	17386 瀄	阻瑟	側筆
27004 蝨	所櫛	山乙			

真韻開口と臻韻はそれぞれ 189 例、12 例あり、互用例は上表で示したように 13 例ある。両韻の全数から見ると少ないが、自用例が僅か 12 個の臻韻にとって、互用例が半数以上を占めることから、両韻が通用していると言える。

	真	殷		真	殷
14003 憫	眉隕	眉隱	30036 憖	魚覲	魚靳
08089 憖	魚覲	魚靳	21014 僅	渠遴	其靳
29083 憖	魚覲	魚靳	30029 憖	魚覲	魚靳
30035 憖	魚覲	魚靳			

	殷	真		殷	真
03438 汔	許訖	虚乙	06035 屹	魚迄	魚乙
06064 屹	魚迄	魚乙	04064 仡	許訖	魚乙
06099 仡	許訖	魚乙	06113 斷	語斤	銀（語巾）B

殷韻が僅か 7 例であるのに対して、真韻字を反切下字とするのは 6 例である。両韻が通用していると考えられる。この他に臻韻と殷韻の通用例が 1 例あり、次の通りである。

	櫛	迄
04286 瀄	阻瑟	阻乞

以上から真開と臻韻と殷韻の 3 韻は通用していると考えられる。

5.1.4.5 真合と文韻

	真	文
11068 麕	〈居筠〉	居雲

	文	真		文	真
06543 篔	〈王分〉	筠（王麕）	01574 欻	許物	許律

真韻合口は 65 例、文韻は 71 例ある。互用例は僅か 3 例（2%）であるが、両韻に合流の兆候が見られる。

5.1.4.6 元開と仙開

	仙	元		仙	元
01283 騫	去乾	軒（虚言）	13070 搴	居輦 B	居偃
30068 朅	去竭 B	去謁			

元韻開口は 12 例あり、仙韻開口は 156 例である。両韻の互用例は僅か 3 例（2%）に過ぎない。しかし、元韻から見ると、その比率は五分の一にのぼる。

5.1.4.7 元合と仙合

	仙	元		仙	元

08051 湲	王權	爰（韋元）	17020 湲	王權	爲元
17389 湲	王權	爰（韋元）	30062 孌	力兗	力婉

元韻合口は 92 例あり、仙韻合口は 83 例である。両韻の互用例は開口韻と同様に 3 例（2%）ある。

元開と仙開、元合と仙合の互用例はそれほど多くはないが、元韻は仙韻との密接な関係を暗示している。

5.1.4.8 尤韻と幽韻

	尤	幽		尤	幽
04129鰡	〈力求〉	力幽	03383 鷚	力救	力幼

	幽	尤		幽	尤
02482 彪	甫休	筆尤	03279 驫	甫休	必由
06588 樛	居虯	居由	09473 彪	甫休	筆尤
13015 樛	居虯	吉留	06105 蟉	渠糾	於酉
03566 黝	於糾	一柳	04425 蟉	渠糾	岐酉
14062 繆	靡幼	亡又	21076 謬	靡幼	蜜救

尤韻と幽韻はそれぞれ 149 例と 18 例である。そのうち、幽韻字が尤韻字を反切下字とするのは 10 例あり、36%を占める。その上、それぞれ「幽」を尤韻字の、「尤」を幽韻字の反切下字に用いる例もあり、両韻が通用していると考えられる。

5.1.5 まとめ

①一等・二等・三等重韻がそれぞれ通用している。

《切韻》系韻書に見られる重韻は全部で 25 組あり、うち一等韻は 4 組、二等韻は 7 組、三等韻は 14 組である。五臣音注では、遇摂の魚韻と虞韻、蟹摂の廢韻と祭韻、梗摂の庚韻と清韻、咸摂の鹽韻と嚴韻と凡韻を除く 19 組の重韻にはそれぞれ通用例があり、次の通りである。

等呼	通用の例数
一等	東冬 9、泰開代 11、泰合隊 16、覃談 20
二等	佳開皆開夬開 12、佳合皆合夬合 1、刪開山開 3、刪合山合 4、庚開耕開 26、庚合耕合 6、咸銜 13
三等	東鍾 2、支開脂開之微開 105、支合脂合微合 13、真開臻殷 26、真合文 3、

	元開仙開 3、元合仙合 4、尤幽 12

この表に見られるように、重韻の通用例は一、二、三等に及び、その数も少なくないため、五臣音注において各等の重韻は合流していると考えられる。そのうち、特に止摂 4 韻の混同、洽韻と狎韻の通用などは注目すべきである。

韻部の合流は五臣音注の特徴の 1 つであり、中古音韻の発展傾向を反映している。

②通摂の一等・三等重韻がそれぞれ通用し、互いに混同例がない。

前述のとおり、東韻一等と冬韻、東韻三等と鍾韻はそれぞれに通用するが、一等韻と三等韻は混同しない。

通摂 3 韻の通用は中古音韻史上においては一般的な現象であり、例えば邵榮芬（2009：242）、丁鋒(1995：61)、周祖庠(2001：8)にはその通用について指摘している。董宏鈺（2012：79）でも“可以認為《文選》五臣注中的三韻已有混同的趨勢，暫將東冬鍾三韻合併。”と述べている。小論では“三韻已有混同的趨勢”には同意できるが、“暫將東冬鍾三韻合併”についてはさらに検討する余地があると考えている。

羅常培《唐五代西北方音》では通摂について、同様に一等、三等韻でそれぞれに通用例は見られるが、互いに混同していない、と述べている。

③魚韻と虞韻が通用していない。

五臣音注には魚韻字が 121 例（平 60、上 45、去 16）、虞韻字が 127 例（平 64、上 40、去 23）ある。既述のとおり、五臣音注において各等の重韻のほとんどに通用例が見られるが、魚韻と虞韻は合計 248 例あるにも関わらず、互用例は 1 つもない。丁鋒（1995：55）は“魚虞必定一開一合，否則無法解釋同等同呼在其他大批韻組裏都混同的音系裏，它們毫無牽連。”と論じた。とすれば、模韻と互用例がある虞韻は合口韻に属すると推測できる。

《顔氏家訓・音辞篇》には“北人以庶為戍，以如為儒”との記述があり、つまり北方では魚韻と虞韻が同音になっていたということを意味している。しかし、慧琳《一切經音義》、唐五代西北方音などの資料でも魚韻と虞韻が通用する例は僅かしかなく、両韻が通用すると判断するには根拠が足りないためまだ検討の余地がある。顔氏のこの論述は当時の北方の一方言に対する説であると理解すればよかろう。

④元韻は仙韻と通用しているが、臻摂韻と混同しない

《切韻》系韻書では、元韻と「真・臻・文・殷・魂・痕」の諸韻を一緒に配列するため、《経史正音切韻指南》ではこの 8 韻を同じ臻摂に記入している。しかし、五臣音注ではこれと異なり、元韻と仙韻は重韻として通用している。実は、《韻鏡》でも元韻を山韻・仙韻と同図としている。史存直（1997：211-235)、馬德強（2011：29-32）では元韻の配列位置について、韻書と韻図のこの違いは南北言語の差異であり、元韻が山摂に属するのは北方言語の特徴であると指摘している。

5.2 重紐韻

5.2.1 重紐とは

《切韻》系韻書では、支韻・脂韻・祭韻・真韻・仙韻・宵韻・侵韻・鹽韻などの 8 韻と結合する唇音・牙音・喉音の 3 組の声母において、同声・同韻・同声調・同開合の小韻が 2 つある。これを「重紐」と呼ぶ。例えば《王三》の平声支韻では、下のような例がある。

①a 陂　彼爲反　幫母支韻開三平聲
　b 卑　府移反　幫母支韻開三平聲
②a 奇　渠羈反　羣母支韻開三平聲
　b 祇　巨支反　羣母支韻開三平聲
③a 犧　許羈反　曉母支韻開三平聲
　b詛　香支反　曉母支韻開三平聲

3 組とも a と b の反切の音韻地位は全く同一である。このような同声・同韻・同声調・同開合の反切が 2 回あらわれ、一見するとまるで重複したように思われる小韻が重紐である。韻図では、この 2 種の反切の片方を三等韻に配し、もう片方を四等韻に記入している。ここでは李栄《切韻音系》(1952) に従い、三等韻に記入する反切を「重紐 B 類」と称し、四等韻に記入する反切を「重紐 A 類」と呼ぶ。

5.2.2 重紐三等と重紐四等の通用例

①支韻

	支開 A	支開 B
17279 蚑	＜巨支＞	巨宜

	脂開 B	脂開 A
23001 鬌	渠脂	巨夷

李栄（1952：43）は「鬌，渠脂」を脂韻 B 類に分類する一方で、「伊，於脂」を A 類に分類している。邵榮芬（2008：168）も同様の分類である。しかし反切下字がともに「脂」でありながら、2 類に区分するのはやはり問題があるだろう。ただ残念ながら、「系聯法」を用いても五臣音注における「鬌」の所属をはっきりさせることができなかった。しかし《康熙字典》によると、《集韻》と《韻會》では「鬌」の反切は共に「渠伊」である。「伊」は A 類に属すため、「23001 鬌，巨夷」を重紐三等・四等との通用例とするべきかまだ検討する余地がある。

②真韻

	真合 B	真合 A
02363 輑	〈去倫〉	丘均

五臣音注には「01580 輑，屈筠」の例もある。「均」と「筠」はともに真韻字に属し、前者は A 類で、後者は B 類である。前にも述べたが、現存する五臣音注には形声字の声符と形声字の混同が良くあるため、「均」は「筠」の誤りである可能性がある。

③質韻

	幫質開 B	幫質開 A		明質開 A	明質開 B
09124 咇	鄙密	必(比蜜)	09551 謐	無必	密（美筆）

ここにおいても字形の混同例があり、「密」と「蜜」はその例である。「09551 謐」に対し、五臣音注にはまた「10258 音蜜」という直音注を付けているため、「密」は「蜜」の誤写の可能性がある。

④仙韻

	仙開 B	仙開 A
14042 閼	〈於乾〉	於延

	溪薛開 B	溪薛開 A		溪薛開 B	溪薛開 A
02609 朅	去竭	綺列	11022 朅	去竭	綺列

⑤宵韻

	溪宵 A	溪宵 B		溪宵 A	溪宵 B
02511 蹻	去遥	綺驕	06345 蹻	去遥	去喬
17463 蹻	去遥	綺喬			

李栄（1952：43）は「蹻，去遥」を宵韻 A 類に、「趫，去遥」を宵韻 B 類に分類した。全く同一の反切を異なる類型に配すことは、李栄氏も認めておられるように、この 2 つの小韻の音韻地位には問題がある。《韻鏡》宵韻溪母三等・四等欄には共に「蹻」があり、「趫」はない。《七音略》では三等欄に「趫」を置き、四等欄に「蹻」を置く。この 2 字については更なる研究が必要である。五臣音注では 2 字とも溪母宵韻 B 類の反切を付けているためこの問題を解決する糸口となるだろう。

⑥侵韻

	影緝 A	影緝 B
09100 挹	伊入	邑（英及）

①から⑥に示した重紐三等と重紐四等の通用例は全部で 12 例あり、重複音注を除けば、わずか 9 字のみである。また分析により、その 9 例は全部が真の通用例であるか更に検討する必要がある。

重紐三等と重紐四等の通用例が 12 例であったとしても、後述の重紐四等と純四等韻の通用例よりはかなり少ない。重紐三等と重紐四等が混同しているとは考えられない。

5.2.3 重紐韻と重紐韻の通用例

前述（5.1.4）の通り、五臣音注では止摂の 4 韻は既に通用している。そのうち、重紐韻である支韻と脂韻の通用例は下の通りである。

5.2.3.1 支韻 B 類と脂韻 B 類

	支開	脂開		支開	脂開
04500 羆	彼爲 B	悲（府眉）B	10242 縻	靡爲 B	眉（武悲）B
03367 剞	居綺 B	几（居履）B	09507 掎	居綺 B	几（居履）B
03237 錡	魚倚 B	魚几 B	09170 蟻	魚倚 B	魚几 B
03546 錡	魚倚 B	魚几 B	30081 艤	<魚倚>B	魚几 B
01107 掎	居綺 B	几（居履）B	01336 錡	魚倚 B	魚几 B

	脂開	支開		脂開	支開
01294 鬠	渠脂 B	岐（渠羈）B	23104 圮	符鄙 B	平彼 B
02031 圮	符鄙 B	平彼 B			

5.2.3.2 支韻 A 類と脂韻 A 類

	支合	脂合
28017 墮	<許規>A	許惟 A

	支開	脂開
29004 裨	府移	毗<房脂>A

五臣音注では、重紐支韻と重紐脂韻の通用例は「5.2.3.1」と「5.2.3.2」の表に示したとおり支韻 B 類と脂韻 B 類、支韻 A 類と脂韻 A 類のように使い分けている。これも重紐三等と重紐四等が混同していない根拠の 1 つになるであろう。

5.2.4 重紐韻と普通三等韻の通用例

5.2.4.1 支韻と之韻・微韻

①支韻開口と之韻・微韻

	支開	之		支開	之
02490 椅	於離 B	於其	10056 崎	去奇 B	欺（去其）
09041 錡	魚倚 B	擬（魚紀）	01097 掎	居綺 B	己(居以)

	支開	微開		支開	微開
04277 埼	渠羈 B	巨依	04659 碕	渠羈 B	巨衣

②支韻合口と微韻合口

	影支合	影微合			
09557 逶	於爲 B	威（於非）			

5.2.4.2 脂韻と之韻

	旨開	止		至開	志
06118 跽	暨几 B	渠巳	18111 覬	几利 B	記（居吏）

5.2.4.3 真韻と欣韻・文韻

①真韻開口と欣韻

	真開	欣		真開	欣
08089 憖	魚覲 B	魚靳	14003 憫	眉殞 B	眉隱
29083 憖	魚覲 B	魚靳	21014 僅	渠遴 B	其靳
30029 憖	魚覲 B	魚靳	30035 憖	魚覲 B	魚靳
30036 憖	魚覲 B	魚靳			

②真韻合口と文韻

	真合	文
11068 麏	＜居筠＞	居雲

5.2.4.4 仙韻開口と元韻開口

	仙開	元開		獮開	阮開
01283 騫	去乾 B	軒（虚言）	13070 搴	居輦 B	居偃

5.2.4.1から5.2.4.4までの各表に示したように、五臣音注では重複音注を除けば、重紐韻と普通三等韻の通用例は16例あり、全て重紐三等に属している。全体から見ると、例外は僅かに下の1例に過ぎない。

	並至開	並志開
06214 比	毗四 A	毗志

5.2.5 重紐韻と純四等韻の通用例

5.2.5.1 仙韻と先韻

	仙合	先合		仙合	先合
05173 悁	於緣 A	涓（古玄）	08154 悁	於緣 A	於玄
09145 悁	於緣 A	烏玄	13027 悁	於緣 A	於玄
16054 悁	於緣 A	一玄			

	霰合	線合		霰開	線開
02626 絢	許縣	呼絹 A	22050 見	戸見[86]	胡面 A

	屑開	薛開		屑開	薛開
04074 蠛	莫結	滅（亡列）A	05182 閉	方結	并滅 A

	薛開	屑開
04553 弊	扶別 A	步結

以上の 4 表からわかるように、重紐仙韻では先韻との通用例が 10 例あり、全て重紐四等に属している。

5.2.5.2 宵韻と蕭韻

	篠	小
02412 偃	<烏皎>	於眇 A

重紐宵韻では蕭韻との通用例が1例あり、重紐四等に属している。

「5.2.5.1」と「5.2.3.2」の表に示した重紐韻と純四等韻の通用例は全 11 例あり、重複音注を除けばわずか7例しかないが、通用例は全て重紐四等韻に属し、重紐四等

[86] 被注字は「現」であると考えられる。

韻と純四等韻の合流を反映している。

5.2.6 まとめ

重紐問題は音韻学史上重要な問題であり、日本と中国では多くの学者がこの問題について論じた。争点は主に次の 2 点である。

まず、重紐三等と重紐四等には音声区別があるのか。章太炎、黄季剛、高本漢、王力、陳新雄、周祖庠などは両者には音声区別が存在しないという立場を取る。逆に周法高、黄笑山、余迺永、楊劍橋、潘悟雲などは音声区別があると主張する。日本の万葉仮名の母音には甲類と乙類の区別があり、甲類の i は主に重紐四等字で表すのに対し、乙類の i は主に重紐三等字で表す、というように使い分けられているため、重紐の B 類と A 類は音声区別があると認められている。

次に、重紐の B 類と A 類の区別はどこにあるのか。これについては「介母説」、「主母音説」、「声母説」、「韻尾説」などがある。

この 2 つの問題に関しては、5.2.2 から 5.2.5 に述べた通り、五臣音注では重紐三等と重紐四等に区別があり、反切下字で弁別できる。

また、重紐三等と普通三等韻、重紐四等と純四等韻はそれぞれ合流している。

5.3 三等韻と四等韻

上述の通り、純四等韻と重紐四等とは通用している。また純四等韻は重紐以外の三等韻とも通用例がある。

5.3.1 同摂の三等・四等韻の通用例

5.3.1.1 先韻と仙韻

	先開四	仙開三		先開四	仙開三
28058 臬	〈五結〉	魚列	10115 齞	〈研峴〉	牛善

5.3.1.2 蕭韻と宵韻

	蕭四	宵三		蕭四	宵三
09056 幺	於堯	於遙 A	24080 徼	古弔	工遙
03465 湫	子了	子小	03485 湫	子了	子小
10009 湫	子了	子小	28025 湫	子了	子小
02227 裹	奴鳥	寧小			

	宵三	蕭四		宵三	蕭四
03704 勦	子小	子了	09210 嫽	力小	了（盧鳥）

そのほかに下の例がある。

	蕭四上	宵三去
05054 掉	徒了	田曜

	宵三去	蕭四上
01600 要	於笑	杳（烏皎）

この 2 例は共に蕭韻上声と宵韻去声の通用例であり、蕭韻と宵韻が通用している傍証と見てよい。

5.3.1.3 支韻・脂韻と斉韻

	齊開四	支開三
04457 欐	盧啓	力是

	齊開四	支開三
05231 麗	魯帝	力智

	脂三合	霽四開
02322 淚	力遂	力計

斉韻と相配する三等韻は祭韻であるのか、それとも支韻系であるのか、という問題については様々な見解がある。この点について馮蒸（1995：56）は、“我們認為齊韻早期並與支、祭相配，後來支韻音與脂之相近而入止攝，而祭韻則一直在蟹攝，故後期與齊韻系相配的三等韻是祭韻而非支韻。”と論じた。《博雅音》（丁鋒 1995：57）では、斉韻と止摂、祭韻は共に通用例があったが、五臣音注では祭韻字が 60 例あるものの、斉韻系との互用例は 1 例も見られない。上掲 3 例のように、支韻系と斉韻系の通用例は 2 例で、脂韻系と斉韻系の通用例は 1 例で、その例は決して多くはないが、斉韻と止摂の密接な関係を示している。また、重韻について論述した際にも触れたが、五臣音注では止摂の 4 韻は既に通用している。馮蒸（1995：56）によると、支韻が止摂に入った後、斉韻と相配する三等韻は祭韻となるが、五臣音注はこれと異なっている。

5.3.1.4 鹽韻と添韻

	鹽	添
01562 銛	息廉	息兼

	添	鹽
08203 熏	勒兼	廉（力鹽）

	豔	桥		豔	桥
01162 焱	以贍	翊念	02240 塹	七贍	七念

29011 塹	七贍	七念	03445 豔	以贍	余念

	葉	怗
03398 楫	紫葉	子叶

	怗	葉
03347 鋏	古協	古葉 A

5.3.1.5 青韻と清韻・庚三韻

①青韻と清韻

	青開	清開		青開	清開
10109 頩	普丁	普并	24028 螟	莫經	名（武并）
08272 俜	普丁	匹成	27002 瞑	<莫經>[87]	名（武并）
27003 瞑	<莫經>	名（武并）	20017 剄	古挺	古郢
03066 鼈	北激	辟（必益）	09529 析	先擊	昔（私積）
16039 鷁	五歴	俄亦	20020 析	先擊	昔（私積）
06397 滎	胡丁	於營			

	清開	青開
17039 擗	房益	普覓

	青開上	清開去
21019 剄	古挺	古令

②青韻と庚三韻

	迥合	梗合		迥合	梗合
06331 烱	戶鼎	古永	30045 烱	戶鼎	古永

青韻と相配する三等韻は清韻のみであるのか、という問題は争論の焦点となっている。五臣音注には青韻と庚韻の互用例は上表で示した僅か１例しかないが、青韻と庚韻の密接な関係を示している。馮蒸（1995：56）では、

> 在《切韻》音系中“庚三”與“清”應視為一對重紐韻，所以它們應該共同與純四等韻系相配、傳統說法認為與青韻相配的只是清韻，並且不認為清韻是重紐，如果這樣的話，則此對韻系與其他四對韻系相配情況明顯不類，這是很特別的。雖然任何例外情況都可能存在，但無疑更應存在着與青韻系相配的應是一對重紐韻的可能性。

と述べた。五臣音注だけでなく、《博雅音》（丁鋒 1995：59）にも青韻と庚三韻の

[87] 王三未收義。

通用例がある。

5.3.2 異摂における三等・四等韻の通用例

	尤開流摂	蕭開効摂		尤開流摂	蕭開効摂
05198 飂	力求	聊（落蕭）	08144 飂	力求	聊（落蕭）
21153 勠	力求	力彫			

	錫開梗摂	職開曾摂		錫開梗摂	職開曾摂
17470 轢	閭激	力（良直）	18011 礫	閭激	力（良直）
23149 逖	他歴	土力	24052 倜	他歴	天力

5.3.3 まとめ

純四等韻は斉韻・先韻・蕭韻・青韻・添韻の 5 韻であり、ほかの三等韻との通用例は下表に示している。

	斉韻	先韻	蕭韻	青韻	添韻
仙韻 A 類		10			
宵韻 A 類			1		
支韻	2				
脂韻	1				
仙韻		2			
宵韻			11		
塩韻					8
清韻				13	
庚三韻				2	

上表に示したように、純四等韻の 5 韻は共に相配する三等韻との通用例があり、例数はそんな多くはないが、各韻に及んでいるため、三等韻と四等韻は通用していると考えたい。

5.4 本章の主要な結論

この章では重韻、重紐韻、三等韻と四等韻の 3 つの問題について検討した。以下の結論が得られた。

①一等・二等・三等重韻はそれぞれ通用している。

②重紐三等は普通三等韻と、重紐四等は純四等韻とそれぞれ通用しているが、重紐三等と重紐四等は反切下字で区別できる。
③四等韻と三等韻が通用している。

第六章　五臣音注の韻母体系（下）

6.1 同摂異等韻の通用例

6.1.1 一等韻と二等韻

6.1.1.1 山摂の寒韻と刪韻

	明濟開二	明寒開一
09374 矕	武板	莫干

寒韻開口は 68 例､刪韻開口は 19 例あり､両韻の通用例は上表に示した僅か 1 例で、約 1%を占める。

6.1.1.2 咸摂の咸韻と覃韻

	崇豏二	崇感一
09300 瀺	士減	仕感

咸韻は 11 例、覃韻は 106 例あり、両韻の通用例は上表に示した僅か 1 例で、約 1%を占める。

上の 2 表で示すように、五臣音注には一等韻と二等韻の通用例が全部で 2 例しかなく、一等韻と二等韻は混同していないと考えられる。

6.1.2 二等韻と三等韻

6.1.2.1 山摂の山韻と仙韻

	疑獮開	疑産開
01245 齴	魚蹇 B	眼（五限）

	崇仙合	崇産開
16053 僝	〈士戀〉	士簡

山韻開口は 13 例、仙韻開口は 156 例あり、両韻の通用例は上の 2 表に示した 2 例であり、約 1%を占める。

6.1.2.2 梗摂の庚韻と清韻

	知敬開二	徹勁開
29014 偵	猪孟	恥令

庚韻二等開口は 52 例、清韻開口は 90 例あり、両韻の通用例は上表に示した 1 例しかなく、約 1%を占める。

6.1.2.3 咸摂の銜韻と塩韻

	崇銜二	崇琰三
01246 巉	鋤銜	助奄 B

	匣狎二	云葉三
23068 霅	胡甲	爲輒

	影葉三	影狎二
30033 厭	於葉 A	烏甲

銜韻は 16 例、塩韻は 98 例あり、両韻の通用例は上の 3 表に示した 3 例であり、約 3%を占める。

6.1.2.1 から 6.1.2.3 までの各表から、五臣音注には二等韻と三等韻の通用例が全部で 6 例しかなく、さらにほぼ孤立例であるため、二等韻と三等韻は混同していないと考えられる。

6.1.3 一等韻と三等韻

6.1.3.1 通摂の冬韻と鍾韻

	泥冬一	娘鍾三
17406 膿	<奴冬>	女恭

冬韻は 8 例、鍾韻は 86 例あり、両韻の通用例は上表の 1 例（約 1%）しかなく、さらに、前述の通り東韻三等字は鍾韻字と、東韻一等字は冬韻と通用するというように整然と使い分けられているため､通摂の一等韻と三等韻は通用していないと思われる。

6.1.3.2 遇摂の模韻と虞韻

	知虞三	知模一		初虞三	初模一
23102 邾	陟輸	知途	27091 芻	測禹	楚孤

	影模一	影虞三			
06263 盂	哀都	乙于			

	疑暮一	疑遇三		影暮一	影遇三
24033 遝[88]	<五故>	遇(虞樹)	01352 污	烏故	烏遇

[88]原文は「逆」とするが、誤りである。

模韻例は 163 例（平 70、上 48、去 45）、虞韻は 127 例（平 64、上 40、去 23）ある。両韻の通用例は 5 例であり、約 2%を占める。同じ三等韻でも、虞韻は魚韻とは通用例がないのに対し、一等の模韻あるいは侯韻とは通用例があるということは、虞韻の「i」介母が失われたと推測できる。しかし、同音字表に示しているように、虞韻では非・敷・奉・微の 4 母が既に派生していた事実によって、虞韻は「i」介母を持っていると考えられる。よって、虞韻の「i」介母問題についてはさらに検討する必要があると思われる。

6.1.3.3 臻摂の魂韻と文韻

	影魂一	影文三
05030 轀	烏渾	於云

五臣注によると、「轒轀」は「匈奴車名」であり、固有名詞であるため、特定の読み方の可能性が高いので、音変例としてはさらに検討する必要がある。

	滂慁合一	滂問合三
06469 噴	普悶	普問

	溪沒合一	疑物合三
01208 窟	苦骨	魚屈

五臣注によると、「隆窟」は「特起」の意味である。管見の限りでは、「窟」のこの使い方は韻書にも、字書にも、大島正二『唐代字音の研究』（1981：430）にもないため、恐らく「魚屈」の帰字は「窟」ではない。音変例とするかはさらに検討する必要がある。

	敷物合三	滂沒合一
24121 茀	敷物	浦沒

五臣注によると、「茀」は「妖星」である。また《漢語大字典》では、

彗星的一種。《史記齊太公世家》“茀星將出，彗星何懼乎？”《漢書李尋傳》：“（辰星）政絕不行則伏不見而為彗茀。”顔師古注：“茀與孛同”。

と注釈している。この意味に対しては《集韻》の反切である「蒲味切」を引用している。これからわかるように、「24121 茀」については、《王三》の反切である「敷物」と、五臣の反切である「浦沒」は異なる意味に対する異なる音であり、真の音変例で

はない。

上の分析からわかるように、魂韻と文韻の真の通用例は「06469 噴，普問」のみである。魂韻は 124 例、文韻は 71 例あり、互用例は僅か 1 例（1%）である。魂韻と文韻は通用していないと考えられる。しかし、「噴」は常用字であり、1 例だとしても一等韻と三等韻の密接な関係を示唆している。

6.1.3.4 宕摂の唐韻と陽韻

	影蕩開一	影養開三
06038 坱	烏朗	鞅（於兩）

	影養開三	影蕩開一
03496 岟	〈於兩〉	烏朗

	曉蕩合一	曉養合三
06058 爌	虎晃	呼往

	影鐸合一	影藥合三
13006 蠖	烏郭	烏縛

また下の例がある。

	影養開三	影唐開一
09378 柍	於兩	烏郎

	來漾開三	來蕩開一
17098 悢	力讓	朗（盧黨）

「09378 柍」は陽韻上声と唐韻平声の通用例であり、「17098 悢」は陽韻去声と唐韻上声の通用例であり、共に陽韻と唐韻の通用例とみなせる。

唐韻字は 157 個あり、陽韻字は 220 個ある。両韻の通用例は上掲の 6 例（2%）である。

6.1.3.5 流摂の尤韻と侯韻

	奉尤三	奉侯一		明尤三	明侯一
02172 罘	縛謀	伏侯	06503 眸	莫浮	莫侯
10088 罘	縛謀	伏侯	18072 眸	莫浮	莫侯
			03703 蝥	莫浮	莫侯

	生宥三	生候一
06568 漱	所救	所遘

合口三等尤韻明母字が軽唇音化しない事象について、王力《漢語史稿》（2004：

134-135）は次のように述べた。

> 雙唇音一部分字分化為唇齒音，分化的條件是合口三等。合口三等是帶有韻頭 w 或全韻為 u 的韻母。凡合口三等的雙唇字，到了後來一律變了唇齒音。表面上有一個例外，就是尤韻的開口三等字，如“浮”“婦”“負”“富”等。實際上這並不是例外，因為這些字在沒有變為唇齒音以前，已經轉到虞韻去了，而虞韻正是 u 音。

また、邵榮芬《<切韻>尤韻和東三等唇音聲母字的演變》（2009：118）は

> 我們比較相信，《切韻》尤韻和東三明母字之所以沒有變輕唇，完全是它們在唇音輕化之前已經失去前腭介音，變入一等，從而使唇音輕化規律對它們不起作用的結果，而不是別的甚麼原因。

と論じた。

上の引文からわかるように、尤韻の非母・敷母・奉母は派生したが、微母が派生していない。その理由について、王氏は非・敷・奉三母の尤韻が虞韻と混同したために派生し、明母の尤韻が虞韻と混同しなかったため変化していない、と主張している。これに対し、邵氏は明母尤韻が一等韻に混同したために変化していないと言っている。

五臣音注に尤韻字は 149 個あり、侯韻字は 82 個ある。両韻の通用例は上の 2 表（6.1.3.5）に示した 6 例（3%）である。少数例ではあるが、尤韻と一等韻（侯韻）が密接な関係にあること示している。注目すべきは、尤韻明母字と侯韻の通用だけではなく、尤韻奉母字と侯韻の通用例もあることで、これは邵氏の推論とややずれており、さらに検討する必要がある。

6.1.3.6 曾摂の登韻と蒸韻

	來蒸開三	來登開一		從蒸開三	從登開一
11065 崚	<力膺>	盧登	11066 嶒	<疾陵>	在登
18019 崚	<力膺>	稜(慮登)	18018 嶒	<疾陵>	層(昨稜)

登韻字は 33 個（平 7、去 7、入 19)、蒸韻字は 52 個（平 9、去 8、入 35）あり、両韻の通用例は重複音注を除けば 2 例であり、約 2%を占める。

6.1.3.7 咸摂の覃韻と鹽韻・嚴韻

	清感一	清琰三
09533 憯	七感	七琰

	疑業三	疑合一
01229 嶪	〈魚怯〉	五合

覃韻字は 106 個（平 31、上 24、去 2、入 49）、鹽韻字は 97 個（平 29、上 30、去 10、入 28）、嚴韻字は 5 個（平 1、入 4）ある。覃韻と鹽韻の通用例は 1 例であり、約 0.5%を占める。覃韻と嚴韻の通用例も 1 例で、約 1%を占める。

6.1.3.1 から 6.1.3.7 までの例から次のことがわかる。

①五臣音注の一等韻と三等韻の通用例は、一等韻と二等韻あるいは二等韻と三等韻の通用例より多い。

②同摂の一等韻と三等韻の通用例は数こそ少ないが、その通用例は 16 摂のうち 7 摂にわたる。

③遇摂の虞韻と模韻、宕摂の陽韻と唐韻、流摂の尤韻と侯韻の通用例は他の摂の一等韻と三等韻の通用例よりも多い。

6.1.4 二等韻と四等韻

6.1.4.1 梗摂の青韻と耕韻

	來青開四	來耕開二
04603 駖	〈郎丁〉	力耕

	匣迥開四	匣耿開二
30085 婞	下娗	幸（胡耿）

	見耿開二	見迥合四
16061 耿	古杏	古迥

青韻開口字と合口字はそれぞれ 126 個（平 19、上 8、去 3、入 77）と、8 個（上 8）である。耕韻開口字は 56 個ある。青韻開口と耕韻開口の通用例は 2 例あり、約 1%を占める。青韻合口と耕韻開口の通用例は 1 例あり、約 2%を占める。

6.1.4.2 効摂の蕭韻と肴韻

	來蕭四	來肴二		來蕭四	來肴二
06056 寥	落蕭	立交	10066 寥	落蕭	力交

	來肴開二	來蕭四
06123 顟	力嘲	遼（落蕭）

蕭韻字は 115 個（平 56、上 37、去 22)、肴韻字は 92 個（平 62、上 14、去 16）あり、両韻の通用例は重複音注を除いて 2 例あり、約 1%に当たる。

6.1.4.3 山摂の先韻と删韻

	匣諫合二去	匣銑合四上
04579 繯	胡慣	胡犬

上は删韻の去声と先韻の上声の通用例である。删韻合口字は 18 個（平 10、上 2、去 5、入 1)、先韻合口字は 56 個（平 9、上 10、去 17、入 20）ある。両韻の通用例は 1 例あり、約 1%を占める。

6.1.4.1 から 6.1.4.3 までの各例からわかるように、五臣音注には、同摂の二等韻と四等韻の通用例はあるものの、多くはないため、二等韻と四等韻が混同しているとはいえない。

6.2 異摂同等・異等韻の通用例

6.2.1 異摂同等韻

6.2.1.1 一等韻

	効摂心晧開	遇摂先姥合
12014 掃	蘇晧	先古

上は効摂一等豪韻と遇摂一等模韻の通用例である。僅か 1 例しかないが、「掃」は常用字であるため、重視すべきであると思われる。

6.2.1.2 二等韻

	假摂匣麻二合	蟹摂溪皆合
03480 華	戸花	苦懐

左思《魏都賦》の“飾華離以矜然，假倔彊而攘臂”については、五臣注は「華離，地形也。」と注釈し、「苦懐（溪母皆韻合口）」の反切をつけた。李善注は釈義がないが、「口哇（溪母佳韻合口)」の反切を付けている。「華」は匣母麻韻二等字であり、李善注で佳韻と混同したのに対し、五臣注で皆韻と混同している。「5.1 重韻」で述べた通り、五臣音注には佳韻と皆韻が通用している。それ故、上表の例は假摂麻韻二等

と蟹摂皆韻の通用例であり、麻韻二等と佳韻の通用例とも言える。

	蟹摂影佳合	假摂影麻二合		蟹摂影佳合	假摂影麻二合
03677 蠅	〈烏媧〉	烏華	02245 蠅	〈烏媧〉	烏瓜

上は蟹摂佳韻と假摂麻韻二等の通用例である。佳韻は上古の支韻系に由来し、假摂麻韻二等は上古の歌韻と魚韻から派生した。両韻の由来は異なるものの、佳韻の主母音は［u　i/u　］から［ua］へ変化し（麻韻は元々［ua］である）、現代音で共に［ua］の韻母に属する。僅かな通用例ながら、佳韻が近現代音に変化する事象を反映している。

丁鋒（1995：66）では南方音を表すという曹憲《博雅音》で蟹摂佳韻と假摂麻韻の通用例が既にあったとしている。邵榮芬《敦煌俗文学中的別字異文和唐五代西北方音》でも、蟹摂佳韻と假摂麻韻の通用例があり、“佳、麻合併在唐代是很普遍的現象”と述べている。

6.2.1.3 三等韻

①深摂の侵韻と臻摂の真韻

	澄寢三上	澄震開去
03510 朕	直稔	遲胤

②宕摂の陽韻と通摂の東韻

	影養開上	影送去
24112 鞅	於兩	於仲

同じ「商鞅」という人名に対し、「20001 鞅」は「於兩（影養開三）」とし、上表の例は「於仲（影送去）」の反切を付けた。これは真の音変例である。

③通摂の東韻と曾摂の蒸韻

	影屋三	云職三
08142 馘	於六	域

④流摂の尤韻と遇摂の虞韻

	敷尤三	敷虞三
23055 枹	縛謀	夫（附夫）

「枹」の「枹鼓」の意味に対して 2 つの音注がある。1 つは上表の「夫」、もう 1 つは「26036 枹，桴」で、尤韻と虞韻を混同させていない。この例は真の音変例である。

	敷宥三	敷遇三
02218 覆	敷救	赴（撫遇）

五臣注《文選》では「德寓天覆，輝烈光燭」の「覆」に「赴（敷遇三）」の直音注をつけ、「意離未絕，神心怖覆」の「覆」に「副（敷宥三)」の直音注をつけた。意味は全く同じという訳ではないが、特殊音注でもないので、この例は真の音変例である。

邵榮芬《敦煌俗文学中的別字異文和唐五代西北方音》により、尤韻の唇音は虞韻と通用している。五臣音注の唇音字は 18 例（非 2、敷 1、奉 11、明 4）あり、そのうち、虞韻との通用例は 2 例で、ともに敷母字である。これは邵氏が言及した現象と一致している。

⑤山摂の仙韻と臻摂の殷韻、真韻

	知獮開三	端隱開三
01361 展	知演	丁謹

仙韻開口字は 147 個、殷韻字は 7 個ある。両韻の通用例は 1 例のみで、全体の約 1 %に当たる。

	羊獮合三	羊軫合三		羊獮合三	羊軫合三
04379 沇	以轉	允（余准）	04592 沇	以轉	允（余准）

	昌軫合三	昌獮合三
03483 踳	尺尹	舛（昌兗）

仙韻合口字は 81 個、真韻合口字は 59 個ある。両韻の通用例は重複音注を除けば 1 例で、約 1%に当たる。

⑥咸摂の凡韻と通摂の鍾韻

	敷梵三	敷腫三		敷梵三	敷腫三
18104 泛	敷梵	方奉	07107 泛	敷梵	方奉

凡韻字は 12 個あり、鍾韻字は 86 個ある。通用例は重複音注を除けば 1 例で、約 1%

に当たる。

①から⑥に見られるように、異摂三等韻の通用例はほぼ孤立例であるが、近似する主母音が合流しはじめている事象がすでに出現している。

6.2.2 異摂異等韻

6.2.2.1 一等韻と二等韻

①江摂の覺韻と通摂の屋韻

	溪覺二	溪屋一
02214 慤	苦角	苦谷

	並屋一	並覺二		並屋一	並覺二
02472 瀑	蒲木	步角	06401 瀑	蒲木	步角
09310 瀑	蒲木	蒲角			

東韻一等舒声韻は 55 例、江韻は 18 例あり、互いに通用例はない。東韻一等入声と江韻入声はそれぞれ 23 例と 74 例あり、両韻の通用例は重複音注を除いて 2 例ある。

②果摂歌韻と假摂麻韻・卦韻

	曉馬開二	影哿開一
04463 閊	許下	烏可

	哿合一	卦開		哿合一	馬合
07045 裸	郎果	胡卦	22043 裸	郎果	胡寡

五臣注で「裸」を被注字とするのは 3 例ある。上表の 2 例以外に「26052 裸，力果」がある。意味がほとんど同じであるにも関わらず、音注が大きく異なる理由としては、「裸」を「裸」と間違えた可能性が考えられる。

③假摂麻韻と遇摂模韻

	匣馬開二	匣姥合一		匣馬開二	匣姥合一
07003 下	胡雅	户（胡古）	10003 下	胡雅	户（胡古）
17048 下	胡雅	户（胡古）			

「下」を「户」と読むのは五臣注だけではなく、大島正二『唐代字音の研究』(1981:2)によると、《史記索隱》では、既に「户」の直音注をつけている。恐らく「户」は舊音から引用したものだろう。

④宕摂の唐韻と梗摂の庚韻・耕韻

	唐開一	庚合二
04279 滂	普郎	浦横

	幫敬開二	幫唐開一
06595 榜	補孟	補郎

	鐸開一	陌開二		鐸開一	陌開二
03357 崿	五各	額（五陌）	06268 泊	傍各	普白

	唐開一	耕開二		唐開一	耕合二
09380 琅	魯當	力耕	04289 滂	普郎	浦宏

	唐合一	耕合二
06420 洸	烏光	烏宏

	庚合二	唐合一		庚合二	唐合一
10036 横	胡盲	皇（胡光）	02145 喤	胡盲	皇（胡光）

⑤効摂の肴韻と流摂の侯韻

	明肴二	明侯一
03118 茅	莫交	莫侯

	並肴二	並侯一
29033 掊	薄交	蒲構

⑥曾摂の登韻と梗摂の耕韻

	登開一	耕開二		滂登開一	滂耕開二
06360 漰	〈普朋〉	普萌	06376 漰	〈普朋〉	普萌
06454 漰	〈普朋〉	普萌			

	來登開一	來耕開二
09138 輟	慮登	力耕

⑦流摂の侯韻と江摂の江韻

	溪侯一	溪覺二

22052 鷇	苦候	口角

⑧山摂の寒韻と假摂の馬韻

	旱合一	馬開二
21146 斷	都管	丁叚

反切下字の「叚」は「段」であると思われる。「叚」と「段」の通用は古代漢語ではよくあることで、前述の“賜絹及綵一百叚”と“秀州州学今將監本文選逐叚詮次編入”の「叚」は共に「段」である。

前節（6.1.1）に述べたとおり、五臣音注では同摂の一等韻と二等韻は混同していない。つまり、異摂で両韻が混同することは考えられない。上の数表に示した例についてはさらに検討する必要がある。

6.2.2.2 二等韻と三等韻

①梗摂の庚韻二等と宕摂の陽韻

	娘陌開二	日藥開三
04528 踖	女白	若（而灼）

②臻摂の真韻と山摂の刪韻

	知質合三	知黠合二
06094 窋	竹律	張滑

③遇摂の魚韻と假摂の麻韻

	疑御三	疑禡開二		疑御三	疑禡開二
07128 御	魚據	訝（吾駕）	16104 御	魚據	迓（吾駕）

《唐代字音の研究》によると、「御」の反切は《漢書音義》では「五駕」、《史記正義》では「我嫁」となっている。五臣音注の反切用字はこれと異なっているものの、音韻地位は一致している。「御」の「訝」あるいは「迓」の読音は恐らく旧音からの引用である。

④梗摂の耕韻二等と曾摂の蒸韻

	從蒸開三	從耕開二
06040 嶒	〈疾陵〉	士耕

	滂耕開二	滂蒸開三
04302 砰	普耕	普冰

①から④までの各表で示したとおり、異摂の二等韻と三等韻の通用例は僅かしかないため、通用しているとは言えない。これは同摂の二等韻と三等韻の状況と一致している。

6.2.2.3 一等韻と三等韻

①宕摂の唐韻と梗摂の庚韻

	幫鐸開一	並陌開三
04493 鑮	補各	平碧

わずか 1 例しかない。個別的な例をみなし得よう。

②流摂侯韻と遇摂の虞韻

	精虞三	精侯一		精虞三	精侯一
04180 諏	子于	作侯	07138 諏	子于	子侯

	來侯一	來虞三
06073 樓	落侯	力朱

虞韻字は 127 個、侯韻字は 82 個あり、両韻の通用例は重複音注を除き、上表に示した 2 例であり、約 1%に当たる。

③蟹摂の咍韻と止摂

	疑微開三	疑咍開一
17360 溰	〈魚衣〉	五哀

	來咍開一	來支開三
17047 来	落哀	力知

	來咍開一	來之開三
05142 来	落哀	力而

	泥咍開一	娘脂開三
14067 能	年來	女夷

	疑微合三	疑灰合一		疑微合三	疑灰合一
04085 巍	語韋	五迴	17056 巍	語韋	五回

	疑灰合一	疑尾合三		疑灰合一	疑尾合三

04367 嵬	五回	魚鬼	06363 嵬	五回	魚鬼

	疑賄合一	溪旨合三
06031 嵬[89]	五罪	羌軌 A

以上の例は蟹摂と止摂の密接な関係を示している。

④果摂の歌韻と止摂

	幫支開	並歌開
04189 陂	彼爲 B	婆（薄何）

これは恐らく特殊音注であり、さらに検討する必要がある。

⑤咸摂の覃韻と深摂

	疑緝三	疑合一		疑緝三	疑合一
04605 岌	魚及 B	吴合	06081 岌	魚及 B	五合
04295 浥	英及 B	於合			

これは入声韻の同じ韻尾の通用を反映している。

6.2.2.4 二等韻と四等韻

	端霽開四	徹怪開二
04265 蔕	都計	勑戒

この例は真の音変例ではないと思われる。

6.3 開口韻と合口韻の通用例

6.3.1 真韻の開口と合口

	影眞合	影眞開
03049 奫	於倫 B	於旻 B

	羣質合	溪質開
02184 猋	其聿 A	葵筆 B

全ての音注を見ても、真韻の開口と合口の通用例はわずかに上の 2 例しかなく、さ

[89]この例は恐らく特殊音注であり、さらに検討する必要がある。

らに 2 例の反切下字はともに唇音字に属している。後述（6.3.4）の通り、五臣音注の例からでは韻書と同様に、唇音を開口と合口に区別することは難しい。よって、真韻の開口と合口は混同していないと考えられる。

6.3.2 寒韻の開口と合口

	並寒合	並寒開		並寒合	並寒開
02096 鞶	薄官	步干	10029 般	薄官	步干

	並末合	並末開		並末合	並末開
02189 魃	蒲撥	蒲葛	03370 跋	蒲撥	步葛
04460 癹	蒲撥	步葛	22081 胈	蒲撥	蒲葛

	心末開	心末合		曉末合	曉末開
09141 撮	桑割	蘇末	05206 豁	呼括	呼達

また、下の 2 つの例がある。

	匣旱合	匣翰開		明翰合	明寒開
06431 澣	胡管	扞（胡旦）	10162 漫	莫半	莫干

上の各表から見ると、寒韻の開口と合口の通用例はやや多いが、通用例のほとんどは唇音字であるため、五臣音注では寒韻の開口と合口は区別していると言える。

6.3.3 歌韻の開口と合口

	幫哿合	幫哿開
01420 簸	布火	補我

通用例は僅かに 1 例で、しかも唇音字に属しており、歌韻の合口と開口は混同していないと考えられる。

6.3.4 唇音の開口と合口

五臣音注では《王三》と《広韻》と同様に唇音の開口と合口を区別することは難しい。

6.3.4.1 唇音字を反切下字とする通用例

	章紙合	章紙開		章紙合	章紙開

28008 捶	之累	支靡	28015 捶	之累	朱靡

	曉怪合	曉怪開
06383淑	〈火怪〉	呼拜

	匣夬合	匣夬開		徹夬開	徹夬開
19023 話	下快	戶邁	29003 蠆	丑芥	勑邁

	溪俍開	溪混合
21022 懇	康俍	苦本

	匣濟開	匣濟合
09455 睆	戶板	患(胡慣)

	匣襉合	匣襉開
01585 幻	胡辨	胡辦

	匣霰合	匣霰開		匣霰合	匣霰開
23110 袨	黃練	玄徧	01070 眩	黃練	胡徧
19008 衒	黃練	玄徧			

	見獮合	見獮開
03652 卷	居轉 B	居免 B

	羣獮合	羣獮開		羣獮合	羣獮開
07105 圈	渠篆 B	求免 B	20036 圈	渠篆 B	奇免 B

	莊麻合	莊麻開		曉耕合	曉耕開
02315 髽	莊花	側麻	01417 訇	呼宏	呼萌

6.3.4.2 唇音字を帰字とする通用例

	滂泰開	滂泰合		滂泰開	滂泰合
02102 沛	＜普蓋＞	普外	04158 沛	＜普蓋＞	普會
04297 沛	＜普蓋＞	普外	06361 沛	＜普蓋＞	普會

「沛」に対する音注は全部で 11 個あり、上表の 4 個は合口韻字を反切下字とするのに対し、次の 7 個は開口韻字を反切下字としている。

	滂泰開	滂泰開		滂泰開	滂泰開
02476 沛	＜普蓋＞	普賴	08105 沛	＜普蓋＞	普賴
08145 沛	＜普蓋＞	普賴	09117 沛	＜普蓋＞	浦貝
17011 沛	＜普蓋＞	普賴	24093 沛	＜普蓋＞	普蓋
10206 沛	博蓋	貝（博蓋）			

唇音泰韻字の「沛」の例から、開口と合口とが通用していることは明白である。

	滂唐開	滂唐合
09021 滂	普郎	浦皇

	並卦開二	並卦開		並卦開	並卦開
11045 稗	傍卦	皮卦	17404 稗	傍卦	蒲賣

同じ並母卦韻の「稗」に対し、「11045 稗」は合口韻字の「卦」を反切下字とし、「17404 稗」は開口韻字の「賣」を反切下字とした。ここから並母字の「稗」は開口と合口が通用しているとわかる。

	明仙開	明仙合
17040 樗	〈武延〉A	彌緣 A

	明獮開	明獮合
03718 偭	彌戰 A	彌兗 A

	明蕩開	明蕩合
06235 漭	莫朗	莫広

五臣音注では、「漭」に対する音注は 6 個あるが、この 1 例のみ開口と合口とが混同している。

6.3.5 その他

	精支合	精支開
06069 觜	姊規	子移

	羊支合	羊支開		曉陌合二	曉陌開二
04661 蠵	＜悅吹＞	以彌	06377 渚	〈虎伯〉	呼陌

	影佳合	影佳開		匣耕合二	匣耕開二
23071 鼉	〈烏媧〉	烏佳	08216 吰	〈戶萌〉	胡耕

	匣庚開二	匣庚合二		匣庚開二	匣庚合二
23072 衡	戶庚	横（胡盲）	24111 衡	戶庚	横（胡盲）

唇音以外の開口と合口の通用例は上の 4 表に示した 7 例であり、ほとんど喉音に属している。

6.4 陰声韻・陽声韻・入声韻

6.4.1 概述

韻尾の音声的な差異により、韻は以下の 3 種類に分類される。

①陰声韻：ゼロ韻尾あるいは母音韻尾を持つ韻である。支韻・脂韻・之韻・微韻・魚韻・虞韻・模韻・齊韻・佳韻・皆韻・灰韻・咍韻などはこの種類に属する。

②陽声韻：鼻音韻尾を持つ韻である。例えば東韻・冬韻・鍾韻・江韻・真韻・臻韻・文韻・欣韻・元韻・魂韻・痕韻などである。

③入声韻：閉鎖音韻尾を持つ韻である。屋韻・沃韻・燭韻・覺韻・質韻・物韻・薬韻・鐸韻・陌韻・麥韻・昔韻・錫韻・職韻・德韻・物韻・迄韻・沒韻・末韻・曷韻・黠韻・鎋韻・月韻・屑韻・薛韻・合韻・盍韻・緝韻・葉韻・怗韻・洽韻・狎韻・業韻・乏韻などである。

五臣音注には陽声韻の韻尾［m］［n］［ŋ］の通用例はわずか 2 例で、以下の通りである。

	澄寢三	澄震開三
03510 朕	直稔	遲胤

	敷梵三	非腫三
18104 泛	敷梵	方奉

「03510 朕」は「m」と「n」の通用例であり、「18104 泛」は「m」と「ŋ」の通用例である。どちらも 1 例のみ通用例で、「m」「n」「ŋ」の混同を全面的に反映している訳ではないが、「m」「n」「ŋ」が通用する前兆と取ることができる。

また、五臣音注では[k][t][p]三韻尾については互いに通用している例はなく、各々独立している。しかし、同韻尾の入声韻の通用例はある。同韻尾の通用例は殆ど同摂内に限られ、例えば通摂の屋韻一等と沃韻、通摂の屋韻三等と燭韻、宕摂の薬韻と鐸韻、梗摂の錫韻と昔韻などがある。具体的には前述の例を参照されたい。

全体から見ると、陰声韻・陽声韻・入声韻は各々独立している。

6.4.2 入声韻と陰声韻の通用例

	影号一	影屋三
24010 奥	烏到	於六

	並号一	並沃一
21053 暴	薄報	蒲沃

	燭	遇		燭	遇
01445 觸	尺玉	昌句	24032 曲	起玉	區句

	見宥三	見屋三
08177 究	久祐	掬（居六）

	溪候一	溪覺二
22052 轂	苦候	口角

	影麥開二	影怪開二		影麥開二	影怪開二
03466 阨	烏革	烏介	03699 阨	烏革	烏介
05135 阨	烏革	烏戒	09612 阨	烏革	於界

	匣麥合二	匣卦合二
01116 獲	胡麥	于卦

	末合	泰合
10095 倪	他活	他外

	知至開	章質開
09370 躓	陟利	之日

	來紙開三	來職開三
01318 邐	力氏	力式

	月合	祭合		月合	祭合
03577 劂	居月	居衛 B	04105 劂	居月	居衛 B

	滂齊開	並屑開		滂齊開	並屑開
04097 批	普鷄	薄結	04296 批	普鷄	步結

	見屑開	見霽開
26050 結	古屑	計（古詣）

	透霽開	透屑開
05293 替	他計	鐵（他結）

	來薛開	來祭開		章薛開	章祭開
02178 苅	呂薛	例（力制）	01106 折	旨熱	制（職例）

	來祭開	來薛開		常祭開	常薛開
02534 厲	力制	列（呂薛）	16047 逝	時制	常列

	日祭合	日薛合		日祭合	日薛合
16049 汭	而鋭	而拙	16046 汭	而鋭	若拙

	清薛合	昌祭合		日薛合	日祭合
17249 膬	七絕	昌芮	20033 蚋	如雪	而鋭

重複音注を除けば 22 例あり、その分布は数韻に及んでいるため、五臣音注では入声韻尾が弱化していると推測できよう。

6.4.3 入声曷韻と陽声寒韻の通用例

	寒開	曷開
17270 鴇	古寒	胡葛

	翰開	曷開		翰開	曷開
02438 憚	徒旦	丁達	04530 憚	徒旦	丁曷
09289 洝	〈烏旰〉	遏(烏割)	17212 憚	徒旦	丁達
25024 憚	徒旦	丁達			

曷韻と寒韻の通用例のみで、重複音注を除けば 3 例しかない。しかし、「憚」は常用字であり、重視すべきである。

6.5 本章の主要な結論

この章では、摂と摂の関係、等と等の関係、韻の開口と合口の問題、韻尾の問題について分析した。その結論をまとめると、次のとおりである。

①五臣音注では、唇音の開口と合口は混同しているが、真韻・寒韻・歌韻の開口と合口は整然と使い分けられている。

②入声韻と陰声韻の通用例が最も多く、入声韻の閉鎖音韻尾は弱化したことを反映している。陽声韻と入声韻の通用例は少しある。陰声韻と陽声韻の通用例はない。また、陽声韻の[m][n][ŋ]の通用例は僅かであり、[p][t][k]の通用例はほとんどない。陰声韻・陽声韻・入声韻は各々独立していると考えられる。

③一等韻と三等韻の通用例は多くの韻部に及んでいる。しかし、それぞれの通用例は少ない。

④同摂の二等韻と四等韻、異摂の三等韻は通用例があるものの、通用していると言えない。

⑤一等韻と二等韻、一等韻と四等韻はそれぞれ混同していない。

第七章　五臣音注の声調体系

7.1 五臣音注の四声独立

五臣音注の声調はそれぞれ平声 2228、上声 1013、去声 902、入声 1097 ある。平声と上声の混同例は 81 例（2%）、平声と去声の混同例は 74 例（2%）、上声と去声の混同例は 77 例（4%）となっている。混同率はそれぞれ 10%以下であるため、各々独立していると考えられる。

7.2 四声における混同例

7.2.1 平声と上声の混同例

7.2.1.1 平声韻字の反切下字に上声字を用いる例

	東一平	董一上
09349 鎔	〈倉紅〉	蘇董

	歌開一平	哿開一上		歌開一平	哿開一上
06082 峨	五歌	五可	06407 沱	徒何	徒可
06576 沱	徒何	徒我	09566 峨	五歌	我（五可）
10143 婀	烏何	烏可			

	灰平	賄上		灰平	賄上
04459 崔	此回	千賄	06030 嵬	五回	隗（五罪）
09565 嵬	五回	五罪			

	寒開平	旱開上		寒開平	旱開上
02181 癉	徒干	亶（多旱）	09150 啞	徒干	誕(徒旱)

	魚平	語上
01196 胥	息魚	悉與

	庚開三平	梗開三上
03594 檠	渠京	巨景

	支開平	紙開上		支開平	紙開上
04361 崎	去奇 B	倚（於綺）B	06092 崎	去奇 B	綺（墟彼）B
09040 崎	去奇 B	綺（墟彼）B			

	脂合平	旨合上
04374壘	力追	力水

	宵平	小上
03159 超	勑宵	勑小

	鍾平	腫上		鍾平	腫上
01393 茸	而容	如腫	03179 茸	而容	而勇
04032 嵱	〈餘封〉	勇(餘隴)	05103 茸	而容	如勇
20058 茸	而容	而勇	21038 茸	而容	尓勇
30047 茸	而容	如勇			

	仙開平	獮開上		仙開平	獮開上
04427 蟬	市連	善(常演)	06181 楄	房連	補沔
17465 蟬	市連	時闡	21057 拳	巨員	丘辨
06147 踡	巨員	巨免			

	談平	感上		談平	感上
05264 淡	徒甘	徒感	09297 淡	徒甘	徒感

	談平[90]	敢上		談平	敢上
04130 泔	古三	胡敢	01133 淡	徒甘	徒敢
02360 淡	徒甘	徒敢	17268 淡	徒甘	徒敢

	唐開平	蕩開上
04572 茫	莫郎	莽(莫朗)

	支開平[91]	旨開上
05128 埤	苻支 A	貧美 B

	之平	止上
02026 緇	側持	滓(側李)

	微合平	尾合上
06032 巍	語韋	五鬼

	文合平	吻合上		文合平	吻合上
02473 濆	符分	扶刎	03041 濆	符分	扶粉
06366 濆	符分	忿(敷粉)	06400 濆	符分	忿(敷粉)

[90]この談韻と敢韻の混同は一等重韻の通用の傍証例となろう。
[91]この支韻と旨韻の混同は三等重韻の通用の傍証例となろう。

	尤平	有上
09345 揉	〈耳由〉	而酉

	幽平	黝上
06106 虬	渠幽	岐糾

	殷平	隱上		殷平	隱上
03489 殷	於斤	於謹	01358 殷	於斤	隱(於謹)

	蕭平	篠上
01539 漻	落蕭	了(盧鳥)

	咍平	海上
20094 咳	胡來	苦改

	齊開平	薺開上		齊開平	薺開上
01165 睼	度嵇	弟(徒礼)	02460 氐	當嵇	丁禮

7.2.1.2 上声韻字の反切下字に平声字を用いる例

	紙開上	支開平		紙開上	支開平
04022 纚	所綺	所宜	06349 纚	所綺	所宜

	銑合上	先合平
06424 泫	胡犬	玄（胡涓）

	蕩開上	唐開平
04291 沆	胡朗	胡郎

	徹諍開二	徹耕開二
08221 撐	丑迸	丑耕反

	有上	尤平
06526 珋	〈力久〉	留（力求）

	養開上	陽開平
01174 饗	許兩	香（許良）

	厚上	侯平
07017 堰	〈烏后〉	謳(烏侯)

	賄上	灰平		賄上	灰平
02260 巋	徂賄	祚迴	04084 巋	徂賄	摧（昨回）

	濟開上	刪開平
13025 板	布綰	百蠻

	阮開上	元開平
04327 揵	居偃	巨言

	軫合上	眞合平		軫合上	眞合平
03138 菌	渠殞 B	巨筠 B	09097 菌	渠殞 B	去筠 B
09376 菌	渠殞 B	去倫 B	17266 菌	渠殞 B	丘貧 B

	獮開上	仙開平
03461 搴	居輦 B	騫(去乾) B

	獮合上	仙合平
04138 埢	〈居轉〉 B	拳(巨員) B

	豏上	咸平		豏上	咸平
01325 嶄	〈士減〉	仕咸	02434 瀺	士減	仕咸
04299 瀺	士減	助咸	04349 嶄	〈士減〉	士咸
06232 嶄	〈士減〉	士咸	08185 瀺	士減	仕咸
10024 瀺	士減	仕咸	12047 瀺	士減	士咸
17220 嶄	〈士減〉	仕咸			

	養合上	陽合平
17121 侊	渠往	丘王

	麌上	虞平
24016 煦	況羽	吁(況于)

7.2.2 平声と去声の混同例

7.2.2.1 平声韻字の反切下字に去声字を用いる例

	東一平	送一去
09128 洪	胡籠	胡貢

	灰平	賄去
04053 摧	〈昨回〉	子罪

	寒開平	翰開去		寒開平	翰開去
04042 壇	徒干	徒汗	04201 壇	徒干	徒贊
09149 嘽	他單	歎(他半)			

	虞平	遇去		虞平	遇去
17312 娵	子于	足具	30027 癯	其俱	求具

	模平	暮去
21013 呼	荒烏	火故

	侯平	候去
21001 韝	古侯	古豆

	魂平	慁去
15051 暾	他昆	土論

	宵平	笑去
09320 髟	甫遥 A	必妙 A

	仙開平	線開去
04222 蜒	以然	以戰

	登開平	嶝開去
09176 菅	武登	莫亘

	模平	暮去
03459 嗚	哀都	烏故

	蕭平	嘯去
03317 佻	吐彫	他弔

	齊開平	霽開去
16098 鷖	烏鷄	烏計

	咍一開	代開一
04273 来	落哀	力代

7.2.2.2 去声韻字の反切下字に平声字を用いる例

	寒開去	寒開平		翰合去	寒合平
10162 漫	莫半	莫干	14045 嚾	〈火貫〉	歡〈呼丸〉

	翰開去	寒開平		翰開一	寒一開
06017 幹	古旦	寒（胡安）	01069 幹	古旦	寒（胡安）
01290 幹	古旦	寒（胡安）	01222 幹	古旦	干（古寒）

	願合去	元合平
10105 愿	魚怨	元（愚袁）

	勘去	覃平
03645 醰	徒紺	徒南

	震開去	眞開平		震開去	眞開平
05157 信	息晉	申（書鄰）	03442 震	職刃	真（職鄰）

	隊合去	灰合平		隊合去	灰合平
09299 碓	都佩	丁迴	09416 捘	子對	子回
06452 礧	盧對	力迴			

	未合去	微合平		未合去	微合平
07132 菲	〈扶沸〉	肥（符非）	10272 腓	扶沸	肥（符非）

	賄上	灰平		賄上	灰平
04358 摧	〈子罪〉	臧回	09377 碨	〈烏賄〉	烏回

	嘯去	蕭平
04232 徼	古弔	古堯

	宕開去	唐開平
09312 碭	杜浪	徒郎

	嶝開去	登開平
17204 鐙	都鄧	都滕

	徑開去	青開平
18013 濘	乃定	寧(奴丁)

	沁去	侵平
06343 滲	所禁	所今

	靜開去	清開平
28065 頸	居郢	居盈

	寘開去	支開平
22078 澌	斯義	息移

	寘開去[92]	之開平
03622 澌	斯義	息茲

	翰開去	寒開平
03244 衎	苦旦	苦干

	嘯四去[93]	宵三平
24080 徼	古弔	工遙

7.2.3 上声と去声の混同例

7.2.3.1 上声韻字の反切下字に去声字を用いる例

	敢上	闞去		敢上	闞去
01132 澹	徒敢	達濫	10042 澹	徒敢	徒濫
17267 澹	徒敢	徒濫			

	蟹開上	卦開去
18008 嶰	鞵買	胡賣

	旨合上	至合去
04142 壝	以水	以類

	旨開上	至開去		旨開上	至開去
29041 眡	〈承矢〉	食至	01604 圮	符鄙	備(平祕)

	止開上	志開去
04562 偫	直里	值(直吏)

	紙開上[94]	至開去
04239 袘	移尔	以示

	小上	笑去		小上	笑去
06198 縹	敷沼 A	匹妙 A	06346 縹	敷沼 A	匹妙 A
09519 縹	敷沼 A	匹妙 A	09606 縹	敷沼 A	匹妙 A
17010 眇	亡沼 A	妙（彌照）A	17418 縹	敷沼 A	匹妙 A

[92]この寘韻と之韻の混同は三等重韻の通用の傍証例となろう。
[93]この嘯韻と宵韻の混同は四等韻と三等韻の通用の傍証例となろう。
[94]この紙韻と至韻の混同は三等重韻の通用の傍証例となろう。

18027 摽	符小 A	避曜 A	29060 摽	符小 A	驃（毗召）A
05024 眇	亡沼 A	妙（彌照）A			

	銑開上	霰開去		銑開上	霰開去
09042 渶	他典	他見	09043 涊	奴典	奴見
09189 殄	徒典	電（堂見）			

	董一上	送一去
03051 澒	胡孔	胡貢

	旱合上	翰開去
06431 澣	胡管	扞（胡旦）

	蕩開上	宕開去		蕩開上	宕開去
03310 莽	莫朗	謀謗	06060 爣	〈他朗〉	土浪
03208 忙	〈苦朗〉	苦浪	17032 慌	虎晃	荒(呼浪)

	馬開二上	禡開二去
01422 槎	士下	乍(鋤駕)

	尾合上	未合去
17021 陫	〈浮鬼〉	符沸

	賄上	隊去		賄上	隊去
03254 琲	蒲罪	補對	05149 灌	七罪	千碎

	旱開上	翰開去		旱開上	翰開去
26053 袒	徒旱	徒旦	29035 稈	各旱	幹（古旦）

	濟合上	諫合去
09455 睆	戶板	患（胡慣）

	吻上	問去
08306 刎	武粉	問（無運）

	晧上	号去
04203 燥	蘇晧	蘇報

	迥開上	徑開去
01396 町	他鼎	定（特徑）

	軫開上	震開去		軫開上	震開去
06410 演	余畛	胤	29094 脤	時忍	慎（是刃）

	駭開上	怪開去
02618 駭	諧楷	行戒

	麌上	遇去
06078 柱	直主	駐（中句）

	賄上	泰合去		賄上	泰合去
29006 礧[95]	落猥	盧會	29038 礧	落猥	盧會

7.2.3.2 去声韻字の反切下字に上声字を用いる例

	勘去	感上		勘去	感上
04132 暗	烏紺	烏感	14057 塙	苦紺	苦感
04102 暗	烏紺	烏敢			

	遇去	麌上
03563 澍	之戍	之豎

	候去	厚上
26020 姆	莫候	母（莫厚）

	号去	晧上
18001 奥	烏到	烏浩

	志去	旨開上
09387 植	直吏	雉（直几）[96]

	至開去	止開上		至開去	止開上
03717 貤	羊至	以（羊止）	03220觀	力至	史（踈士）

	至開去	紙開上
04444 貤	羊至	羊氏[97]

	至合去	旨合上
04477 蜼	以醉	羊水

	笑去	小上		笑去	小上
01496 僄	匹笑 A	匹眇 A	09449 僬	子肖 A	子小
26001 召	寔曜	紹（市沼）			

	送一去	董一上
22026 倥	苦貢	孔（康董）

	隊去	賄上
10016 潰	胡對	胡隗

	代去	海上		代去	海上
21113 貸	他代	他改	01377 蔆	烏代	烏改

[95]この賄韻と泰韻合口の混同は三等重韻の通用の傍証例となろう。
[96]この志韻と旨韻開口の混同は三等重韻の通用の傍証例となろう。
[97] この至韻と旨韻の混同は三等重韻の通用の傍証例となろう。

	宕開去	蕩開上		宕開去	蕩開上
07133 行	下浪	胡朗	08151 宕	杜浪	蕩（堂朗）

	宥去	有上
03623 酎	直祐	遲有

	嘯去	篠上
09621 眺	他弔	土了

	勁開去	靜開上		勁開去	靜開上
04103 靚	疾政	靜（疾郢）	04541 靚	疾政	静（疾郢）
21107 倩	七政	七靖	23136 靚	疾政	靜（疾郢）

	徑開去	迥開上		徑開去	迥開上
01317 廷	特徑	他頂	06280 濘	乃定	奴頂

	沁去	寖上
23040 吟	宜禁	疑甚

	霽開去	薺開上
24082 柢	都計	丁禮

	慁去	混上		慁去	混上
05288 溷	胡困	混（胡本）	09625 溷	胡困	混（胡本）
16105 溷	胡困	呼本	30048 溷	胡困	胡本

7.3 全濁上声字の去声化

全濁上声字の去声化は漢語音韻史上で重要な声調変化である。《切韻》系韻書の全濁音声母並・奉・定・澄・從・崇・船・常・羣・匣・邪など 11 声母の上声が去声に変化することを指す。

全濁上声字の去声化が始まった時期については諸説あり、目下定論はない。より多数の学者は唐代からだと指摘している。代表的な論文として羅常培、周祖謨、王力、邵榮芬、史存直、李榮、平山久雄がある。これと見解を異にする説を唱える学者もいる。范新干は三国時代の王粲、楊休、曹植、邯鄲淳、毋丘儉、嵇康ら六人の詩文の押韻の分析から全濁上声字の去声化は三国時代から見られると判断した。また劉倫鑫は南宋からこの声調変化が始まったとする“南宋説”を唱えた。[98]

本研究の資料から五臣音注には既に全濁上声字の去声化の現象が見られるとわかる。

[98] 任翔宇〈“濁上変去”現象研究述評〉（2014：124-125）を参照した。

7.3.1 並母字の上声と去声の混同例

	並上	並去		並上	並去
01604 圮	符鄙	備(平祕)[99]	18027 摽	符小 A	避曜 A
29060 摽	符小 A	驃（毗召）A	17021 陫	〈浮鬼〉	符沸
03254 琲	蒲罪	補對			

7.3.2 定母字の上声と去声の混同例

	定上	定去		定上	定去
01132 澹	徒敢	達濫	10042 澹	徒敢	徒濫
17267 澹	徒敢	徒濫	26053 祖	徒旱	徒旦
09189 殄	徒典	電（堂見）	05054 掉	徒了	田曜[100]

	定去	定上
08151 宕	杜浪	蕩（堂朗）

7.3.3 澄母字の上声と去声の混同例

	澄上	澄去		澄上	澄去
04562 偖	直里	值(直吏)	06078 柱	直主	駐（中句）

	澄去	澄上		澄去	澄上
09387 植	直吏	雉（直几）	03623 酎	直祐	遲有

	澄上	澄去
03510 朕	直稔	遲胤[101]

7.3.4 従母字の上声と去声の混同例

	從去	從上		從去	從上
04103 靚	疾政	靜（疾郢）	04541 靚	疾政	静（疾郢）
21107 倩	七政	七靖	23136 靚	疾政	靜（疾郢）

[99] この至韻と旨韻の混同も三等重韻の通用の傍証例となっている。
[100] この笑韻と篠韻の混同も三等韻と四等韻の通用の傍証例となっている。
[101]李善音注は「直軫（澄軫開上）」であり、去声化はまだ起きていない。

7.3.5 崇母字の上声と去声の混同例

	崇上	崇下
01422 槎	士下	乍(鋤駕)

7.3.6 常（船）母字の上声と去声の混同例

	常上	船去		常上	常去
29041 眡	<承矢>	食至	29094 脤	時忍	慎（是刃）

	常去	常上
26001 召	寔曜	紹（市沼）

7.3.7 匣母字の上声と去声の混同例

	匣上	匣去		匣上	匣去
18008 嶰	鞵買	胡賣	06431 澣	胡管	扞（胡旦）
03051 澒	胡孔	胡貢	02618 駭	諧楷	行戒
09455 睆	戸板	患（胡慣）			

	匣去	匣上		匣去	匣上
10016 潰	胡對	胡隗	07133 行	下浪	胡朗
05288 溷	胡困	混（胡本）	09625 溷	胡困	混（胡本）
16105 溷	胡困	呼本	30048 溷	胡困	胡本

上掲表からわかるように、五臣音注の並・定・澄・從・崇・常（船）・匣の 7 韻母には上声と去声の互用例が見られ、それは蟹摂・咸摂・山摂・止摂・効摂・通摂・假摂・遇摂・流摂・梗摂・臻摂の 11 摂に及んでいる。このことから五臣音注では全濁上声字の去声化が既に発生していると判断して差し支えないだろう。

7.4 本章の主要な結論

以上の分析を総合すると、五臣音注の声調は平、上、去、入の四声であり、声調の互用例は平上が 108 例、平去が 59 例、上去が 117 例であり、それぞれ 10%未満と低く四声は独立している。入声との互用例は入平が 2 例、入上は 4 例、入去 40 例と入声と去声の関係が近い。丁鋒（1995：112）は《博雅音》の声調関係について次のように述べている。

平上、平去、上去相混的比是 57：36：52，僅從混切數量看，平去關係最疏，調型當差距較大，上聲與平、去兩調混切比平去混切都多，因此上聲調型兼有平去的特點。而去聲又與入聲相近，那四聲的調型接近關係是：平上去入，即去與上入相近，上與平去相近；平與去入相遠，入與平上相遠。

五臣音注に見られる声調の特徴はこの指摘と類似している。平声と去声の差が最も高く、上声は平・去の特徴を兼ね、入声は去声との関係がより接近している。そして、注目すべきは全濁上声字の去声化は既に発生していることである。

第八章　終　　論

8.1 本研究の主要な結論

8.1.1 各版本の比較研究について

①集注本は現存する最古の版本であり、次に古いのが天理本である。この 2 つの鈔本に保存された音注（集注本 124、天理本 63）から見ると、刻本[102]は鈔本とほぼ一致している。また、五臣注の原本は現存する諸版本のいずれよりも多くの音注を持っていたと推測した。

②現存する単注完本は陳刻本と朝鮮本の 2 種のである。その由来は異なり、朝鮮本・杭州本・六家注本が同じ系統で、陳刻本は別系統である。さらに音注の類似度により朝鮮本・杭州本、陳刻本、六家注本の 3 種に分類できる。

③朝鮮本は現存する諸版本のなかで、最も原本に近い優れた版本であると考えられる。

④五臣音注は李善音注・《音決》音注と同じ系統ではなく、五臣音注の一部は先行音注と一致しているが、この音注は五臣の吟味を経たものであり、単純な継承とはいえない。

8.1.2 音韻研究について

8.1.2.1 五臣音注の声類とその特徴

五臣音注の声母は次の 40 個である。

幫組	幫	滂	並	明					
非組	非	敷	奉	微					
端組	端	透	定	泥				来	
知組	知	徹	澄	娘					
精組	精	清	從		心	邪			
莊組	莊	初	崇		生				
章組	章	昌		日	書	常（船）			
見組	見	溪	羣	疑	曉	匣	影	云	羊

声類の主要な特徴については以下のことを指摘できる。

①軽唇音は既に派生したが、明母と微母の混同例はまだ見られる。

②舌上音は独立したが、端母と知母の「類隔切」がまだある。

---

102 朝鮮本・陳刻本・六家注本

③邪母と従母の混同例はあるが、邪母が従母から分化する過渡期の一部の残存であると考えたい。

④俟母は崇母から分化する兆候が見られるが、まだ独立したとは言えない。

⑤船母と常母は混同し一類となっている。

⑥泥・日・娘母はそれぞれ独立している。

⑦知・莊・章組はまだ合流していない。

⑧牙音と喉音は混同している。

⑨全濁音声母の無声化は始まっているが、平声が無声有気になり、仄声が無声無気になる規則には則っていない。

⑩有気音と無気音の混同例がある。

8.1.2.2 五臣音注の韻類とその特徴

五臣音注の韻部は 42 個あり、下表の通りである。

	平声	上声	去声	入声
通摂	東一冬 東三鍾	董 腫	送宋 送用	屋沃 屋燭
江摂	江	（講）[103]	（絳）	覺
止摂	支脂之微	紙旨止尾	寘至志未	
遇摂	魚	語	御	
	虞	麌	遇	
	模	姥	暮	
蟹摂	齊	薺	霽	
			祭	
	佳皆	蟹駭	卦怪夬	
	灰	賄	隊泰合	
	咍	海	代泰開	
			廢	
臻摂	真開臻殷	軫開隱	震開焮	質開櫛迄
	真合文	軫合吻	震合問	質合物
	魂痕	混（佷）	慁（恨）	沒
山摂	寒開	旱開	翰開	末開
	寒合	旱合	翰合	末合
	刪山	潸產	諫襇	黠鎋

[103]五臣音注で該韻に属する被注字が見当たらない場合は括弧を付けた。以下同。

	先仙 A	銑獮 A	霰線 A	屑薛 A
	仙元	獮阮	霰願	薛月
効摂	蕭宵 A	篠小 A	嘯笑 A	
	宵	小	笑	
	肴	巧	効	
	豪	皓	号	
果摂	歌開	哿開	箇開	
	歌合	哿合	箇合	
假摂	麻	馬	禡	
宕摂	陽	養	漾	藥
	唐	蕩	宕	鐸
梗摂	庚二耕	梗二耕	敬二諍	陌二麥
	庚三	梗三	敬三	陌三
	清青	靜迥	勁徑	昔錫
流摂	尤幽	有黝	宥幼	
	侯	厚	候	
深摂	侵	寢	沁	緝
曾摂	蒸登	（拯等）	證嶝	職德
咸摂	鹽	琰	豔	葉
	添鹽 A	忝琰 A	桥豔 A	怗葉 A
	覃談	感敢	勘闞	合盍
	咸銜	豏檻	（陷鑑）	洽狎
	嚴	（广）	（嚴）	業
	凡	范	梵	乏

韻類については以下の主要特徴が指摘できる。

①東韻一等と冬韻、東韻三等と鍾韻はそれぞれ通用している。しかし、通摂の一等韻と三等韻に通用例は見られない。

②通摂入声と江摂入声に通用例が見られるが、両摂が通用しているとは言えない。

③止摂の支・脂・之・微の 4 韻は通用している。

④虞韻は同摂同等の魚韻との通用例はなく、同摂異等の模韻あるいは流摂の尤韻・侯韻との通用例がある。

⑤蟹摂の佳韻と皆韻と夬韻、灰韻と泰韻開口、咍韻と泰韻合口はそれぞれ通用している。灰韻と咍韻、祭韻と霽韻の通用例はない。廃韻字は数例見られるが、他の韻と

の通用例はない。

⑥真韻開口と合口は混同していないが、真韻開口と臻韻と殷韻、真韻合口と文韻、魂韻と痕韻はそれぞれ通用している。魂韻と文韻の通用例はあるが、通用しているとは言えない。

⑦寒韻開口と合口は混同していない。刪韻と山韻、先韻と仙韻 A 類はそれぞれ通用している。元韻は臻摂三等韻との通用例はなく、山摂仙韻との通用例がある。

⑧蕭韻は宵韻 A 類と通用しており、肴韻との通用例もあるが、通用しているとは言えない。豪韻は独立している。

⑨歌韻開口と合口は混同していない。

⑩麻韻二等と佳韻・皆韻の通用例がある。

⑪陽韻と唐韻の通用例がある。

⑫庚韻二等と耕韻、庚韻三等と清韻と青韻はそれぞれ通用している。

⑬尤韻と幽韻は通用している。しかし侯韻は尤韻と通用例が見られるが、幽韻との通用例はない。また、流摂・遇摂・効摂の通用例がある。

⑭深摂は咸摂・臻摂と僅かな通用例しかないため、独立していると言える。

⑮蒸韻と登韻の通用例がある。

⑯覃韻と談韻、咸韻と銜韻、塩韻 A 類と添韻はそれぞれ通用している。厳韻字と凡韻字は少なく、互いに通用例もない。

⑰唇音の開口と合口は区別されていない。

⑱陽声韻は[m][n][ŋ]の 3 種の韻尾を持ち、ほとんど通用例は見られない。入声韻は[p][t][k]の 3 種の韻尾が揃っており、互いに通用例もないが、同韻尾の韻の通用例は見られる。なお、入声韻と陰声韻の通用例はあり、入声韻尾の弱化が始まっていると考えられる。

⑲重紐三等韻と重紐四等韻は混同していない。三等韻と四等韻は合流し始まった。

8.1.2.3 五臣音注の調類とその特徴

五臣音注には平声、上声、去声、入声の 4 調類がある。その主要な特徴は以下の通り。

①四声は各々独立している

②平声と去声の差が最も大きく、上声は平・去声の特徴を兼ね、入声は去声と最も接近している。

③全濁上声字の去声化は既に発生している。

8.1.2.4 五臣音注の性格

①時代性

五臣音注は五臣注が登場する 8 世紀の言語状況を反映している。

声母には非・敷・奉 3 母の独立、明母と微母のわずかな混同例、泥・日・娘 3 母及

び知・莊・章 3 組字の未合流と、韻母には陽声韻・入声韻の韻尾それぞれの未合流、重紐三等韻と重紐四等韻の不混乱などは盛唐の音韻特徴である。

②地域性

船・常母の混同、全濁音の無声音化、止摂 4 韻の通用、元韻と山摂の密接な関係，全濁上声字の去声化は北方語の特徴と接近している。

③独自性

五臣音注はその半数が直音であり、反切のみを用いた《切韻》とは注音法において明確な隔たりがある。また、反切についても《切韻》と一致しないところが少なくない、《切韻》に依拠した可能性は低いと思われる。

五臣音注は李善音注と 20%の一致率に達し、《音決》とは一致率が 33%にのぼった。五臣音注が前人の音注を引用したことはほぼ間違いない。しかし、上述したように声類特徴の⑧と⑩、それと韻類の通摂一等韻と三等韻、通摂と江摂、魚韻と虞韻、灰韻と咍韻、祭韻と霽韻がそれぞれ混同していないことは、五臣音注の特有の音韻特徴である。

五臣音注は先達の優れた音注を受け継いだ上で、当時の言語事実に基づいて新しい反切あるいは直音をつけたと推測される。

④読書音性

五臣音注は主に 8 世紀頃の読書音を反映していると推測される。その根拠は以下の 3 点にある。

まず、《文選》の性格上、口語音による注音は考えにくい。《文選》は“总集之弁冕、文章之渊薮”と賞賛され、《文選》に収録された詩文はほとんどが歴史上有名な経典作品である。これらの経典作品に対して口語音で音注を付けることは考えられない。特に楚辭・漢賦などの難字あるいはめったに見ることのない文字に唐代口語音を付けることはまずないだろう。

次に、《文選》の音注は読書人を対象にしたものである。唐代は科挙で人材を選抜していた。その内容は主に詩・賦・箴・銘・論・表などであるため、参考書として《文選》が最適あったと考えられる。従って、《文選》は主に唐代の読書人を読者としていたと推測され、《文選》につける音義も当然ながら読書音を選択した可能性が高い。

最後に、五臣注の編纂から検討してみる。五臣注は呂延済・劉良・張銑・呂向・李周翰の 5 人が当時の工部侍郎である呂延祚の統率のもとで編纂された。五臣注は 6 人の共同作業の成果であり、編纂者 6 人が共通して使用できていた言語を音注の基準としたことは想像にかたくない。

以上のことから、五臣音注は 8 世紀頃の読書音を反映し、この読書音は北方語と接近していると推測される。

8.2 本研究の成果と今後の課題

8.2.1 本研究の成果

本研究の成果は現存する五臣注《文選》各版本の比較研究、五臣音注の音韻研究の2方面にある。

五臣注《文選》各版本の比較研究では、

①殘巻（集注本・天理本・杭州本）の音注を全て掲出してほかの版本と比較して、朝鮮本が現存する五臣注《文選》版本の中で最良の版本であると判断した。

②朝鮮本と陳刻本の音注は共に膨大な音注数を持ち、逐一枚挙できないため、両書で異なる音注を全て掲出し、その正誤を指摘した。

③朝鮮本と陳刻本における字形の誤りは普遍的であり、その分析は古籍の校勘の有益な資料になり得ると思われる。

五臣音注の音韻研究では、

①五臣注の創作動機、五臣及び組織者の呂延祚の才徳、五臣注の流行から五臣注の質を肯定した。

②五臣音注にある音韻変化事象をあらわす例を全て掲出した。

③五臣音注の音系を整理し、音韻特徴と音系性格を検討した。

先行研究では、本論文のように声類・韻類・調類を詳しく分析しそれぞれの音韻特徴を逐一枚挙することは管見の限りでは知らない。本論文に示した五臣の声類・韻類・調類特徴は中古音韻発展史の研究の参考になる。

8.2.2 今後の課題

①朝鮮本を除くほかの版本にのみある音注をさらに研究し、各版本の音注が相異している要因を検討する。

②本研究から外した「叶韻」音、韻書に収録されていない音注、特殊音注について再検討する。

③五臣音注で《王三》に収録されず、《広韻》に収録されている音注の変遷と、《広韻》に収録された経緯を検討する。

④音声学の角度から五臣音注に現れた音変事象を説明し、五臣音注音系の音価を検討する。

⑤現存するほかの《文選》注（李善注・《音決》・敦煌残巻）の音韻研究を行い、諸家文選音注の承継・変遷関係及び音系の異同を検討する。更に、歴史・共時音注資料と比較し、中古音韻の全貌を解明したい。

⑥各版本の比較及び特殊音注の考察から、現存する五臣注《文選》の誤謬について具体的な例をとりあげ、五臣音注の音韻研究と《文選》解読の密接な関係を示す。

付録：五臣音注・《王三》同音字表[104]

（1）通摂

	東一	董一	送一	屋一
幫				00013 濮，卜 01495 樸，補木 02500 濮，卜 03713 濮，卜 06015 撲，卜 09292 樸，卜
滂				22025 扑，普木 26007 扑，浦木
並	01392 蓬，蒲夢	05102 菶，蒲動		（15064 暴，蒲卜）
明	20078 矇，蒙 28043 矇，莫同	04075 蠓，莫孔 (04570 濛，莫孔)		03265 霂，木 04339 鶩，木 15067 鶩，莫卜
透	08009 恫，通			
定	09585 筩，同 10027 潼，同	（09350 硐，徒董）	04584 絧，徒弄	01542 罜，獨 08011 讟，讀
來	03415 櫳，籠 06553 蘢，郎公 09454 礱，力東 18028 櫳，聾 27039 蘢，籠	04347 巃，力孔 05196 巃，洛孔 06144 巃，力孔 09249 巃，力孔 17218 巃，力孔		01543麗，鹿 （02219 赽，祿 17168 睩，祿[105]）
精	01016 嵷，子紅 01187 嵷，則工 01371 樅，子公 03540 蓯，子公 04352 嵷，子公	04348 從，總 05197 從，子孔 06145 從，子孔 09250 從，則孔 17219 從，則孔	12054 偬，子貢	02427 鏃，祖祿 03344 鏃，祖祿

[104] この表では声母を縦軸に、等韻を横軸に配列している。論述の便宜上、42 声母・206 韻に従っている。韻は摂の順による。各文字前の番号は全 5 個あり、左より 2 桁は朝鮮本の巻号を表し（《文選序》は巻号がなし、00 であらわす）、その後の 3 桁は音注数を表している。括弧（）の中は《広韻》の反切である。

[105] 「祿」は《王三》には収録されていない。

	04416 嵕，子公 04503 嵕，子公 04568 嵕，子公 06473 鰻，祖洪 （06484 蝬，子工）	22027 偬，揔		
心				23134 蔌，速 26059 餗，速
見			（04034 羾，貢）	
溪			12053 倥，口貢 16033 鞚，控 19017 悾，口貢 20100 悾，口貢 （01098 控，空）	
影		01376 蓊，烏董 02393 蓊，烏揔 03178 蓊，烏董 05199 蓊，烏孔 06437 滃，烏孔 08187 蓊，烏孔 10017 蓊，烏孔 （07014 塕，一孔）		
曉				04485 豰，呼谷
匣	（03028 洭，洪）	（04569 鴻，胡孔）	（09279 港，胡貢）	17408 豰，胡木

	東三	董三	送三	屋三
明				00017 穆，目（01220 繆，目）
非	01375 楓，風 04449 楓，風 17215 楓，風		（04564 風，諷）	01313 輻，福 02058 複，福 （09393 蹁，方伏）
敷	（01087 酆，豐 01215 灃，豐 04268 酆，豐）			
奉				02117瑆，伏（06374 澓，扶福 07094馞，伏）
知				03154 筑，竹

徹	17009 忡，勑忠			04178 稿，畜（06020 矗，丑六 06260 滀，丑六 21040 蓄，丑六）
澄	29085 种，蟲			03396 舳，逐 27051 舳，逐
娘				08166 恧，女六 12005 恧，女六 18119 恧，女六 20041 恧，女六 24087 恧，女六 (06278 沮，女六)
來				04151 稑，六 06555 鯠，六 06567 蹂，六 08275 蓼，六
精				04644 蹙，子陸 06127 蹙，子六 06277 踧，子六 06336 踧，子六 09394 踧，子六 10165 蹙，子育 17104 蹙，子六 18050 蹙，子六 22039 蹙，子六 28021 蹙，將六（27073 顣，子六）
清				02447 蹴[106]，此育 02595 蹴，秋六 03363 蹴，七六 04628 蹴，七六
心	16111 娀，嵩			01409 鷫，宿 02354 鷫，肅 03287 驌，肅 04336 鷫，肅 17434 鷫，肅 18036 鷫，宿（01379 槦，肅 01446 槦，肅 04596 潚，肅 08082 潚，肅）
生				13044 謖，所六（06337 蹜，所六）
章	03390 眾，終 28001 螽，終			
書				01429 儵，叔 02514 儵，叔 02596 儵，叔 03327 鷫，始育 06132 儵，叔 06621 儵，叔 09062 菽，叔 18055 鷫，叔（06391瀟，叔）
溪	08211 穹，丘弓			
疑				（09272 砡，牛六）
影				02202 燠，於六 02453 澳，於六 03502 澳，於六 04440 薁，於六 10325 澳，郁 14007 澳，於六 15060 澳，於六 30009 燠，於六（06164 彧，郁 06548 隩，於六 09536 懊，郁 22010 隩，郁 23124 隩，於六）
曉				21059 畜，許六（10013 稿，畜 10159 稿，許六）

[106] 原文は「蹙」である。

云				14005 囿，于目
羊				01144 鬻，以六 01178 煜，育 01337 鬻，育 04380 鬻，以六 09481 毓，育 09576 煜，育 10288 毓，育 20055 毓，育 23069 煜，育（03113 蘛，育）

	冬	宋	沃
精		00042 綜，作宋	
從	03586 賨，琮 06367 淙，悰 11048 淙，在冬 11061 悰，在冬 15041 悰，琮 22058 賨，琮		
溪			02538 酷，苦毒

	鍾	腫	用	燭
敷	08218 丰，峯 11049 丰，峯（24069㷊，蜂）			
徹				03642 亍，恥錄 05120 亍，恥錄 07106 亍，丑錄
澄	01257 重，直龍 03715 重，直龍 04150 穜，直龍		02017 重，直用 21073 重，逐用	09015 躅，遲綠 23155 躅，直綠
娘	10099 醲，女龍 17251 醲，濃 17358 醲，女龍			
來	（09261 籠，龍）			02425 騄，綠 16087 菉，綠 17207 菉，綠 17448 騄，淥 21108 騄，綠 22028 籙，錄
精				（17070 哫，足）
清	01369 樅，七容 02494 樅，七松 08228 從，七容 17309 從，七容			
從			03241 從，自用 21026 從，	

			才用	
心		03248 傱，先勇		
章	26045 忪，周容（9260 籦，鐘）	00006 踵，腫 27084 踵，種		02116 屬，之欲 03074 鷄，爛 04052 屬，之欲 09064 屬，之欲 11071 屬，之欲
昌	（01137 罿，衝 03294 罿，衝 07082 罿，衝）			
常	02329 鏞，常容			18016 屬，市玉
日	04009 茸，而容 08219 茸，如恭 11051 茸，而容	04635 冗，柔腫 09037 冗[107]，如勇		01261 縟，辱 09048 縟，蓐 17417 蓐，辱 17420 縟，辱
羣	18142 邛，巨恭（04410 蛩，巨恭 29062 輁，渠恭）			02010 跼，局 07104 跼，衢玉[108]14016 跼，局 19013 跼，局 27047 跼，局
疑	03073 喁，魚恭 04320 鰅，顒 09442 喁，魚恭 17361 顒，愚恭 20098 顒，愚恭 24139 喁，魚恭			03075 鳿，玉
影	01512 饔，邕 17100 噰，邕		21031 雍，紝共	
曉	（03043 洶，吁恭）	04278 洶，虛拱 09474 洶，許拱 10015 洶，許拱		03145 旭，許玉 06599 旭，許玉
羊	04466 溶，容 04593 溶，容（02069 鏞，庸 04403獞，庸 6508 蟂，庸）	03052 溶，余腫 04079 溶，勇 18074 蛹，勇		

（2）江摂

	江	講	絳	覺

[107] 原文は「穴」である。
[108] 原文は「王」である。

幫				01427 駮，必邈 02333 駮，剝 04225 駮，補角 21110 駮，補角
滂				01449摷，樸（01099 颮，樸）
明	02576 哤，麥江 22073 駹，蒙江（08072 厖，眉江 24068 厖，麥江 26029 厖，邈江）			08267 藐，邈 10175 藐，邈 11060 藐，邈
知				05006 椓，卓 05255 倬，卓 05256 斲，卓 10184 斲，卓
徹				06312 踔，丑角 09066 踔，勅角 09490 踔，勅角
澄	01461 撞，直江 01561 橦，直江 04533 撞，直江 04588 撞，直江 06298 橦，直江 23017 撞，濁江			
娘				06593 搦，女角 23070 搦，女握
來				01013 犖，力角 02621 犖，呂角 03019 犖，呂角 03486 犖，呂角（06418磬，盧角）
莊				02183 斮，側角 02369 穱，側角 03215 穱，捉 17177 穱，側角 17298 穱，側角
初	04253 摐，楚江			（03011 齪，楚角 14061 齪，初角 22083 齪，楚角）
崇				01460 搉，助角 02435 灂，仕角 03183 鷟，仕角 04300 灂，助角 05266 灂，仕捉 06379 灂，仕角 08186 灂，仕角 09544 鷟，仕角 10025 灂，仕角 12048 灂，助角 12052 鷟，助角 16089 浞，仕角
生				01447 箾，朔（07026 嗽，所角 09385 數，所角）
見	03242 杠，江 03569 杠，江			01428 較，角 05230 較，角 06165 較，角 14051 搉，角 17172 桷，角 17449 較，角 25018 較，

				古学 27001 較，角 28014 較，角 29009 桷，角(02463 榷，古学 03464 榷，角)
溪	（02250 崆，口江）			06419 確，苦角 08204 愨，苦角 18090 殼，口角 24064 確，苦角
疑	（02251峴，五江）			03182 鸑，岳 09543 鸑，岳
影				04429 偓，於角 05084 葯，握 05090 喔，握 17073 喔，握 17038 葯，烏角（03010 齷，握 22082 齷，渥）
曉				（03343蔬，呼角）
匣	00014 降，下江 09392 降，夏江			06378 槃，胡角（4316 嚣，学）

（3）止摄

	支三 B 開	支三 B 合	支三 A 開	支三 A 合
幫	04376 陂，彼爲		01340 裨，必彌 10319 椑，卑	
滂	03346 鈹，披（04088 翍，披）			
並	04188 罷，疲 22076 罷，皮		（20052 裨，脾 22019 陴，脾 22037 裨，脾 22051 裨，脾）	
明			（06250 瀰，彌）	
徹	01112 螭，勑离 01122 摛，勑离 02325 螭，丑知 02439 螭，勑離 02487 螭，勑知 02627 摛，勑離 05081 摛，勑知 08100 螭，勑知 14040 螭，勑知			
澄	01564 簏，池 09605 簏，池 12029 簏，直移 17459 簏，呈知 28005 簏，秩移			
來	01584 驪，離 02044 鸝，呂知 05134 罹，离 08097	01594 羸，力爲		

	縭，离 10081 鸝，离 10195 罹，离 17086 醨，離 17210 驪，呂知 17269 鸝，呂知（02170 麗，离 04149 麗，离 08111 麗，离 11026 麗，离 20068 褵，離 28047 褵，离 30044 褵，离）			
精	17071 訾，貲	03430 觜，子規 06069 觜，子移[109]		
心	02531 榹，斯 04205 蔡，斯（05039 厮，斯 08073 褫，斯 20065 廝，斯）			
初	（04351 嵯，楚宜）	09384 衰，楚危 26043 衰，楚危		
生	（06342 褷，所宜）			
章	01517敔，支 22089 禔，支 23139 禔，氏移（02455 卮，紙移 04526 鴱，支 13041 鴱，支 14043 氏，支）			
常	（28056 禔，是支）			
書	16088 葹，失移			
日	（17076 唲，兒）			
見		06221 嫣，古爲		02587 槻，規
溪	02273 崎，綺宜			03700 闕，苦規
羣	02195 魁，岐 03203 碕，巨宜 06617 碕，奇 23004 琦，巨宜		09167 跂，祇（09545 蚑，巨支 17279 蚑，巨宜 18096 蚑，岐）	
疑	03362鶢，宜 04249鶢，			

[109] 開口韻字を合口韻字の反切下字とした。

	儀 04521鷁，宜（01114 崖，宜 01120 涯，宜 01170 崖，宜 02037 涯，宜 02338 涯，宜 02478 崖，宜 06178 崖，宜 06347 涯，宜 09262 崖，宜 09511 崖，宜 15001 涯，宜）			
影	02452 猗，於宜 06574 猗，於宜 10040 椅，於竒 10302 猗，於宜 11021 椅，於宜（02215 禕，於離 19004 禕，於宜）	04121 逶，於爲 04272 逶，於爲 06575 萎，於危 17116𡢁，於爲 26021 倭，於爲（01565 蜲，於爲 02185 蜲，紆危 02334 蜲，紆危 09241 蜲，紆爲 10037 蜲，於危 17257 痿，於爲）		
曉	02263 巇，許宜 07141 犧，許宜 09182 巇，許宜 09469 巇，許宜（01251 戲，羲 04594 戲，麾[110]17385 戲，許宜）	27072 嘕，許爲		（10051 墮，許規 10202 墮，許規 11028 墮，許規 19015 墮，許規）
羊			01566 蛇，移 02186 蛇，移 02335 蛇，逸斯 09242 蛇，移 09510	（02331 蠵，以規 04661 蠵，以彌

[110] 合口韻字を開口韻字の直音注とした。

			蛇，移（04122 迆，移）	17184 蠵，以規）

	紙三 B 開	紙三 B 合	紙三 A 開	紙三 A 合
滂	05181 披，普彼		02448 庀，匹婢（13021 仳，匹婢）	
並			09532 庳，婢	
明	04394 靡，眉彼		06009 瀰，弭 07134 芈，弭 25006 芈，名爾 30030 瀰，密爾 30082 芈，弭	
澄	01333 陊，豸 03202 陊，直氏 03325 阤，直氏 03374 褫，直氏 04014 傂，豸 04378 豸，直爾 04506 豸，直是 07055 褫，直紙 23118 陊，直氏			
娘	04029 旎，女氏 04470 柅，女綺 10046 柅，女倚 17125 柅，女綺（09109 抳，女綺）			
來	04135 峛，力爾 04415 邐[111]，連是			
精	04384 茈，紫 05250 呰，兹此 21151 呰，紫			
清	01596 跐，此 03359 跐，此			
心	02076 璽，徙 10205 璽，徙 16024 徙，所綺	17240 霏，髓		
初		07041 揣，初委 28028 揣，初委		
生	01047 纚，所綺 04258 纚，所綺 04465 纚，史是 13043 躧，所綺 13065 躧，所綺 16070 纚，所綺（03619 縰，			

[111] 原文は「灑」である。

	所綺 10070 縰，史倚）			
章	02212 抵，紙 07001 枳，只 08116 軹，紙 08184 枳，支爾	28008 捶，支靡 28015 捶，朱靡[112]		
書	02173 弛，式氏 09197 弛，式氏 17468 弛，尸氏 18106 弛，式氏 18136 弛，式氏 20050 弛，式氏（01332 陁，豕）			
日		（03710 蘂，如捶）		
見	03576 剞，居綺 04104 剞，居綺 04176 掎，居蟻 21149 掎，居綺 22047 掎，居蟻	04486 蛫，詭 23129 垝，古毀（04458 佹，古毀 06072 佹，古毀 06080 佹，吉毀 10100 姽，居委）		
溪	17231 碕，綺			12058 頍，丘弭
羣		（09231 跪，渠毀）		
疑	04357 錡，魚是 06594 檥，魚綺 17232 礒，蟻（02104 轙，蟻 06093 嶬，蟻 08107 轙，魚綺）	17236 硊，魚委		
影	（04028 旖，於綺 04469 猗，於綺 09108 猗，倚 10045 椅，倚 11075 猗，於綺 17124 猗，倚）	04461 骫，委 17238 骫，委		
羊			04051 迆，已爾 04136 嵫，弋爾 06010 迆，以爾 06228 迆，弋爾 06270 迆，以爾	

[112] 開口韻字を合口韻字の反切下字とした。

	寘三 B 開	寘三 B 合	寘三 A 開	寘三 A 合
幫	13035 詖，彼義 25015 賁，彼義（06213 陂，彼義）			
並	21060 被，皮義 21087 被，皮義		09353 比，避	
來	04443 離，力智	21121 累，力瑞		
精	21045 積，子智			
從	01509 胔，在智 18059 胔，疾賜			
章		07125 惴，之瑞 10247 惴，之瑞 29027 惴，之睡		
書	03270 鏁，施			
溪			08250 企，遺智 16001 跂，企	
羣	22024 芰，其義			
影		17137 餧，於爲	24148 縊，一智	
云		21071 為，于偽		

	脂 B 開	脂 B 合	脂 A 開	脂 A 合
滂	（01367 駓，丕[113]01472 髟，丕 17150 駓，丕）			
並	23081 邳，備眉		01239 檍，毗 04498 貔，毗 06195 檍，毗 06506 魮，毗 16059 陂，毗 27075 貔，頻夷	
明	10318 湄，眉（01065 楣，眉 17037 楣，眉）			
知	20099 胝，竹尼 22080 胝，竹尸			
徹	17454 絺，超遲			
澄	01242 坻，墀 01556 蚔，遲 02274 坻，遲 04298 坻，遲 04504	00002 椎，直追 04505 椎，直追 04662 椎，直追 18069 椎，直追		

[113] 原文は「否」である。

	坻，遲 06155 坻，直夷 06339 坻，直夷 07070 坻，遲 08099 坻，直夷 15059 坻，直尼	20038 槌，直追 21017 椎，直追 27021 椎，直追 30020 椎，直追		
娘	（06104 跜，尼）			
來		03620 纍，呂追 08265 纍，力追		
精			17176 粢，子夷 20011 齎，資 21119 齎，子夷 24048 齎，即夷	
清			28053 趑，七夷	
心				21106 睢，息惟 27076 睢，息惟（08196 荽，綏）
生		01233 榱，衰 06107 榱，衰 08217 榱，衰 10249 榱，衰 16018 榱，衰 17453 榱，衰 30003 榱，衰		
章	04183 祗，脂			
昌	03009 鴟，昌夷 21086 鴟，昌夷			
日		04019 薞，爾惟 09070 薞，而惟 12055 緌，儒誰 23158 緌，而惟		
羣	04328 鰭，耆 06100 鬐，耆 18085 鬐，耆 23001 鬐，巨夷	01444 騤，渠追 02451 騤，逵（06103 躨，夔 10301 馗，逵）		
影			09537 咿，伊 17074 咿，伊	
曉				09450 睢，

				許維 24105 睢，許惟
羊			（06115 踈，夷 16064 荑，夷）	

	旨 B 開	旨 B 合	旨 A 開	旨 A 合
滂	28027 豁，浦几			
並	07119 圮，平鄙 08037 圮，平鄙 10166 圮，平鄙 12003 否，平鄙 19018 圮，平鄙 29086 圮，平鄙			
澄	02302 滍，雉 02396 滍，秩履			
來		08278 藟，力水		
精				（04054 嗺，子水）
邪			17213 兕，徐姊	
章	03531 砥，至履 17158 砥，旨			
常	（28042 眡，視）			
見		00027 晷，軌 23080 氿，軌		
溪				（06133 巋，丘軌 09081 巋，丘軌）
云		01405 鮪，于軌 03352 痏，于美 06458 鮪，于軌 10035 鮪，于美 10122 洧，于美 12004 痏，于軌 21120 鮪，榮美		
羊				05013 唯，聿水

	至 B 開	至 B 合	至 A 開	至 A 合

幫	03504 毖，秘		02028 畀[114]，必利 10232 畀，必至（22002 痹，必寐）	
滂	03042 濞，普祕 04290 濞，普秘 05147 濞，匹備 09135 濞，普祕 09305 濞，普秘 09619 濞，普祕 10014 濞，普秘 15050 濞，普祕 22053 濞，浦祕			
並	01201 贔，備 03099 贔，備 03487 贔，備		02581 比，毗二 09099 比，鼻 09424 比，脾至 17200 比，頻二	
明	（06478 蝞，媚）			
知	02065 質，徵利[115]09187 躓，致 13024 躓，陟利 20060 質，徵二 27019 躓，竹利			
澄	01044 緻，直利 05078 緻，陳二	08248 懟，直遂 09148 懟，墜 09399 懟，墜		
清			01093 欪，且利	
從				08252 瘁，萃 10052 瘁，秦醉 22069 瘁，萃（6128 悴，慈醉）
心				03475 睟，邃 03646 粹，邃 10276 粹，邃 10278 睟，邃 10290 睟，邃

[114] 原文は「俾」である。
[115] 陳刻本は「協韻」音である。

				17328 粹，荀翠 23172 睟，邃 27007 粹，邃
邪				03217 穗，詞翠 05106 穟，遂（05144 隧，遂）
章	01419 鷙，至 02066 贄，至 03613 贄，職二 17321 鷙，質二 20015 鷙，至 23182 摯，至			
常	01185 嗜，常利			
日	（02123 髶，而利）			
見	13016 覬，異 26063 覬，異 30002 覬，冀			
羣	（01365 暨，其器 09039 暨，其器 12028 暨，其器）			06068 悸，其季（03305 猰，璆季）
影	05232 揟，一利			
曉	01202 肙，許備 03100 肙，許器			29023 睢，許季[116]
羊				06564 蜼，聿季 09315 蜼，弋季

	之	止	志
知		08230 徵，張里 17419 徵，張里（04069掇，陟里）	
徹			01068 眙，勑吏 03245 眙，勑吏 06028 眙，丑吏 09390 佁，勑吏 09446 眙，勑吏
澄	06219 治，直之		13060 植，值
來	01113 犛，貍 01354 氂，力之 21102 氂，力而	26025 俚，力紀	

116 「季」は現代漢語では開口に属しているが、閩南語では五臣と同様に合口韻である。

	（04020 灕，離）		
精	06016 孳，兹 06139 嵫，兹 16103 嵫，兹 23007 孳，兹	02152 耔，子	
心		25005 枲，胥里（03549 猥，胥理 06067 猥，息以）	08015 笥，息吏
邪		01401 汜，似 02477 汜，似 06292 汜，似 06619 汜，似 07135 汜，似 08200 汜，似 09613 汜，似 10171 耜，似 10267 汜，似 16021 汜，似 17348 汜，似 24095 汜，似	
莊	03059 鯔，緇 18153 輜，緇（03491 菑，側持）	25020 笫，側里	（08066 傳，側吏）
初	（13039 颸，楚緇 13073 颸，楚持）		
崇		（08189 栻，助理 2381 栻，助滓）	
生			（11046 駛，色吏 13059 駛，所吏）
俟		10150 涘，俟（01368 騃，俟）	
章		00012 趾，止 04001 畤，止 06589 址，止 10072 厎，止 10224 畤，止 13055 浍，止（01399 沚，止 10146 沚，止 17031 芷，止 18033 沚，止）	
昌			03290 幟，熾
常	（10005 榯，時）		（07028 蒔，寔吏）
日	01238 栭，而 01546 鮞，而 06085 栭，而 08290 輭，而 14064 輭，而 17288 臑，而 29057 輭，而（01473 鬋，而 17180 胹，而）		17002 珥，餌
見		21127 己，紀	
羣	02094 綦，其 03292 騏，其 03664 淇，其 10226		01223 惎，忌 24031 惎，忌 28055 惎，

	棊，其 15022 綦，其 29034 其，其		巨吏 30072 巷，渠記
疑	06143 嶷，疑 17147 鬻，疑	09230 儗，魚紀	
影			03423 乿，意
曉	01524 嬉，許期 07073 嬉，許其 12037 熹，火其		21159 憙，許記
羊	09003 頤，怡 18128 圯，與之（08049 台，怡 24164 台，怡）	19029 苡，以（27065 苣，以）	03477 异，異（00036 食，異）

	微開	微合	尾開（0）	尾合	未開	未合
非		（05139 騑，非 12075 騑，非）		08069 棐，匪		26015 誹，方未
敷		10214 騑，霏（02450 裶，霏）				（06302 黷，費）
奉		（21114 賁，肥）				09496 怫，扶未 09563 怫，扶味（03369 鬻，扶沸）
微		02388 薇，武非 10243 薇，微		03232 亹，尾 15033 亹，尾 17103 亹，尾 28012 亹，亡鬼		
見	07112 鞿，機 16072 鞿，居衣					
羣	01311 蘄，祈 03227 崎，巨依（02221					

	幾，渠衣 13067 圻，畿 13076 圻，祈 27044 圻，巨衣 21020 幾，巨依 23107 幾，渠衣 30004 幾，巨衣）					
疑	23177 沂，魚依					
影		02113 葳，威 09069 葳，威		17235 磈，於鬼		02598 罻，尉 03295 罻，尉 07083 罻，尉 13042 罻，尉
曉	01008 睎，希	01465 翬，暉 03160 翬，輝 03417 黴，暉 29053 翬，暉 29065 翬，暉		06021 虺，吁鬼	02081 餼，虛毅 02424 欷，虛毅 16095 欷，許毅 17096 欷，虛毅 30083	（06316 浒，諱）

					欷，許毅	
云				01235 暐，偉 01288 瑋，偉 02201 韙，葦 03223 暐，偉 03610 韙，偉 09032 煒，于鬼 09575 韡，偉 18102 韙，于鬼 24136 煒，偉（06601 韅，于鬼）		00045 彙，于貴 03116 彙，謂 03302 煟，于貴 09497 渭，胃 20048 蝟，謂

（4）遇摂

	魚	語	御
知	（05002 豬，陟居）		01002 著，張慮
澄	08047 躇，除 08246 躇，除	02340 苧，直呂 03691 杼，直呂 30073 貯，直呂	（18084 箸，直慮）
娘		17186 敉，女	
來	02068 臚，廬 02295 櫚，閭 08025 臚，閭	19016 膂，旅 27058 膂，力與[117] 29008 梠，呂	
精	01507 且，子余 01521 且，子余 02224 且，子余 05186 且，將余 12046 且，子余 21183 且，子餘 24036 且，子余（04199 苴，子餘 11006 苴，子余 18120 苴，子余 25010 苴，子余 28032 苴，將余）		02507 沮，子預 03681 沮，子豫 28010 沮，將預
清	00011 雎，七余 00035 狙，七余 02043 雎，七余 06001		

[117] 原文の反切は「與力」である。

	沮，七余 06354 沮，七余 16014 沮，七余 24117 狙，七余 28013 狙，七余 28054 趄，七余		
從		05203 沮，慈與 05209 咀，慈與 08030 咀，慈與 16020 沮，慈與 18115 沮，慈與 21056 沮，才呂 22040 沮，慈與 26035 沮，慈與	
心	（02292 楈，胥）	16019 醑，思與 16023 醑，思與 27036 諝，思與（03451 湑，思與 05056 胥，思與 09257 湑，思與）	
邪		01403 鱮，翔與 02429 鱮，序 03103 嶼，序 06522 嶼，序	
崇		（17135 鉏，牀舉）	
生		16123 糈，所	
章	02374 藷，諸 04448 櫧，諸（06494 蠩，諸）		（01284 翥，之預 17466 翥，之庶）
日		03711 茹，汝 16096 茹，如呂	03682 洳，如豫 17293 茹，人據（21011 如，而去）
見	02040 鶋，居 03078 鶋，居 07091 鶋，居 10135 琚，居（06355 崌，居 06493 蜛，居 10079 車，居）		01216 踞，據 09506 倨，據 24025 踞，據
溪	03297 阹，丘魚 04495 阹，羌魚 05005 阹，袪 05009 阹，袪（10126 袪，墟）		
羣	03082鰥，渠 21168 璩，其魚（03615 鐻，渠）	01032 虡，巨 01248 虡，巨 02395 秬，渠舉 04065 虡，巨 04169 虡，巨 04214 鉅，巨 17185 粔，奇舉 17202 虡，奇舉 17297 駏，距	
疑	01548 漁，魚	02047 蘌，語 02208 圉，語 03558 禦，語 24083 圉，語（17136 鋙，	

		語）	
影	03171 箊，於 17111 菸，於		03624 醧，一據 04274 淤，應慮 17119 瘀，央預
曉	02191 魖，虛 04004 魖，虛 06514 噓，虛 16094 歔，許居 24017 噓，虛 24056 噓，虛		
羊	04024 旟，余 08158 旟，余 15025 璵，余 21136 璵，余 27023 璵，余	17313 予，與	

	虞	麌	遇
非	09232 跗，方無 23032 鈇，方無	04181 簠，甫（00024 黼，甫）	06091 搏，分務[118]
敷	01147 郛，孚 10228 郛，孚 10233 俘，孚（01308 桴，孚）	09448 拊，撫 09635 拊，撫	04519 仆，赴 23120 仆，赴 29049 訃，赴
奉	17045 夫，符	03503 滏，父 15031 腐，父 17259 腐，輔 20034 腐，輔	02126 駙，附 03419 鮒，附 04192 坿，附 29076 鮒，扶句（23046 跗，附）
微		01195 廡，武 02001 憮，武 02231 廡，武 02370 廡，武 02562 廡，武 04547 嫵，武 08061 廡，武 12009 膴，舞 23161 膴，無禹 29013 甒，武 30007 膴，武（26026 碔，武）	01140 騖，務 04171 騖，務 10215 騖，務 23064 騖，務
徹	01347 貙，勑愚 02605 貙，勑朱 03165 貙，勑俱 04223 貙，丑朱 17444 貙，勑俱		
來	（03269 鏤，力駒 06189 婁，	09339 縷，力矩[119] 10117	

[118] 陳刻本の反切は「分故」である。
[119] 原文の反切は「矩力」である。

	力俱 27017 鏤，力俱）	僂，縷 17341 縷，力矩	
精	19005 諏，足俱（06070 陬，子臾）		（09067 足，子喻 21007 足，即喻）
心	03382麕，須 16083 嬃，須	03328縝，司禹	
初	（17282 犓，楚俱）		
崇	（17303 鶵，助拘）		
生		02217 數，所主 21051 數，史柱	
章	04538 侏，朱	02602 麈，主	
常	03312 殳，殊 09046 銖，殊 17431 殳，殊	（06369 豎，樹）	
日	17075 嚅，儒		
見	08101斞，俱	02539 蒟，俱宇 05228 蒟，矩	09429 句，九具 02572 蒟，句
溪	09079 嶇，區 09467 嶇，丘愚 10058 嶇，驅 10269 嶇，區	（01483 踽，羌禹）	00016 驅，丘遇 09505 驅，丘遇
羣	29045 絇，衢（03019 鼩，劬 03674 鴝，劬[120]）	06192 窶，其矩	13071 臞，具
疑	02328 鰅，隅 02574 禺，愚 03006 禺，愚 03399 禺，愚 18143 嵎，愚 23030 禺，愚	01426 麌，危宇	
影	04186 紆，憶俱	17355 傴，委禹	
曉	03476 盱，香于 06130 盱，吁 09539 欨，況于 24106 盱，吁 28035 盱，吁（09208 姁，許于）	04563 詡，薰宇	
云			02379 芋，于遇 02541 芋，于句 04388 芋，云句 08192 芋，違句
羊	03446 歈，逾 03701鬧，俞 04549 褕，俞 15014 褕，逾 17001 愉，逾 17197 歈，俞 18112 覦，逾 26016 愉，逾 26064 覦，逾	01489 窳，庾 03582 窳，庾 05015 窳，庾 06212 窳，以主 17262 窳，庾	

[120] 原文は直音字と被注字が同一である。

	（02235 媮，逾 02503 腴，俞 08156 媮，俞 09209 媮，俞 10173 媮，俞 17069 媮，俞 17136 揄，俞 23084 腴，庾俱）		

	模	姥	暮
幫	17084 餔，晡		
滂		01141 溥，普	
明	21165 嫫，摸 29091 謨，莫胡（02015 摹，莫胡 02461 摹，莫蒲 05207 摹，莫胡）	05037 莽，莫古 13029 姥，莫古	
端	21174 闍，都		（05224 秺，丁故）
定	01498 駼，途 02198 荼，徒 03561 荼，途 04408 駼，途 08268 荼，徒 20047 涂，途（03167 菟，徒）		
泥	21023 駑，奴		
來	02290 櫨，盧 02357 鸕，盧 03088 鸕，盧 03131 櫨，盧 03522 櫨，盧 04092 櫨，力都 04451 櫨，盧 05114 顱，盧 06194 櫨，盧 08223 櫨，盧 10207 壚，盧 10322 艫，盧 27052 艫，盧 28057 艫，盧（18125 玈，盧）	18135 鹵，魯 22057 櫓，魯（04496 櫓，魯 26005 櫓，魯）	00003 輅，路 02098 輅，路 07051 璐，路
精	02504 葅，租	17162 組，祖	
清			04558 錯，七故 10218 錯，七故 12034 錯，七路 16076 錯，倉故 16091 錯，七故 17129 錯，七故 17424 錯，千故 18107 錯，措 24091 錯，措
從		21096 粗，徂古	01118 胙，祚
心			00010 愬，素 02021 泝，素 03071 泝，素

			07059 愬，素 10148 泝，素 10250 愬，素 20093 泝，素 28045 傃，素 29047 傃，素（01286 遡，素 05130 膆，素 18012 遡，素 18032 遡，素）
見	01056 觚，孤 03413 罛，孤 07139 呱，孤 09019 觚，孤 09203 觚，孤 15008 蛄，孤 16022 酤，姑 24022 觚，姑（03216 菰，孤 04212 菰，孤 17403 菰，孤）	02174 罟，古 05187 蠱，古 08164 罟，古 26065 瞽，古（01339 賈，古 02568 賈，古 03583 賈，古 07086 賈，古 20066 賈，古 23036 殺，古 23061 賈，古 23075 賈，古 23117 賈，古 25001 賈，古 28033 賈，古）	01218 涸，固
溪			（04502 綺，苦故）
疑	01505 齬，吾 03157 齬，吾 09316 齬，吾（01327 齬，吾）		08220 梧，五故（08008 遝，悟[121]09356 遝，迕）
影	01190 於，烏 01193 於，烏 02248 於，烏 02337 洿，烏 03166 於，烏 09615 洿，烏 10172 於，烏 10179 於，烏 10199 於，烏 10217 於，烏 10277 於，烏 15032 於，烏 20024 於，烏 24062 洿，烏 24102 於，烏 24152 於，烏 25029 於，烏 29079 於，烏（22090 惡，烏 23113 惡，烏 24140 惡，烏 26039 惡，烏）	09259 鄔，溫古	01356 惡，翁故 05247 惡，溫故 16119 惡，烏故 23008 惡，烏故
曉		03275 滸，忽古 05166 滸，忽古 10136 滸，荒古 10213 滸，虎 27038 滸，忽古	
匣	01266 瑚，胡 01502 猢，胡	01014 鄠，戶 01213 鄠，	01219 沍，乎故 02167

[121] 原文は「梧」である。

		戶 01322 盱，戶 01364 鄠，戶 01516 酤，戶 02204 扈，戶 03621 酤，戶 04446 扈，戶 04491 扈，戶 04586 盱，戶 05200 鄠，戶 09052 楛，戶 10177 怙，戶 14038 楛，戶 16057 扈，戶 19006 扈，戶 21164 酤，戶（03387 岵，戶）	濩，護 02310 濩，護 02519 濩，護 04390 濩，護 09503 濩，互（04143 桓，互 08260 冱，胡故 18015 瓠，護）

（5）蟹摄

	齊開	齊合	薺開	薺合 0	霽開	霽合
幫	03716 悭，邊迷				01506 嬖，閉 21117 嬖，辟計	
滂	17445 批，匹迷					
並	（13003 鞞，步迷 18020 崥，步迷）		18080 髀，薄米 20010 髀，陛		02386 薜，萍計 17013 薜，薄閉	
明	（06481 鼉，迷）					
端	03631 鞮，都泥 04539 鞮，丁兮 05017 鞮，低 10231 氐，低 23156 鞮，丁兮		01204 坻，丁禮 02458 詆，丁禮 03448 坻，丁禮 04640 抵，丁禮 07074 坻，丁禮 07089 坻，丁禮 08300 抵，丁禮 21147 詆，丁禮 22032 抵，丁禮（01560 觝，丁禮		01231 蔕，帝 01603 柢，蔕 03124 蔕，帝 03218 柢，帝 03511 柢，帝 10049 蔕，帝 20091 蔕，帝	

			05229 觝，邸 09472 觝，丁禮）			
透			09451 涕，他禮		02007 薙，土帝 09133 达，他戾[122] 09452 洟，他計	
定	01335 綈，啼 02517 荑，啼 02555 鯷，啼 03533 締，題 04414 騠，啼 05099 稊，啼 10305 荑，啼 11030 荑，啼 11037 荑，啼 11059 荑，啼 13037 荑，啼 20007 騠，啼 20019 騠，啼 23165 荑，啼（01439 緹，啼 02506 鵝，啼 03608 鯷，啼 18021 崹，啼 23133 緹，徒兮[123]23166 緹，啼 25012 緹，啼 30043 緹，題）				03239 締，提細 04441 棣，徒計 16037 杕，第 16126 鶤，弟 18103 踶，覿帝	
來			02083 醴，禮 02303 澧，禮 06353 澧，禮 12033 澧，禮		01387 荔，隸 02387 荔，力計 03013 儷，	

[122] 原文の反切は「他淚」である。
[123] 原文の反切は「徒分」である。

			12038 醴，禮 17027 澧，禮 23035 蠡，禮 26044 蠡，禮（01531 鱧，禮 02556 鱧，禮）		戾 04207 荔，隸 04555 隸，郎計 06510 蜧，麗 06602 飋，麗 09591 唳，麗 10085 悷，隸 15030 蜧，麗 17014 荔，麗（06525 珈，麗 06541 枷，力計 07042 沴，麗 29070 沴，靈細 30037 綟，麗）	
精	08303 齎，子兮（01291 隮，子兮 05148 隮，子兮 09186 躋，祖雞）		10285 濟，子禮		08212 擠，濟 24034 擠，濟 30067 擠，子計（01478 鬣，作計）	
清					03541瞕，千麗 09523瞕，砌	
從					04231 眥，牆細 11014 眥，在計（05151 嚌，齊 01040 齊，慈計 01262 齊，	

					才計 09439 齊，前細）	
心			15055 洒，洗			
見		08095 袿，珪 09214 袿，珪 10093 袿，圭 10141 袿，圭 12050 袿，閨 17461 袿，圭			02239 係，計 26008 係，計（14056 薊，計）	
溪		15046 睽，苦圭	（15056 棨，啟）			
羣						
疑	01406 鯢，倪 02449 兒，倪 23002 鯢，倪 26023 輗，五雞				01508 睨，五計 03392 睨，魚計 04623 羿，五計 05066 睨，五計 06591 睨，五計 16138 睨，五計 27026 羿，五計	
影	01130 鷖，烏兮 02347 鷖，烏兮 02437 鷖，烏奚 04522 翳，一兮 18118 繄，烏奚				01062 枍，烏詣 01304 枍，翳 02192 殪，煙計 04518 殪，一計 05152 曀，因計 06284 曀，一計 08059 殪，煙計 21101 殪，	

					翳 26048 殪，伊計	
曉						（07035 嘒，呼惠 16012 嘒，呼桂）
匣	04412 騱，兮	17209 畦，胡圭（08004 纚，戶圭）			02408 禊，胡計 03669 系，胡計 08199 禊，胡計	03609 憓，惠 24088 譓，惠

	祭 B 開	祭 B 合	祭 A 開	祭 A 合
滂			（07040 漇，匹裔）	
並			21099 斃，婢袂	
知		03211 畷，綴		
徹	03337 跇，勑曳 04639 跇[124]，勑制 16079 傺，丑例 17110 傺，勑例			
來			03687㓜，力制 06495 蠣，力滯	
清				03690 脆，將衛 17258 脆，清歲
心				12025 繐，歲 30064 繐，歲
邪				17378 篲，囚衛
章	（09069 晢，制）	（01052 贅，章衛 20073 贅，之鋭 22035 贅，職汭）		
昌	06318 掣，充制 06509 掣，充制			

[124] 原文は「紲」である。

常	02604 噬，時制 08057 噬，逝 10152 噬，誓 16042 澨，逝 17033 澨，時制			
書		03463 蛻，稅 07117 蛻，稅 09031 說，施汭 12035 說，稅 22013 蛻，稅 23006 說，稅 24039 蛻，稅 25013 蛻，稅		
日		05215 芮，汭 05285 芮，而銳 16093 枘，而銳 17134 枘，汭		
見		（01105 蹶，居衛）		
云		04227 轪，衛 04513 轪，衛 06014 轪，衛 28040 轪，爲歲 29043 轪，衛		
羊			01527 槐，陽制 04252 槐，翊祭 04550 禩，曳 04618 跬，曳 06319 洩，余制 06344 洩，余世 08127 洩，曳 13022 槐，曳 17022 槐，翊例 17089 槐，弋例（06169 泄，曳 09177 跬，余滯 10030 滴，曳 17384 跬，余滯 22029 枻，	03125 莵，以說 10279 叡，銳

			翊制）	

	佳開	佳合	蟹開	蟹合 0	卦開	卦合
幫			（03355 捭，比買 18058 捭，北買）			
並						11045 稗，皮 卦 17404 稗，蒲賣
初	（10128 差，楚佳）					
崇	02159葷, 仕佳				01349 眦，仕懈 03457 眦，助賣 05026 眦，助懈 21055 眦，柴懈 22041 眦，柴懈	
生			（03405 灑，所買）		（23076 洒，所賣）	
見	07110 街，佳		03181 嶰，解 09280 嶰，古買 21092 解，居蟹 21178 解，居買			17159 挂，卦 17436 挂，卦
疑					03456 睚，五賣 05025 睚，五懈 21054 睚，魚懈 22042 睚，五懈	
影	03443 娃，烏佳 09228 哇，烏佳 09598 哇，烏佳	（23071 鼃，烏佳）			02633 隘，烏懈 17397 隘，烏賣	

	15065 娃，於佳 16016 哇，烏佳 16026 哇，烏佳 17311 娃，一佳 27006 哇，烏佳					
匣			01540 澥，解 03385 嶰，解 10239 解，蟹			01523 絓，胡卦 20053 絓，胡卦

	皆開	皆合	駭開 0	駭合 0	怪開	怪合	夬開	夬合
滂					04280 湃，浦拜 09478 湃，普拜			
並	04537 俳，排				（06381 瀷，蒲拜）			
明	06283 霾，莫排 13036 霾，埋				03444 韎，莫介			
徹							29003 蠆，勑邁	
莊					06224 瘵，側界			
崇	03364 豺，助皆（03162 麡，儕）							
生					01259 鎩，所拜 02070 鎩，殺			

					05045 殺，所戒 09383 殺，所戒 11024 鎩，所拜 13020 鎩，殺 26013 鎩，所介 27042 鎩，殺 27066 鎩，殺 30034 殺，所戒			
見	09595 喈，皆 10082 喈，皆 10125 喈，皆				03409 鮒，介		03418 犗，古邁	
溪	01491 揩，苦諧					（19033 蒯，苦怪）		
疑						09440 聵，五怪		
影		03196 崴，烏乖（06448 瀤，烏懷 06498 碨，烏懷）					04254 喝，於邁	
曉						（06383 瀫，呼拜）		

匣		03197 襄，懷			03696 鋬，下界 09346 械，胡介（08035 瀣，胡介 09137 瀣，胡界 09500 瀣，胡界）			00034 話，下快 18017 話，下快 19023 話，戶邁

	灰	賄	隊	泰（合）
幫			（23056 誖，布內）	10206 沛，貝 19010 狽，貝
滂	06439 胚，普杯 23027 坯[125]，普杯			10031 霈，普蓋 10047 霈，普蓋（02102 沛，普外 02476 沛，普賴 04158 沛，普會 04297 沛，普外 06361 沛，普會 08105 沛，普賴 08145 沛，普賴 09117 沛，浦貝 17011 沛，普賴 24093 沛，普蓋）
明	03560 腜，莫回 10087 枚，梅		08282 痗，妹	
端	04276 堆，丁回 06259 碓，都迴（17374 塠，都回 23079 敦，都回）			
透	02149 推，土回 10308 推，土雷 18131 推，土回	04083峐，他賄		
定	27013 魋，頹（10057 隤，徒		01378 薱，徒對 05189 憝，徒對	（09283峴，徒外）

[125] 原文は「坏」である。

	回）		06610 霸，徒對 25009 憝，徒對	
來	04587 轠，雷 09202 罍，雷 29012 鐳，雷	01323畾，魯罪 04372 礧，郎罪 05163 儡，郎罪 06152 礧，力罪 06497 磥，力罪 08297 儡，洛罪 09154 儡，盧罪 09491 磥，盧罪 10021 磥，盧罪（06272 磊，洛罪）	18133 耒，盧對 20092 耒，盧對	
精			03537 綷，祖對	
清	05174 縗，崔	09235 漼，七罪 30071 漼，麤賄	04263 焠，七內	
從	01035 崔，族回 01209 崔，摧	01324巂，罪 06029巂，罪		05214 蕞，藏外 10255 蕞，在外 27008 蕞，在外 30061 蕞，徂外
見	26022 傀，古回（06527 瑰，古回 23003 瑰，古回）			02361 澮，古會 06359 澮，古外 17334 膾，古外 27010 澮，古外
溪	02002 悝，苦回 09022 恢，苦回 09076 恢，苦回 10262 恢，苦回 24051 詼，苦回	（06496 磈，苦罪）		
疑	01036 嵬，五回 02261 嵬，五迴	09484 隗，五罪		

	03021 嵬，五回 09463 嵬，五回			
影	06603飆，烏回	（04368 嵬，烏罪 06289 碨，烏罪 10020 碨，烏罪）		05101 薈，烏會 06239 薈，烏外 06552 薈，烏外 07084 薈，烏會 18014 薈，烏會 22071 濊，烏鱠
曉	06275 豗，呼迴	02565 賄，呼罪	17353 顙，晦（13023 痗，晦）	02110 噦，呼外
匣	05170 洄，回 17391 洄，回	（04369 廆，胡罪）	02474 潰，胡內 02537 潰，胡對	

	咍	海	代	泰開
端		03213 等，都改		
透	25002 邰，胎			（01198 忕，太 02433 汰，太 17061 汰，太 18146 汰，太）
定	09216 炱，徒來 13038 薹，苔 24055 跆，臺（17130 駘，徒哀）	01059 駘，殆 01299 駘，殆 05218 駘，徒改 07126 迨，徒改 09397 駘，徒改 15058 駘，徒改	21132 逮，代	04115 軑，大 15054 軑，大 16135 軑，大
泥	02027 能，奴來 04111 能，乃來 13005 能，奴來			
來			20095 睐，力代	03040 瀨，賴 10050 籟，賴
精	02237 栽，哉		04141 縡，載	
心	05083 鰓，蘇來 18034 鰓，先才			
昌		04197 茞，昌待 16060 茞，昌改 08239 茞，昌待		

		21152 莒，昌待		
見	03629 該，古孩 10149 陔，古來 12024 荄，古來 17375 荄，該 24074 垓，古來		（02367 溉，古愛 17350 溉，古代 24060 槩，古代 27070 槩，古代）	05168 丐，古大 28023 丐，哥賴
溪		01274 塏，愷 02558 塏，愷 03484 塏，苦改（24079 闓，苦改）	03209 慨，苦代	
疑	05150 皚，五哀 10055 嵦，五哀 12040 皚，五來 17333 皚，五哀		01206 閡，礙 06005 閡，魚代	
影	17059 欸，哀 10168 唉，呼來		02392 曖，愛 04398 薆，愛 06301 靉，愛 08161 曖，愛 08288 曖，愛 16128 薆，愛	08153 藹，烏蓋 08188 藹，於害 08241 藹，於害 10260 靄，於蓋（01081 壒，於害 02580 壒，烏蓋 03548 壒，烏害）
曉	03002 咍，呼來	02440 醢，海 17066 醢，呼改 17141 醢，海 26057 醢，海		
匣			07140 劾，何代 20051 劾，胡代	

（6）臻摂

	真開 B	真合 B	真開 A	真合 A
幫	01270 彬，悲旻（04063瑞，斌 05138 邠，斌 06218瑞，			

	斌 23174 邠，豳 24109 邠，斌）			
滂			（02316 砏，普貧 08159 繽，匹鄰 09430 繽，匹隣）	
並			06560 嬪，頻	
明	05027 閩，旻 01045 珉，旻 01268 珉，旻 03296 罠，美巾 03420 緡，密巾 03644 旼，美貧 06258 珉，美巾 18038 罠，旻 18138 緡，旻 21186 緡，旻 24097 旼，旻（04193 瑨，旻）		09077 泯，彌鄰	
徹	04401 縝，丑鄰 09091𤞷，勑鱗	03130 杶，椿 29055 輴，楮倫 29059 輴，丑輪		
來	01579 轔，鱗 02132 轔，鄰 02269 嶙，鄰 03529 嶙，隣 23157 轔，鱗（01269 璘，鄰 03306 瞵，隣 04062 璘，隣）			06475 蜦，倫（09306 侖，倫）
精			27068 璡，津	
清				（01578 踆，七倫 02085 踆，七旬）
心				01243 眴，詢 03530 峋，詢 03658 詢，恂 05137 郇，詢
章	03525 振，章人 04072 桭，真	24101 諄，之純		
常	06177 宸，辰	17415 鶉，常倫		
見		06023 麕，居筠		

		17241 麕，居筠 17322 麕，居筠		
溪		（01580 輑，屈筠 02268 啒，丘筠 02363 輑，丘均）		
羣	26011 矜[126]，巨巾			
疑	08207 閻，魚巾 27012 閻，銀（01171 垠，銀 01421 垠，銀 03191 垠，銀 04061 垠，銀 04117 垠，銀 06328 垠，銀 06558 垠，銀 08079 垠，銀 17126 狺，銀 23082 垠，銀 23092 垠，銀）			
影		03049 齋，於旻	01038 茵，因 01182 烟，因 04580 闉，因 09201 茵，因 10323 闉，因 14004 闉，伊人 17394 駰，因 18098 烟，因 21173 闉，因 27030 禋，因 27077 駰，因 28002 絪，因 （05234 堙，一人）	
羊			03120 夤，寅	（03505 畇，勻）

	軫開 B	軫合 B	軫開 A	軫合 A
並			05240 臏，頻忍	

[126] 《王三》の又音を採用した。

			20021 臂，鼻引 21069 臂，毗忍	
明	09410 筤，泯			
來	05237 嶙，力忍			
心				01415 隼，司尹 03175 筍，思尹 03273 隼，司尹 04168 筍，悉尹 08193 筍，昔尹 17283 筍，息尹
章	01359 賑，軫 01601 鬢，軫 02528 賑，之忍 03195 賑，之忍 03210 畛，之忍 06540 稹，之忍 07022 眕，軫 14013 縝，軫 17376 軫，真忍 23138 賑，軫	02078 純，之尹 04626 純，之允		
昌		02280 蠢，昌尹 03093 蠢，昌允		
羣		01328 菌，渠殞 02279 菌，奇殞 16062 窘，求殞		
云		04301 賈，殞 06405 隕，于窘 24122 賈，隕		
羊			（30058 螾，引）	05291 狁，允 10245 狁，允

	震開 B	震合 B	震開 A	震合 A
幫			03240 儐，卑胤	
徹	（12045 疢[127]，趍）			
來	04334 磷，吝 05208 撊，力			

[127] 原文は「疹」である。

	刃 06054 燐，吝（01091 躪，力震 04008 轔，梨忍 04185 轔，力刃 04226 轔，力刃 04373 轔，力忍 04617 轔，吝 05219 轔，藺 06539 橉，力刃）			
精				02629 儁，俊
心			03647 訊，信 08065 訊[128]，信 10299 訊，信 24124 訊，信 30052 訊[129]，信	01004 浚，峻 03361 鵕，思俊 04520 鵕，峻
邪			（26069 燼，辭胤）	03007 侚，辭俊
初			14066 櫬，楚覲 30026 櫬，楚吝	
章	（02179 侲，震）			
書	02597 眒，勝胤 04228 眒，式刃	09010 瞬，舜 15039 瞬，舜		
日	03589 牣，仞 05048 軔，刃 05136 軔，刃 07097 牣，仞 08259 軔，刃 16100 軔，刃 25011 牣，刃 27086 牣，刃			
羣	07044 墐，覲			
影			03062 鮒，印	
曉	10193 釁，許覲 12061 釁，許覲（2033 釁，許覲）			
羊			00021 引，以進 21093 引，以刃	

	質開 B	質合 B	質開 A	質合 A
幫	（04285 泌，筆）		04281 滭，畢 04577 畢，必 19036 蹕，畢	

[128] 原文は「誶」である。
[129] 原文は「誶」である。

			24128 滭，必（09124 咇，必[130]）	
並			00044 比，避逸 03233 比，頻必 04582 佖，頻一 06163 比，毗逸 09044 比，毗蜜（03247 坒，蒲必 04399 咇，步必）	
明	06184 蔤，密（02281 滵，密）		09551 謐，密[131]10258 謐，蜜	
知	03673 窒，知逸 23041 窒，竹栗			（09114 遞，知律）
徹	04629 抶，恥栗	01295 怵，黜		
娘	（10315 暱，女乙）			
來			07012 溧，栗 7030 慄，栗 15009 慄，力失 17072 慄，栗 17091 慄，栗 17228 慄，栗	02095 繂，律
精				21016 卒，子律 21018 卒，子律
從				01078 崒，慈律 03353 踤，慈聿 06019 崒，慈聿 06371 崒，慈聿
章	04026 郅，質 21185 郅，質 24067 郅，質 27034 鷖，之日 30057 蛭，質（23031 鑕，質 26056 鑕，質）			
溪			06489 蛣，詰 10303 詰，丘吉	
羣			02168 佶，奇栗	04006 獨，其聿

[130] 重紐 A 類と B 類の通用例である。
[131] 重紐 A 類と B 類の通用例である。

疑	03092 耴，魚乙			
曉	04095 肸，許乙			
云	02324 汨，為筆 03045 汨，于筆 03433 汨，于筆 04077 汨，于筆 04101 汨，于密 04283 汨，于筆 04310 汨，于筆 06043 汨，于筆 06154 汨，于筆 08143 汨，于筆 08304 汨，于筆 09412 汨，于筆 09476 汨，于筆 10151 汨，于筆 16058 汨，于筆 17206 汨，于筆 17339 汨，于筆 17347 汨，于筆 17387 汨，于筆			
羊			01063 軼，逸 04514 軼，逸 05028 軼，逸 07108 佚，逸 08088 軼，逸 08201 佚，逸 09118 軼，逸 16112 佚，逸 17300 佚，逸 17338 軼，逸 23126 軼，余日	02498 鴖，聿 03282 喬，聿 03641 喬，聿 06296 鷸，聿 08139 遹，聿（06223 潏，聿 06258 飁，聿 24071 潏，聿 24130 潏，聿）

	臻	櫛	廢（開）	廢（合）
敷			29007 柿，孚廢	
奉			17127 吠，扶廢	

莊	02549 蓁，臻 10121 溱，臻（02535 榛，臻）			
崇	01503 榛，柴臻 03490 榛，士臻 11033 榛，仕臻 17329 榛，仕臻 17430 榛，士臻			
生	01186 莘，詵 17146 侁，所臻 17364 莘，所臻	22003 蝨，瑟		
曉				09174 喙，虛穢 10033 喙，許穢

	文	吻	問	物
非			03378 僨，方問 18052 僨，奮	00025 黻，甫勿 10286 黻，弗 29064 綍，甫勿
敷	06597 雰，紛 14006 雰，芳云		06573 瀵[132]，芳問	02409 祓，拂
奉	01024 棼，汾 1064 棼，汾 01224 棼，汾 01230 棼，汾 01309 棼，汾 02468 蓋，汾 02550 蕡，墳 03520 枌，扶文 05029 轒，汾 18029 枌，汾（02154 蕞，汾 09404 蚡，扶雲）	（06479 鱕，墳）	10194 分，扶問	04187 岪，房勿 09008 佛，扶勿 09359 佛，扶勿 09623 佛，佛 14030 佛，佛 17372 佛，扶勿 23159 拂，扶勿
微	05188 閔，文	09016 吻，亡粉 09106 吻，無粉 09160 抆，無粉 19020 吻，亡粉 21131 抆，亡粉 26066 吻，亡粉 28037 吻，無粉	27020 汶，問	04402 芴，勿（06037 岉，勿 07063 沕，勿 17225 沕，勿 24070 沕，勿 24129 沕，勿）
羣				03481 倔，渠屈 05249 掘，其勿

[132] 《王三》《広韻》の反切はともに「匹問」であり、《唐代字音の研究》も同様である。しかし、五臣音注では輕唇字の直音注を用いる。

				24108 崛，求勿
影	01183 熅，於羣 02469 菖，於文 13001 熅，於云 18099 熅，於云 24143 熅，於云 28003 緼，於云（01582 蝹，於雲 03469 韞，蘊 06180 蝹，於云）			06287 灪，於物 06549 蔚，尉 09030 蔚，鬱 06151 蔚，尉
曉	18150 獯，勳 20045 獯，勳 09405 縕，於[133]文			03096 欻，許勿 11010 欻，許勿 23109 欻，許勿（06304噷，許勿）
云	08041 沄，云 23095 耘，云（03169 篔，云）			

	殷	隱	焮 0	迄
見		08194 堇，謹		
疑		04266 听，魚謹 28009 听[134]，魚謹		（02264 屹，魚乞）
影		06174 礙，隱		
曉	07123 昕，欣			17340 汔，喜乞

	元開 0	元合	阮開	阮合
奉		01194 蕃，繁 02084 燔，伐元 02341 蘋，煩 02376 蕃，繁 02442 蕃，繁 02518 蕃，伐元 03663 燔，扶原 04209 蘋，煩 04389 蘋，煩 04515 蕃，煩 05270 蕃，煩 06330 燔，煩 06569 瀪，煩 14036 蹯，煩 15026 璠，煩 17029 蘋，煩 17208 蘋，煩 17239 蘋，煩 18078		

[133] 原文は「放」である。
[134] 原文は「聽」である。

		蹯，煩 20097 墦，扶元 21137 璠，附番 22068 蹯，煩 24160 燔，扶元 24163 蕃，煩 27024 璠，煩		
微				23054 輓，亡遠
見		16031 鞬，居言 17179 腱，紀言		
疑		03129 杌，元 03298 沅，元	（09270 巘，魚偃 09470 巘，魚偃 11038 巘，魚偃 11064 巘，魚偃）	
影		01022 宛，於袁 02055 蜿，紆元 17324 冤，於袁 17427 宛，於元 20008 宛，於元 24125 宛，冤（03662 怨，冤 10038 蜿，於袁）	01532 鰋，偃 02612 鰋，偃（20002 鄢，偃）	01166 踠，苑 01581 踠，苑 01592 婉，於遠 03538 畹，於遠 04421 宛，於遠 04426 婉，於遠 06445 蜿，於遠 09254 踠，於遠 09479蛩，於遠 16063 畹，於遠 16136 婉，於阮 17464 蜿，於遠 27055 踠，於遠（08247 晼，於遠 08261 晼，紆遠）
曉		09453 塤，喧 09604 塤，暄 12030 塤，喧 15049 諼，喧 21141 鸒，許言 21161 諼，火爰 29074 讙，喧（03260 諠，喧 07076 壎，喧）		04147 幰，許偃 13062 幰，許偃
云		03077 鷄，爰 07090 鷄，袁 10130 轅，袁 21135 援，爰 23111 援，于元（02300 媛，袁 17018 媛，爰）		

	願開 0	願合	月開	月合
奉				01260 馥，伐 3271 馥，伐 20072 閥，

				伐
微		02521 蔓，萬 04082 曼，萬 04393 蔓，萬 09548 蔓，萬 17167 曼，萬 17193 曼，萬 17253 曼，萬 17260 曼，萬 21077 曼，萬（04221 蟃，萬）		10142 韈，武月
見			02459 訐，斤謁 05246 訐，居謁 29082 訐，舉謁 30019 羯，居謁	08048 蹶，厥 17256 蹷，厥 18046 蹶，厥
羣				05185 槧，巨月 20027 橛，渠月
疑				18023 刖，月
影				（09562 噦，紆月）
曉			（01434獗，歇）	06535翑，許月
云				（25026 粵，于厥）

	魂	混	慁	沒
幫	01051 賁，奔 04574 賁，奔 09428 賁，奔 10068 賁，奔 18049 賁，奔 18122 賁，奔 19035 賁，奔 24113 賁，奔 29020 賁，奔	01390 苯，本 30078 畚，本		
滂			09362 噴，普悶 09311 噴，普悶（01164 歕，普悶 06372 溢，普寸 06455 溢，普寸）	
並			03318 坌，步寸 19002 坌，蒲悶	03557 渤，蒲沒 18108 孛，勃 26014 悖，蒲忽（03048 浡，蒲

				沒 06222 浡，蒲没 06438 浡，蒲没 06513駸，蒲没）
明	04419 捫，門	07054 濍，莫本 13014 濍，莫本 17357 濍，莫本 21032 濍，門本 26054 濍，莫本		09240 歿，沒
端	01049 惇，敦 10296 惇，敦 24158 惇，敦			12042 咄，丁兀
透	05110 暾，土溫			17077 突，吐忽
定	06456 豚，徒昆 16077 忳，屯（17248 沌，徒門 17379 沌，徒奔）	17382 庉，徒本（09190 坉，徒本 17400 沌，徒本）	（06622 遯，徒寸）	03272 盾，突
來				06408 肄，力骨 17373 肄，盧骨
精		01391 蓴，子本 03643 蓴，子本 04010蓴，茲損		10229 卒，子忽
清				（03349 卒，倉忽 10069 卒，措骨 21009 卒，七忽 21027 卒，七忽）
從	02515 蹲，存 03008 蹲，存 06114 蹲，存	02554 鱒，在本		
心	02389 蓀，孫			04247 窣，蘇骨
見	01545 鯤，昆 02356 鵾，昆 02423 鵾，昆 07080 鵾，昆 17199 菎，昆（01279 鶤，昆 01414 鶤，昆 17302 鶤，昆）	（16084 鯀，古本）		02041 鶻，骨 04307 淈，骨（02307 滑，骨 02475 汩，骨 03350 扢，古紇 04275 汩，骨

				09303 汩，古没 17078 滑，骨 17342 汩，古沒 27087 汩，骨 28007 汩，骨）
溪	17063 髡，坤	17067 悃，苦本 23083 壺，苦本 24009 悃，苦本 29067 壺，苦本		08043 髁，苦骨 24001 矻，苦骨（04371 堀，窟 07015 堀，窟）
疑				02603 屼，兀 03024 屼，五骨 03123 杌，五骨 06171 杌，兀 09314 杌，兀 27083 杌，兀（06409 矹，五骨）
影	29056 輻，温 30039 輻，溫			09239 殟，烏骨 09540 嗢，烏骨 09561 嗢，烏沒（06389 惣，烏骨）
曉				04017 曶，忽
匣	03155猬，胡昆 17380 渾，胡奔（01252 煇，渾 01264 煇，渾）	09094 掍，胡本 17381 混，胡本 17399 渾，胡本 18006 渾，胡本 27080 渾，胡本（04096 棍，乎本 08112 煇，混 24100 煇，胡本）	07019 溷，胡困 17057 溷，胡困 17080 溷，胡困 17301 溷，胡困	06411 淈，胡骨 17083 淈，胡骨

	痕	佷 0	恨 0
見	01589 跟，根 08014 跟，古恩		

（7）山摂

	寒開	旱開	翰開	末
明				02524 沫，末 03450 秣，末 10026 沫，末 22015 秣，末 24077 沫，末
端	01034 殫，丹 10092 殫，丹 10120 鄲，丹		17271 鴅，旦	07021 怛，丁達 08274 怛，丁達 09421 怛，丁達 21052 怛，都割
透			（06251 漺，炭）	30056 獺，他葛
定		01083 誕，徒旱 01480 袒，但（徒旱）17331 袒，但	21143 彈，大旦（01217 澶，憚）	
來			03090 瀾，爛	02257 剌，力割 02444 剌，力達 03686 剌，力割 08133 剌，力割 09427 剌，力達 21075 剌，力割（03656 糲，魯葛 06026莉，魯葛）
從	02088 戔，殘			02130 囋，才達（09058 囋，才曷）
心	01265 珊，蘇干（04246 姍，蘇寒）			
見				02122 轕，葛 04011 轕，葛 04600 轕，葛（06255濶，葛）
溪		（03462 衎，苦旱）		
疑	（04224 犴，五安）		25007 犴，岸	02229 枿，五葛 03638 枿，五割
影				04636 閼，於曷 07060 閼，烏葛 27060 閼，烏葛（23051 頞，於達

				27074 頞，烏割 28022 頞，遏）
匣	09017 翰，寒（10119 邯，寒）		01314 閈，汗 01345 悍，汗 02509 悍，汗 02561 閈，汗 03268 悍，汗 05071 悍，汗 05093 悍，汗 05233 扞，汗 06172 悍，汗 09252 悍，汗 25027 閈，胡旦 26046 扞，胡爛 28019 閈，汗	02125 鶡，曷 04501 鶡，曷 07087 鶡，何葛 20076 鶡，曷

	寒合	旱合	翰合	末合
滂			03029 泮，普半	
並	02054 蟠，盤 03139 蟠，盤 04245 媻，盤 04259 般，盤 09406 蟠，盤 23089 蟠，盤（17426 繁，盤）			04607 跋，蒲末 05036 跋，蒲末 06533 鵓，步末 09337 跋，蒲末 18048 跋，步末 27018 跋，蒲末
明			05143 漫，莫半 08242 漫，莫半 10073 漫，莫半 18070 縵，莫半	
端		21062 斷，短 21072 斷，丁管	09365 鍛，都亂 18066 鍛，丁亂	14029 掇，丁括
透	09301 湍，土官			
定	07067 摶，團 08002 摶，徒端 08237 摶，徒丸 09347 剸，團 13072 摶，團 17285 摶，徒丸（06476 蟪，團）			24042 脫，奪
泥		（23058暖，乃管）	20071 懦，奴亂	

來				09518 捋，力活 09596 捋，力活 13011 捋，零括
精		02223 纂，祖管 09589 纂，祖管 （24134 纘，祖管 29078 纘，祖管）		
清			02431 竄，七亂 21175 爨，七亂	05179 撮，倉括
從	23130 欑，在官 （10053 巑，在官 15061 巑，在丸）			
心	01490 狻，酸		08191 蒜，筭	
見	28067 莞，官		01015 冠，古亂 01017 觀，古亂 01125 鸛，貫 02169 鸛，灌 03086 鸛，灌 03101 冠，貫 16038 鸛，貫 21115 觀，古亂 22033 悺，綰	02577 聒，古活 04044 萿，括 （01127 鴰，括 01370 栝，古活 01411 鴰，括）
疑	03606 刓，五官 10054 岏，五官 15062 岏，五丸			
影			09075 惋，腕 28036 腕，烏半	07061 斡，烏活 10180 斡，烏括 13050 斡，烏活
曉	（09323 讙，呼桓）		30008 奐，煥	06385 泧，呼活 24053 豁，呼括
匣	01146 完，桓 02342 莞，桓 03552 雚[135]，			

[135] 原文は「灌」である。

	胡官 03665 洹，桓 07032 莞，桓 14022 雚，桓 27067 瓛，桓 30015 雚，桓			

	刪開	刪合	潸開	潸合
幫		02057 頒，班（01272 般，班 01436 般，班 04050 般，班 09093 般，班 23090 般，班 24096 般，班）		
明			23059 矕，莫版	
娘			05169 赧，女板	
匣		18137 鍰，環（10129 轘，還 10310 轘，還）		16002 睆，戶板（17088 莞，胡板）

	諫開	諫合	黠開	黠合
明	10169 嫚，慢 10176 嫚，慢			
知				02398 鷄，丁滑
生			02608 鎩，所扎（02401 蔱，殺）	
見		（11080 串，古患）	02284 楔，更黠 02493 楔，耕八 05053 戛，吉黠	
影	17411 鴳，晏		02319 軋，烏黠 03109 圠，烏黠 03163 猰，烏八 04060 軋，烏黠 06039 圠，烏黠 07066 圠，烏八 09073 軋，烏八 17370 軋，烏黠（05014 窫，烏黠）	
匣		05242 轘，患 17294 豢，患 17405 豢，患 27092 豢，患		

	山開	山合	產開	產合	裥開	裥合	鐕開	鐕合
滂					11008 盼， 普莧			
知							（17102 哳， 陟轄）	17409 鷄， 丁刮 18077 鷄， 丁刮
來	（06430 潾， 力艱）							
初			06229 鏟,楚產 24114 剷,楚簡					
崇			01244 棧 仕眼（01131 輚， 士眼）					
生			11072 溼， 產（06148 嵼，產）					
匣	01136 鷴， 閑 07052 鷴， 閑（18073 瞷， 閑 26051					01585 幻， 胡辦		

	瞷，閑）							

	先開	先合	銑開	銑合
並	14049 軿，蒲田 28039 軿，蒲眠 29054 軿，蒲田（06158 玭，蒲眠）		08019 辮，蒲典 26049 編[136]，蒲典（09061 扁，蒲典）	
端	02610 滇，丁田 04411 驒，丁賢 04559 滇，都堅 20080 騇，都年			
透			03708 靦，土典 03712 腆，土典 08121 淟，他典 17354 淟，聽典 20067 腆，土典 21140 腆，湯典 22018 靦，聽典	
定	01012 闐，田 01085 闐，田 02620 闐，田 17053 填，田 17196 填，田（03605 輀，田 06436 沺，田）		09172 蜓，徒典 23045 蜓，徒典	
泥			08122 涊，奴典 17393 涊，乃典	
精	（14019 濺，牋 17024 淺，牋）			
心	（02421 躚，星田）			
見		06358 涓，古玄 08071 蠲，涓 24127 蠲，古玄（06433 焆，涓 06530 焆，涓）	04548 繭，古典 17273 繭，古典	01143 畎，該 05210 罥，古犬 27009 畎，古犬（01455 羂，古犬 04508 羂，古犬 04631 羂，工犬）

136 《王三》の又音を用いた。

溪	01207 汧，牽 04567 汧，牽 05193 汧，牽 10238 汧，牽			
疑	（09001 妍，五賢）			
影		（02135 鼘，烏玄 06423 困，烏玄）	09171 蝘，烏典 23044 蝘，烏典 13010 嬿，伊典	
曉		06062 矎，呼玄 24040 鋗，呼玄		
匣		（29019 縣，玄）	11055 峴，刑典	03551 贙，胡犬 09335 泫，胡犬 11052 泫，胡犬

	霰開	霰合	屑開	屑合
滂			09159 撇，匹結	
並			02418 蹩，蒲結 09516 摫，蒲結	
明	03031 洒，眄 11007 眄，莫見 24038 眄，麵		02308 濺，蔑 07023 矍，蔑 08124 蠛，蔑 09338 蔑，覓結 17377 篾，冥結	
端	02133 殿，丁見 09045 殿，當練 23062 殿，丁見			
透	01028 瑱，土見 03030 滇，汀見 06585 瑱，他見 16048 瑱，他殿		02163 餮，他結 05095 餮，吐切	
定	03659 淀，覿見 06613 澱，廷見		01155 驖，姪 08001 跌，徒结 08301 跌，徒結 09234 跌，徒結 13002 瓞，徒結 16009 耋，大結 18130 瓞，	

			庭結 20082 耋，徒結 23025 跌，覿結 29058 姪，田结（01275 墆，徒結 01504 擋，庭結 02570 墆，徒結 03588 墆，徒結）	
來	04230 洌，力見 06551 萊，力見（06461 鰊，練）		（05294 戾，力結）	
精			03121 岊，節 03229 粢，節 06096 粢，節	
清	02118 蒨，千見 10156 蒨，千練（06550 芊，千見）		09526 切，此結（06262 沏，切）	
從	（06612 洊，寂見 07116 洊，寂見）		02275 巖，截 04353 巖，截 05007 巖，截 28050 截，昨結	
心	07046 霰，蘇見		02419躌，素結	
見		（18100 狷，古縣 19026 狷，古縣）		02309 潏，決 03205 譎，決 04271 潏，決 04306 潏，決 04413 駃，決 06620 譎，決 08022 鴆，決 09034 譎，古穴 11077 鴆，決 17026 玦，決 20006 駃，決 20018 駃，決 23100 譎，決 22067 鴆，決

				（01096 跌，決 03017 觖，決）
溪			02222 挈，苦结 9063 挈，苦結 10274 闋，缺 18086 闋，苦決 20096 挈，苦結（24089 契，挈）	23176 闋，缺
疑			02071 霓，五結 01276 霓，玉結 02265 嵲，五結 06108 蜺，五結 09268 槷，五結（02276 嶭，五結 03580 嶭，五結 04354 嶭，五結 05008 嶭，五结 06215 臬，五結）	
影	09256 燕，宴 23108 咽，伊練		08287 噎，因結	
曉				16045 泬，血 17092 泬，血（06562 瞲，呼穴）
匣	09459 見，胡練 21006 見，何見 21169 見，何見 21171 見，何見	01005 眩，縣 01070 眩，胡徧 01341 眩，縣 02417 眩，縣 02566 袨，縣 04056 眴，縣 08162 眩，縣 08225 炫，縣 10063 炫，縣 19008 衒，玄徧 20016 袨，縣 23110 袨，玄徧 24099 炫，縣 24104 眴，縣（07009 眴，絢）	23028 頡，賢挈	

	仙開 B	仙合 B	仙開 A	仙合 A
滂			（04581 扁，篇）	
並			02413 便，婢綿（01374 楩，鼻綿 02495 楩，頻緜）	
明			（06592 鵔，彌延 17040 槾，彌緣[137]17170 鵔，綿）	
知	01402 鱣，陟連 02552 鱣，陟連 06459 鱣，邅 07127 邅，張連 17012 邅，陟連			
徹		（01468 猭，勑緣）		
澄	03015 躔，直連 10160 躔，直連 23127 躔，直連			
來	06466 鰱，連 06542 槤，連（03339獼，連）	05162 攣，力全 08067 攣，力全 10114 攣，力全		
清				04430 佺，七全 08198 痊，七全 08238 荃，銓 10076 荃，七全 10287 悛，七全 17015 荃，七全 17035 荃，七全
從				（14025 牷，全）
心			（02592 僊，仙 06611 蠿，思延）	
邪				（04116 還，旋 04620 還，旋 06487 蜁，旋

[137] 合口韻字を開口韻字の反切下字とした。

				17211 還，旋）
莊		（06110 跧，側員）		
崇	08050 潺，士連 17019 潺，仕連			
章	16117 篿，專			
昌	（06196 燀，昌延）			
常	01160 鋋，蟬 02299 嬋，蟬 03313 鋋，蟬 04137 單，蟬 05042 鋋，蟬			
書	09456 挻，舒延（05286 埏，失然）			
日	（24116爨，然）	11044 壖，而緣		
見			03534 甄，經延 05160 甄，吉延 06350 甄，古然 18129 甄，吉然	
溪	（11015 嚳，愆 12031 嚳，愆）			
羣	02465 犍，乾 04322 鰬，虔	02414 婘，權 03467 蜷，拳 04078 蜷，拳 16139 蜷，奇員 17006 蜷，奇員 21047 拳，權（04456 卷，巨專 04611 卷，權 08141 卷，權 17216 卷，權）		
影	21104 焉，一乾（14042 閼，於延）	（03050 潫，於權）		03180 娟，一緣 09212 娟，伊緣 21162 悁，一緣（04108 蜎，於緣 06334 蜎，一緣

				17392 蜎，於緣 21184 嬛，一緣）
曉	10113 嫣，許延			02406 儇，隳緣 03316 儇，許緣 07081 翾，許緣 08031 翾，虛緣 09553 翾，許緣（04543 嬛，許緣）
云		（17133 圜，員）		
羊			02093 綖，延 03495 埏，延 12023 埏，延 24075 埏，延（01484 狿，延 04609 狿，延）	01557 蝝，緣 18061 鳶，緣 30024 蝝，緣

	獮開 B	獮合 B	獮開 A	獮合 A
幫			12002 褊，必緬 23162 褊，卑緬	
明			06435 沔，莫翦 08026 勉，緬（03718 偭，彌兖）	
澄				03648 篆，遲轉
來			21130 璉，力展	11074 孌，力轉 12069 孌，力轉 28004 孌，力轉（04262 脣，力轉）
精			17164 鬋，咨踐	14035 騰，子袞 17182 騰，子袞 17414 騰，子袞
心			01463 獮，思衍	
章		24003 剸，章兖		
昌	09398 闡，昌善 18081 燀，昌善	09168 喘，昌兖 20063 舛，昌兖		

	（09594 闡，昌善 26024 嘽，闡）			
常	06101 蟺，善 07129 單，善 09409 蟺，善 09480 蟺，善 26033 鱓，善			
日				01042 硬，而兖 04196 硬，而兖 04332 硬，而兖 06518 荑，而轉（01267 瑏，而兖）
見	21010 搴，居展 21035 搴，蹇 24066 謇，蹇	03652 卷，居免[138]		
羣		07105 圈，求免 20036 圈，奇免[139]		
疑	01497 巘，魚蹇 02277 巘，魚免 04356 巘，仰蹇（05212 嵃，魚蹇 06415 嵃，魚免）			
羊			04395 衍，異善 09313 演，以緬（30012 戭，翊善）	

	線開 B	線合 B	線開 A	線合 A
並	（21139 抃，卞）			
明			16075 偭，面 30054 偭，面	
知		03578 傳，知戀		
徹		（03340 猭，恥緣		

[138] 開口韻字を合口韻字の反切下字とした。
[139] 開口韻字を合口韻字の反切下字とした。

		09092 猭，勑緣）		
精			17194 鬋，咨賤	
邪				09388 縼，徐戀（06395 漩，旋）
常	02584 擅，常扇			
書	02480 煽，扇 29026 煽，扇			
見				12068 狷，絹（8178 絭，卷）
疑	10284 喭，彥			
云		10222 援，院 21145 媛，于戀		
羊			03221 衍，翊戰 08190 衍，弋戰 10074 衍，以戰（01315 延，移賤 02520 莚，餘戰 04002 羨，羊箭 04392 延，弋戰 24072 羨，翊扇）	20101 掾，以絹

	薛開 B	薛合 B	薛開 A	薛合 A
幫			02505 鷩，必滅 05092 鷩，鼈 05222 鷩，必滅	
滂			04076 撇，匹列 04287 瀜，匹列 08029 瞥，匹列 09195 撇，匹滅 09521 瀜，瞥 13053 瞥，匹滅 28030 撇，匹滅	
知	（03651 喆，知列）			
徹	（03201 哲，勑列）			

來			01438 迾，列 04288 洌，列 12016 蛚，列 15020 蛚，列	02583 埒，劣 02631 埒，劣
心			01167 渫，薛 01471 緤，薛 05175 緤，薛 06233 渫，息列 06571 渫，息列 07088 緤，薛 08081 緤，薛 21160 渫，思列 23087 媟，息列 24011 渫，薛（02365 泄，薛 10163 緤，薛 11009 緤，薛 16107 絏，息列）	
章	23037 折，支列 23050 折，支列（02072 晰，章烈 03617 晢，支列 06097 梲，之悅 09004 晢，之熱 10006 晰，折 16044 晰，折 24078 晰，支列）			
昌	（05279 掣，昌折）	17085 歠，昌悅 17295 歠，昌悅		
常		17286 啜，常劣		
日		（22048 烱，而拙）		
溪	02432 揭，丘竭 02609 朅，綺列 10078 揭，起竭 11022 朅，綺列 17106 朅，綺列（16065 藒，揭）			
羣	01282 碣，竭 02023 楬，竭			

	02249 楬，竭 04573 碣，竭 06538 碣，其列 10008 偈，桀 16017 楬，桀（01400 揭，竭 06209 揭，桀 06266 滐，桀 06368 嵥，桀 06293 揭，桀 23148 揭，渠列）			
疑	（01310 轤，魚桀 02236 蘖，魚竭 03547 轤，魚竭 06157 轤，魚桀）			
曉				05205 威，呼滅
羊		（24013 說，悅）		

（8）効摂

	蕭	篠	嘯
端	08108 琱，凋		
透	02140 祧，吐堯 04179 祧，土堯 05257 祧，吐彫 09342 挑，他堯 13054 恌，挑 16113 佻，他凋 29042 佻，達彫（09433 銚，他堯）	01074 窱，他鳥 07057 朓，他了 29068 朓，土鳥	06063 窱，他弔
定	01563 跳，條 04175 髫，大聊 04481 蜩，條 06507 蜚，條 09088 蜩，條 09123 跳，徒彫 09204 跳，狄聊 10032 跳，條 10164 苕，條 17131 跳，條 18025 苕，條（18094 齠，徒堯）	03695 嬥，徒了 05107 掉，廷了（21042 挑，徒鳥）	04329 掉，徒釣 17402 掉，徒弔（09354 調，徒弔 21155 調，大弔）
泥		03106 嫋，寧鳥 15048 嫋，奴了 17028 嫋，奴鳥 22008 嬲，奴了（04510 裹，奴鳥 08018 裹，奴了）	
來	17227 憭，聊 02522 料，聊 02591 飈，寮 03003 料，聊 03426 料，遼	02371 蓼，了 03300 蓼，了 08195 蓼，了	

	03471 寥，遼 03653 料，聊 05243 料，聊 06176 鐐，遼 07029 憀，聊 09488 憀，聊 17093 漻，聊 22091 寥，聊	10098 瞭，了 14060 蓼，來鳥 17090 憭，了 17307 蓼，了（03497 繚，了 03550 繚，了 06185 繚，了 09520 繚，了 09620 繚，了 17041 繚，了）	
心	04467 箾，萧 09436 箾，簫	01394 篠，星了	
見	02436 澆，古堯 03161 梟，結堯 04516 梟，古堯 05067 驍，古堯 05227 梟，澆 07103 驍，古堯 10240 梟，澆 21085 梟，古堯 30055 蟜，古堯（17327 徼，古堯 23073 徼，古堯）	24153 皦，皎	01054 徼，叫 01258 徼，叫 03545 徼，古弔 18093 徼，叫 22086 徼，叫 23131 徼，叫 28060 徼，叫 30017 徼，古弔（08229 噭，叫 11047 噭，叫 11078 噭，叫 15017 噭，叫 28069 噭，叫 29073 噭，古弔）
疑	01058 嶢，牛條 03023 嶢，五聊 03579 嶢，堯 04038 嶢，堯 08027 嶢，堯 10311 嶢，堯 14071 嶢，堯 17396 嶢，堯		16090 澆，五弔
影	26058 么，烏堯	01073 杳，烏鳥 02226 騕，烏皎 04509 騕，烏了 08017 騕，烏皎 14010 窅，烏皎 19003 騕，烏鳥 23141 窅，烏鳥	（04073 窔，烏叫 04417 窔，一弔）
匣		05112 皛，胡了 06583 皛，胡了 10236 皛，胡皎	

	宵 B	宵 A	小 B	小 A	笑 B	笑 A

幫	00015 鑣，彼嬌 02426 鑣，彼苗 03345 鑣，彼苗 05132 鑣，悲苗 07049 瀌，筆苗（10186 蔗，彼苗）	02100 飚，必遙 03321 熛，必遙 04087 猋，摽 04131 熛，摽 07006 熛，標 08039 熛，必遙 08126 猋，必遙 08157 猋，必遙 09236 猋，必遙 09614 熛，必遙 09622 飚，必遙 09624 飚，必遙 10248 飚，必遙 11036 飚，標 17008 猋，必遙 17439 猋，必遙 23067 猋[140]，必遙 24147 熛，必搖 27043 飚，必遙		(06590 嫖，必眇)		
滂		（08033 彯，匹遥 09221鷅，飄 16028 彯，飄 28029 彯，飄）		00030 縹，匹沼 02590 醥，匹眇 03173 篻，匹眇 03194 縹，匹眇		01066 僄，匹照 01108 僄，匹妙 03368 剽，匹妙 03714 剽，匹妙 05047 彯，匹妙 09582 剽，匹妙 12013 剽，匹妙 14039 剽，匹妙 17359 漂，匹妙 30018 剽，匹妙

[140] 原文は「猋」である。

並			02339 蔗，平表	09334 摽，避沼		
明				01499 杪，眇 03032 淼，眇（03238 訬，眇 06249 渺，眇）		
知	01173 朝，陟嬌					
徹	10067 怊，超					
澄	27014 朝，直喬		04025 旐，兆 08291 旐，兆			
來					24086 燎，力照	
精			02234 勦，子小 05252 勦，子小（25025 剿，子小）		01513 醮，將曜 03441 醮，子曜 18063 醮，子曜	
清			09602 悄，七小（09535 愀，七小 09572 愀，七小）		（01278 陗，七笑）	
從	01057 嶕，慈遙 01287 嶕，譙 03335 嶕，玆遙 14070 嶕，慈遙				08090 誚，才笑	
心	02523 痟，消 04154 綃，悉遙 09205 踃，消					
日	11034 橈，饒 17016 橈，而遙		09129 嬈，繞 09248 擾，而沼			
見	01464 鷮，舉喬		04487 蟜，矯 06090 蟜，居表 17280 蟜，矯（09344 撟，矯）			
溪	01296 趫，去	02511 蹻，綺驕				

	嬌 01344 趫，乞嬌 03267 趫，起喬 07095 趫，去妖	06345 蹻，去喬 17463 蹻，綺喬				
羣	06365 嶠，喬					
影		01095 要，腰 02606 葽，伊遙				21078 要，一召 21090 要，一召 21154 要，一召
曉	01197 歊，許妖 01435 獢，許喬 02578 蹦，許驕 03046 歊，虛妖 05158 枵，許喬 10188 歊，許喬 18031 蘦，囂					
羊	03148 飆，搖 03286 軺，翊焦 03422 鰩，遙 03593 珧，以焦 06465 鰩，遙 06483 珧，姚 24047 軺，以焦 29066 褕，搖		03501 漾，與眇 04313 漾，羊小 05064 鷕，以小 06584 漾，余少		（10064 燿，羊照 10182 燿，羊照）	

	肴	巧	効
滂	（23005 胞，浦包）		（08179 礮，普皃）
並	00023 匏，蒲包 01119 炰（炮），白茅 01514 炰，步包 02497 咆，步交 03556 咆，步交 03602 咆，白交 05172 咆，蒲包 06517 咆，蒲交 09542 匏，庖 09546 匏，步交 09626 匏，庖 17181 炮，蒲交 17245 咆，蒲交（09178 泡，		

	薄交 23066 颮，蒲交）		
明		02345 茆，卯	
泥			20044 橈，奴教
知	04161 嘲，知交 09600 嘲，竹交（17101 啁，竹交）		03408 罩，陟教
徹			03158 趠，勅教 04489 踔，勅教 04612 踔，丑孝
澄			（01134 櫂，直教 02615 櫂，宅孝 03400 櫂，棹 10324 櫂，直教）
娘	27061 譊，女交		（04182 淖，女教 04293 橈，女教 04545 橈，女教）
來	（09278 窌，良交）		
莊	03410 罺，側梢（01544 擽，責交）	02114 瑵，爪 23169 瑵，側絞	
崇	（03702 樔，巢）		
生	01431 梢，所交 02127 梢，所交 02182 捎，所交 04113 旓，所交 04241 髾，色交 04523 捎，所交 04589 捎，色交 06294 綃，所交 08175 筲，所交 09215 髾，所交 09326 籍，所交 17314 髾，所交 17433 捎，所交		
見	01124 鵁，交（古肴）02121 轇，交 02330 蛟，交（06254 瀏，交）	02410 姣，古卯 08091 姣，狡 08256 攪，狡 09207 姣，絞 09524 姣，古卯 10007 姣，绞 10219 狡，古卯 17460 姣，古卯 17473 攪，古卯	09611 覺，教
溪	01469 骹，苦交 05068 骹，苦交 26006 敲，苦交		21124 巧，口孝

疑			05274 樂，五孝
影	06121齻，烏交（02246 咬，烏交 09229 咬，烏交 09599 咬，烏交）	（06531 鴢，於絞）	
曉	01307 庨，呼交 01346 虓，呼交 03427 虓，虎交 04599 虓，火交 09183 哮，呼交 09330 嗃，呼交 17440 哮，呼交 27031 哮，呼交 29024 虓，呼交（06122 顙，呼交）		
匣	01200 崤，戶交 02462 崤，胡交 10309 崤，爻 05289 淆，胡交	03257 槼，胡巧	

	豪	皓	号
幫		01128 鳵，保 01412 鴇，保 01526 葆，保 02348 鴇，保 04337 鴇，保 14012 鴇，保 23173 葆，保 23181 葆，保 30041 葆，保	
明	02124 髦，毛 05271 芼，毛 23078 堥，毛		
端	08273 忉，刀		
透	01225 謟，土刀 02162 饕，叨 07131 慆，滔 09147 饕，土刀 16129 謟，吐刀 20040 洮，土刀 23114 饕，土高		
定	02155 鼗，逃 04407 騊，陶 27082 檮，桃（05050 鞀，陶）		01300 燾，徒到 02108 纛，徒到 30038 纛，徒到
泥	03332 猱，乃刀 04483 猱，奴高	（02187 腦，奴老）	
來	03174 簩，勞	01025 橑，老 02364 潦，老 03521 橑，老 04270 潦，老 04418 橑，老 09265 潦，老 17036 橑，老 17094	

		潦，老 26031 潦，老（09156 恅，老）	
精		17349 澡，旱	17299 躁，祖到
清	02177 操，七刀 02199 操，七刀 09002 操，錯高	（09155 慞，草 13046 慅，草）	03079 造，七報 04039 造，錯告 05248 造，千到 08210 造，操 14041 造，七到 18002 造，七到
從	02129 嘈，曹 03626 嘈，曹 04164 嘈，曹 09057 嘈，曹 09608 嘈，曹 25021 艚，徂刀		01021 漕，在到
心	03394 艘，蘇刀 22014 艘，蘇勞		09324 譟，蘇告 09438 譟，先到
見	03397 篙，高	06048 暠，杲 07050 縞，杲 20009 縞，古老 21097 縞，古考	
溪		03460 槁，考 08202 槁，考 17082 槁，考 17277 槁，考	（01511 犒，苦澇 18062 犒，苦到）
疑	03098 鼇，敖 06532 鰲，敖（06317 嫍，敖 10080 嗷，敖 10154 嗷，五高）		01301 奡，五告
影		01550 廙，烏老 02230 廙，烏老 03110 鈺，烏老 24049 媼，烏老 26061 媼，烏老（03639 夭，烏老）	01007 隩，烏号 02020 隩，烏到 05201 隩，烏到 11053 隩，烏到 17157 奧，烏到 25019 奧，烏到
匣	06024 嗥，胡高	01082 顥，胡暠 04269 鎬，浩 06160 鎬，杲 10283 鎬，皓 17450 晧，浩 24151 鎬，皓（04312 灝，浩 04317 滈，浩 06362 滈，胡道）	

（9）果摄

	歌開一	歌合一	哿開一	哿合一	箇開一	箇合一
幫	01212 嶓，波 05194 嶓，波 08134 嶓，波 28051 嶓，波					
滂				13075 叵，普火		
並	03243 鄱，婆（01192 皤，婆 24045 皤，婆）					
透	(05011 拕,他)					06537 毻，他卧（10094 嫷，唾）
定	04215 鼉，陁 06618 沱，度河 17413 鼉，徒何（05146 佗，駝 17192 酡，馱 26003 佗，駝）		01111 拖，徒可 04422 拖，徒可 05275 柁，徒可 06013 柁，徒可 06608 柁，徒我 12071 拖，徒可 19012 拖，徒我 23023 拖，徒可（06227 滸，徒我）			
泥	(02175 儺，奴何)		（10144 娜，奴可）			
來		（03107 覷，	03253 砢，	06572 蓏，		

		魯和05033蠡，騾05154蠡，力戈06486螺，力戈23015蠡，力和)	力可04333砢，洛可04464砢，來可06074砢，盧可	力果24027蠃，力果（17064蠃，力果26052裸，力果）		
清	05069搓，倉何09336蹉，七何	(03689蓮，七和)				09014挫，作過17190挫，宗臥
心	(09130娑，素何)	01384莎，蘇和04208莎，蘇和	（01061娑，蘇可01298娑，蘇可04561娑，思可05217娑，素可）	16101璅，先果	17140些，蘇賀	
見			03395舸，岡我	24026蜾，果	06201个，古賀	21095過，古臥21126過，古臥21144過，古臥
溪	03250珂，苦何	03675窠，苦和			15004軻，苦賀	
疑	08276莪，俄(1009睋，俄)		04048駥，我（06444硪，我）			
影		06442渦，烏和				
曉	21148訶，呼哥					
匣	09217苛，何			01515夥，禍 02516		

				夥，禍 03667 夥，禍 04330 夥，禍 18097 夥，禍		

（10）假摂

	麻開二	麻合二	麻開三
明	（06482 麾，麻）		
知		（09461 簻，竹瓜）	
徹	16078 侘，丑加		
娘	01575 拏，匿加 03137 拏，女家 04641 拏，女加 09206 拏，女加 09415 拏，女家 17113 拏，匿居 17178 拏，尼居 23043 拏，女加		
精			01423 罝，嗟 02241 罝，嗟
邪			（09036 邪，似嗟）
莊	01485 槠，側家 04218 槠，側加（03234 查，責加）	01479 髽，責瓜 03614 髽，側瓜 23154 髽，側麻 30021 髽，側瓜	
生	（01408 魦，沙 03407 鯊，沙 06520 髟，沙 08172 魦，沙）		
見	01232 茄，加 01413 駕，加 02349 駕，加 04338 駕，加 06183 茄，加 09627 笳，加 09318 麚，加（17242 麃，加）	02051 蝸，古花 06182 騧，瓜 06488 蝸，古花	
溪		05060 姱，苦瓜 07114 姱，苦華 08006 姱，苦瓜 09025 誇，苦華 16067 姱，苦瓜 16071 姱，苦瓜 17165 姱，	

		苦瓜（01084 夸，苦華 11079 夸，苦瓜）	
疑	（06089 枒，牙 23132 枒，牙）		
影	（06499硿，烏遐）	03212 窊，烏華 09307 窊，烏瓜 09400 窊，烏瓜 20062 窊，烏瓜	
曉	01011 呀，呼遐 01583 颬，呼家 04363 呀，呼加 06285 呀，呼加	03261 譁，花 03625 譁，呼瓜	
匣	03411 鰕，遐 04434 瑕，遐 04507 蝦，遐 06490 蝦，遐		
羊			03184 椰，以嗟 05001 斜，以嗟 18089 椰，以嗟（04452 邪，以嗟 04576 鉶，邪）

	馬開二	馬合二	馬開三
崇	02228 槎，仕假 03637 槎，仕雅		
章			07093 赭，者
昌			27071 哆，昌也
書			（21039 舍，捨）
見	28034 檟，古雅 29016 檟，賈		
匣	17154 夏，胡雅		
羊			04540 冶，野

	禡開二	禡合二	禡開三
幫	03391 靶，霸 24006 靶，霸		
明	01477 鬕，莫亞		
知	11031 吒，陟訝		
精			05283 借，子夜 12043 唶，子夜
從			01117 藉，慈夜 06008 藉，慈夜 17004 藉，慈夜 25014 藉，慈夜
章			02297 柘，之夜 02375 柘，之夜 02542 蔗，之夜

船			10265 射，食夜
見	03587 幏，嫁		
溪	23047 髂，口亞		
影	20064 婭，亞		
曉	02536 罅，火亞		
匣	17155 夏，胡駕		
羊			04198 射，夜 04220 射，夜 04383 射，夜 10077 射，夜

（11）宕摂

	陽開	陽合	養開	養合
非		21138 肪，方		（21112 放，方往 01023 放，膚罔）
奉		01530 魴，房 02428 魴，房 10153 魴，防		
微		01142 望，亡 02243 忘，亡 03568 望，武方 09047 芒，亡 21081 忘，望		14059 菌，罔（08074 惘，罔）
知	08036 粻，張 16134 粻，張 17187 餱，張（06011 漲，張 06606 漲，張）		04173 長，知丈	
澄	02029 萇，直良 02390 萇，場			
來	17175 輬，涼 30040 輬，涼（21082 量，良 21123 量，良）			
精	02343 蔣，將 02545 蔣，將 15042 螿，子良			
清	03640 斨，七羊 04597 蹌，			

	七羊 07115 蹌，七良 09251 搶，七良 21066 搶，七良 26038 鏘，七羊（01076 將，七羊 02035 將，七將 02079 將，七羊 04643 槍，七羊 08131 將，七將 17365 將，七將）			
從	06299 戕，牆 10096 嬙，牆			
心	00031 緗，相 01027 驤，相 01518 儴，襄 03293 驤，襄 04524 儴，相 16073 纕，思羊 16108 纕，相（02109 瓖，襄 03132 欀，襄）			
邪	09373 洋，祥			
初	（03351 創，瘡 21012 創，初良）		06307 磢，楚爽 06412 磢，楚爽	
生	03076 鶔，霜（01410 鷞，霜 02355 鷞，所良 03288 驦，霜 17435 鷞，霜 18037 驦，霜）			
昌	22055 猖，昌			
常	01407鰽，嘗 02557鰽，嘗 03406鰽，嘗（03661 償，常 07010 徜，常 08053 徜，常）		21050 上，市丈 21030 上，市丈 21063 上，市丈	
書	（01075 湯，傷 01191 湯，商 02486 湯，傷 03539 湯，傷 05260 湯，傷 08137 湯，式羊 09225 湯，傷 09495 湯，傷 14032 湯，傷）			
日	02147 穰，而羊 02373 蘘，而羊 02384 穰，而羊 03358 攘，而羊 04012 攘，如羊 04385 蘘，而羊 06206 瀼，而羊 08197 蘘，而羊 10200			

	攘，如羊 17122 攘，如羊			
見	01351 僵，姜 01452 僵，薑 02288 橿，疆 03134 橿，薑		02585 鐊，居兩 03611 襁，居兩 18139 繈，舉兩	
溪	09634 羌，去良 29097 恇，匡			
羣	21098 彊，其良		（03482 彊，巨兩）	
影	02059 泱，央 02111 鉠，於良 29001 泱，央			02296 柍，於兩 04071 柍，於兩 20001 鞅，於兩 22006 鞅，於两
曉	02394 薌，鄉 04093 薌，香			01072 怳，況往 08205 怳，兄往 05159 怳，虛往 08295 怳，兄往 08299 怳，兄往 08305 怳，兄往 10127 怳，況往
羊	02106 錫，陽 03314 暘，以良（01382 颺，揚 04086 颺，羊 07011 徉，羊 09255 洋，羊）		03054 瀁，余兩 06248 瀁，余兩 06582 瀁，余兩 9426 瀁，余兩 17345 瀁，余兩	

	漾開	漾合	藥開	藥合
知	（02579 張，陟亮）		02399 芍，張略 04260 勺，知略 18075 勺，知略 30063 著，陟略 30065 著[141]，陟略	
澄	09038 長，佇亮		03348 著，池略	
來	05153 悢，亮 22007 悢，力向（05079 踉，亮 21172 量，		（02400 藥，略 04261 藥，略 17290 藥，略 18076 藥，略）	

[141] 原文は「箸」である。

	亮 25022 兩，亮）			
清	05080 蹡，七醬			
從			01595 嚼，牆躍 02625 皭，牆爵 04346 嚼，才削 21158 嚼，慈躍	
心	02062 相，息亮			
初	20028 滄，楚諒			
章			01101 繳，酌 01139 繳，酌 02484 灼，酌 03421 繳，酌 04251 繳，之藥 04650 焯，灼 05273 繳，勺 08171 繳，酌 09009 繳，諸略 17189 勺，酌 17272 斫，之若 17456 繳，酌 23151 繳，之若	
昌			04544 綽，昌約 09224 婥，齒藥	
常			17289 勺，涉略	
書	（20037 饟，失讓）		01153 鑠，傷酌 02485 爍[142]，舒藥 04651 爍，書灼 05055 鑠，始酌 06161 鑠，舒灼 18067 鑠，始略 28049 鑠，舒灼 17255 爍，舒灼	
日			02540 蒻，弱 03553 蒻，弱 07033 蒻，若 17160 蒻，弱	
見		09035 誑，矩況	10293 屩，脚 19027 屩，脚	01576 攫，钁 02445 攫，九縛 04478 玃，钁 04642 攫，钁 05004 玃，九縛 05059 玃，居縛 05097 攫，钁 06098 攫，钁 06565 玃，居縛 22060 攫，俱縛 23042 攫，九縛（04482 蠼，钁）
羣			04634 噱，渠腳 09541 噱，	

[142] 原文は「礫」である。

			巨略 21111 噱，其略	
影	23112 怏，於亮			09343 韄，於縛
曉	03573 闞，許亮 21049 嚮，許亮 21036 嚮，許亮			
羊	02137 煬，揉03149 颺，揉04127 煬，移尚（06271 颺，余諒）		01089 爚，藥 01430 爚，藥 02304灅，藥 04473 籥，藥 06217 爚，藥 06291 瀹，藥 06314灅，藥 09437 籥，藥 09610 爚，藥（02141 禴，藥 02402 禴，藥）	

	唐開	唐合	蕩開	蕩合
滂	02527 滂，普郎 07005 滂，普茫 09021 滂，浦皇 09298 滂，普郎 17371 滂，普忙			
並	08235 彷，步郎 17144 彷[143]，蒲忙（02005 房，傍 02014 房，傍 05253 房，步郎）			
明			01320 漭，莫朗 01398 漭，馬黨 02311 漭，莽 06235 漭，莫広 10089 漭，莫朗 14015 漭，莫蕩	
端	01029 璫，當 01234 璫，當 03170 簹，當 06544 簹，當			
透	（04535 闥，湯）			
定			01395 簜，徒朗 27027 盪，達朗（02254 嵣，大朗）	
來	01554 浪，郎 02211 浪，			

[143] 原文は「仿」である。

	郎 03128 榔，郎 03319 浪，郎 03324 硠，郎 08136 硠，郎 04211 莨，落唐 05277 桹，郎 09629 硠，郎 10147 浪，郎 29040 硠，郎（04081 閬，郎 08130 閬，郎）			
精	02466 牂，臧 22087 牂，臧		03591 駔，祖朗 07109 駔，子朗 23170 駔，祖朗 28024 駔，子朗	
清	01126 鶬，倉 02430 鶬，倉 03085 鶬，倉 06502 鶬，倉 10123 鶬，倉			
見	24020 亢，剛（01424 迒，岡 02171 迒，岡 01476 亢，岡）			
溪	（08224 棅，康）			（ 17097 懭，口広）
疑	05145 卬，昂 08232 卬，昂 17362 卬，昂			
影			01397 泱，烏黨 05062 泱，烏朗 06234 泱，恩朗 06390 泱，烏朗 07065 坱，烏朗 14014 泱，烏朗 17223 坱，烏朗 03108 坱，烏朗（04059 軮，烏朗）	（ 06421 瀇，烏広）
曉		14063 帗，荒 22016 肓，荒		03095 慌，呼広 17343 慌，呼広 27069 慌，忽広
匣	01388 芫，胡郎 03058 航，胡郎 03189 行，胡剛 05262 頏，胡岡 06491 蚢，胡岡	01253 煌，皇 02190 潢，黃 06388 湟，皇	01321 沆，胡朗 02312 沆，胡朗 03053 沆，戶朗 04571 沆，胡朗	03225 榥，晃 06247 滉，胡広

	08262 行，胡郎（01249 趪，黄）	08236 徨，黄 09413 隍，皇 17188 餭，皇 20088 潢，黄	06581 沆，胡朗 08034 沆，胡朗 09136 沆，胡朗 09499 沆，胡朗 16041 沆，胡朗（07113 吭，何朗）	06422 滉，胡広

	宕開	宕合	鐸開	鐸合
幫			01110 搏，博 01418 搏，博 04499 搏，博 07130 襮，博 09447 搏，補莫	
明			04575 鏌，莫 10234 瘼，莫 18141 瘼，莫 19030 瘼，莫 21003 幕，莫（09372 漠，莫）	
透	03473 儻，他浪		01319 柝，他各 02244 柝，託 04323 魠，託 04409 橐，土各 05031 橐，託 11050 籜，土各 23026 橐，託 25003 橐，託（03018 拓，託 03509 拓，託 04003 拓，託 05184 拓，土洛 23122 拓，土洛）	
定	02501 宕，徒浪 03435 宕，徒浪 08302 宕，徒浪 09104 宕，徒浪 06197 碭，徒浪 09361 碭，徒浪		（02030 度，徒洛 04041 度，杜洛 21118 度，大各 23142 度，待洛）	
來	02282 閬，浪 06061 閬，浪 16106 閬，力宕		02599 絡，洛 06153 硌，洛 09492 硌，洛 03449 樂，盧各 21088 樂，力各	
精			01366 柞，作 05046 柞，作 09291 柞，作	
清			03064鮏，錯	
從			09457 笮，鑿 20031 笮，昨	

			22074 笮，鑿 11040 怍，前各	
心			24035 索，桑各	
溪	01255 閌，抗 03230 閌，抗 03513 閌，苦浪 04080 閌，抗 04445 抗，亢 20061 伉，苦浪	23010 纊，壙		22092 廓，苦郭
疑			01067 愕，五各 03068 鰐，鄂 04046 鄂，五各 06156 鄂，五各 09567 愕，五各 11039 崿，五各 15035 崿，五各 17058 鄂，五各 24058 愕，五各（09494 遻，諤 18005 堮，五各）	
影	30079 盎，烏浪		04191 堊，惡	04018 蠖，烏郭 04109 蠖，烏郭 09166 蠖，烏郭 10271 臒，烏郭 16036 臒，烏郭 18030 蠖，烏郭
曉			09281 壑，呼各（17183 臃，呼各 17412 臃，呼各）	06052 灌，霍 06315 灌，呼郭
匣	02551 吭，胡浪			26047 穫，胡郭 27093 貉，鶴（04110 濩，胡郭 06053 濩，鑊 06384 濩，穫 09498 濩，胡郭 18007 濩，胡郭 22059 濩，胡郭）

（12）梗摄

	庚開二	庚合二	庚開三	庚合三
幫	27029 祊，補盲			
滂	14021 怦，普庚（09618 澎，烹）			
並	21065 榜，薄行		04450 枰，平	

			10090 苹，平 14028 苹，平	
明	08180 蝨，盲		03402鴨，明	
初	04153 鎗，叉行			
生	02479 猩，生			
見	02397 秔，公行 02422 更，古衡 10124 鶊，庚（02525 梗，古衡 03564 梗，古衡 05057 秔，梗）		02601 麌，京 03329 麌，居英 17323 麌，京（03331 鶁，京）	
溪	04114 阬，苦庚 04462 坑，苦行 27054 坑，苦衡			
羣			03592 勍，巨京	
曉		03262 喤，呼横		
匣	02090 珩，行 08020 珩，行 10131 蘅，胡庚 10139 蘅，衡 23072 衡，横 24111 衡，横 27035 珩，衡	04100 彋，横		01456 揘，横
云				10091 瑩，榮

	梗開二	梗合二	梗開三	梗合三
幫			（01003 炳，彼永 02483 炳，丙 02624 炳，丙 10289 炳，丙）	
生	02080 眚，所景			
見	01493 梗，古杏 02197 梗，哽 11003 綆，古杏	03304 獷，古猛 24118 獷，古猛 27090 獷，古猛 29015 穬，古猛 30022 獷，古猛		06295 囧，九永 10291 憬，九永 23153 憬，九永
匣	10307 荇，杏	（06426 滉，胡猛）		

	敬開二	敬合二 0	敬開三	敬合三
幫	15016 榜，班孟 18035			

	榜，補孟			
並			（21089 評，皮柄）	
明	21100 盟，孟			
徹	06088 掌，恥孟			
云				06523 泳，詠 24076 泳，詠 14026 禜，詠

	陌開二	陌合二	陌開三	陌合三 0
並			04091 構，平碧 06109 構，步碧 08222 構，貧碧	
明	03330 驀，陌 03365 貘，陌 04404 貘，陌 06269 洎，陌 18095 貊，莫百（06605 趄，陌）			
娘	03672 搦，女格			
莊	（22065 迮，窄）			
崇	02258 岝，仕白 06230 岝，士格 09357 咋，助白 09465 岝，助格 23020 咋，士白			
生	15003 索，所格 23011 索，所格			
見	06467 觡，格 24081 觡，格 30080 骼，格			
溪			02594 郤，却戟 17455 綌，隙	
羣			（04233瓴，劇）	
疑	09466 峉，額			
曉		（ 06377 湱，呼陌）		
匣	01221 輅，胡格 24044 輅，胡格			

	耕開	耕合	耿開耿合 0	諍開 1 諍合 0
滂	01416 砰，普萌 01571 砰，浦耕 03434 砰，普萌 04166			

	砰，普萌 04657 砰，普萌 05190 砰，普耕 08102 抨，普萌 17109 怦，普萌（04099 弸，普萌）			
並	27046 輣，蒲萌			
明	03479 氓，麥耕（01285 甍，萌 01331 甍，萌 03236 甍，萌 06066 曊，麥耕 06166 甍，萌 11058 甍，萌）			
澄	02385 橙，直耕 18082 橙，直耕			
崇	01079 崢，仕耕			
溪	01175 鏗，苦耕 06065 鏗，苦耕 17201 鏗，苦耕 26037 鏗，苦耕			
影	02358 嚶，烏耕 02380 櫻，烏耕 04654 嚶，烏耕 08170 嚶，烏耕 24023 甖，鶯	（06352 泓，烏宏 09597 泓，烏宏）		（06545 櫻，一諍）
曉		01417 訇，呼萌 02075 訇，火宏 02619 轟，呼宏 04304 訇，呼宏 09630 訇，轟 17367 訇，呼宏（01176 鍧，呼萌 09139 鞫，呼萌）		
匣		01080 嶸，宏 02092 紘，宏 04391 閎，宏 04565 閎，宏（08216 吰，胡耕）		

	麥開	麥合
幫	04217 檗，卜革	
滂	01448 擿，普麥	
明	03264 霢，麥（01273 覛，脉 02441 覛，脉）	
來	06416 礐，力隔	

莊	08255 迮，責 15068 幘，責	
崇	24149 賾，士責	
生	05061 摵，所革 07034 摵，所革 15034 摵，所隔	
見		18117 馘，古麥 27028 馘，古獲
影	01536 搤，扼 05010 搤，厄 05089 呃，厄 22062 搤，厄 23052 搤，烏革（04146 軛，於革）	
曉		05191 繣，呼麥 09434慮，火麥
匣	01199 覈，乎革 02589 核，胡革 09258 覈，胡隔 22023 覈，胡革 24165 覈，胡革 27025 核，胡革 29087 覈，胡隔 30077 核，胡隔（06579 滆，翮）	03601 畫，胡麥 03698 嫿，胡麥 09522 嫿，獲 10101 嫿，獲

	清開	清合	靜開	靜合 0
幫	02294 栟，并		03199 屏，必井 10280 屏，必領	
知	03133 楨，貞			
徹	02283 檉，勑貞 03193 頛，恥盈 05073 頛，勑貞			
澄	16121 珵，池貞			
精	10075 菁，精 12015 蜻，精 15019 蜻，精 23018 鼱，精			
心			02086 省，昔井 21166 省，思郢	
章	02131 鉦，征 02157 正，征 03320 鉦，征 08119 鉦，征 27059 鉦，征			
見		23143 坰，古螢		
羣		07121 煢，求營 08010 煢，瓊 08283 煢，求營		
影			27005 瘿，於井	
羊	01338 贏，盈 01342 贏，盈		02529 梬，郢 04219 梬，郢	

	02582 籯，盈 03597 嬴，亦精		04439 梬，弋井	

	勁開	勁合	昔開	昔合 0
幫			04236 襞，必亦 08005 襞，必積 17356 躄，必亦 18068 辟，必亦	
並			09333 擗，避亦 10314 擗，闢 18026 擗，避辟（05117 辟，闢 05161 辟，匹亦 09556 辟，闢 28031 辟，婢亦）	
徹			05119 彳，丑石	
精			04237 禛，積 14017 蹐，脊 19014 蹐，精亦 27048 蹐，脊	
清			01453 磧，七亦 03014 磧，七亦 21004 刺，七亦	
從	02567 靚，才姓 08093 婧，才姓			
心			01237 碣，昔 06003 舄，昔 17422 舄，昔 18091 腊，昔 18121 舄，性亦	
邪			29072 穸，夕	
章			01534 摭，隻 08045 摭，之石 09153 跖，之石 09253 跖，之石 17335 炙，之亦 18022 跖，之石 18079 跖，之石 20025 跖，隻 21150 摭，之石 30049 跖，之石（01203 蹠，章適 09363 蹠，之石 10061 蹠，隻）	
昌			06253 斥，昌亦 17410 斥，赤	
書			01048 螫，舒亦 03373 暘，適 03685 螫，適	
曉		04512 夐，呼併		
羊			01018 埸，亦 02151 埸，亦 03536 醳，亦 13018 埸，亦 16043 埸，亦 20014 易，亦 22011 埸，亦 23135 醳，亦 24145 繹，亦 24154 繹，亦 26042 腋，亦（03655 斁，亦 06045 燡，亦 06243 濟，亦 07072 射，亦 08129 斁，亦 23140 射，	

			亦）	

	青開	青合0	迴開	迴合
並	18154 軿，薄丁			
明	（21133 瞑，銘）		18024 茗，莫冷（03026 溟，莫鼎 06434 溟，莫冷）	
定	02530 椗，亭 03333 狿，庭 04438 椗，亭（02336 渟，亭 05105 挺，廷 09293 渟，亭 16116 筳，廷 19034 鼮，廷 23016 筳，廷 23171 渟，亭 24131 渟，庭 24138 渟，庭）		18064 鋌，徒鼎	
泥	22066 鸋，寧			
來	01071 櫺，靈 01280 櫺，零 02112 軨，零 02188 泠，零 03440 醽，靈 04058 軨，零 04139 岭，零 08115 軨，零 08226 瓴，零 08271 伶，零 09264 聆，零 09607 醽，零 15023 瓴，零 17060 舲，零 17107 軨，零 17318 軨，零 23167 軨，零 24018 零，怜 24029 蛉，靈			
清	（03067 鯖，青 03083 鶄，青）			
見				03200 熲，古迴 04172 熲，古迴 06529 熲，古迴 06607 泂，古迥 07036 熲，古鼎（04157 炯，古迴 08296 炯，古迴 10097 炯，古迴）
影			04120 濴，烏挺（03025 嚶，烏鼎）	
匣	09341 陘，形 11054 陘，刑		16085 婞，胡剄	

			（08068 滓，胡冷）	

	徑開	徑合 0	錫開	錫合 0
滂			01569 霹，浦覓 02586鋨，普覓 04590 霹，普覓	
並			（02352 鶻，步覓）08227 甓、蒲覓 30076 甓、步覓	
明			02378 蓂，覓 05125 幎，覓（03122 冪，覓）	
端			15024 甋，的 18040 鏑，的（05278 罚，丁歷 29005罚，的 29037罚，的）	
透			02622 俶，天歷 03472 倜，天歷 05115 剔，土歷 07111 倜，惕 09422 惕，天歷 21061 剔，他狄 24085 俶，惕 24132 倜，天歷（10294 逿，天歷）	
定	27089 廷，定		01150 滌，狄 01525 翟，狄 26002 翟，亭的	
泥	03266 濘，奴定		08042 怒，奴歷 12074 怒，溺	
來			01312 櫟，歷 01451 轢，歷 01454 礫，歷 01570 靂，歷 02291 櫪，歷 02481 礫，歷 04447 櫟，歷 04517 櫟，歷 05094 櫟，歷 05221 轢，歷 06524 礫，歷 09432 櫟，歷 09517 櫟，歷 10019 礫，歷 23012 酈，歷 24054 轢，歷 26060 酈，歷（04331 皪，歷 04554 皪，歷 08096 皪，曆 09213 皪，歷）	
清			（01043 碱，戚）	
心			00019 析，洗激 01481 裼，先歷 03004 析，星歷 03654 析，先歷 03671 析，先歷 04235 緆，錫 07013	

			析，先歷 07047 淅，先歷 09435 析，先歷 12019 析，先歷 15037 析，先歷 15047 析，先歷 16013 析，先曆 17332 裼，先歷 17407 析，先歷 18088 析，先歷 18127 析，先歷 23021 析，先歷 30031 析，先歷（02377 薪，先歷）	
溪			03386 闃，苦鶪	
疑			03087 鷁，五激（01129 鶪，五激）	
曉			（03315殺，呼覿）	
匣	（21091 蹔，胡定）		00020 檄，胡激 02176 覡，胡激 10230 檄，刑狄	

（13）流摂

	尤	有	宥
明	05018 鍪，牟 09227 眸，牟 16015 蝥，音牟 29090 謀，莫浮		
非		09068 缶，方負 12021 缶，方有	
敷			10111 覆，副
奉	01086 罘，浮 02242 罘，浮 03389 罘，浮 04264 罘，浮 04578 罘，浮 17005 枹，浮 24014 蜉，浮 26036 枹，桴 26040 蜉，浮 27064 芣，浮子（23152 桴，伏流）		
知	01362 盩，知留 02103 輈，張流 08155 輈，張流 13007 輈，知由		（05129 咮，竹秀 09554 咮，晝）
徹	08080 瘳，抽		
澄	01533 鮒，紬 02613 鮒，長流 06208 鮒，紬 07039 儵，長流 08046 躊，儔 08245 躊，儔 08285 幬，直留 10106 幬，儔 12022 幬，籌 12044 幬，疇 12056 儵，		03649 籀，逐又 05167 繇，胄 17191 酎，直宥 24166 繇，宙 30028 籀，直又

	直由 12065 稠，直留 17161 幬，儔 17306 籌，儔		
娘		02287 杻，女九	02546 糅，女又 03142 糅，女又 04381 糅，女又 05100 糅，女又 07048 糅，女又 09504 糅，女又 16082 糅，女又 17120 糅，女又 17310 糅，女又 17416 糅，女又
來	02099 旒，力求 03136 榴，留 09570 懰，留 09587 憀，留 09617 憀，留 18110 旒，流 22063 摎，流（03153 飀，留 08173 鰡，留 11035飀，留）	3151 瀏，力九	03454 雷，李救 03542 雷，力救 08293 雷，力救 12020 雷，力救 20029 雷，力救（03683 留，力又）
精	04163 啾，子由 08182 啾，子流 04656 噍，將由 09322 噍，子由		
清	03084 鶖，秋 08263 楸，秋 26032 鰍，秋（05086 鞦，秋）		
從	（01077 崷，自由 14008 遒，疾由）		07079 鷲，就
心			03384 宿，秀 06006 宿，秀 06027 宿，秀
邪			
莊	02160 騶，側留 02209 騶，鄒 05244 菆，阻留		04238 縐，側救
初			01432 簉，楚瘦 09420 簉，楚救 09527 簉，初救
生	01154 蒐，搜 03152 颼，搜 03532 鎪，所留 09095 鎪，色鄒 09485 鎪，所流 17437 搜，所求 27041 蒐，所愁		09005 漱，所溜 09266 漱，瘦
章		20069 帚，之誘	01586 祝，呪
昌	03492 犨，昌由		
常			01587 售，常呪
書			10110 首，狩 21094 首，獸

日		01090 蹂，汝九 04527 蹂，而柳 05038 蹂，如手 04598 蹂，汝久	
見	（01535 龜，鳩）		18152 疚，救（03590 廄，救）
影	01425 麀，憂 05049 耰，憂 26010 耰，憂 30013 鄾，憂	03150颱，於酉	
曉	（03603 咻，休 06179 髹，休）		（24141 臭，許又）
云	05165 郵，尤 17388 沇，尤		9351 侑，于救
羊	02119 斿，由 03299 輶，由 06242 浟，由 10183 輶，由 23063 逌，由 23168 斿，由 24015 蝣，由 26041 蝣，由 27045 輶，由（02136 楢，由 06007 楢，由 18147 楢，由）19037 輶，由	18126 卣，酉	01102 狖，夷秀 01577 狖，羊究 02499 狖，弋狩 03156 狖，夷又 05003 狖，弋又 05058 狖，由究 13077 狖，以秀 17062 狖，余救 17221 狖，余救

	侯	厚	候
滂		03360 剖，普口	
並	（12010 抔，蒲侯）	（03493 培，部苟 18101 蔀，部）	
明		17149 拇，母 17296 牡，莫后 17319 牡，莫后（01437 莽，畝）	01226 袤，茂 02139 懋，木候 02569 貿，莫搆 03259 貿，木候 04455 楙，木遘 06018 袤，茂 08289 瞀，莫候 24004 袤，茂 14002 瞀，茂 17108 瞀，莫搆 20085 貿，莫構 29018 貿，莫構
端	（01181 兜，丁侯）		（02165豵，鬪）
透		09458 黈，他斗 23009 黈，土斗	
定			01109 脰，豆 04511 脰，

			豆 04646 脰，豆 13026 脰，豆
泥			13049 耨，奴豆
來	09169 螻，婁 15007 螻，婁	03494 塿，路苟	
精	（02200 陬，祖婁 03478 陬，子侯 10059 陬，子溝 10155 陬，子溝 16056 陬，子侯 28061 陬，子侯 30016 陬，子侯）		
清		01558 取，蒼苟 06205 取，千口	04436 楱，湊 18087 楱，七豆
心		20079 瞍，叟 28044 瞍，蘇苟	
見	01470 韝，溝 03676 句，古侯 07002 句，鉤 07064 句，古侯 14055 韝，古侯 17151 篝，古侯 18057 句，古侯（03065 勾，古侯 03127 枸，古侯）	10178 耇，苟 10197 垢，苟 10198 耇，苟 26030 耇，苟	02161 彀，古候 03301 彀，搆 05065 雊，古候 05091 彀，搆 05223 雊，古豆 06084 句，構 14031 雊，古豆 18039 彀，搆
溪	03668 够，苦侯	01041 釦，叩 02564 扣，苦后 18047 扣，叩	06341 鷇，苦候
影	04177 謳，烏侯 21105 謳，一侯		
曉		（06373 呴，呼后 06566 垢，呼口）	16081 詬，呼候 27079 詬，呼豆 21034 詬，火搆
匣	01094 鍭，侯（02382 喉，侯）		03412 鱟，胡豆 06477 鱟，候

	幽	黝	幼
明			02278 繆，謬
見	05140 樛，居幽 08056 樛，居幽 08280 樛，居幽 10210 樛，居幽 14009 樛，居幽		

羣	02101 虬，渠幽 02614 虬，璆 04128 觩，虬 06587 虬，渠幽		
疑	03091 聱，魚幽		
影	04624 幽，於糾 14027 呦，幽	02513 黝，於糾 06131 黝，伊糾 08176 黝，於糾（04424 蚴，伊糾）	
曉	03281 驫，香幽		

（14）深摂

	侵 B　　A	寢 B　　A	沁 B　　A	緝 B　　A
知				01537 馽，中立 03414馽，縶 08016 縶，中立 19022 縶，知立
徹		09065 踸，勅錦 09489 踸，勅凛（09126 錡，勅錦）		04308 湁，丑立
澄	（22070 湛，沈 28018 湛，沈）			15021 蟄，直立（03141 壍，除立 03256 矗，除立 03519壍，除立）
娘				（06282潳，女立）
來	09143 淋，林 09493 淋，林	00005 凛，力錦 09534 懍，力審 10235 懍，力錦		
精	（03554 浸，七心 04627 浸，七心 09086 浸，侵 09151 浸，侵 24119 浸，侵）		01159 祲，浸 02063 祲，浸 03604 祲，子鴆 29075 祲，子鴆	04309 潗，子立 06281 潗，子立
清				00043 緝，此立 03070 葺，七入 03575 葺，七立 09583

				葺，子入 17034 葺，七入
邪	02326 鱣，尋 02616 鱣，尋 09441 鱣，似深 10312 潯，尋			06200 槢，習 08168 隰，習 10192 隰，習
莊				02315 濈，戢 02372 蕺，側立 06086 戢，側立 10253 戢，側立 17467 濈，戢
初	04350 峹，楚金（14065 駸，楚林）	24030 墋，楚錦	03512 讖，楚禁 08064 讖，楚禁	（03140 埵，楚立 03518 埵，楚立）
崇	09294 涔，岑 17017 涔，岑			（09121 霵，助立）
生	01381 槮，森 02034 參，所今 04468 蔘，所今 10158 參，所今 17118 槮，森		24094 滲，疏禁 29052 滲，疏禁	02120 鈒，所及（03255 儸，所立）
章	01383 箴，針 04204 葴，之林 04386 箴，針（23091 鍼，之林）		02467 枕，之鴆	
常	08070 忱，市林 08270 忱，市林			
日	03634 任，而金 24162 恁，而深	12017 荏，而枕（03616 袵，而審 10102 袵，而審 17195 袵，而甚）	26062 妊，而鴆（01184 紝，任 07038 袵，如甚）	
見	（03559 禁，金 03635 禁，金 09538 禁，今）	（01179 僸，禁）		
溪	03037 嶔，丘金 06340 嶔，欽 09080 嶔，欽 10270 嶔，欽 01041 嶔，欽			

	17229 嶔，欽							
羣					05183 噤，渠蔭 29017 噤，渠蔭			
疑	02267 崟，吟 03038 崟，魚金 04653 崟，吟 06141 崟，吟 08165 崟，吟 09468 崟，欽 15027 崟，吟 17230 崟，吟 17243 崟，吟						01228 岌，魚立 09581 岌，魚立	
影		10103 愔，一淫					13078 浥，於及 17112菎，邑 21024 悒，邑	03439 揖，一入 08249 挹，一入 09100 挹，邑
曉							04016 翕，許急 04472 歙，吸 06049 歙，翕 11062 翕，許及 17278 翕，許急 24057 吸，許急（06252 噏，許急 06335 噏，虛及 09586 噏，虛立 28016 噏，吸）	
羊	30060 鱣，淫		（06290 潭，以					

		審）		

（15）曾摂

	登開 登合 0	等 0	嶝	德開 德合 0
並				05044 僰，蒲北 22030 僰，蒲北 22061 僰，蒲墨 28052 僰，蒲北（17390 踣，蒲北 18060 踣，蒲北）
明			03404 鰽，莫贈 03709 懵，莫贈 04319鰽，懵	09389 纆，墨 10190 纆，墨 10317 纆，墨 11056 纆，墨 28048 冒，墨
端			01055 隥[144]，都鄧 23128 隥，都鄧	
透				05204 慝，土得 20074 慝，湯得 23150 慝，土德
來				（04195 功，勒 06414 泐，勒）
精	01100 矰，曾 01138 矰，曾 01520 矰，曾 03388 罾，曾 04250 矰，曾 06615 罾，子僧			
清				（01031 城，倉則 01240 城，倉則 06203 城，七得）
從	00004 曾，昨能			
見			03403鮖，亘 04318 鮖，亘	

（16）咸摂

	覃	感	勘	合
端	03231 耽，耽 03488 耽，耽 10223 耽，都			

[144] 原文は「墱」である。

	南 24037 眈，耽			
透				06261 漯，他荅 22046 漯，他荅
定	02024 鐔，徒南	03517 髧，徒感 03526 黮，徒感 06167 黮，徒感 10157 黮，徒感 09285 窞，徒感 10252 苕，徒菡		02575 沓，徒合 03284 駱，徒合 04174 遝，徒荅 04442 遝，沓 06226 澹，徒合 09072 遝，徒合 09115 遝，徒合 09157 遝，徒合 09219 沓，從合 09223 揂，徒合 09502 矗，徒合 09569 遝，徒合 10140 遝，徒合 17252 遝，沓 23123 遝，徒合
泥	02496 柟，南 04216 柟，南（01372 楠，南 03135 楠，南）	10237 湳，奴感	20081 妠，奴紺	03115 蒻，奴荅
來	16066 婪，力含 29022 婪，魯含	（14058 壈，洛感）		01494 拉，郎荅 03322 拉，魯荅 04601 拉，力荅 09222 拉，力合 17446 拉，力合 18053 拉，力荅 20022 摺，拉 23038 拉，力荅
清	03307 參，七南 10282 參，七男 18003 驂，七南	06004 憯，七感 06126 憯，七感 10086 憯，七感 17095 憯，千坎 21033 憯，慘		
心				01046 颯，蘇合 01060 馺，蘇合 03283 靸，蘇合 04031 馺，先合 04560 馺，颯 05216 馺，蘇合 09071 馺，

				素合 09218 颯，蘇合 09501䨻 蘇合 09568 颯，素合 17054 颯，素合（04023 雪，蘇合 09580 雪，素合）
見				（01547 蛤，岡荅 02593 合，古合 05043 頜，蛤）
溪	30011 龕，堪			16080 溘，苦合 16099 溘，苦合 27078 溘，苦合（06274 匋，苦合）
疑				（06443 砐，五合）
影		02391 晻，於感 03146 晻，烏感 04160 晻，烏感 04397 晻，烏感 05141 晻，烏感 26055 黯，於感		（20090 唈，烏合）
曉	（04362 谽，呼含 08084 谽，火含）			02314 欿，呼荅
匣	03069 涵，胡南（02332 函，含 02502 函，含 02532 函，含 03097 函，含 03468 函，含 07096 函，含 08120 函，含 09020 函，含 10295 函，含 21068 函，含 23077 函，含 23105 函，含 24146 函，含）	06190 菡，胡感 08213 撼，胡感 10251 菡，胡感 16069 頷，乎感（09296 頤，胡感）	05131 憾，胡暗	

	談	敢	闞	盍

端	23022 儋，都甘	02091 紞，丁敢	20049 擔[145]，丁濫	
透		02049 菼，土敢 14011 菼，他敢	（06112 舕，土蹔）	（04325 魼，榻）
定		01168 澹，徒敢 17123 澹，徒敢	05263 澹，徒濫 06236 澹，徒敢 10028 澹，徒濫 17007 憺，徒濫 17049 憺，徒濫 21129 淡，大暫 17105 憺，徒濫 17351 澹，徒濫	09233 蹋，徒臘
來		03186 欖，覽		03323 攦，力盍
心	（01330 參，三 02006 參，三 06159 參，三 18140 參，三 24150 參，三 27056 參，三）		（02087 三，蘇濫）	
見		03185 橄，敢		
溪			02559 瞰，苦濫	
匣	03326 甝，胡甘			28026 蓋[146]，胡臘

	鹽 B	A	琰 B	A	艷 B	A	葉 B	A
幫					29050 窆，畢驗			
徹	06600 覘，勑詹							
來	14054 鎌，廉		08294 溓，斂（06244 瀲，力冉）		01433 獫，呂驗 06320 潋，斂		17304 鬣，獵 17442 鬣，獵 18043 鬣，獵	
精	02193 殲，子廉 07136 殲，子廉 （05063 漸，子廉 10263 漸，尖 17214						05272 楫，接 07092 睫，接	

[145] 原文は「檐」である。
[146] 原文は「盖」である。

	漸，子廉 17421 漸，子廉 30014 漸，子鹽）			
心	03598 銛，息廉 20004 孅，息廉 26012 銛，息鹽 30051 銛，息廉			
章				01103 懾，章獵 01172 讋，章涉 01474 懾，之獵 03375 懾，之葉 04531 讋，之涉 04645 讋，章涉 11027 讋，之涉 18113 懾，之涉 20087 懾，之涉（02194 慴，之涉 17320 慴，之涉 17443 慴，之涉 22045 慴，章獵 25023 慴，之涉）
昌	08206 襜，昌廉 15013 襜，昌詹 20059 襜，昌占			
常	03187 棎，市瞻	（13028 剡，時冉）		
書	08284 苫，尸沾 29046 痁，傷閻	（03371 睒，失冉 06267 潤，失冉 06306 睒，失冉 06392潤，失冉 06561 睒，失冉）	（02628 掞，傷艷）	（24126 葉，攝）
日	03341 柟，而占	09243 姌，冉		
羣	29044 拑，巨炎	（02053 芡，巨儼 02346		

				芡，渠儼 05269 芡，巨儼）				
疑			01241 隒，宜檢 01247 嶮，宜撿 03516 隒，魚撿 06413 隒，魚檢 06559 隒，魚儉		03650 噞，驗			
影	04213 菴，淹 16102 崦，於廉		02611 罨，奄 08062 閹，奄 15028 渰，奄 23175 弇，奄 28062 閹，於撿（04525 晻，奄）	（24050 厭，一琰）		27049 厭，壹豔		05077 厭，伊輒
曉			05290 獫，險 10244 獫，險 20046 獫，險					
云							01121 曄，于獵 01177 曄，于獵 01236 曄，于劫 03114 曄，于輒 03224 曄，于輒（09033 燁，于劫 09122 爅，于輒）	
羊	16092 阽，簷 03571 櫚，以占 08013 阽，鹽 15063 阽，鹽 18145 阽，鹽（23163		02148 剡，以冉 09348 剡，余冉 16124 剡，琰		04067 炎，豔 06577 炎，羊染 24090 炎，焰（01030 爓，艷）			

	檐，鹽）			

	添	忝	栝	怗
端			11043 墊，丁念	（09444 聑，丁挾 22017 涉，丁牒）
定	03056 湉，恬			02416 蹀，徒頰 03005 諜，音牒 06515 蹀，牒 15038 蹀，牒 17043 褋，牒 28006 諜，牒 23178 諜，徒協（01189 揲，徒頰 02009 惵，徒頰 06441 渫，牒）
泥				（09103 捻，奴叶 22031 攝，寧牒）
精				02082 浹，子頰 06440 浹，子叶 24159 浹，祖頰
心				02210 燮，素頰
見				17055 鋏，頰
溪		14034 慊，苦簟 14047 慊，苦簟 19024 慊，苦簟 27050 慊，苦簟		09026 愜，苦頰 15044 箧，苦頰 29029 愜，苦頰
影				09102 厭，於頰 10133 靨，於叶
匣				01010 挾，胡蝶 02512 挾，胡蝶

	蒸	拯 0	證	職
幫				04284 偪，逼
滂	（06375 砯，普冰）			
並	（02061 馮，皮冰）			05176 愎，皮逼
徹				02036 飭，勅 14001 飭，勅
澄			（06116 瞪，直證 09175 瞪，遲證 23119 瞪，直孕）	
來	01443悛，陵（06464 鯪，陵 06554 鯪，陵）			06138 劣，力
精				02285椶，即

莊				09276 昃，側 09395 仄，側
崇				06042 崱，助力 06137 崱，助力（06402 溷，助側）
生				（17247 輜，色）
章			21177 蒸，之剩	
船	01019 塍，乘 02362 塍，繩 02630 塍，繩		（16052 嵊，剩）	
常				05287 埴，植
見				18123 殛，舉力（02056 亟，居力 08098 亟，紀力）
溪	17233 硱，欺冰			
疑				03022 嶷，魚力 24061 嶷，魚力
影				02298 檍，憶 05087 臆，億
曉				02508 赩，许力 05082 赩，許力 06050 赩，許力 09482 赩，許力 11063 赩，許力（09573 淢，洫）
云				（01373 棫，域 01541 蜮，域 02196 蜮，域 02323 淢，域 06022 蜮，羽逼 06403 淢，域 26034 蜮，域）
羊			08083 媵，弋證 20086 媵，由證 21084 媵，以證	17457 弋，翼（06570 瀷，翼）

	咸	豏	陷 0	洽
初	（11019 攙，楚咸）			16032 插，楚洽
崇	01467 鹹，讒 01501 獑，讒 04484 獑，讒 16034 鹹，仕咸（04453 欃，讒）	05265 瀺，仕湛		
見				01441 韐，夾（02097 袷，古洽）
溪				09332 掐，苦洽
影				（09401 圔，於洽）

	銜	檻	鑑 0	狎
澄				04345 喋，直甲 05268 喋，直甲（06188 鞢，直甲）
生	00033 芟，衫 02008 芟，所銜			（04344 唼，所甲 05267 唼，所甲 15066 唼，所甲 17132 唼，所甲）
曉				03263 呷，呼甲 09184 呷，呼甲 04242 呷，呼甲
匣		03285鼫，檻		03607 柙，胡甲 12012 柙，匣（06187鞈，胡甲）

	嚴	广 0	嚴 0	業
溪	（06563 廒，去嚴）			
影				01039 裛，於業 02548 裛，於業 15036 裛，於劫（04433 嶪，業）

	凡	范	梵	乏
敷			（03630 氾，敷梵 09059 氾，汎 09579 氾，泛 17156 氾，汎 22077 氾，汎）	
奉	03119 帆，凡 03249 颿，帆（20054 氾，凡）			（09180 泛，乏）
微		（02105 鑀，亡犯 16055 鑀，無犯 29077 鑀，亡犯）		

参考文献

1．歴史文献

(梁)蕭統編　(唐)呂延濟等五臣注　《文選》(朝鮮本) 東京大学東洋文化研究所所藏漢籍善本全文影像資料庫 http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/main_p.php?nu=D7811000&order=rn_no&no=01706

(梁)蕭統編　(唐)呂延濟等五臣注　《文選》(奎章閣本) 東京大学東洋文化研究所所藏漢籍善本全文影像資料庫 http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/main_p.php?nu=D7810900&order=rn_no&no=01707

(梁)蕭統編　(唐)李善注　《文選》(胡刻本)　中華書局　1977 年

(梁)蕭統編　(唐)李善[ほか] 注　《六臣注文選》(四部叢刊本)　浙江古籍出版社 1999 年

(梁)蕭統編　(唐)李善[ほか] 注　周勛初纂輯　《唐鈔文選集注彙存》(集注本、《音決》) 上海古籍出版社 2000 年

(梁)蕭統編　(唐)呂延濟 [ほか] 注　《宋刊明州本六臣注》 人民文学出版社　2011 年

(梁)蕭統編　(唐)呂延濟等　《文選》(杭州本) 二十九卷目は北京大学圖書館所蔵、三十卷目は国家圖書館所蔵

(梁)蕭統編　(唐)呂延濟等　《文選》(天理本) 天理図書館善本叢書漢籍之部 第 2 巻　天理大学出版部　1980 年

(梁)蕭統編　(唐)呂延濟等　《文選》(陳刻本)　台北永嘉室　1981 年

(唐)魏徵・令狐徳棻撰　《隋書》全 6 冊　中華書局　1973 年

(宋)陳彭年等編　《宋本広韻·永祿本韻鏡》　江蘇出版社　2005 年

(清)顧炎武著　華忱之點校　《顧亭林詩文集》 中華書局出版　1983 年

(清)錢大昕著　《潛研堂文集》　臺灣商務印書館 1968 年

(清)錢大昕著　《十駕齋養新錄》　臺灣商務印書館 1968 年

2．現代文献

蔡夢麟・夏能権　2014 年　《<王韻><広韻>反切注音比較研究》　商務印書館

陳小珍　2012 年　<《文选集注》所引五臣注与朝刻本的关系>『外国語学研究』　第 13 号

陳小珍　2013 年　<五臣注《文選》諸版本的音注問題>『語学教育研究論叢』　第 30 号

陳小珍　2013 年　<唐代諸家《文選》音注研究論著綜述>　『外国語学研究』　第 14 号

陳小珍　2013 年　<《文選集注》所引五家音考>　『中国言語文化学研究』　第 2 号

陳小珍　2013 年　<再議五臣注《文選》諸版本的音注問題>　中国語学研究『開篇』vol.32 好文出版

陳小珍　2014 年　<現存五臣注《文選》全本両種之相異音注問題>　『中国言語文化学研究』第 3 号

儲泰松　2005 年　《唐五代關中方音研究》　安徽大学出版社

大島正二　1977 年　「李善『文選』音注に反映せる江都字音について」 北海道大学文学部紀要 26（1）

大島正二　1981 年　『唐代字音の研究　資料索引』　汲古書院

丁　鋒　1995 年　《<博雅音>音系研究》　北京大学出版社
丁　鋒　2010 年　《如斯齋漢語史叢稿》　貴州大学出版社
董宏鈺　2012 年　<陳八郎本《昭明文選》五臣音注研究>長春師範学院碩士学位論文
馮 蒸　1995 年　<《爾雅音圖》音注所反映的宋初三、四等韻合流> 漢字文化
范志新　2005 年 <唐寫本《文選音》作者問題之我見·文選学著作考（一）>　晉陽学刊 第 5 期
傅　剛　2000 年　《文選版本研究》　北京大学出版社
岡村繁　1999 年　『文選の研究』　岩波書店
高本漢著・趙元任等訳　1995 年　《中国音韻学研究》　商務印書館
葛毅卿著・李葆嘉理校　2003 年　《隋唐音研究》　南京師範大学出版社
黄淬伯　1998 年　《唐代關中方言音系》　江蘇古籍出版社
黄　侃　1985 年　《文選平點》　上海古籍出版社
黄仁瑄　2011 年　《唐五代佛典音義研究》　中華書局
黄笑山　1995 年　《<切韻>和中唐五代音位系統》　文津出版社
金学主著・豊福健二訳　1993 年　「李朝刊『五臣注文選』について」中国中世文学研究（24）
孔令剛　2012 年　<《文选》五臣注从单注本到合注本演変過程中出現的問題>　新郷学院学報(社会科学版)　第 1 期
孔令剛　2013 年　<奎章閣本《文選》增五臣音注研究> 河南工業大学学報（社會科学版）
李　丹　2008 年《<文選賦>李善注與<広韻>反切比較》　蘭州大学研究生学位論文
李　榮　1952 年　《切韻音系》　中国科学院
林文政　2001 年　<《文選》六臣注音系研究>　中国文化大学碩士学位論文
龍宇純　1968 年　《唐寫全本王仁昫<刊謬補缺切韻>校箋》　香港中央大学出版社
羅常培　1933 年　《唐五代西北方音》　国立中央研究院歴史語言研究所
羅常培　1963 年　《羅常培語言学論文選集》　中華書局
馬伯樂著・聶鴻音訳　2005 年　《唐代長安方言考》　中華書局
馬德強　2008 年　《重韻研究》　復旦大学博士学位論文
馬德強　2011 年　《中古元韻問題述論》　寧夏大学学報（人文社會科学版）
満田新造　1964 年　『中国音韻史論考』　武蔵野書院
平山久雄　1977 年　「中古音重紐の音声的表現と声調との関係」東洋文化研究所紀要（73），東京大学東洋文化研究所
平山久雄　2005 年　《平山久雄語言学論文集》 商務印書館
任翔宇　2014 年　<“濁上変去”現象研究述評>　《青年文学家》第 3 期
森野繁夫　1984 年　「五臣注文選について」　中国中世文学研究（17）　中国中世文学会
邵榮芬　1997 年　《邵榮芬音韻学論集》　首都師範大学出版社
邵榮芬　2008 年　《切韻研究》　中華書局

邵榮芬　2009 年　《邵榮芬語言学論文集》　商務印書館
邵榮芬　2010 年　《漢語語音史講話》　中華書局
邵榮芬　1995 年　《〈經典釋文〉音系》　学海出版社
施向東　2009 年　《音史尋幽：施向東自選集》　南開大学出版社
史存直　1997 年　《漢語音韻学論文集》　華東師範大学出版社
史爲楽　2005 年　《中国歴史地名大辭典》上下冊　中国社会科学出版社
沈起炜・徐光烈　1992 年　《中国歴代職官辭典》　上海辭書出版社
狩野充徳　2000 年　『文選音決の研究』 溪水社
藤堂明保　1980 年　『中国語音韻論－その歴史的研究』　光生館
汪習波　2005 年　《隋唐文選学研究》　上海古籍出版社
王　力　2004 年　《漢語史稿》　中華書局
王立羣　2003 年　《現代〈文選〉学史》　中国社會科学出版社
王重民　1958 年　《敦煌古籍敘錄》　北京商務印書館
尾崎雄二郎　1980 年　『中国語音韻史の研究』　創文社
謝友中　2007 年　〈敦煌吐魯番本《文选》音注研究〉　安徽大学硕士论文
徐真真　2002 年　〈敦煌本《文选音》残卷校证〉　敦煌研究
徐之明　1994 年　〈《文選》李善音注聲類考〉　貴州大学学報社會科学版　第 4 期
徐之明　1995 年　〈《文選》李善注音切校議〉　貴州大学学報社会科学版　第 3 期
徐之明　1997 年　〈《文選》聯綿字李善易讀音切考辨〉　貴州大学学報社会科学版第 1 期
徐之明　1997 年　〈《文選》聯綿字李善易讀音切續考〉　貴州大学学報社会科学版第 4 期
徐之明　1999 年　〈《文選音決》反切韻類考〉　貴州大学学報社会科学版第 6 期
徐之明　2003 年　〈《文選》五臣音鈎稽〉　貴州文史叢刊第 4 期
徐之明　2000 年　〈李善反切系統中特殊音切例釋〉　古漢語研究第 1 期
徐之明　2002 年　〈《文選音決》反切異音與《文選》校讀〉　貴州教育学院学報第 6 期
楊秋波　2008 年　〈敦煌唐写本《文选音》异常音切研究〉　《文教资料》　第 7 期
楊秋波　2008 年　〈敦煌《文选》写本音切研究〉　南京师范大学硕士论文
遠藤光曉 1989 年　「切韻の韻序について」芸文研究（54）　慶應義塾大学藝文学会
原田種成 1994 年　『四庫提要：訓點本・集部七総集類』汲古書院
張　潔　1995 年　〈《文選》李善音切校議〉　古漢語研究第 1 期
張　潔　1998 年　〈《文選》李善注的直音和反切〉　語言研究增刊
張　潔　1999 年　〈李善音系與公孫羅音系聲母的比較〉　中国語文　第 6 期
張　潔　1999 年　〈《音決》聲母考〉　古漢語研究第 4 期
張金泉・許建平　1996 年　《敦煌音義匯考》　杭州大学出版社
張渭毅　2001 年　〈集韻重紐的特點〉　中国語文 第 2 期
張燕燕　2011 年　〈五臣注《文選》注釈特点研究〉　长春师范学院硕士论文

趙　誠　1991 年　《中国古代韻書》　中華書局
趙　蕾　2014 年　《朝鮮正德四年本〈五臣注文選〉研究》　河南大学出版社
曾運乾　2011 年　《音韻学講義》　中華書局
章太炎　2003 年　《国故論衡》　上海古籍出版社
周祖謨　1966 年　《問学集》上下冊　中華書局
周祖庠　1993 年　《切韻韻圖》　貴州教育出版社
周祖庠　2001 年　《篆隷万象名義研究》第一卷上冊　寧夏人民出版社
周祖庠　2003 年　《新著音韻学》　上海辭書出版社
周祖庠　2006 年　《新著漢語語音史》　上海辭書出版社
周祖庠　2012 年　《新編古漢語音韻圖》　西南交通大学出版社
佐藤昭　2002 年　『中国語語音史－中古音から現代音まで』　白帝社